

科目名	教育史【月1水1】(FC01A210)
英文科目名	History of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義概要と受講要領について理解を図る。
2回	教育の始まり。教育の原初形態及び古代・中世における西洋の教育の特質について理解を図る。
3回	リアリズムと教育。統一学校とコメニウスを中心に、近代黎明期における教育の特質について理解を図る。
4回	近代思想と子どもの発見(1)。18世紀の西洋における教育について、ルソーの教育思想を中心に理解を図る。
5回	近代以降における教育観の変遷。社会の動向との関連について、年表を通して考察する。
6回	近代思想と子どもの発見(2)。18世紀の西洋における教育について、ペスタロッチの教育思想・実践を中心に理解を図る。
7回	公教育と教育思想。19世紀の教育について、フレーベルの幼児教育思想とヘルバルトの段階教授説を中心に理解を図る。
8回	新教育の理念と展開。20世紀初頭の教育について、児童中心の教育観とデューイの民主主義教育論を中心に理解を図る。
9回	日本教育史の概観及び古代・中世日本の教育。古代・中世における日本の教育の特質について理解を図る。
10回	近世日本の教育。寺子屋、私塾、藩校を通して近世における教育の特質について理解を図る。
11回	近代日本の教育。西洋式の教育制度・教育内容の整備をめぐる葛藤の観点から教育の特質について理解を図る。
12回	西洋教育の受容と変容。西洋化と自立化の観点から近代日本における教育の特質について理解を図る。
13回	大正期と昭和戦前期の教育。大正期自由教育運動を中心に近現代日本における教育の特質について理解を図る。
14回	戦後教育の理念と制度。民主化をめざす教育改革の取り組みを中心に、戦後教育の理念とその特質について理解を図る。
15回	教育の現状と課題。現代における教育課題の特質を教育史の視点からとらえ直す。
16回	最終評価試験を実施する。筆答試験を基本とするが、受講状況によっては課題の作成とその提出または発表を加える場合がある。

回数	準備学習
1回	教育の歴史及び思想に関する知識について、教職との関連、必要とされる範囲や水準を概観するとともに、シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと(標準学習時間80分)。
2回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間100分)。
3回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、近代黎明期の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ルソー著『エミール』から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	中学校または高等学校の歴史分野の教材、教育学原論(または教育基礎論)及び本科目の教科書に目を通し、関心のある時代について社会情勢の特質と主な教育観との関連を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ペスタロッチの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、フレーベル、ヘルバルト、スペンサーのいずれかの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、デューイの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間100分)。

9 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世日本における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
10 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、江戸時代における帰省先の学校・人物の教育思想・実践等から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
11 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治初期における教育の実践や思想から自由と統制にかかわる具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間120分）。
12 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治期におけるお雇い外国人または海外派遣留学生から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間120分）。
13 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、大正から昭和戦前期にかけての教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
14 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、終戦後間もない時期における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
15 回	教科書と配付資料全体を読み直すとともに、自らの教育実践の指針として参考にすべき理念を複数の異なる観点から整理しておくこと（標準学習時間180分）。
16 回	これまでの学習全体を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること（標準学習時間100分）。

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条に基づき、教育の実践、制度及び思想を中心とした教育の歴史及びそれらの特質を、それぞれの時代情勢及びそれらの変化に即して理解できるようにすることを目標とする。 現代の教育は多様な問題への対応を求められている。本授業科目はそれらの教育事象を歴史的視点から捉え直し、人間と社会の未来を創造する教育のあり方を考察するための手がかりの一つを提供しようとするものである。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1に最も強く関与）
達成目標	○教育実践にとって教育史や教育思想史を学ぶことがなぜ必要であるかを説明することができる。 ○西洋における各時代の教育の主な特質について、現実の教育事象と関連づけて説明することができる。 ○日本における各時代の教育の主な特質について、現実の教育事象と関連づけて説明することができる。
キーワード	教職課程、教育理念、教育観、教育思想、教育制度、学校、教師
成績評価（合格基準60	平素の学習の取り組み（提出物）（30～40％）、最終評価試験の評定点（60～70％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。なお、この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。
関連科目	1 年次開講の教職関連科目をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。
教科書	刊行物の形態のものは使用しない。配付資料を適宜用いる。
参考書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 近現代教育史（新版） / 斉藤利彦・佐藤学（編著） / 学文社 / ISBN978-4762025976 教師教育テキストシリーズ教育史 / 古田常雄・米田俊彦（編） / 学文社 / ISBN978-4762016530 教師教育講座第2巻 教育の歴史・理念・思想 / 鈴木理恵・三時眞貴子（編著） / 協同出版 / ISBN978-4319106714 新教職教育講座第1巻 教育の思想と歴史 / 新井保幸・上野耕三郎（編） / 協同出版 / ISBN978-4319106608 中学校社会科（歴史的分野）の学習で使用した教科書、図説、資料集等。 そのほか適宜指示する。
連絡先	B 2 号館（旧13号館）3 階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	○教職をめざす者として、高い目的意識をもち、謙虚にかつ不断に学業に取り組むことが望ましい。 ○授業で課された提出物には、個別に添削することを原則とする。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。 ○連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 ○授業形態は講義を基本とするが、アクティブラーニングの形態を加味する場合もある。 ○C 1 号館（旧25号館）7 階掲示板を授業日には必ず確認すること。 ○専攻分野の学業と、人々がそれらを継承発展させてきた歴史に関する読書も励行することが望ましい。

	しい。
試験実施	実施する

科目名	技術科教育法 【月1水1】 (FC01A220)
英文科目名	Teaching Method of Technical Arts I
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	2 年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。それぞれが受けた技術・家庭科の学習を振り返り教職の意義を検討する。
2 回	前身である職業科、職業・家庭科について解説する。
3 回	技術・家庭科の発足と改訂の歴史を解説する
4 回	技術・家庭科の性格・目標および内容について解説する。
5 回	技術分野の内容を解説する。
6 回	技術・家庭科の学習形態と指導法について解説する。
7 回	技術・家庭科の評価と評定について解説する。
8 回	生徒指導要録、施設・設備と安全管理について解説する。
9 回	指導計画の作成法を説明する。
10 回	年間指導計画の事例を解説する。
11 回	年間指導計画を作成する。
12 回	学習指導案の作成法を説明する。
13 回	学習指導案の事例を解説する。
14 回	学習指導案を作成する。
15 回	学習指導案を仕上げる。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスに目を通して本講義の授業内容、目的、達成目標等を確認しておくこと。また、自分が受けた「技術・家庭科」技術分野の授業を振り返り、授業に対する感想と授業内容・製作題材を書き出しておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	講義の進め方を確認しておくこと (標準学習時間30分)。参考書 4 . の第 9 章2節(1)(2)を読み内容を整理しておくこと (標準学習時間120分)。
3 回	第 2 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分)。参考書 4 . の第 9 章2節(3)の該当箇所を読み内容を整理しておくこと (標準学習時間120分)。
4 回	第 3 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分)。参考書 4 . の第 9 章2節(3)の該当箇所を読み内容を整理しておくこと。教科書「学習指導要領の解説 技術・家庭編」第 2 章第 1 節の性格・目標および内容を読み整理しておくこと。(標準学習時間120分)。
5 回	第 4 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分)。教科書「学習指導要領の解説 技術・家庭編」第 2 章第 2 節を読んで内容を整理しておくこと。標準学習時間120分)。
6 回	第 5 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分)。プロジェクト法について提唱者、内容等について調べておくこと (標準学習時間120分)。
7 回	第 6 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分)。評価及び評定とは何か、またその違いや評価基準などを調べておくこと (標準学習時間120分)。
8 回	第 7 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分)。生徒指導要録とは何か、またその内容について調べておくこと。また、技術科に必要な安全管理について整理しておくこと (標準学習時間120分)。
9 回	第 8 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分)。指導計画とは何か、またどのような内容が記載されているか、留意点は何かなどを調べておくこと (標準学習時間120分)。
10 回	第 9 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分) 配付された年間指導計画の事例に目を通し、自分が実施したい指導計画を考えておくこと (標準学習時間120分)。
11 回	参考書やインターネットなどで自分が行いたい指導計画に役立つ事例を調べておくこと (標準学習時間180分)。
12 回	学習指導案とは何か、どんな内容が記載されているか、留意点は何かなどについて調べておくこと (標準学習時間180分)。
13 回	第 12 回の学習内容を整理し理解しておくこと (標準学習時間60分)。授業練習で実施したい内容を熟慮しまとめておくこと (標準学習時間120分)。

1 4 回	第 1 3 回で配付された学習指導案事例に目を通し整理しておくこと（標準学習時間60分）。自分の学習指導案作成に参考となる指導案事例を調べておくこと（標準学習時間120分）。
1 5 回	講義終了時に提出できる段階まで学習指導案を作成しておくこと（標準学習時間180分）。
1 6 回	第 1 回～第15回までの内容を整理しよく理解しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	技術科教育の現状と課題や中学校の学習指導要領における技術科の目標と内容などを理解し、中学校技術科教員として必要な基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を技術科の学習指導に活用できる応用力の基礎を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針 C - 2 にもっとも強く関与する）
達成目標	1. 中学校の技術科教員に必要な教育方法を理解する。 2. それらを生かした指導計画や学習指導案が作成できる。
キーワード	技術・家庭科、技術科、技術分野、指導計画、学習指導案
成績評価（合格基準60	提出課題（指導計画と学習指導案）の内容（40％），最終評価試験（60％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	技術科教育法 、技術科教育法 、技術科教育法
教科書	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 / 文部科学省 / 開隆堂 / 9784304121541：新しい技術・家庭 技術分野 / 文部科学省検定済教科書 / 東京書籍 / 9784487121342
参考書	1 . 文部科学省検定済教科書「技術・家庭 技術分野」 / 開隆堂 2 . 文部科学省検定済教科書「技術・家庭 技術分野」 / 教育図書 3 . 中学校学習指導要領 平成 2 0 年 3 月告示 / 文部科学省 / 東山書房 4 . 「現代教育の理論と実践」 / 曾我雅比兒・皿田琢司編著 / 大学教育出版
連絡先	研究室：工学実習棟 2 階
注意・備考	・ 提出課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・ 準備学習の詳細については講義中に指示する。
試験実施	実施する

科目名	教職論【月2水2】（FC01B110）
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思＊（おだみつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えや意欲化を図る。（オリエンテーションを含む。）
2回	学校史を知り「学校教育の意義」について考える。
3回	「教職の意義」「教員の使命と役割」について考える。
4回	「教員の身分と服務義務」について理解する。
5回	「教員の身分保障」について理解する。
6回	職務について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを知る。
7回	理想の教師像を求め，「教員に必要な資質や能力」について考える。
8回	「学校が存在と学校教育の必要性」について考える。
9回	教育計画（教育課程の編成等）について知る。
10回	～教師とは～ 教師として備えたい力について考える。
11回	「生徒指導のねらい」と「指導の基本」について理解する。
12回	「いじめ問題の理解と対応」について考える。
13回	「特別支援教育の意義」について理解する。
14回	「学校の危機管理」について考える。
15回	学年経営・学級経営とは何か，また学年経営案・学級経営案の必要性について知る。先生の1年，先生の1日を知る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，現在の学校教育の課題や問題点についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
2回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたか」「教職の魅力とは」「教師の生きがいとは」について考え，ワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。「私のめざす教師像」「やる気のあふれる教師とは」についてノートにまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】「教職とはどのような職業か」また，「教員が責任をもって果たすべき役割」とは何かをワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教職に対するあなたの使命は何か」「使命達成のために取り組むべきことは何か」をワークシートにまとめること。（標準学習時間120分）。
4回	【予習】憲法や学校教育法などから，教員の身分について，地方公務員法第30条～38条から服務規程について調べ発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】日本国憲法や教育基本法より服務義務について整理しワークシートにまとめること（標準学習時間60分）。
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項，29条第1項を読み，内容を発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。 【復習】教員の服務義務や身分保障，処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。（標準学習時間60分）。
6回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】働く社会人として心掛けること，教員として心掛けることについて考えをまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教員に必要な資質と能力」についての考えをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】中学校学習指導要領（平成29年3月）の前文をワークシートに写しておくこと（標準学習時間60分）。

	習時間120分)。 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
9 回	【予習】出身中学校の教育活動について発表できるようにまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのかワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
10 回	【予習】小・中学校、高等学校の教員との関わりで印象に残っているものについて発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
11 回	【予習】「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(速報値)」の1調査の概要(p.1～5)を読んでおくこと。また、児童生徒に身に付けさせたい生活習慣についてワークシートにまとめ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】事例「問題行動の対応」について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
12 回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また、いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し、講義に持参すること(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
13 回	【予習】特別支援教育に関わる学校種、学級種について調べ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別支援教育に関わる教職員としての資質についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
14 回	【予習】学校で起こる事故の種類をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「学校事故を起こさないために大切なこと」は何か、また「学校事故が起こった場合」はどのように対応すればよいかをワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
15 回	【予習】中学校生活の時程について思い出しておくこと。また、自身の中で確立した教師像を明確にし、まとめておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】最終評価試験を前に、15回の講義内容を振り返りよく整理すること(標準学習時間120分)。

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため、本講義の目的は、教師になろうとする意欲を高めること、教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教師に課せられた使命・役割について理解する。 教師に求められる資質や素養について理解する。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解する。 これらにより自己の教師像を明確にする。
キーワード	「やる気のある教師」
成績評価(合格基準60%)	提出課題(40%)と最終評価試験(60%)で評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動、ロールプレーを適宜取り入れ、考える時間、表現する時間を確保する。
試験実施	実施する

科目名	数学教育法 【月2水2】 (FC01B210)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics I
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2 年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	中学校数学科における目標について考察する。
2 回	中学校数学科における「数と式」領域の教授・学習について考察する。
3 回	中学校数学科における「図形」領域の教授・学習について考察する。
4 回	中学校数学科における「関数」領域の教授・学習について考察する。
5 回	中学校数学科における「データの活用」領域の教授・学習について考察する。
6 回	高等学校数学科における目標について考察する。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の教授・学習について考察する。
8 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の教授・学習について考察する。
9 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の教授・学習について考察する。
10 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の教授・学習について考察する。
11 回	高等学校数学科における「確率・統計」に関わる領域の教授・学習について考察する。
12 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的活動について考察する。
13 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的モデリングについて考察する。
14 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的リテラシーについて考察する。
15 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における評価について考察する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	中学校数学科の目標について考えておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
2 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
3 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
4 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
5 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
6 回	高等学校数学科の目標について考えておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
7 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
8 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
9 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
10 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
11 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
12 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
13 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
14 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
15 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。

講義目的	中学校・高等学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、中学校数学科ならびに高等学校数学科の目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための様々な今日的な理論と方法を把握して、数学教師としての資質を高める。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	中学校数学科ならびに高等学校数学科について目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための理論と方法を習得する。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, 目標, 教授・学習, 数学的活動, 数学的モデリング, 数学的リテラシー, 評価
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験 (70%), 授業中の課題 (30%) により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法 , 数学教育法 , 数学教育法
教科書	中学校学習指導要領解説 数学編 (現行カリキュラム) / 文部科学省 / 教育出版: 中学校学習指導要領解説 数学編 (新カリキュラム) / 文部科学省 / 日本文教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編 / 文部科学省

参考書	新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編 / ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際 < 中学校・高等学校（必修） > / 聖文新社：高等学校 数学教育の展開 / 聖文新社
連絡先	福田研究室 A 2 号館 8 階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・準備学習については講義計画に示しているが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施する

科目名	理科教育法 【月2水2】 (FC01B220)
英文科目名	Teaching Method of Science I
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 藤本義博 (ふじもとよしひろ)
対象学年	2 年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	理科を学ぶことの意義や有用性について考察し, 理科教育の目的についての考え方を解説する。 (ガイダンスを含む。) (全教員)
2 回	国際的な学力調査や全国学力・学習状況調査, 教育課程実施状況調査などの結果を踏まえ, 理科教育の現状と課題及び学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を解説する。 (藤本 義博)
3 回	学習指導要領における理科の目標の趣旨や解釈について解説するとともに, 各分野・各科目の内容を概説する。 (藤本 義博)
4 回	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」について解説するとともに, それらに基づいて, 小・中・高等学校を通じた理科の学習内容の系統性について解説する。 (藤本 義博)
5 回	「エネルギー」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
6 回	「粒子」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
7 回	「生命」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
8 回	「地球」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
9 回	第1回～第8回の授業内容の振り返りを行う。 (藤本 義博)
10 回	探究的な学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
11 回	日常生活や社会との関連を重視した学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
12 回	観察・実験や野外観察における事故防止, 薬品類の管理方法などについて解説する。 (岡本 弥彦)
13 回	理科の目標と評価の観点との関係や, 観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (岡本 弥彦)
14 回	学習指導案作成の意義や, 学習指導案の様式, 内容, 作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
15 回	理科教育の課題を踏まえながら, これからの理科教育の方向性について解説するとともに, それを実現するための指導事例を紹介する。 (岡本 弥彦)

16回	最終評価試験を実施する。 (全教員)
-----	-----------------------

回数	準備学習
1回	【復習】「理科をなぜ学ばなければならないのか」についての自分なりの考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編のp.1-6, 高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.1-6を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領における教科(理科)の目標(学習指導要領解説理科編のp.16-17), 高等学校学習指導要領における理科の目標(学習指導要領解説理科編理数編のp.12)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校・高等学校の理科の目標が暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8-11を読み, 理科の内容構成の概要を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】4つの科学概念の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「エネルギー」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「粒子」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.9)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「生命」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.10)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「地球」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.11)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】第1回～第8回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について, 対応できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】知識伝達型の授業と探究型の授業の相違点について考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】探究的な学習の進め方を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】理科の学習と日常生活や社会との間には, どのような関連があるかを考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】理科と日常生活や社会との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】観察・実験や野外観察において起こりやすい事故を, できるだけ多く考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】事故防止や薬品類の管理方法などを説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中・高等学校の理科の目標を確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習評価の観点や方法について説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】分かりやすい授業の条件を考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習指導案の作成方法を理解しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】本授業全体を振り返り, 理科教育の課題を再確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理科教育に関して, 各自の指導観を述べるできるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	理科教育の現状と課題や, 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容などを理解し, 中・高等学校の理科教員として必要な基礎的, 基本的な知識や技能を習得するとともに, その知識
------	--

	や技能を理科の学習指導に活用できる能力の基礎を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	理科教育の現状と課題について理解を深め、各自の指導観を明確にする。 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解する。 理科の効果的な教材、観察・実験の指導方法、理科と実生活・実社会との関連性などについて、事例に基づきながら理解する。
キーワード	理科教育，学習指導要領，理科の目標，指導観
成績評価（合格基準60	提出課題40%，最終評価試験60%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法，理科教育法，理科教育法
教科書	中学校学習指導要領解説理科編／文部科学省／大日本図書／9784477019796：高等学校学習指導要領解説理科編理数編／文部科学省／実教出版／9784407319262：中学校学習指導要領解説理科編／文部科学省／学校図書／9784762506130
参考書	「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては，内容を確認した後に返却する。 小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	道德教育の理論と方法【月2水2】（FC01B310）
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	野島淑子*（のじまよしこ*）
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、学校における道德教育、「道德の時間」の意義について確認し、31年度からの「道德の時間」の教科化についての経緯にも触れたい。そして、学校教育活動における道德教育実践の紹介、教員としての心構えや願い、講義内容の紹介を行う。また、今まで体得している自身の道德性について再考する機会とする。講義における約束事や認定評価について説明する。
2回	人間の道德性の発達を調査実証して理論的に確立したコールバーグの「道德性認知発達理論」について学習する。コールバーグのジレンマ資料で実践を試み、自らの道德性に向き合う。さらにグループセッションを通して他者の思考判断に触れることで、自らの価値体系を鑑みる機会とする。一般に他律から自律へと発達する人間の道德性発達過程における環境（学校及び家庭や地域等）による影響力の大きさ、自らの体験に照らした価値把握について考え、学校における道德教育の意義を理解する。
3回	現在、日本の文化や日本人の思考に共通する源を理解するためには、日本古来の人々の精神的拠り所は何であったかを知り、学問的思考を確立した近代の教育体系や社会状況と道德教育の歴史を紐解くことによって理解することができる。近代道德の歴史と課題 「近代から太平洋戦争まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
4回	挙国一致の戦時体制の中で、多くの若者を死に追いやった反省を踏まえて戦後、基本的人権の尊重を柱に社会情勢はめまぐるしい変化をとげ、人々の生活や価値観は大きく代わり、今や世界の先進国日本として大きく飛躍発展した。戦後70年、学校教育、特に道德教育がいかになされてきたか、そして「修身科」のトラウマを越えて設定された「道德の時間」が「道德科」として教科化されるに至った経緯を知ることによって、道德教育について理解を深める。道德教育の歴史と課題 「戦後から現在まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
5回	学校における道德教育の要となる「道德の時間」が設置されてから約60年、紆余曲折を経てこの度、領域から教科として「道德科」が新設された。現在の学校現場における道德教育及び「道德の時間」の現状と課題について理解し、道德教育の歴史を振り返りながら、教師として子どもたちになすべきことは何か、自分はどうかありたいか、どうあるべきかを考える。「中学校学習指導要領解説 道德編」を基に、改訂版も踏まえて、学校における道德教育と「道德の時間」の目標について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
6回	日々の人間の行動の判断基準となる道德的価値は何か、生育歴の中で培った価値観は人それぞれである。人間が社会集団の中で生きて行かなければならない存在であるならば、それらの価値は何らかの形で社会規律に影響を受ける。よりよく生きるために備えておきたい道德性の窓口となる「内容項目」について理解を深め、自己の構築してきた道德的価値を再確認する。「内容項目と指導の観点」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Aの視点、Bの視点」について学習し、自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ割り当てられた価値項目について自分の考えを発表し、他者の考えを知ることによって道德的価値についての理解を深める。
7回	「内容項目と指導の観点」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Cの視点、Dの視点について学習する。自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ割り当てられた価値項目について自分の考えを発表し、他者の考えを知ることによって道德的価値についての理解を深める。
8回	学校における道德教育の組織体制や道德学習計画等についてその実際を学ぶ。学校における教育活動全体を通して行われる道德教育とその要となる「道德の時間」との関連を表した組織図である「全体指導計画」及び「道德の時間」の各学年毎の「道德年間指導計画」の実際を解説する。そして、「道德の時間」を運営指導するための「道德学習指導案」について解説する。他教科とは異なる指導形態となる道德の時間は、毎時間の学習指導案は不可欠であり、指導者の価値観や生徒理解、また指導工夫や準備が大切になることを理解する。現在の道德教育の課題について知り、「道德の時間」の教科化に向けていかにあるべきかを主体的に考える。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。

9 回	学校におけるすべての教育活動との関連において、道徳教育の目標、「道徳の時間」の目標及び授業の観点について解説する。道徳の時間は、「ねらい」とする道徳的価値を如何に自覚させるかにある。そのため資料の選択の工夫、さらに授業を展開するための「道徳学習指導案」作成の仕方を解説する。指導者の発問と生徒の反応を主体に展開する道徳授業は他教科の形式とはやや異なる。具体例を基にして、「学習指導案の作り方とその工夫（「ねらい」を達成するための工夫と観点）について学習する。
10 回	「道徳学習指導案の作り方の工夫（資料分析と学習指導案）」について学習する。道徳的価値の把握には心に響く資料が不可欠である。しかし、資料はあくまで手段として使うものであり、資料の解釈に終わってはならない。資料中の価値が何であり、どのように価値を把握させていくか事前に考えておかなければならない。そのために資料分析、「ねらい」する価値に迫るための発問構成は授業の善し悪しを左右する。共通の題材資料でグループ討議をしながら資料分析を行い、資料中の登場人物の心情や行動について理解を深め学習指導案作成の演習をする。ねらいとする価値、発問構成を考えグループの授業展開をまとめる。グループ毎にまとめた発問構成の発表を行い、それぞれの有効性を共有し、道徳学習指導案の作成技能を高める。
11 回	前時の共通の資料で検討した発問構成を参考に、道徳学習指導案を完成させる。有効な発問の仕方、予想される生徒の反応、指導者の観点等、実際に授業を想定した独自の道徳学習指導案を作成する。学習指導案は指導者の価値観や願い表れたものでないと「ねらい」に迫ることは出来ない。実際に授業が出来る学習指導案を作成するには、まず自分がその資料についてよく理解し、いかに生徒の反応を引き出すかにある。他者との意見交換は、より思考を深めることが出来る。同時に学習指導案を基にした板書計画についても学習し作成する。道徳学習指導案作成演習（グループ学習）をする。
12 回	自分にとっての資料の善し悪しは、価値観に拠るところが多いが、それぞれが選択した資料を持ち寄りグループ内で検討する。他者が心を動かされた資料を知ることも参考になる。グループ内で協議して選択した資料を基に、学習指導案を作成する。展開における発問構成、発問の内容など基本的な部分をグループで意見交換をしながら集約していく。その過程で自己の考えや展開方法を深めていく。予想される生徒の反応や指導上の留意点等は、各自の考えや価値感を鑑みながらそれぞれ自身が授業できると考える学習指導案を完成する。同時に板書計画も作成する。
13 回	学習指導案があれば「ねらい」を達成する授業展開が出来るわけではない。自分で作成することに意義がある。その上で「道徳授業の工夫と観点」を学習する。道徳の授業は、生徒の発言が授業の成り立ちに影響する。資料中の人物が価値を把握する過程、行動、心情を自分と重ねて考えられるように、補助発問や切り返しの応答など臨機応変の反応が求められる。教師の願いを出しながら生徒受容の姿勢も大切なことである。また、資料内容の理解を深めるための場面絵など板書計画の工夫や授業態形も大きな要素である。教師の模擬授業で実際に示したい。同時に視聴覚教材を使った授業展開も紹介する。
14 回	グループ代表1名をによる模擬授業を行う。自身の作成した道徳学習指導案をもとに、模擬授業を体験する。頭で考えた授業展開と実際の授業との違いや気づきを体験することの意義は大きい。一方仲間による模擬授業の体験を通して、生徒の立場と教師の視点で授業に参加することも貴重な体験となる。授業後互いに授業評価を発表し合い、それぞれ参考にしたいことや課題を共有することで道徳授業への理解と意欲を高める。
15 回	まとめをする。道徳の時間は、学校の道徳教育の要としての位置づけがある。よって道徳の時間だけでなく事前・事後の指導、他の教育活動との関連も図る必要がある。また、よりよい人間関係を構築する学級経営を軸に家庭・地域との連携協力の工夫や手段も大きな要素である。そして、道徳の時間は、生徒と教師が互いによりよい生き方を求めて同じ土俵で学び合う時間であることを再確認する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	将来、教職に就く決意や願いを確認しておくこと。子どもの発達段階において、自分は何時どのようにして社会性（道徳性）を体得してきたのか振り返ってみること。そして、学齢期の子どもたちの道徳性育成と将来の社会的自立に向けて、教師としてどのような支援が大切であるか考えておくこと（標準学習時間120分）。
2 回	「よりよく生きる」とはどういうことか、日々自らが行動の判断としている道徳的価値基準はどうか、大人になった自分がどのような価値体系（自分が大切にしている価値観）を持っているかについて自己と対話しておくこと（標準学習時間120分）。
3 回	日本の古代の歴史や綿々と受け継がれてきた文化習慣や精神構造に目を向けておくこと。近代以前の歴史の一般化に比べ、明治以後の歴史については浅い知識に留まっている傾向がある。さらに教育の観点から歴史を紐解くことも少ない。今も尚、深い反省の上にある道徳教育について理解するために、明治から世界大戦前の人々の生活や考え方について資料があれば触れておくこと（標準学習時間120分）。
4 回	家族や地域の人々との関係の中で、自分が記憶にある教えやしつけ、または自分が受けてきた学校における道徳教育、「道徳の時間」を振り返り、学んだことで最も心に残っていることは何か再確認をしておくこと。さらにより理解を深めるために、戦後日本の高度成長期における社会情勢や人

	々の価値観の変異を歴史的、経済的、国際的な視点から理解しておくこと（標準学習時間120分）。
5 回	教科書「中学校学習指導要領 道徳編」p. 1～39を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.40～50を読み、まとめておくこと。自身の担当項目については、解説やそれに対する自分の価値把握を下に考えをまとめ、自分の意見や感想が十分発表ができるよう準備をしておくこと。また、他者の考えや感想を聞くことを通して、自身の価値観について再確認する。授業後の指定期日までに、Aの視点からBの視点までの9項目の内容項目について、自身の中にある道徳的価値を見つめ、「道徳の時間」の指導に当たって何を大切にしたいか自身の言葉でまとめ、所定の用紙でレポートを作成し提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
7 回	教科書「中学校学習指導要領解説道徳編」p.51～63を読み、まとめておくこと。自身の担当項目については、解説やそれに対する自分の価値把握を下に考えをまとめ、自分の意見や感想が十分発表ができるよう準備をしておくこと。また、他者の考えや感想を聞くことを通して、自身の価値観について再確認する。授業後の指定期日までに、Cの視点からDの視点までの13項目の内容項目について、自身の中にある道徳的価値を見つめ、「道徳の時間」の指導に当たって何を大切にしたいか自身の言葉でまとめ、所定の用紙でレポートを作成し提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
8 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.64～p81を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.82～p103を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.82～103を読んでおくこと。また、道徳価値を自覚するために、その手段となる資料は、自分が持っている価値との関連で、心に響くものであればジャンルを問わない。資料への関心を深め、資料を読み取り、登場人物の心情・行動について理解する力を養うこと（標準学習時間180分）。
11 回	「内容項目」について再度確認するとともに、グループ討議した発問構成、更に各グループの発表内容を参考にしながら、「ねらい」とした価値を自分はどうのように展開して独自の学習指導案を考えておく。（標準学習時間180分）
12 回	参考書などを通して様々な資料や学習指導案に触れておくこと。グループ討議を基に、自身が「ねらい」とする価値を生徒に自覚させることができる「道徳学習指導案」を完成させて提出すること。作成した学習指導案、板書計画は添削した後返却する。また、次時までに今までに自分が最も心に響いた資料をそれぞれ発掘し、選択してくること。（標準学習時間150分）
13 回	道徳の授業において大切なことは、資料の読み取りに終わることなく、自己の問題としてとらえ、「ねらい」とした価値を今後どのようにこれからの自分に生かしていけるかである。展開はその中心であるが、導入や終末の工夫及び教師の観点、留意点も同時に大切な要素である。グループ毎に自分たちで選択した資料で作成した道徳学習指導案を完成させ、「板書計画」とともに提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
14 回	各自作成した道徳学習指導案で、模擬授業から得られた情報をもとに自分はどうのように授業展開するかシュミレーションをしてみる（標準学習時間180分）。
15 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.104～128を読んでおくこと。1～15講座の内容を復習し、要点をまとめること。道徳教育及び「道徳の時間」についての意義を確認しておくこと。教師の心構えや夢や目標への意欲を高めておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	学校教育の中で、教師の役割と責任は大きい。学校教育法の改定では、人格の形成の重要性と共に学校教育活動において、「知・徳・体」を備えた生徒の育成が求められている。近年の急激な社会情勢の変化の中で価値の多様化が進み、それは子どもたちにも影響し社会問題化している。深刻ないじめ問題と共に子どもたちの心の教育が問われている。特に、自我に目覚め、自らの生き方を模索している生育期における道徳教育の意義は大きい。学校教育の現状と課題を概観し、学校における道徳教育の基本的立場とその要となる「道徳の時間」との関連について理解を深め、「道徳の時間」の充実を図るための方法と工夫を学ぶ。よりよく生きていくために、日々の行動の判断基準となる道徳性を育てるためにはどうすればよいか。「道徳の時間」を展開するための「道徳学習指導案」作り方の演習を通して、「ねらい」とする道徳的価値について考え、自覚させる観点と方法を身につける。「道徳の時間」の教科化実施に向けて、作成した道徳学習指導案による模擬授業などの体験を通して実践への意欲を高める。また、誰しも願うよりよく生きるための道徳性は、子どもたちに限らず教師にとっても生涯の課題である。「道徳の時間」は、共に学び求めていくという姿勢で、教師を目指す自身の道徳性についても問い直す機会とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-3にもっとも強く関与）
達成目標	学校は、人の学齢期における人格形成の重要な位置を占める。学校における道徳教育についての理解を深め、その現状と課題を知り、さらに日本が歩んできた道徳教育の歴史を学ぶことを通して主体的に考え、次世代を育てるための自覚と責任を養う。全学校教育活動における道徳教育の位置づけと目標、その要となる「道徳の時間」の目標を達成するための方策を示した「全体計画」を理解した上で、「道徳の時間」の指導の方法や工夫を学ぶ。よりよく生きていくための道徳性を子供に

	自覚させるのは簡単ではない。手段として用いる資料は、あくまで価値を自覚させるためのツールであることを理解し、資料を読み取る力や感性を高め、また道徳的価値の内容（内容項目）についても自己の道徳性を鑑み理解を深める。そして、自らが心に響く資料を用いて授業展開するための「道徳学習指導案」を作成することができるようにする。そして、作成した学習指導案で実践した模擬授業を通してスキル養い、道徳授業の実践意欲を持てるようにする。また、「道徳の時間」を有効にするためには、学級経営が基本であること、学校組織や家庭・地域の協力が必要であることを踏まえて、人間関係構築の大切さを知る。次代を担う子どもたちを育てる教師としての使命感と責任感をもつ。
キーワード	「手間ひまかけることを厭わない」
成績評価（合格基準60）	授業での課題レポート、内容項目まとめレポート、道徳学習指導案等の評価（40％）、グループ学習での発表、意欲態度（10％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
参考書	・「学校道徳教育入門」 / 渡邊弘編 / 東洋館出版 ・「道徳教育論」 / エミール・デュルケム（麻生誠・山村健訳） / 講談社学術文庫 ・「中学校道徳教育の基本的課題」 / 金井 肇 / 明治図書出版 ・「心のノート」を生かす道徳授業 / 金井 肇編 / 明治図書出版 ・「私たちの道徳 中学生版」 / 文部科学省
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	・履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・原則として、毎時間課題レポートを提出すること。 ・宿題レポート及び学習指導案は自作で手書きを原則とする。 ・レポート等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・介護等体験や教育実習を含めて欠席は4回までを原則とする（やむを得ない場合は申し出ること）。
試験実施	実施する

科目名	技術科教育法 【月2水2】 (FC01B330)
英文科目名	Teaching Method of Technical Arts III
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	3 年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	中学校学習指導要領と技術科教育法について解説する。
2 回	技術科の授業について指導法と指導形態を解説する。
3 回	技術科教育と職業観・勤労観の育成とキャリア教育について検討する。
4 回	技術科教育と安全教育について検討する。
5 回	技術科教育と環境教育について検討する。
6 回	技術科教育と地域との連携について検討する。
7 回	技術科教育と感性の育成について検討する。
8 回	技術科教育と創造性の育成について検討する。
9 回	技術科教育と倫理観の育成について検討する。
10 回	技術科教育と情報モラルの育成について検討する。
11 回	技術科教育と特別活動との関連について検討する。
12 回	技術科教育と道徳の指導との関連について検討する。
13 回	技術科教育と総合的な学習の時間との関連について検討する。
14 回	技術科教育における言語活動の推進と読解力の育成について検討する。
15 回	講義の成果と課題をまとめレポートを作成する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	中学校学習指導要領第1章総則と第2章第8節を読んで、中学校教育の目的、技術・家庭の意義を確認して授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
2 回	第1回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。技術科教育法の学習内容を振り返り、技術科教育の意義や効果的な指導法について考えてくること (標準学習時間120分)。
3 回	第2回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
4 回	第3回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
5 回	第4回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
6 回	第5回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
7 回	第6回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
8 回	第7回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
9 回	第8回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
10 回	第9回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
11 回	第10回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
12 回	第11回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
13 回	第12回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
14 回	第13回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
15 回	第14回の学習を振り返り内容を整理しておくこと (標準学習時間60分)。授業を振り返り、成果と課題をまとめてレポート作成の準備をすること (標準学習時間120分)。

16回	第1回～第15回までの内容を整理し、よく理解しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	中学校の技術科教師になることを強く希望する者のための選択科目である。教材開発に焦点を当てて技術科の各分野における具体的な課題に取り組みながら、技術科教師としての力量を高めるための研究・実践を行う。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関連する）
達成目標	将来の中学校技術科教師として、技術分野をわかりやすく伝えるための教材を研究・開発できるようになる。
キーワード	技術科、技術科教育法
成績評価（合格基準60）	課題提出物の内容（40％）、最終評価試験（60％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法、
教科書	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 / 文部科学省 / 開隆堂 / 9784304121541：技術・家庭 技術分野 / 文部科学省検定済教科書 / 教育図書 / 9784877302719
参考書	1．文部科学省検定済教科書「新しい技術・家庭 技術分野」 / 東京書籍 2．文部科学省検定済教科書「技術・家庭 技術分野」 / 開隆堂 3．中学校学習指導要領解説—技術・家庭編— / 文部科学省・教育図書 4．他必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	研究室：工学実習棟2階
注意・備考	・技術科教育法 を修得していることが望ましい。 ・提出されたレポートについては、添削した後に返却する。
試験実施	実施する

科目名	教職論【月3水3】（FC01C110）
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思＊（おだみつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えや意欲化を図る。（オリエンテーションを含む。）
2回	学校史を知り「学校教育の意義」について考える。
3回	「教職の意義」「教員の使命と役割」について考える。
4回	「教員の身分と服務義務」について理解する。
5回	「教員の身分保障」について理解する。
6回	職務について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを知る。
7回	理想の教師像を求め，「教員に必要な資質や能力」について考える。
8回	「学校が存在と学校教育の必要性」について考える。
9回	教育計画（教育課程の編成等）について知る。
10回	～教師とは～ 教師として備えたい力について考える。
11回	「生徒指導のねらい」と「指導の基本」について理解する。
12回	「いじめ問題の理解と対応」について考える。
13回	「特別支援教育の意義」について理解する。
14回	「学校の危機管理」について考える。
15回	学年経営・学級経営とは何か，また学年経営案・学級経営案の必要性について知る。先生の1年，先生の1日を知る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，現在の学校教育の課題や問題点についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
2回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたか」「教職の魅力とは」「教師の生きがいとは」について考え，ワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。「私のめざす教師像」「やる気のあふれる教師とは」についてノートにまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】「教職とはどのような職業か」また，「教員が責任をもって果たすべき役割」とは何かをワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教職に対するあなたの使命は何か」「使命達成のために取り組むべきことは何か」をワークシートにまとめること。（標準学習時間120分）。
4回	【予習】憲法や学校教育法などから，教員の身分について，地方公務員法第30条～38条から服務規程について調べ発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】日本国憲法や教育基本法より服務義務について整理しワークシートにまとめること（標準学習時間60分）。
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項，29条第1項を読み，内容を発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。 【復習】教員の服務義務や身分保障，処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。（標準学習時間60分）。
6回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】働く社会人として心掛けること，教員として心掛けることについて考えをまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教員に必要な資質と能力」についての考えをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】中学校学習指導要領（平成29年3月）の前文をワークシートに写しておくこと（標準学習時間60分）。

	習時間120分)。 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
9 回	【予習】出身中学校の教育活動について発表できるようにまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのかワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
10 回	【予習】小・中学校、高等学校の教員との関わりで印象に残っているものについて発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
11 回	【予習】「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(速報値)」の1調査の概要(p.1～5)を読んでおくこと。また、児童生徒に身に付けさせたい生活習慣についてワークシートにまとめ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】事例「問題行動の対応」について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
12 回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また、いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し、講義に持参すること(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
13 回	【予習】特別支援教育に関わる学校種、学級種について調べ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別支援教育に関わる教職員としての資質についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
14 回	【予習】学校で起こる事故の種類をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「学校事故を起こさないために大切なこと」は何か、また「学校事故が起こった場合」はどのように対応すればよいかをワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
15 回	【予習】中学校生活の時程について思い出しておくこと。また、自身の中で確立した教師像を明確にし、まとめておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】最終評価試験を前に、15回の講義内容を振り返りよく整理すること(標準学習時間120分)。

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため、本講義の目的は、教師になろうとする意欲を高めること、教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教師に課せられた使命・役割について理解する。 教師に求められる資質や素養について理解する。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解する。 これらにより自己の教師像を明確にする。
キーワード	「やる気のある教師」
成績評価(合格基準60%)	提出課題(40%)と最終評価試験(60%)で評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動、ロールプレーを適宜取り入れ、考える時間、表現する時間を確保する。
試験実施	実施する

科目名	教育の方法と技術【月3水3】（FC01C210）
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	津田秀哲＊（つだひでのり＊）
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業ガイダンス。幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）の第1章を解説する。
2回	第1回資料をもとに、第3章、第5章を解説する。
3回	教科書 第1章「教育方法」について解説する。 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第3節 新しい学力観
4回	教科書 第3章（第2節、第3節）について解説する。 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用
5回	教科書 第4章（第1節、第2節）について解説する。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書
6回	教科書 第4章（第3節）について解説する。 第3節 教科指導の展開
7回	PISA2015の結果、TIMSS2015の結果資料をもとに説明し、世界で通用する学力とは何か考える。
8回	平成10年以降に始まった教育の情報化施策について解説する。
9回	「教育の情報化に関する手引き」を解説し、どのような場面での活用が期待されているか解説する。
10回	教科書 第2編「情報機器および教材の活用」第1章「高度情報通信社会と情報教育」について解説する。
11回	従来から教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、急速に導入され始めたタブレットをはじめとした情報機器や教材を活用した指導法の長所と短所を比較しながら解説をする。
12回	第2章「パソコン活用による学校教育の改善」について解説する。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン 第4節 パソコン活用のモラルと著作権
13回	第3章「パソコン活用と教材開発」第3節プレゼンテーションの手法を解説する。 第14回、第15回の実習および発表に向けた班分けを行う。
14回	与えられたテーマを生徒に分かりやすく説明するためのプレゼンテーションを作成する。
15回	作成したプレゼンテーションを班毎で発表し互いに評価する。発表後、出された意見を参考に、プレゼンテーションを再構築する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付・説明する（中教審第197号）を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】上記資料の第3章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容をどのように反映しようとしているかまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】テキスト第1章を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】現行学習指導要領が目指した、新しい学力観についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】第3章（第2節、第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】主な学習指導の形態やその長所と短所についてまとめること（標準学習時間120分）。
5回	【予習】教科書第4章（第1節、第2節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。

	【復習】望ましい授業とは何か。教科書と補助教材の位置づけについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】教科書第4章（第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】授業で配付された数学科の年間指導計画、学習指導案をよく読み、授業のイメージづくりし、自分なりの板書イメージを作成すること（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】インターネットによりTIMSS2015の結果、PISA2015の結果を考察し、子供たちに求められる力とは何か考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】自分がイメージする学力の定義と国際的な学力の定義を比較し、自分の考えをまとめること（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】インターネットで、教育の情報化にはどのようなものがあったか調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育の情報化施策に多額な予算が投じられたにもかかわらず、教育の情報化が進まなかった理由についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）をインターネットや図書で検索し、第2章～第7章までのポイントをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】講義を受け、予習でまとめた内容の加筆修正を行うこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】第2編第1章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】我が国の従来の指導方法とICTを積極的に教育に活用している国の教員の意識の違いをまとめておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】従来の学習形態と、タブレット端末を活用した場合、パソコンを活用した場合の長所と短所を考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】講義を受け、3者の長所と短所を表にまとめること（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】第2章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】ネット上の著作物を活用するときの根拠を、学習場面で活用する場合とそれ以外で活用する場合を比較しながらまとめること（標準学習時間120分）。
13 回	【予習】第3章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】効果的なプレゼンテーションについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】生徒の心に訴えかけるプレゼンテーションを作成するためのポイントをまとめておく。（標準学習時間60分）。 【復習】自分たちが考えた教材での効果的なプレゼンテーションづくりを行うこと（標準学習時間180分）。
15 回	【予習】班毎でプレゼンテーションを作成し発表の準備を行うこと（標準学習時間180分）。 【復習】講義での発表をもとにプレゼンテーションを改善・完成し提出すること（標準学習時間60分）。

講義目的	本授業では、理論と実践の両面からアプローチすることにより、実践的指導力の基礎を培うことを目的としている。従来から教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、急速に導入され始めたタブレットをはじめとした情報機器や教材を活用した指導法の在り方について解説をする。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、小集団毎でタブレット端末を使った教材づくり、効果的なプレゼンテーションづくり、発表を通して実践的指導力を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針C-5にもっとも強く関与）
達成目標	メディアには光と影などで表現されるプラスとマイナスの両面を持っている。教育実践の中で、従来の教科書やノート、黒板を用いた授業に加え情報機器やデジタル教材を用いることの意義を理解し、児童生徒一人一人が主体的に学習に参加できる教材研究に意欲的に取り組もうとすることが出来る。
キーワード	指導方法、情報機器活用、教育の情報化
成績評価（合格基準60）	授業後レポート（30％）、教材づくりに対する評価（自己評価＋他者評価）（30％）、教材と発表（40％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	各教科の教育法
教科書	教職必修 教育の方法と技術 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407303445
参考書	適宜指示する。
連絡先	A2号館8階 津田
注意・備考	提出されたレポートについては、添削した後に返却する。
試験実施	実施しない

科目名	理科教育法 【月3水3】 (FC01C220)
英文科目名	Teaching Method of Science I
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	理科を学ぶことの意義や有用性について考察し, 理科教育の目的についての考え方を解説する。 (ガイダンスを含む。) (全教員)
2回	国際的な学力調査や全国学力・学習状況調査, 教育課程実施状況調査などの結果を踏まえ, 理科教育の現状と課題及び学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を解説する。 (藤本 義博)
3回	学習指導要領における理科の目標の趣旨や解釈について解説するとともに, 各分野・各科目の内容を概説する。 (藤本 義博)
4回	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」について解説するとともに, それらに基づいて, 小・中・高等学校を通じた理科の学習内容の系統性について解説する。 (藤本 義博)
5回	「エネルギー」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「粒子」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「生命」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	「地球」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
9回	第1回～第8回の授業内容の振り返りを行う。 (藤本 義博)
10回	探究的な学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
11回	日常生活や社会との関連を重視した学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
12回	観察・実験や野外観察における事故防止, 薬品類の管理方法などについて解説する。 (岡本 弥彦)
13回	理科の目標と評価の観点との関係や, 観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (岡本 弥彦)
14回	学習指導案作成の意義や, 学習指導案の様式, 内容, 作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
15回	理科教育の課題を踏まえながら, これからの理科教育の方向性について解説するとともに, それを実現するための指導事例を紹介する。 (岡本 弥彦)

16回	最終評価試験を実施する。 (全教員)
-----	-----------------------

回数	準備学習
1回	【復習】「理科をなぜ学ばなければならないのか」についての自分なりの考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編のp.1-6, 高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.1-6を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領における教科(理科)の目標(学習指導要領解説理科編のp.16-17), 高等学校学習指導要領における理科の目標(学習指導要領解説理科編理数編のp.12)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校・高等学校の理科の目標が暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8-11を読み, 理科の内容構成の概要を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】4つの科学概念の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「エネルギー」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「粒子」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.9)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「生命」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.10)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「地球」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.11)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】第1回～第8回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について, 対応できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】知識伝達型の授業と探究型の授業の相違点について考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】探究的な学習の進め方を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】理科の学習と日常生活や社会との間には, どのような関連があるかを考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】理科と日常生活や社会との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】観察・実験や野外観察において起こりやすい事故を, できるだけ多く考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】事故防止や薬品類の管理方法などを説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中・高等学校の理科の目標を確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習評価の観点や方法について説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】分かりやすい授業の条件を考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習指導案の作成方法を理解しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】本授業全体を振り返り, 理科教育の課題を再確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理科教育に関して, 各自の指導観を述べるできるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	理科教育の現状と課題や, 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容などを理解し, 中・高等学校の理科教員として必要な基礎的, 基本的な知識や技能を習得するとともに, その知識
------	--

	や技能を理科の学習指導に活用できる能力の基礎を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	理科教育の現状と課題について理解を深め、各自の指導観を明確にする。 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解する。 理科の効果的な教材、観察・実験の指導方法、理科と実生活・実社会との関連性などについて、事例に基づきながら理解する。
キーワード	理科教育，学習指導要領，理科の目標，指導観
成績評価（合格基準60	提出課題40%，最終評価試験60%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法，理科教育法，理科教育法
教科書	中学校学習指導要領解説理科編／文部科学省／大日本図書／9784477019796：高等学校学習指導要領解説理科編理数編／文部科学省／実教出版／9784407319262：中学校学習指導要領解説理科編／文部科学省／学校図書／9784762506130
参考書	「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては，内容を確認した後に返却する。 小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	数学教育法 【月3水3】 (FC01C310)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics III
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	3 年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを実施する。
2 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における内容確認と教授単元についての整理をする。
3 回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業とその検討をする。
4 回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業とその検討をする。
5 回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業とその検討をする。
6 回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業とその検討をする。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
8 回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
9 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
10 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
11 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
12 回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
13 回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
14 回	高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
15 回	授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
3 回	教授単元を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
4 回	教授単元を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
5 回	教授単元を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
6 回	教授単元を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
7 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
8 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
9 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
10 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
11 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
12 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
13 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
14 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
15 回	教授単元について復習してくること (標準学習時間180分)。

講義目的	教授単元を観点にしながら「数学教育法」で学んだ理論を実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。
------	--

	(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	教授単元を観点にしながら数学科授業を構成するとともに、「数学教育法」で学んだ理論を実践することを通して、実践的スキルを習得する。
キーワード	中学校数学科，高等学校数学科，教授単元，模擬授業
成績評価（合格基準60）	レポート（60%），授業中の課題（40%）により評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法，数学教育法，数学教育法
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編（現行カリキュラム）／文部科学省／教育出版：中学校学習指導要領解説 数学編（新カリキュラム）／文部科学省／日本文教出版：高等学校学習指導要領解説 数学編／文部科学省新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編／ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際＜中学校・高等学校（必修）＞／聖文新社：高等学校 数学教育の展開／聖文新社
連絡先	福田研究室 A2号館8階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・「数学教育法」を修得していることが望ましい。レポート作成は準備学習と講義内で行うが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動，模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施しない

科目名	社会科教育法 【月3水3】 (FC01C320)
英文科目名	Teaching Method of Social Studies II
担当教員名	安藤豊＊(あんどうゆたか＊)
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	古代国家の歩みと東アジア世界について解説する。
2回	武士の台頭と鎌倉幕府について解説する。
3回	東アジア世界とのかかわりと社会の変動について解説する。
4回	ヨーロッパ人との出会いと全国統一について解説する。
5回	江戸幕府の成立と鎖国について解説する。
6回	産業の発達と幕府政治の動きについて解説する。
7回	欧米の進出と日本の開国について解説する。
8回	明治維新について解説する。
9回	日清, 日露戦争と近代産業について解説する。
10回	第1次世界大戦とアジア, 日本について解説する。
11回	世界恐慌と日本の中国侵略について解説する。
12回	第2次世界大戦とアジアについて解説する。
13回	日本の民主化と国際社会への復帰について解説する。
14回	国際社会と日本について解説する。
15回	中学校歴史を指導する目的について解説する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
2回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
4回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
5回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
6回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
7回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
8回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
9回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
10回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。
11回	【予習】中学校歴史教科書(帝国書院)の講義計画該当部分を学習し, その内容を概ね理解できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておく(標準学習時間90分)。

1 2 回	【予習】中学校歴史教科書（帝国書院）の講義計画該当部分を学習し，その内容を概ね理解できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておく（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】中学校歴史教科書（帝国書院）の講義計画該当部分を学習し，その内容を概ね理解できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておく（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】中学校歴史教科書（帝国書院）の講義計画該当部分を学習し，その内容を概ね理解できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておく（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】今までの学習を振り返っておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校教諭免許状（社会科）の取得に必要な知識，技能を習得する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 2にもっとも強く関与）
達成目標	中学校社会科教員としての授業の実践能力を習得する。
キーワード	歴史的事象の客観的理解
成績評価（合格基準60	毎時間のレポートで評価し，100点満点に換算して60点以上を合格とする。
関連科目	社会科・公民科教育法 ，社会科・公民科教育法 ，社会科教育法
教科書	中学校教科書：中学生の歴史 / 帝国書院 / 9784807159420
参考書	中学で使った歴史資料
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題（講義内で指示）については、次時の授業での講義等を通して深化させる。
試験実施	実施しない

科目名	教育課程論【月4水4】（FC01D110）
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至＊（こばやしたつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、講義の概要、目的、授業計画及び教育課程の概念について説明する。
2回	科学的な見方・考え方や問題解決する力を育成する教育課程を編成するための基本について説明する。
3回	法令としての学習指導要領とそれに関わる諸法規について説明する。
4回	戦後日本の教育課程の変遷、特に現代化運動の時代の教育課程について説明する。
5回	新学習指導要領改訂の時代的背景と育成を目指す資質・能力について教育改革の国際的な動向を踏まえて説明する。その後、新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
6回	新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
7回	中学校教育の基本と教育課程の役割について説明する。
8回	汎用的な問題解決の力を育成する教育課程編成の理論について説明する。
9回	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指す教育課程の編成と学習評価について説明する。
10回	「教育課程の実施と学習評価」について説明する。
11回	「道徳」の位置付けと意義、その指導について説明する。
12回	中学校の各教科内容の系統性を踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について説明する。
13回	学校経営目標とカリキュラム・マネジメントの実践について説明する。
14回	文部科学省が実施する教育課程の評価の目的と方法について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	『中学校学習指導要領解説編』の11～12頁「教育課程の意義」を読み、いずれかの教科を1つ取り上げて自分自身が中学生だった頃の学習指導要領の理念及び教科内容と学び方について800字程度でまとめておくこと（標準学習時間180分）。
2回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の3～14頁（第1章）及び15～25頁（第2章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
3回	『中学校学習指導要領解説編』の13～16頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
4回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の137～149頁（第12章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
5回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の150～162頁（第13章）及び中学校学習指導要領解説編の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6回	『中学校学習指導要領解説編』の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
7回	『中学校学習指導要領解説編』の17～40頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
8回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の163～176頁（第14章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9回	『中学校学習指導要領解説編』の47～72頁「教育課程の編成」及び中学校学習指導要領解説編の76～91頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10回	『中学校学習指導要領解説編』の76～91頁「教育課程の実施と学習評価」頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
11回	『中学校学習指導要領解説編』の128～144頁「道徳教育推進上の配慮事項」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
12回	資質・能力の育成の観点から、教科書をどのように活用して主体的・対話的で深い学びを実現するのかについてレポートを作成しておくこと（標準学習時間180分）。
13回	第12回授業で配付する資料を読み、カリキュラム・マネジメントの捉え方をまとめておくこと（標準学習時間180分）。

1 4 回	文部科学省HPで平成27年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を解いておくこと（標準学習時間180分）。
1 5 回	これまでの授業ノートを読み返しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 1にもっとも強く関与）
達成目標	1．教育課程の概念を理解する。 2．法令としての学習指導要領の意義と目的を理解する。 3．戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 4．新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解する。 5．新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び（カリキュラム・マネジメント）を実現する授業を構想するための理論を理解する。 6．「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解する。 7．教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解する。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
成績評価（合格基準60	最終評価試験による評価（60点），ならびにレポートによる評価（40点）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教育の方法と技術
教科書	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』 大学教育出版：『探究する資質・能力を育む理科教育』
参考書	『教育方法学』／佐藤 学／岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』／田中耕治等編／有斐閣アルマ
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題（準備学習で示す）については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	特別活動の理論と方法【月4水4】（FC01D310）
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一＊（しらかみけんいち＊）
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標（その１）」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標（その２）」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間や進路指導との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実践」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-4にもっとも強く関与）
達成目標	上記講義目的に基づき、特別活動に係る実践的な指導力を身に付けることをもって到達目標とする。
キーワード	学級活動・ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事 ガイダンス機能の充実 家庭・地域との連携の推進
成績評価（合格基準60	最終評価試験（60％）、レポート（20％）、発表（模擬授業を含む）や討論の内容（20％）から成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生徒・進路指導論
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827815627 : 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / ISBN978-4-303-12630-8
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 第2,3,4回の授業では4～5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
試験実施	実施する

科目名	教職論【月5水5】（FC01E110）
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思＊（おだみつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 5時限 / 水曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自身の教職履修の動機を基に、教職履修に向けての心構えや意欲化を図る。（オリエンテーションを含む。）
2回	学校史を知り「学校教育の意義」について考える。
3回	「教職の意義」「教員の使命と役割」について考える。
4回	「教員の身分と服務義務」について理解する。
5回	「教員の身分保障」について理解する。
6回	職務について知り、一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを知る。
7回	理想の教師像を求め、「教員に必要な資質や能力」について考える。
8回	「学校が存在と学校教育の必要性」について考える。
9回	教育計画（教育課程の編成等）について知る。
10回	～教師とは～ 教師として備えたい力について考える。
11回	「生徒指導のねらい」と「指導の基本」について理解する。
12回	「いじめ問題の理解と対応」について考える。
13回	「特別支援教育の意義」について理解する。
14回	「学校の危機管理」について考える。
15回	学年経営・学級経営とは何か、また学年経営案・学級経営案の必要性について知る。先生の1年、先生の1日を知る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し、学習の過程を把握しておくこと。また、現在の学校教育の課題や問題点についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
2回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたか」「教職の魅力とは」「教師の生きがいとは」について考え、ワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。「私のめざす教師像」「やる気のあふれる教師とは」についてノートにまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】「教職とはどのような職業か」また、「教員が責任をもって果たすべき役割」とは何かをワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教職に対するあなたの使命は何か」「使命達成のために取り組むべきことは何か」をワークシートにまとめること。（標準学習時間120分）。
4回	【予習】憲法や学校教育法などから、教員の身分について、地方公務員法第30条～38条から服務規程について調べ発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】日本国憲法や教育基本法より服務義務について整理しワークシートにまとめること（標準学習時間60分）。
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項、29条第1項を読み、内容を発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。 【復習】教員の服務義務や身分保障、処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。（標準学習時間60分）。
6回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ、発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】働く社会人として心掛けること、教員として心掛けることについて考えをまとめ、発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教員に必要な資質と能力」についての考えをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】中学校学習指導要領（平成29年3月）の前文をワークシートに写しておくこと（標準学習時間60分）。

	習時間120分)。 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
9 回	【予習】出身中学校の教育活動について発表できるようにまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのかワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
10 回	【予習】小・中学校、高等学校の教員との関わりで印象に残っているものについて発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
11 回	【予習】「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(速報値)」の1調査の概要(p. 1～5)を読んでおくこと。また、児童生徒に身に付けさせたい生活習慣についてワークシートにまとめ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】事例「問題行動の対応」について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
12 回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また、いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し、講義に持参すること(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
13 回	【予習】特別支援教育に関わる学校種、学級種について調べ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別支援教育に関わる教職員としての資質についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
14 回	【予習】学校で起こる事故の種類をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「学校事故を起こさないために大切なこと」は何か、また「学校事故が起こった場合」はどのように対応すればよいかをワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
15 回	【予習】中学校生活の時程について思い出しておくこと。また、自身の中で確立した教師像を明確にし、まとめておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】最終評価試験を前に、15回の講義内容を振り返りよく整理すること(標準学習時間120分)。

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため、本講義の目的は、教師になろうとする意欲を高めること、教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教師に課せられた使命・役割について理解する。 教師に求められる資質や素養について理解する。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解する。 これらにより自己の教師像を明確にする。
キーワード	「やる気のある教師」
成績評価(合格基準60%)	提出課題(40%)と最終評価試験(60%)で評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動、ロールプレーを適宜取り入れ、考える時間、表現する時間を確保する。
試験実施	実施する

科目名	教育課程論【月5水5】（FC01E120）
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至＊（こばやしたつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 5時限 / 水曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、講義の概要、目的、授業計画及び教育課程の概念について説明する。
2回	科学的な見方・考え方や問題解決する力を育成する教育課程を編成するための基本について説明する。
3回	法令としての学習指導要領とそれに関わる諸法規について説明する。
4回	戦後日本の教育課程の変遷、特に現代化運動の時代の教育課程について説明する。
5回	新学習指導要領改訂の時代的背景と育成を目指す資質・能力について教育改革の国際的な動向を踏まえて説明する。その後、新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
6回	新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
7回	中学校教育の基本と教育課程の役割について説明する。
8回	汎用的な問題解決の力を育成する教育課程編成の理論について説明する。
9回	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指す教育課程の編成と学習評価について説明する。
10回	「教育課程の実施と学習評価」について説明する。
11回	「道徳」の位置付けと意義、その指導について説明する。
12回	中学校の各教科内容の系統性を踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について説明する。
13回	学校経営目標とカリキュラム・マネジメントの実際について説明する。
14回	文部科学省が実施する教育課程の評価の目的と方法について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	『中学校学習指導要領解説編』の11～12頁「教育課程の意義」を読み、いずれかの教科を1つ取り上げて自分自身が中学生だった頃の学習指導要領の理念及び教科内容と学び方について800字程度でまとめておくこと（標準学習時間180分）。
2回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の3～14頁（第1章）及び15～25頁（第2章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
3回	『中学校学習指導要領解説編』の13～16頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
4回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の137～149頁（第12章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
5回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の150～162頁（第13章）及び中学校学習指導要領解説編の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6回	『中学校学習指導要領解説編』の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
7回	『中学校学習指導要領解説編』の17～40頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
8回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の163～176頁（第14章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9回	『中学校学習指導要領解説編』の47～72頁「教育課程の編成」及び中学校学習指導要領解説編の76～91頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10回	『中学校学習指導要領解説編』の76～91頁「教育課程の実施と学習評価」頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
11回	『中学校学習指導要領解説編』の128～144頁「道徳教育推進上の配慮事項」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
12回	資質・能力の育成の観点から、教科書をどのように活用して主体的・対話的で深い学びを実現するのかについてレポートを作成しておくこと（標準学習時間180分）。
13回	第12回授業で配付する資料を読み、カリキュラム・マネジメントの捉え方をまとめておくこと（標準学習時間180分）。

1 4 回	文部科学省HPで平成27年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を解いておくこと（標準学習時間180分）。
1 5 回	これまでの授業ノートを読み返しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 1にもっとも強く関与）
達成目標	1．教育課程の概念を理解する。 2．法令としての学習指導要領の意義と目的を理解する。 3．戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 4．新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解する。 5．新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び（カリキュラム・マネジメント）を実現する授業を構想するための理論を理解する。 6．「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解する。 7．教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解する。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
成績評価（合格基準60	最終評価試験による評価（60点），ならびにレポートによる評価（40点）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教育の方法と技術
教科書	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』 大学教育出版：『探究する資質・能力を育む理科教育』
参考書	『教育方法学』／佐藤 学／岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』／田中耕治等編／有斐閣アルマ
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題（準備学習で示す）については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	特別活動の理論と方法【月5水5】（FC01E310）
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一＊（しらかみけんいち＊）
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 5時限 / 水曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標（その１）」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標（その２）」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間や進路指導との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実践」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-4にもっとも強く関与）
達成目標	上記講義目的に基づき、特別活動に係る実践的な指導力を身に付けることをもって到達目標とする。
キーワード	学級活動・ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事 ガイダンス機能の充実 家庭・地域との連携の推進
成績評価（合格基準60	最終評価試験（60％）、レポート（20％）、発表（模擬授業を含む）や討論の内容（20％）から成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生徒・進路指導論
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827815627 : 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / ISBN978-4-303-12630-8
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 第2,3,4回の授業では4～5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
試験実施	実施する

科目名	栽培【火1金1】(FC01F210)
英文科目名	Cultivation
担当教員名	黒田俊郎* (くろだとしろう*), 石田正人* (いしだまさと*)
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限 / 金曜日 1時限
対象クラス	バイオ・応用化学科(～16), 機械システム工学科(～16), 電気電子システム学科(～16), 情報工学科(～16), 知能機械工学科(～16), 生体医工学科(～16), 建築学科(～16), 生命医療工学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	作物の多様性(1)「栽培の極意教えます！」について解説する。 (黒田 俊郎*)
2回	作物の多様性(2)作物の分類・起源について解説する。 (黒田 俊郎*)
3回	作物の多様性(3)禾穀類・イモ類・マメ類について解説する。 (黒田 俊郎*)
4回	作物の炭素同化(1)光合成(2)成長解析について解説する。 (黒田 俊郎*)
5回	作物と土壌(1)土壌の組成(2)必須元素について解説する。 (黒田 俊郎*)
6回	作物の品種について解説する。 (黒田 俊郎*)
7回	作物の作期と作型について解説する。 (黒田 俊郎*)
8回	作物の収量成立について解説する。 (黒田 俊郎*)
9回	作物栽培の要点について解説する。 (黒田 俊郎*)
10回	レポート発表と口頭試問を行う。 (黒田 俊郎*)
11回	作物栽培の実際(1)食用作物について解説する。 (石田 正人*)
12回	作物栽培の実際(2)園芸作物について解説する。 (石田 正人*)
13回	作物栽培の実際(3)工芸作物・飼料作物について解説する。 (石田 正人*)
14回	作物栽培の実際(4)日本と世界について解説する。 (石田 正人*)
15回	技術教育における作物栽培について解説する。 (石田 正人*)

回数	準備学習
1回	【予習】これまでの学習から「栽培」に期待することをまとめておくこと。また、近隣の畑や家庭

	菜園で行われている作物栽培を観察すること（標準学習時間120分）。 【復習】継続して自分の衣食住の中でどんな作物があったかに注意を払うこと。（標準学習時間60分）。
2 回	【予習】毎日の食事の中でどんな作物があったかに注意を払うこと（標準学習時間120分）。 【復習】植物の分類と作物の分類・起源についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
3 回	【予習】作物の多様性についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の多様性(3)禾穀類・イモ類・マメ類についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
4 回	【予習】作物の炭素同化(1)光合成(2)成長解析についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の炭素同化(1)光合成(2)成長解析についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
5 回	【予習】作物と土壌(1)土壌の組成(2)必須元素についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物と土壌(1)土壌の組成(2)必須元素についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】作物の品種についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の品種についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】作物の作期と作型についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の作期と作型についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】作物の収量成立についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物の収量成立についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】作物栽培の要点についてテキスト（プリント）を参考にして調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の要点についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】レポート発表の練習をしておくこと（標準学習時間180分）。
11 回	【予習】作物栽培の実際（食用作物）についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の実際（食用作物）についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】作物栽培の実際（園芸作物）についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の実際（園芸作物）についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】作物栽培の実際（工芸作物・飼料作物）についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の実際（工芸作物・飼料作物）についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】作物栽培の実際（日本と世界）についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】作物栽培の実際（日本と世界）についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】中学校「技術」における植物についてWEB・図書館を活用して調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】中学校「技術」における植物栽培についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。

講義目的	栽培技術の神髄は肥培管理の方法のみならず、作物の多様性を知り、作物と人間との関わりの中に栽培を位置付け、広い視野を持ちながら栽培を知ることにある。この視点に立って栽培技術の要点を概説する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Ⅰにもっとも強く関与）
達成目標	作物の多様性・作物の炭素同化・土壌・作期・品種について学び、作物の栽培とは何か、また栽培のコツ・ツボ・極意を習得する。
キーワード	作物 栽培
成績評価（合格基準60）	1～9回の授業内容に関するレポート発表（30%）および口頭試問（30%）、11～15回の授業における提出物(40%)により評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	特に指定しない。プリントを使用する。
参考書	適宜プリントで指定する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室

注意・備考	・日常的に農業・食料関係の情報に注意を払うこと。 ・アクティブラーニングを促すためグループディスカッションを行う。 ・講義中の撮影・録音は禁止する。 ・課題（予習内容、レポート等）については、次時の授業での講義等を通して深化させる。
試験実施	実施しない

科目名	道徳教育の理論と方法【火1金1】(FC01F310)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子* (いちばよしこ*)
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限 / 金曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道徳科の教材についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の教材について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道徳科のねらいについてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道徳科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道徳科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道徳科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 3にもっとも強く関与）
達成目標	【道徳の理論】道徳とは何かを説明できる。道徳教育の歴史や現代社会における課題（いじめ、情報モラル等）を理解している。子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。学習指導要領に示された道徳科の目標や内容、道徳教育について理解している。 【道徳の指導法】授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道徳科の学習指導案を作成することができる。模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
キーワード	特別の教科 道徳。道徳科の目標。道徳科の内容。道徳教育と道徳科。道徳性。
成績評価（合格基準60	レポート、学習指導案等の課題提出（40％）、グループ学習での発表、意欲、態度（10％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
参考書	・「心のノート」 / 文部科学省 ・「私たちの道徳 中学校」 / 文部科学省
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	・課題については、次時の授業で発表や討論を通して深化させる。 ・第 8 回に実施する中間試験は、第 9 回の授業で正答例を示し、解説する。 ・グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施などのアクティブ・ラーニングを採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	情報科教育法 【火2金2】 (FC01G210)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy I
担当教員名	草野泰秀 * (くさのやすひで*)
対象学年	2 年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	応用数学科,基礎理学科,電気電子システム学科,情報工学科,情報科学科,社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	実習用パソコン及びネットワークの利用方法と利用上の注意点について解説する。学習管理システムへのログインとパソコンによる出席登録,課題提出方法を説明する。パソコンの基本操作ができることの確認で簡単な表計算の小テストを実施する。情報教育の概要,学習指導要領について説明する。
2 回	表計算の小テストの正答例の解説をし,高等学校学習指導要領情報編を解説し,情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について解説する。
3 回	「情報」の科目がどのような理念により設置されたか学生に発表してもらう。高等学校学習指導要領解説情報編の普通教科情報「社会と情報」,「情報の科学」,「情報A」の目標と内容について解説する。
4 回	「高等学校学習指導要領解説情報編(文部科学省)」の普通教科情報「社会と情報」,「情報の科学」の科目は,改定前の科目「情報A」,「情報B」,「情報C」をどのように受け継いでいるか学生に発表してもらう。「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」の指導と指導上の留意点について解説する。
5 回	「情報科の影」についての事例と対策について学生に発表してもらう。「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点について解説する。
6 回	個人情報流出する事例と対策について,学生に発表してもらう。「情報とメディア」のCM分析を解説し,具体的に岡山理科大学のCMの作成について解説する。
7 回	作成した岡山理科大学のCMを学生に発表してもらい,学生に良い点や改善点について討論し,よりよいCMに改良してもらう。「情報機器とデジタル表現」の数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換について解説する。
8 回	課題プリントの進数計算演習問題の正答例を解説する。「表現と伝達」の表計算ソフトの利用について演習問題をとおして解説する。
9 回	プリントの演習問題の正答例の解説をする。「表現と伝達」の章の「Webページの利用」について,具体的に岡山理科大学のWebページ作成をとおして解説する。
10 回	作成した岡山理科大学CMのWebページを学生に発表してもらい,学生に良い点や改善点について討論し,よりよいWebページに改良してもらう。「社会と情報」の学習指導案の様式,年間指導計画,観点別評価について解説する。
11 回	作成した学習指導案に基づいて,代表学生に模擬授業をしてもらう。その授業について,学生に良い点,改善点について意見を言ってもらい。その後,その授業について指導講評をする。「表現と伝達」の章,第2節「表計算ソフトの利用」の指導と指導上の留意点について解説する。
12 回	第11回のEXCELの演習問題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律の指導と指導上の留意点について解説する。
13 回	第12回の課題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティの指導と指導上の留意点について解説する。
14 回	第13回の課題の正答例を解説する。プリントの「情報の科学」の章,プログラムの活用の例題等について解説する。
15 回	第14回の課題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラムが作成できることの必要性を解説し,難易度が高いプログラムを解説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	第1回に実施した小テストについては,第2回の授業で正答例などとともに解説する。【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正しておくこと(標準学習時間60分)。
2 回	【予習】パソコン(Windows)の基本操作ができるとともに,パソコンで文書作成や表計算,ホームページの閲覧ができるなど,パソコンの基本的な利用ができるようになっておくこと。学習指導要領情報編を読み,整理しておくこと。また,「情報」の科目がどのような理念により設置されたか次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について理解しておくこと(標準学習時間60分)。

3 回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」を読み，整理しておくこと。（標準学習時間120分）。 【復習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」の目標を理解し，暗唱しておくこと。また，改定後の「社会と情報」，「情報の科学」の科目は，改定前の科目「情報A」，「情報B」，「情報C」をどのように受け継いでいるか次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
4 回	【予習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」を読み，整理しておくこと。また，「情報科の影」についての事例と対策が，次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
5 回	【予習】「個人情報とその保護」を読み整理しておくこと。また，個人情報が流出する事例と対策が，次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点を理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】「情報とメディア」のCM分析を読み整理して，岡山理科大学のWordによるCM作成の原案を考え，CMに入れる写真を撮影して準備しておくこと。また，作成したCMを次時の授業で発表できる準備をしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「情報とメディア」のCM分析を理解し，岡山理科大学のCMを完成させておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第2章の第1節，第2節を読んで，内容を理解しておくこと。教科書に載っている数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換ができるようにしておくこと。課題プリントの進数計算演習問題もしておくこと。これは，第8回の授業で，正答例などとともに解説する。（標準学習時間120分）【復習】数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換を理解し，表計算の演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】「表現と伝達」の表計算ソフトの利用の内容を読んで，理解しておくこと。また，プリントの演習問題もしておくこと。第9回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間120分）【復習】プリントの演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】「表現と伝達」の章の「Webページの利用」を読んで，内容を理解しておくこと。教科書に載っているWeb制作の流れを理解して，岡山理科大学のCMのWeb作成の構想を考え，写真を準備しておくこと（標準学習時間120分）【復習】岡山理科大学のCMのWeb作成を完成させておくこと。第10回の授業で作成した岡山理科大学のCMのWebページが発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】プリントの指導案の様式，社会と情報の指導案例，年間指導計画を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い，どのように進めていけばよいか，どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案を作成しておくこと。学習指導案に基づいて，模擬授業ができるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第3章の第2節「表計算ソフトの利用」を読んで，内容を理解しておくこと。プリントのEXCELの練習問題をしておくこと（標準学習時間60分）【復習】プリントのEXCELの演習問題をしておくこと。第12回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プリントの演習問題をしておくこと。この問題は第13回の授業で，正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティを読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プリントの章末問題をしておくこと。この問題は第14回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】プリントの「情報の科学」の章，プログラムの活用を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プログラムの演習問題をしておくこと。この問題は第15回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】難易度が高いプログラムの演習問題を考えること（標準学習時間120分）【復習】難易度が高いプログラムの演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回の内容をよく理解し整理復習しておくこと。（標準学習時間320分）。

講義目的	高等学校の普通教科「情報」の目標と内容及びその指導法と指導上の留意点を理解させ，指導技術の習得を図って，情報科教員免許を取得できるようにする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与）
達成目標	情報教育と普通教科「情報」の目標，及び「情報」の各科目の特徴を理解すること。 実践的な文書処理，表計算処理，Webページ作成等コンピュータを活用した学習指導ができるようになること。 普通教科「社会と情報」の6つの領域とそれぞれの領域の具体的な内容を知ること。 各内容について，その指導法と指導上の留意点を理解すること。 学習指導案を作成し，それに基づいて学習指導をすることができるようになること。 校内における情報科教員の役割を知り，コンピュータ教室を運営するための知識を習得すること。
キーワード	高等学校，情報，学習指導，学習指導案コンピュータ，インターネット，マルチメディア，ネチゲ

	ット, セキュリティ, 情報モラル
成績評価 (合格基準60)	レポート・発表 (50%) と最終評価試験 (50%) により成績を評価し, 総計で60%以上を合格とする。
関連科目	引き続き「情報科教育法」を受講することが望ましい。
教科書	最新社会と情報 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407202274 : 高等学校 学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655
参考書	授業中に資料を配付 Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽に E X C E L でできる V B A プログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	kusano's Page ホームページの問合せフォームより連絡可能 URL http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
注意・備考	少なくとも文書作成ソフト (Word), 表計算ソフト (Excel), プレゼンテーションソフト (Power Point), インターネット閲覧ソフト (Internet Explorer) については基本的な操作ができること。これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 課題については, 次時の授業において正答例などとともに解説する。
試験実施	実施する

科目名	生徒・進路指導論【火2金2】（FC01G220）
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	石田正人＊（いしだまさと＊）
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生徒指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や生徒指導に関する資料を基に、生徒指導の目標について解説する。
2回	生徒の実態や生徒指導の実情に基づいて、生徒指導の課題や指導の在り方などについて解説する。
3回	生徒指導の実践上の形態について説明するとともに、それらの形態のメリット・デメリットについて考察する。
4回	「いじめ」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、グループ討論を通して、各自の考えを深める。
5回	「不登校」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、グループ討論を通して、各自の考えを深める。
6回	生徒理解の意義やその側面について解説するとともに、観察法や面接法などの各種生徒理解の方法を説明する。
7回	人間関係を促進させる基本的態度について解説するとともに、人間関係づくりの観点からとらえた「個を生かす生徒指導」について、事例を挙げながら説明する。
8回	特別活動における「望ましい集団活動」を取り上げ、その条件について考察するとともに、生徒指導の目標達成との関連について解説する。
9回	教育法令に基づいて、生徒の懲戒と体罰について説明するとともに、懲戒と体罰の捉え方について考察する。
10回	進路指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や進路指導に関する資料を基に、進路指導の目標や課題について解説する。
11回	進路指導の内容と機能について説明するとともに、中・高等学校における具体的な指導との関連について考察する。
12回	進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連について、具体的な指導事例を挙げながら解説する。
13回	KJ法を用いて進路指導のポイントを整理し、「大学生から高校生へのアドバイス」をテーマとした資料を作成する。
14回	前時で作成した資料に基づいて各自の考えを整理し、グループ又は全体で発表・協議し、各自の考えを更に深める。
15回	授業のまとめとして、各教科・特別活動・総合的な学習の時間・道徳における生徒指導及び進路指導の意義について説明するとともに、これからの生徒指導やキャリア教育について考察する。
16回	1回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】生徒指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】中・高等学校における生徒指導上の課題（生徒がどのような問題を抱えているか、どのようなことに悩んでいるかなど）を考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導の課題の内容と、それぞれの指導場面について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】本時で取り上げた生徒指導の課題の中から一つを取り上げ、その解決策を考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導の実践上の形態を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】「いじめ」についての各自の考えを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】「いじめ」の定義や対応のポイントを説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】「不登校」についての各自の考えを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】「不登校」の分類や対応のポイントを説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】自己紹介用資料（授業で配付）を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒理解の意義と方法を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】他者（友人、家族など）との人間関係をよくするために、各自が日頃から心掛けているこ

	とを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】人間関係を促進させる基本的態度について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】集団での活動（グループ実習，サークル活動，学生自治会・委員会活動など）をスムーズに行うために，各自が心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】望ましい集団活動の条件を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】図書館やインターネットにより，学校教育法（第11条），学校教育法施行規則（第26条）を検索し，読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】懲戒の種類や体罰の捉え方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】中・高等学校で受けてきた進路指導（各自が進路指導と考えるもので構わない）を，できるだけ多く挙げておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】前時の内容に基づいて，中・高等学校で各自が受けてきた進路指導を捉え直し，より詳しく整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の内容と機能及びその具体例を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】中・高等学校の学習指導要領における総合的な学習の時間と特別活動の目標を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】進路選択・決定に関する次の点について，各自の考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 高校生のとき，進路を選択・決定する上で大切にしたこと， 進路選択・決定の上での課題や反省点， 大学（岡山理科大学）を志望した理由， その他（上記以外で高校生に伝えたいことなど） 【復習】KJ法で整理したポイントを，より具体化して整理しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】前時のKJ法で整理したポイントを，より具体化して整理し，その結果を各自3分間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】グループ又は全体での協議結果に基づいて，各自の考えを更に深めておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】図書館やインターネット（文部科学省のホームページ等）により，「キャリア教育」について調べ，その概要を把握しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導及び進路指導に関して，各自の指導観を論じることができるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	少子化や核家族化の進展，家庭や地域社会の教育力の低下などと相まって，子どもたちの実態については，豊かな人間性や社会性の不足，自立の遅れ，自己肯定観の不足，進路についての自覚の不足など，多くの課題が指摘されている。そのため，生徒指導や進路指導も新たな取組が求められているのが現状である。本授業科目は，こうした現状を踏まえながら，中学校・高等学校の生徒指導や進路指導の具体的な課題を明確化し，その対応方策の在り方について考察することをねらいとする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D-1にもっとも強く関与）
達成目標	中・高等学校の生徒指導・進路指導の理念や目的について理解する。 生徒指導上の課題について理解を深めるとともに，「いじめ」「不登校」の対応のポイントを理解する。 生徒理解，人間関係づくり，集団づくりに関する基本的な知識や考え方を身に付ける。 進路指導上の課題及び進路指導の内容・機能について理解する。 生徒指導・進路指導についての教育観・指導観を身に付ける。
キーワード	生徒指導，進路指導，生徒理解，人間関係づくり，自己実現，キャリア
成績評価（合格基準60%）	提出課題40%，最終評価試験60%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	特別活動の理論と方法
教科書	使用しない。
参考書	適宜，資料を配付する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 試験形態は筆記試験（持ち込み不可）とする。
試験実施	実施する

科目名	道徳教育の理論と方法【火2金2】(FC01G310)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子* (いちばよしこ*)
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の教材についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の教材について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科のねらいについてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道德の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育と、その要となる道德科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 3にもっとも強く関与）
達成目標	【道德の理論】道德とは何かを説明できる。道德教育の歴史や現代社会における課題（いじめ、情報モラル等）を理解している。子どもの心の成長と道德性の発達について理解している。学習指導要領に示された道德科の目標や内容、道德教育について理解している。 【道德の指導法】授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道德科の学習指導案を作成することができる。模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
キーワード	特別の教科 道德。道德科の目標。道德科の内容。道德教育と道德科。道德性。
成績評価（合格基準60	レポート、学習指導案等の課題提出（40％）、グループ学習での発表、意欲、態度（10％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道德編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
参考書	・「心のノート」 / 文部科学省 ・「私たちの道德 中学校」 / 文部科学省
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	・課題については、次時の授業で発表や討論を通して深化させる。 ・第 8 回に実施する中間試験は、第 9 回の授業で正答例を示し、解説する。 ・グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施などのアクティブ・ラーニングを採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	理科教育法 【火2金2】 (FC01G320)
英文科目名	Teaching Method of Science III
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教材研究や授業設計のポイント, 板書計画の作成方法などについて解説する。 (全教員)
2回	「エネルギー」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
3回	「粒子」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
4回	「生命」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
5回	「地球」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
6回	授業の導入部における工夫のポイントなどについて解説する。 (全教員)
7回	「エネルギー」に関する単元の第1時の模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
8回	「粒子」に関する単元の第1時の模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
9回	「生命」に関する単元の第1時の模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
10回	「地球」に関する単元の第1時の模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
11回	各自が作成した本時案(エネルギー)に基づいた模擬授業について, 自己評価・相互評価を通して, 授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
12回	各自が作成した本時案(粒子)に基づいた模擬授業について, 自己評価・相互評価を通して, 授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
13回	各自が作成した本時案(生命)に基づいた模擬授業について, 自己評価・相互評価を通して, 授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
14回	各自が作成した本時案(地球)に基づいた模擬授業について, 自己評価・相互評価を通して, 授業づくりのポイントを考察する。

	(全教員)
15回	模擬授業全体を振り返り、授業づくりのポイントを考察する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】教材研究や授業設計のポイント、板書計画の作成方法を確認しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】提示された「エネルギー」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】提示された「粒子」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】提示された「生命」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】提示された「地球」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】理科教育法 における学習指導案作成に関する授業内容を再確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入部における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】提示された「エネルギー」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】提示された「粒子」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】提示された「生命」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】提示された「地球」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】各自で選択した単元(エネルギー)の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】各自で選択した単元(粒子)の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】各自で選択した単元(生命)の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】各自で選択した単元(地球)の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】授業全般を通して明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間120分)。

	【復習】授業全般を通して明らかになった授業実践のポイントを再度整理しておくこと（標準学習時間60分）。
講義目的	中・高等学校の理科教員として必要とされる知識や技能を習得するとともに，その知識や技能を授業づくりに活用することを通して，実践的な指導力の基礎・基本を身に付ける。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 2にもっとも強く関与）
達成目標	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に関する自然の事物・現象についての理解を深める。 教材研究や授業づくりのポイントなどについての考えを深める。 本時案や板書計画の作成，模擬授業を通して，授業を実践する力の基礎を身に付ける。
キーワード	理科教育，教材研究，指導方法，授業実践
成績評価（合格基準60	提出課題70%，模擬授業30%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法，理科教育法，理科教育法
教科書	中学校学習指導要領解説理科編 / 文部科学省 / 大日本図書 / 978-4-477019796：中学校学習指導要領解説理科編 / 文部科学省 / 学校図書 / 9784762506130
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	理科教育法・理科教育法を履修した後に受講することが望ましい。 課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては，内容を確認した後に返却する。 模擬授業などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。
試験実施	実施しない

科目名	教育学原論【火3金3】(FC01H110)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的、指導方針・計画について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史的変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る(クリーク、デュルケム、パウルゼンなど)。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る(ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど)。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る(デューイ、シュプランガーなど)。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間60分)
2回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
3回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
4回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
5回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
6回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
7回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
8回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
9回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教

	育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
10回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
11回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
12回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
13回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
14回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
15回	到達目標を再確認し、教育実践に自らかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。（標準学習時間120分）
16回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間80分）

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育（生涯学習に関するものを含む。）の理念並びに教育に関する歴史及び思想を（受講者が）修得することを目的とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1に最も強く関与）
達成目標	- 人間にとってなぜ教育が必要であることを説明することができる。 - 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる。 - 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる。 - 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる。 - 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がりについて説明することができる。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
成績評価（合格基準60	平素の学習の取り組み（課題の作成と提出）（60～40%）、最終評価試験の評定点（40～60%）を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は受講者の学習状況により調整する。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者にのみ認める。
関連科目	- 基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 - 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが（教育学部を除く）、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 - 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 - 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9
参考書	授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	B2号館3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	- 履修できる学部・学科をよく確かめること。 - 取得をめざす資格（と関連職務）の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。 - 平素から新聞に目を通するとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。 - 指導計画は受講状況により変更することがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 - 連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 - 授業で課された提出物はすべて点検し、必要に応じて添削する。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
試験実施	実施する

科目名	情報科教育法 【火3金3】 (FC01H210)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy I
担当教員名	草野泰秀 * (くさのやすひで*)
対象学年	2 年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	応用数学科,基礎理学科,電気電子システム学科,情報工学科,情報科学科,社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	実習用パソコン及びネットワークの利用方法と利用上の注意点について解説する。学習管理システムへのログインとパソコンによる出席登録,課題提出方法を説明する。パソコンの基本操作ができることの確認で簡単な表計算の小テストを実施する。情報教育の概要,学習指導要領について説明する。
2 回	表計算の小テストの正答例の解説をし,高等学校学習指導要領情報編を解説し,情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について解説する。
3 回	「情報」の科目がどのような理念により設置されたか学生に発表してもらう。高等学校学習指導要領解説情報編の普通教科情報「社会と情報」,「情報の科学」,「情報A」の目標と内容について解説する。
4 回	「高等学校学習指導要領解説情報編(文部科学省)」の普通教科情報「社会と情報」,「情報の科学」の科目は,改定前の科目「情報A」,「情報B」,「情報C」をどのように受け継いでいるか学生に発表してもらう。「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」の指導と指導上の留意点について解説する。
5 回	「情報科の影」についての事例と対策について学生に発表してもらう。「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点について解説する。
6 回	個人情報流出する事例と対策について,学生に発表してもらう。「情報とメディア」のCM分析を解説し,具体的に岡山理科大学のCMの作成について解説する。
7 回	作成した岡山理科大学のCMを学生に発表してもらい,学生に良い点や改善点について討論し,よりよいCMに改良してもらう。「情報機器とデジタル表現」の数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換について解説する。
8 回	課題プリントの進数計算演習問題の正答例を解説する。「表現と伝達」の表計算ソフトの利用について演習問題をとおして解説する。
9 回	プリントの演習問題の正答例の解説をする。「表現と伝達」の章の「Webページの利用」について,具体的に岡山理科大学のWebページ作成をとおして解説する。
10 回	作成した岡山理科大学CMのWebページを学生に発表してもらい,学生に良い点や改善点について討論し,よりよいWebページに改良してもらう。「社会と情報」の学習指導案の様式,年間指導計画,観点別評価について解説する。
11 回	作成した学習指導案に基づいて,代表学生に模擬授業をしてもらう。その授業について,学生に良い点,改善点について意見を言ってもらい。その後,その授業について指導講評をする。「表現と伝達」の章,第2節「表計算ソフトの利用」の指導と指導上の留意点について解説する。
12 回	第11回のEXCELの演習問題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律の指導と指導上の留意点について解説する。
13 回	第12回の課題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティの指導と指導上の留意点について解説する。
14 回	第13回の課題の正答例を解説する。プリントの「情報の科学」の章,プログラムの活用の例題等について解説する。
15 回	第14回の課題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラムが作成できることの必要性を解説し,難易度が高いプログラムを解説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	第1回に実施した小テストについては,第2回の授業で正答例などとともに解説する。【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正しておくこと(標準学習時間60分)。
2 回	【予習】パソコン(Windows)の基本操作ができるとともに,パソコンで文書作成や表計算,ホームページの閲覧ができるなど,パソコンの基本的な利用ができるようになっておくこと。学習指導要領情報編を読み,整理しておくこと。また,「情報」の科目がどのような理念により設置されたか次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について理解しておくこと(標準学習時間60分)。

3 回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」を読み，整理しておくこと。（標準学習時間120分）。 【復習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」の目標を理解し，暗唱しておくこと。また，改定後の「社会と情報」，「情報の科学」の科目は，改定前の科目「情報A」，「情報B」，「情報C」をどのように受け継いでいるか次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
4 回	【予習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」を読み，整理しておくこと。また，「情報科の影」についての事例と対策が，次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分） 【復習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
5 回	【予習】「個人情報とその保護」を読み整理しておくこと。また，個人情報が流出する事例と対策が，次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分） 【復習】「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点を理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】「情報とメディア」のCM分析を読み整理して，岡山理科大学のWordによるCM作成の原案を考え，CMに入れる写真を撮影して準備しておくこと。また，作成したCMを次時の授業で発表できる準備をしておくこと。（標準学習時間120分） 【復習】「情報とメディア」のCM分析を理解し，岡山理科大学のCMを完成させておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第2章の第1節，第2節を読んで，内容を理解しておくこと。教科書に載っている数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換ができるようにしておくこと。課題プリントの進数計算演習問題もしておくこと。これは，第8回の授業で，正答例などとともに解説する。（標準学習時間120分） 【復習】数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換を理解し，表計算の演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】「表現と伝達」の表計算ソフトの利用の内容を読んで，理解しておくこと。また，プリントの演習問題もしておくこと。第9回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間120分） 【復習】プリントの演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】「表現と伝達」の章の「Webページの利用」を読んで，内容を理解しておくこと。教科書に載っているWeb制作の流れを理解して，岡山理科大学のCMのWeb作成の構想を考え，写真を準備しておくこと（標準学習時間120分） 【復習】岡山理科大学のCMのWeb作成を完成させておくこと。第10回の授業で作成した岡山理科大学のCMのWebページが発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】プリントの指導案の様式，社会と情報の指導案例，年間指導計画を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分） 【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い，どのように進めていけばよいか，どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案を作成しておくこと。学習指導案に基づいて，模擬授業ができるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第3章の第2節「表計算ソフトの利用」を読んで，内容を理解しておくこと。プリントのEXCELの練習問題をしておくこと（標準学習時間60分） 【復習】プリントのEXCELの演習問題をしておくこと。第12回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分） 【復習】プリントの演習問題をしておくこと。この問題は第13回の授業で，正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティを読み，整理しておくこと（標準学習時間120分） 【復習】プリントの章末問題をしておくこと。この問題は第14回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】プリントの「情報の科学」の章，プログラムの活用を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分） 【復習】プログラムの演習問題をしておくこと。この問題は第15回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】難易度が高いプログラムの演習問題を考えること（標準学習時間120分） 【復習】難易度が高いプログラムの演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回の内容をよく理解し整理復習しておくこと。（標準学習時間320分）。

講義目的	高等学校の普通教科「情報」の目標と内容及びその指導法と指導上の留意点を理解させ，指導技術の習得を図って，情報科教員免許を取得できるようにする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与）
達成目標	情報教育と普通教科「情報」の目標，及び「情報」の各科目の特徴を理解すること。 実践的な文書処理，表計算処理，Webページ作成等コンピュータを活用した学習指導ができるようになること。 普通教科「社会と情報」の6つの領域とそれぞれの領域の具体的な内容を知ること。 各内容について，その指導法と指導上の留意点を理解すること。 学習指導案を作成し，それに基づいて学習指導をすることができるようになること。 校内における情報科教員の役割を知り，コンピュータ教室を運営するための知識を習得すること。
キーワード	高等学校，情報，学習指導，学習指導案コンピュータ，インターネット，マルチメディア，ネチゲ

	ット、セキュリティ、情報モラル
成績評価（合格基準60	レポート・発表（50％）と最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	引き続き「情報科教育法」を受講することが望ましい。
教科書	最新社会と情報／岡本敏雄 監修 山極 隆／実教出版／9784407202274：高等学校 学習指導要領解説情報編／文部科学省／開隆堂出版／9784304041655
参考書	授業中に資料を配付 Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説／草野 泰秀／Amazon.com／9781523781942 だれにでも手軽にE X C E LでできるV B Aプログラミング／草野 泰秀／Amazon Services International Inc (Kindleストア)／9781494958350
連絡先	kusano's Pageホームページの問合せフォームより連絡可能 URL http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
注意・備考	少なくとも文書作成ソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（Power Point）、インターネット閲覧ソフト（Internet Explorer）については基本的な操作ができること。これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 課題については、次時の授業において正答例などとともに解説する。
試験実施	実施する

科目名	教育の方法と技術【火3金3】（FC01H220）
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	藤本義博（ふじもとよしひろ）
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業ガイダンス（教育の方法及び技術の目標）。 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第1章、第2章を、「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）のポイント」等の関係資料と関係付けながら読み解く。
2回	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第3章、第4章、第5章を、関係資料と関係付けながら読み解く。
3回	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第6章、第7章、第8章、第9章を、関係資料と関係付けながら読み解く。
4回	教科書 第1章「教育方法」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第4節 新しい学力観
5回	教科書 第3章（第2節、第3節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用
6回	教科書 第4章（第1節、第2節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書
7回	教科書 第4章（第3節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第3節 教科指導の展開
8回	平成10年以降に始まった教育の情報化施策について、関係資料と関係付けながら読み解く。
9回	「教育の情報化に関する手引き」を、関係資料と関係付けながら読み解く。
10回	教科書 第2編「情報機器および教材の活用」第1章「高度情報通信社会と情報教育」について、関係資料と関係付けながら読み解く。
11回	教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等を活用した指導法の長所と短所を比較しながら読み解く。
12回	第2章「パソコン活用による学校教育の改善」について解説する。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン 第4節 パソコン活用のモラルと著作権
13回	第3章「パソコン活用と教材開発」第3節プレゼンテーションの手法を読み解く。 第14回、第15回の実習および発表に向けた班分けを行う。
14回	教科書をもとに班毎に題材（教材）を1つ選び、1単位時間の授業の導入場面を想定したプレゼンテーション（模擬授業）を作成する。
15回	1単位時間の授業の導入部分を想定して作成したプレゼンテーション（模擬授業）を班毎に行い、相互評価するとともに作成したプレゼンテーションの検討・改善する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付した（中教審第197号）を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】授業で配付した（中教審第197号）の第3章、第4章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポ

	イント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容がどのように反映されているかをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
3回	【予習】授業で配付した（中教審第197号）の第6章、第7章、第8章、第9章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第3回の講義で扱った内容がどのように反映されているかをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
4回	【予習】テキスト第1章を熟読すること（標準学習時間60分）。 【復習】現行学習指導要領が目指した、新しい学力観についてレポートしておくこと（標準学習時間61分）。
5回	【予習】第3章（第2節、第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】主な学習指導の形態やその長所と短所についてレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
6回	【予習】教科書第4章（第1節、第2節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】望ましい授業とは何か。教科書と補助教材の位置づけについてレポートしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】教科書第4章（第3節）を熟読しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】授業で配付された数学科、理科の学習指導案を熟読し、授業での教師の発話と板書計画のレポートを作成すること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】インターネットで、教育の情報化にはどのようなものがあったか調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育の情報化施策に多額な予算が投じられたにもかかわらず、教育の情報化が進まなかった理由についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）をインターネットや図書で検索し、第2章～第7章までのポイントをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】講義を受け、予習でまとめた内容の加筆修正を行うこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】第2編第1章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】我が国の従来の指導方法とICTを積極的に教育に活用している国の教員の意識の違いをレポートしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等の長所と短所をレポートしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】講義を受け、予習で作成しておいたレポートを加筆修正しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】第2章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】ネット上の著作物を活用するときの根拠を、学習場面で活用する場合とそれ以外で活用する場合を比較しながらまとめること（標準学習時間120分）。
13回	【予習】第3章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】効果的なプレゼンテーションについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】班毎に配付されたiPad（Keynote）を使うことができるようにしておくこと（標準学習時間180分）。 【復習】自分たちが考えた教材での効果的なプレゼンテーションづくりを行うこと（標準学習時間180分）。
15回	【予習】班毎にプレゼンテーションを作成し発表の準備を行うこと（標準学習時間180分）。 【復習】講義での発表をもとにプレゼンテーションを検討・改善して完成版を提出する（標準学習時間60分）。

講義目的	本授業は、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法（具体的には、主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方、授業を構成する基礎的な要件、学習評価等）について、問題を見いだして理解するために、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）とテキスト「教職必修 教育の方法と技術」を、関連資料と関係付けながら読み解く。 また、教育の目的に適した教師の発話・板書などの基礎的な指導技術を理解して身に付けるために、テキストで理論を習得すると共に、授業映像を視聴しながら具体的に把握する。 さらに、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けるために、「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）を、関連資料と関係付けながら読み解くとともに、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の教育方法を体験しながら、タブレット型端末等の情報機器やデジタルコンテンツ等の教材を活用した効果的な授業を設計する。 （教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針C-5にもっとも強く関与）
達成目標	○これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法について、例をあげて説明できる。 ○教育の目的に適した教師の発話・板書などの基礎的な指導技術について、具体的に説明できる。

	○情報機器を活用した効果的な授業の事例を説明できる。 ○情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けている。 ○児童生徒が主体的・対話的で深い学びが実現できるための教材研究に意欲的に取り組もうとする。
キーワード	資質・能力の育成，教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用，教育評価、教育の情報化
成績評価（合格基準60	授業後レポート（30％）、教材づくりに対する評価（自己評価＋他者評価）（30％）、教材と発表（40％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	各教科の教育法
教科書	○教職必修 教育の方法と技術 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407303445
参考書	○「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号） ○「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」 ○「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）のポイント」 ○「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」 ○「中学校学習指導要領解説 総則編」 ○「中学校学習指導要領解説 数学編」 ○「中学校学習指導要領解説 理科編」 ○「eラーニングからブレンディッドラーニングへ」（共立出版）
連絡先	7号館4階 岡本研究室
注意・備考	提出されたレポートについては，添削した後に返却する。
試験実施	実施しない

科目名	数学教育法 【火4金4】 (FC01I210)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics I
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2 年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	中学校数学科における目標について考察する。
2 回	中学校数学科における「数と式」領域の教授・学習について考察する。
3 回	中学校数学科における「図形」領域の教授・学習について考察する。
4 回	中学校数学科における「関数」領域の教授・学習について考察する。
5 回	中学校数学科における「データの活用」領域の教授・学習について考察する。
6 回	高等学校数学科における目標について考察する。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の教授・学習について考察する。
8 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の教授・学習について考察する。
9 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の教授・学習について考察する。
10 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の教授・学習について考察する。
11 回	高等学校数学科における「確率・統計」に関わる領域の教授・学習について考察する。
12 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的活動について考察する。
13 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的モデリングについて考察する。
14 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的リテラシーについて考察する。
15 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における評価について考察する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	中学校数学科の目標について考えておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
2 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
3 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
4 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
5 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
6 回	高等学校数学科の目標について考えておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
7 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
8 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
9 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
10 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
11 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
12 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
13 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
14 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
15 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。

講義目的	中学校・高等学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、中学校数学科ならびに高等学校数学科の目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための様々な今日的な理論と方法を把握して、数学教師としての資質を高める。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	中学校数学科ならびに高等学校数学科について目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための理論と方法を習得する。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, 目標, 教授・学習, 数学的活動, 数学的モデリング, 数学的リテラシー, 評価
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験 (70%), 授業中の課題 (30%) により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法 , 数学教育法 , 数学教育法
教科書	中学校学習指導要領解説 数学編 (現行カリキュラム) / 文部科学省 / 教育出版: 中学校学習指導要領解説 数学編 (新カリキュラム) / 文部科学省 / 日本文教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編 / 文部科学省

参考書	新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編 / ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際 < 中学校・高等学校（必修） > / 聖文新社：高等学校 数学教育の展開 / 聖文新社
連絡先	福田研究室 A 2 号館 8 階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・準備学習については講義計画に示しているが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施する

科目名	教職論【月2水2】（FC02B110）
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思＊（おだみつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えや意欲化を図る。（オリエンテーションを含む。）
2回	学校史を知り「学校教育の意義」について考える。
3回	「教職の意義」「教員の使命と役割」について考える。
4回	「教員の身分と服務義務」について理解する。
5回	「教員の身分保障」について理解する。
6回	職務について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを知る。
7回	理想の教師像を求め，「教員に必要な資質や能力」について考える。
8回	「学校が存在と学校教育の必要性」について考える。
9回	教育計画（教育課程の編成等）について知る。
10回	～教師とは～ 教師として備えたい力について考える。
11回	「生徒指導のねらい」と「指導の基本」について理解する。
12回	「いじめ問題の理解と対応」について考える。
13回	「特別支援教育の意義」について理解する。
14回	「学校の危機管理」について考える。
15回	学年経営・学級経営とは何か，また学年経営案・学級経営案の必要性について知る。先生の1年，先生の1日を知る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，現在の学校教育の課題や問題点についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
2回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたか」「教職の魅力とは」「教師の生きがいとは」について考え，ワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。「私のめざす教師像」「やる気のあふれる教師とは」についてノートにまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】「教職とはどのような職業か」また，「教員が責任をもって果たすべき役割」とは何かをワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教職に対するあなたの使命は何か」「使命達成のために取り組むべきことは何か」をワークシートにまとめること。（標準学習時間120分）。
4回	【予習】憲法や学校教育法などから，教員の身分について，地方公務員法第30条～38条から服務規程について調べ発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】日本国憲法や教育基本法より服務義務について整理しワークシートにまとめること（標準学習時間60分）。
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項，29条第1項を読み，内容を発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。 【復習】教員の服務義務や身分保障，処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。（標準学習時間60分）。
6回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】働く社会人として心掛けること，教員として心掛けることについて考えをまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教員に必要な資質と能力」についての考えをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】中学校学習指導要領（平成29年3月）の前文をワークシートに写しておくこと（標準学習時間60分）。

	習時間120分)。 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
9回	【予習】出身中学校の教育活動について発表できるようにまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのかワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
10回	【予習】小・中学校、高等学校の教員との関わりで印象に残っているものについて発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
11回	【予習】「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(速報値)」の1調査の概要(p.1～5)を読んでおくこと。また、児童生徒に身に付けさせたい生活習慣についてワークシートにまとめ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】事例「問題行動の対応」について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
12回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また、いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し、講義に持参すること(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
13回	【予習】特別支援教育に関わる学校種、学級種について調べ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別支援教育に関わる教職員としての資質についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
14回	【予習】学校で起こる事故の種類をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「学校事故を起こさないために大切なこと」は何か、また「学校事故が起こった場合」はどのように対応すればよいかをワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
15回	【予習】中学校生活の時程について思い出しておくこと。また、自身の中で確立した教師像を明確にし、まとめておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】最終評価試験を前に、15回の講義内容を振り返りよく整理すること(標準学習時間120分)。

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため、本講義の目的は、教師になろうとする意欲を高めること、教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教師に課せられた使命・役割について理解する。 教師に求められる資質や素養について理解する。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解する。 これらにより自己の教師像を明確にする。
キーワード	「やる気のある教師」
成績評価(合格基準60%)	提出課題(40%)と最終評価試験(60%)で評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動、ロールプレーを適宜取り入れ、考える時間、表現する時間を確保する。
試験実施	実施する

科目名	教育学原論【月2水2】（FC02B120）
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司（さらたたくじ）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的、指導方針・計画について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史的変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る（クリーク、デュルケム、パウルゼンなど）。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る（ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど）。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る（デューイ、シュプランガーなど）。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間60分）
2回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
3回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
4回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
5回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
6回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
7回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
8回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
9回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）

10回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
11回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
12回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
13回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
14回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
15回	到達目標を再確認し、教育実践に自らかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。（標準学習時間120分）
16回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間80分）

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育（生涯学習に関するものを含む。）の理念並びに教育に関する歴史及び思想を（受講者が）修得することを目的とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1に最も強く関与）
達成目標	- 人間にとってなぜ教育が必要であるかを説明することができる。 - 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる。 - 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる。 - 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる。 - 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がかりについて説明することができる。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
成績評価（合格基準60	平素の学習の取り組み（課題の作成と提出）（60～40%）、最終評価試験の評定点（40～60%）を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は受講者の学習状況により調整する。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者にのみ認める。
関連科目	- 基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 - 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが（教育学部を除く）、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 - 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 - 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9
参考書	授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	B2号館3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	- 履修できる学部・学科をよく確かめること。 - 取得をめざす資格（と関連職務）の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。 - 平素から新聞に目を通するとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。 - 指導計画は受講状況により変更することがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 - 連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 - 授業で課された提出物はすべて点検し、必要に応じて添削する。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
試験実施	実施する

科目名	数学教育法 【月2水2】 (FC02B210)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics I
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	中学校数学科における目標について考察する。
2 回	中学校数学科における「数と式」領域の教授・学習について考察する。
3 回	中学校数学科における「図形」領域の教授・学習について考察する。
4 回	中学校数学科における「関数」領域の教授・学習について考察する。
5 回	中学校数学科における「データの活用」領域の教授・学習について考察する。
6 回	高等学校数学科における目標について考察する。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の教授・学習について考察する。
8 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の教授・学習について考察する。
9 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の教授・学習について考察する。
10 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の教授・学習について考察する。
11 回	高等学校数学科における「確率・統計」に関わる領域の教授・学習について考察する。
12 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的活動について考察する。
13 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的モデリングについて考察する。
14 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における数学的リテラシーについて考察する。
15 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における評価について考察する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	中学校数学科の目標について考えておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
2 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
3 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
4 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
5 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
6 回	高等学校数学科の目標について考えておくこと (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
7 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
8 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
9 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
10 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
11 回	教科書の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
12 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
13 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
14 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
15 回	配付資料の該当箇所を読み、課題をもって授業に臨むこと (標準学習時間180分)。

講義目的	中学校・高等学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、中学校数学科ならびに高等学校数学科の目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための様々な今日的な理論と方法を把握して、数学教師としての資質を高める。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	中学校数学科ならびに高等学校数学科について目標、内容、方法について理解するとともに、数学科授業を構成するための理論と方法を習得する。
キーワード	中学校数学科, 高等学校数学科, 目標, 教授・学習, 数学的活動, 数学的モデリング, 数学的リテラシー, 評価
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験 (70%), 授業中の課題 (30%) により評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法 , 数学教育法 , 数学教育法
教科書	中学校学習指導要領解説 数学編 (現行カリキュラム) / 文部科学省 / 教育出版: 中学校学習指導要領解説 数学編 (新カリキュラム) / 文部科学省 / 日本文教出版: 高等学校学習指導要領解説 数学編 / 文部科学省

参考書	新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編 / ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際 < 中学校・高等学校（必修） > / 聖文新社：高等学校 数学教育の展開 / 聖文新社
連絡先	福田研究室 A 2 号館 8 階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・準備学習については講義計画に示しているが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施する

科目名	理科教育法 【月2水2】 (FC02B310)
英文科目名	Teaching Method of Science III
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教材研究や授業設計のポイント, 板書計画の作成方法などについて解説する。 (全教員)
2回	「エネルギー」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
3回	「粒子」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
4回	「生命」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
5回	「地球」に関する基本用語を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
6回	授業の導入部における工夫のポイントなどについて解説する。 (全教員)
7回	「エネルギー」に関する単元の第1時の模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
8回	「粒子」に関する単元の第1時の模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
9回	「生命」に関する単元の第1時の模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
10回	「地球」に関する単元の第1時の模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
11回	各自が作成した本時案(エネルギー)に基づいた模擬授業について, 自己評価・相互評価を通して, 授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
12回	各自が作成した本時案(粒子)に基づいた模擬授業について, 自己評価・相互評価を通して, 授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
13回	各自が作成した本時案(生命)に基づいた模擬授業について, 自己評価・相互評価を通して, 授業づくりのポイントを考察する。 (全教員)
14回	各自が作成した本時案(地球)に基づいた模擬授業について, 自己評価・相互評価を通して, 授業づくりのポイントを考察する。

	(全教員)
15回	模擬授業全体を振り返り、授業づくりのポイントを考察する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】教材研究や授業設計のポイント、板書計画の作成方法を確認しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】提示された「エネルギー」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】提示された「粒子」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】提示された「生命」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】提示された「地球」に関する基本用語を分かりやすく説明する板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】理科教育法 における学習指導案作成に関する授業内容を再確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入部における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】提示された「エネルギー」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】提示された「粒子」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】提示された「生命」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】提示された「地球」に関する単元の第1時の本時案を、模擬授業を想定して作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】授業の導入における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】各自で選択した単元(エネルギー)の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】各自で選択した単元(粒子)の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】各自で選択した単元(生命)の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】各自で選択した単元(地球)の第1時の本時案及び板書計画を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】模擬授業で明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】授業全般を通して明らかになった授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間120分)。

	【復習】授業全般を通して明らかになった授業実践のポイントを再度整理しておくこと（標準学習時間60分）。
講義目的	中・高等学校の理科教員として必要とされる知識や技能を習得するとともに，その知識や技能を授業づくりに活用することを通して，実践的な指導力の基礎・基本を身に付ける。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 2にもっとも強く関与）
達成目標	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に関する自然の事物・現象についての理解を深める。 教材研究や授業づくりのポイントなどについての考えを深める。 本時案や板書計画の作成，模擬授業を通して，授業を実践する力の基礎を身に付ける。
キーワード	理科教育，教材研究，指導方法，授業実践
成績評価（合格基準60	提出課題70%，模擬授業30%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法，理科教育法，理科教育法
教科書	中学校学習指導要領解説理科編 / 文部科学省 / 大日本図書 / 978-4-477019796：中学校学習指導要領解説理科編 / 文部科学省 / 学校図書 / 9784762506130
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	理科教育法・理科教育法を履修した後に受講することが望ましい。 課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては，内容を確認した後に返却する。 模擬授業などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。
試験実施	実施しない

科目名	教職論【月3水3】（FC02C110）
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思＊（おだみつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えや意欲化を図る。（オリエンテーションを含む。）
2回	学校史を知り「学校教育の意義」について考える。
3回	「教職の意義」「教員の使命と役割」について考える。
4回	「教員の身分と服務義務」について理解する。
5回	「教員の身分保障」について理解する。
6回	職務について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを知る。
7回	理想の教師像を求め，「教員に必要な資質や能力」について考える。
8回	「学校が存在と学校教育の必要性」について考える。
9回	教育計画（教育課程の編成等）について知る。
10回	～教師とは～ 教師として備えたい力について考える。
11回	「生徒指導のねらい」と「指導の基本」について理解する。
12回	「いじめ問題の理解と対応」について考える。
13回	「特別支援教育の意義」について理解する。
14回	「学校の危機管理」について考える。
15回	学年経営・学級経営とは何か，また学年経営案・学級経営案の必要性について知る。先生の1年，先生の1日を知る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，現在の学校教育の課題や問題点についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
2回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたか」「教職の魅力とは」「教師の生きがいとは」について考え，ワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。「私のめざす教師像」「やる気のあふれる教師とは」についてノートにまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】「教職とはどのような職業か」また，「教員が責任をもって果たすべき役割」とは何かをワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教職に対するあなたの使命は何か」「使命達成のために取り組むべきことは何か」をワークシートにまとめること。（標準学習時間120分）。
4回	【予習】憲法や学校教育法などから，教員の身分について，地方公務員法第30条～38条から服務規程について調べ発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】日本国憲法や教育基本法より服務義務について整理しワークシートにまとめること（標準学習時間60分）。
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項，29条第1項を読み，内容を発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。 【復習】教員の服務義務や身分保障，処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。（標準学習時間60分）。
6回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】働く社会人として心掛けること，教員として心掛けることについて考えをまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教員に必要な資質と能力」についての考えをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】中学校学習指導要領（平成29年3月）の前文をワークシートに写しておくこと（標準学習時間60分）。

	習時間120分)。 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
9 回	【予習】出身中学校の教育活動について発表できるようにまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのかワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
10 回	【予習】小・中学校、高等学校の教員との関わりで印象に残っているものについて発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
11 回	【予習】「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(速報値)」の1調査の概要(p.1～5)を読んでおくこと。また、児童生徒に身に付けさせたい生活習慣についてワークシートにまとめ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】事例「問題行動の対応」について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
12 回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また、いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し、講義に持参すること(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
13 回	【予習】特別支援教育に関わる学校種、学級種について調べ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別支援教育に関わる教職員としての資質についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
14 回	【予習】学校で起こる事故の種類をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「学校事故を起こさないために大切なこと」は何か、また「学校事故が起こった場合」はどのように対応すればよいかをワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
15 回	【予習】中学校生活の時程について思い出しておくこと。また、自身の中で確立した教師像を明確にし、まとめておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】最終評価試験を前に、15回の講義内容を振り返りよく整理すること(標準学習時間120分)。

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため、本講義の目的は、教師になろうとする意欲を高めること、教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教師に課せられた使命・役割について理解する。 教師に求められる資質や素養について理解する。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解する。 これらにより自己の教師像を明確にする。
キーワード	「やる気のある教師」
成績評価(合格基準60%)	提出課題(40%)と最終評価試験(60%)で評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動、ロールプレーを適宜取り入れ、考える時間、表現する時間を確保する。
試験実施	実施する

科目名	教育学原論【月3水3】（FC02C120）
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司（さらたたくじ）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的、指導方針・計画について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史的変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る（クリーク、デュルケム、パウルゼンなど）。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る（ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど）。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る（デューイ、シュプランガーなど）。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間60分）
2回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
3回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
4回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
5回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
6回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
7回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
8回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
9回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教

	育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
10回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
11回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
12回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
13回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
14回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
15回	到達目標を再確認し、教育実践に自らかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。（標準学習時間120分）
16回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間80分）

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育（生涯学習に関するものを含む。）の理念並びに教育に関する歴史及び思想を（受講者が）修得することを目的とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1に最も強く関与）
達成目標	- 人間にとってなぜ教育が必要であることを説明することができる。 - 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる。 - 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる。 - 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる。 - 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がりについて説明することができる。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
成績評価（合格基準60	平素の学習の取り組み（課題の作成と提出）（60～40%）、最終評価試験の評定点（40～60%）を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は受講者の学習状況により調整する。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者にのみ認める。
関連科目	- 基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 - 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが（教育学部を除く）、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 - 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 - 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9
参考書	授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	B2号館3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	- 履修できる学部・学科をよく確かめること。 - 取得をめざす資格（と関連職務）の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。 - 平素から新聞に目を通するとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。 - 指導計画は受講状況により変更することがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 - 連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 - 授業で課された提出物はすべて点検し、必要に応じて添削する。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
試験実施	実施する

科目名	教育の方法と技術【月3水3】（FC02C210）
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	津田秀哲＊（つだひでのり＊）
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業ガイダンス。幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）の第1章を解説する。
2回	第1回資料をもとに、第3章、第5章を解説する。
3回	教科書 第1章「教育方法」について解説する。 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第3節 新しい学力観
4回	教科書 第3章（第2節、第3節）について解説する。 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用
5回	教科書 第4章（第1節、第2節）について解説する。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書
6回	教科書 第4章（第3節）について解説する。 第3節 教科指導の展開
7回	PISA2015の結果、TIMSS2015の結果資料をもとに説明し、世界で通用する学力とは何か考える。
8回	平成10年以降に始まった教育の情報化施策について解説する。
9回	「教育の情報化に関する手引き」を解説し、どのような場面での活用が期待されているか解説する。
10回	教科書 第2編「情報機器および教材の活用」第1章「高度情報通信社会と情報教育」について解説する。
11回	従来から教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、急速に導入され始めたタブレットをはじめとした情報機器や教材を活用した指導法の長所と短所を比較しながら解説をする。
12回	第2章「パソコン活用による学校教育の改善」について解説する。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン 第4節 パソコン活用のモラルと著作権
13回	第3章「パソコン活用と教材開発」第3節プレゼンテーションの手法を解説する。 第14回、第15回の実習および発表に向けた班分けを行う。
14回	与えられたテーマを生徒に分かりやすく説明するためのプレゼンテーションを作成する。
15回	作成したプレゼンテーションを班毎で発表し互いに評価する。発表後、出された意見を参考に、プレゼンテーションを再構築する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付・説明する（中教審第197号）を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】上記資料の第3章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容をどのように反映しようとしているかまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】テキスト第1章を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】現行学習指導要領が目指した、新しい学力観についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】第3章（第2節、第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】主な学習指導の形態やその長所と短所についてまとめること（標準学習時間120分）。
5回	【予習】教科書第4章（第1節、第2節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。

	【復習】望ましい授業とは何か。教科書と補助教材の位置づけについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】教科書第4章（第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】授業で配付された数学科の年間指導計画、学習指導案をよく読み、授業のイメージづくりし、自分なりの板書イメージを作成すること（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】インターネットによりTIMSS2015の結果、PISA2015の結果を考察し、子供たちに求められる力とは何か考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】自分がイメージする学力の定義と国際的な学力の定義を比較し、自分の考えをまとめること（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】インターネットで、教育の情報化にはどのようなものがあったか調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育の情報化施策に多額な予算が投じられたにもかかわらず、教育の情報化が進まなかった理由についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）をインターネットや図書で検索し、第2章～第7章までのポイントをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】講義を受け、予習でまとめた内容の加筆修正を行うこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】第2編第1章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】我が国の従来の指導方法とICTを積極的に教育に活用している国の教員の意識の違いをまとめておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】従来の学習形態と、タブレット端末を活用した場合、パソコンを活用した場合の長所と短所を考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】講義を受け、3者の長所と短所を表にまとめること（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】第2章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】ネット上の著作物を活用するときの根拠を、学習場面で活用する場合とそれ以外で活用する場合を比較しながらまとめること（標準学習時間120分）。
13 回	【予習】第3章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】効果的なプレゼンテーションについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】生徒の心に訴えかけるプレゼンテーションを作成するためのポイントをまとめておく。（標準学習時間60分）。 【復習】自分たちが考えた教材での効果的なプレゼンテーションづくりを行うこと（標準学習時間180分）。
15 回	【予習】班毎でプレゼンテーションを作成し発表の準備を行うこと（標準学習時間180分）。 【復習】講義での発表をもとにプレゼンテーションを改善・完成し提出すること（標準学習時間60分）。

講義目的	本授業では、理論と実践の両面からアプローチすることにより、実践的指導力の基礎を培うことを目的としている。従来から教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、急速に導入され始めたタブレットをはじめとした情報機器や教材を活用した指導法の在り方について解説をする。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、小集団毎でタブレット端末を使った教材づくり、効果的なプレゼンテーションづくり、発表を通して実践的指導力を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針C-5にもっとも強く関与）
達成目標	メディアには光と影などで表現されるプラスとマイナスの両面を持っている。教育実践の中で、従来の教科書やノート、黒板を用いた授業に加え情報機器やデジタル教材を用いることの意義を理解し、児童生徒一人一人が主体的に学習に参加できる教材研究に意欲的に取り組もうとすることが出来る。
キーワード	指導方法、情報機器活用、教育の情報化
成績評価（合格基準60）	授業後レポート（30%）、教材づくりに対する評価（自己評価＋他者評価）（30%）、教材と発表（40%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	各教科の教育法
教科書	教職必修 教育の方法と技術 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407303445
参考書	適宜指示する。
連絡先	A2号館8階 津田
注意・備考	提出されたレポートについては、添削した後に返却する。
試験実施	実施しない

科目名	数学教育法 【月3水3】 (FC02C310)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics III
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	3 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを実施する。
2 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における内容確認と教授単元についての整理をする。
3 回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業とその検討をする。
4 回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業とその検討をする。
5 回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業とその検討をする。
6 回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業とその検討をする。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
8 回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
9 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
10 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
11 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
12 回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
13 回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
14 回	高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
15 回	授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、小学校から高等学校までの系統性について課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
3 回	教授単元を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
4 回	教授単元を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
5 回	教授単元を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
6 回	教授単元を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
7 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
8 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
9 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
10 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
11 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
12 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
13 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
14 回	教授単元を観点として、高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
15 回	教授単元について復習してくること (標準学習時間180分)。

講義目的	教授単元を観点にしながら「数学教育法」で学んだ理論を実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。
------	--

	(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 2にもっとも強く関与)
達成目標	教授単元を観点にしながら数学科授業を構成するとともに、「数学教育法」で学んだ理論を実践することを通して、実践的スキルを習得する。
キーワード	中学校数学科，高等学校数学科，教授単元，模擬授業
成績評価（合格基準60	レポート（60%），授業中の課題（40%）により評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法，数学教育法，数学教育法
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編（現行カリキュラム）／文部科学省／教育出版：中学校学習指導要領解説 数学編（新カリキュラム）／文部科学省／日本文教出版：高等学校学習指導要領解説 数学編／文部科学省新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編／ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際＜中学校・高等学校（必修）＞／聖文新社：高等学校 数学教育の展開／聖文新社
連絡先	福田研究室 A 2 号館 8 階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・「数学教育法」を修得していることが望ましい。レポート作成は準備学習と講義内で行うが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動，模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施しない

科目名	教育心理学【月4水4】（FC02D110）
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	中島弘徳（なかじまひろのり）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の概要について説明する。
2回	教育心理学の教育における位置づけと歴史について説明する。
3回	学習の過程（1）：外界からの情報を取り入れるまでの過程について説明する。
4回	学習の過程（2）S-R連合理論について説明する。
5回	学習の過程（3）認知学習について説明する。
6回	動機・情緒・フラストレーションについて説明する。
7回	記憶のメカニズムと特徴について説明する。
8回	忘却のメカニズムについて説明する。
9回	心身の発達（1）発達の規定要因について説明する。
10回	心身の発達（2）発達の原理について説明する。
11回	発達段階について説明する。
12回	発達課題について説明する。
13回	発達がい概念や基礎について説明する。
14回	発達障がいのある生徒の援助について説明する。
15回	教育評価と学校におけるルールについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】学校教育の目的について、教育基本法、学校教育法を読んで考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学校教育の目的について復習すること（標準学習時間120分）。
2回	【予習】教育心理学の位置付けについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育心理学の位置付けについて復習すること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】感覚・知覚・認知について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】感覚・知覚・認知について復習すること（標準学習時間120分）。
4回	【予習】S-R連合理論について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】S-R連合理論について復習すること（標準学習時間120分）。
5回	【予習】認知学習について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習の理論や特徴について復習すること（標準学習時間120分）。
6回	【予習】動機・情緒・フラストレーションについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習の動機付けについて復習すること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】記憶について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】記憶の理論と勉強の仕方について復習すること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】忘却のメカニズムについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】忘却のメカニズムについて復習すること（標準学習時間120分）。
9回	【予習】発達の規定要因について予習すること（標準学習時間60分）。 【復習】発達の規定要因について復習すること（標準学習時間120分）。
10回	【予習】発達の原理について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】発達の原理について復習すること（標準学習時間120分）。
11回	【予習】発達段階について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】発達段階について復習すること（標準学習時間120分）。
12回	【予習】発達課題について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育における発達課題を整理しておくこと（標準学習時間120分）。
13回	【予習】発達障がいについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】発達障がいの種類や特徴について復習すること（標準学習時間120分）。
14回	【予習】発達障がいの困難感について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】発達障がいがある生徒の支援について復習すること（標準学習時間120分）。
15回	【予習】教育評価について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育評価と学校におけるルールについて復習すること（標準学習時間120分）。

16回	【予習】1回から15回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	本講義では、教育心理学の主な柱である、学習、発達、適応、評価のうち、学習と学習に関連する理論、発達障がいを含めた発達の諸特徴、そして、教育評価の理論を理解しながら、教育を効果的に行うための知識を習得することを目的とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-2にもっとも強く関与）
達成目標	学習や発達（発達障がいを含む）とはどのような概念かが理解できるようになる。 教育活動の効果的実践のための知識が理解できるようになる。 教育評価のやり方について理解ができるようになる。
キーワード	学習、発達、教育、評価、心理学
成績評価（合格基準60	講義後の小テスト（40％）、最終評価試験（60％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教育相談の理論と方法
教科書	現代教育の理論と実践／曾我 雅比呂・皿田 琢司（編著）／大学教育出版／
参考書	必要に応じて講義の場で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。講義後の小テストは、次の回に解説する。
試験実施	実施する

科目名	教育課程論【月4水4】（FC02D120）
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至＊（こばやしたつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、講義の概要、目的、授業計画及び教育課程の概念について説明する。
2回	科学的な見方・考え方や問題解決する力を育成する教育課程を編成するための基本について説明する。
3回	法令としての学習指導要領とそれに関わる諸法規について説明する。
4回	戦後日本の教育課程の変遷、特に現代化運動の時代の教育課程について説明する。
5回	新学習指導要領改訂の時代的背景と育成を目指す資質・能力について教育改革の国際的な動向を踏まえて説明する。その後、新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
6回	新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
7回	中学校教育の基本と教育課程の役割について説明する。
8回	汎用的な問題解決の力を育成する教育課程編成の理論について説明する。
9回	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指す教育課程の編成と学習評価について説明する。
10回	「教育課程の実施と学習評価」について説明する。
11回	「道徳」の位置付けと意義、その指導について説明する。
12回	中学校の各教科内容の系統性を踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について説明する。
13回	学校経営目標とカリキュラム・マネジメントの実践について説明する。
14回	文部科学省が実施する教育課程の評価の目的と方法について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	『中学校学習指導要領解説編』の11～12頁「教育課程の意義」を読み、いずれかの教科を1つ取り上げて自分自身が中学生だった頃の学習指導要領の理念及び教科内容と学び方について800字程度でまとめておくこと（標準学習時間180分）。
2回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の3～14頁（第1章）及び15～25頁（第2章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
3回	『中学校学習指導要領解説編』の13～16頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
4回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の137～149頁（第12章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
5回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の150～162頁（第13章）及び中学校学習指導要領解説編の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6回	『中学校学習指導要領解説編』の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
7回	『中学校学習指導要領解説編』の17～40頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
8回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の163～176頁（第14章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9回	『中学校学習指導要領解説編』の47～72頁「教育課程の編成」及び中学校学習指導要領解説編の76～91頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10回	『中学校学習指導要領解説編』の76～91頁「教育課程の実施と学習評価」頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
11回	『中学校学習指導要領解説編』の128～144頁「道徳教育推進上の配慮事項」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
12回	資質・能力の育成の観点から、教科書をどのように活用して主体的・対話的で深い学びを実現するのかについてレポートを作成しておくこと（標準学習時間180分）。
13回	第12回授業で配付する資料を読み、カリキュラム・マネジメントの捉え方をまとめておくこと（標準学習時間180分）。

1 4 回	文部科学省HPで平成27年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を解いておくこと（標準学習時間180分）。
1 5 回	これまでの授業ノートを読み返しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 1にもっとも強く関与）
達成目標	1．教育課程の概念を理解する。 2．法令としての学習指導要領の意義と目的を理解する。 3．戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 4．新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解する。 5．新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び（カリキュラム・マネジメント）を実現する授業を構想するための理論を理解する。 6．「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解する。 7．教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解する。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
成績評価（合格基準60	最終評価試験による評価（60点），ならびにレポートによる評価（40点）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教育の方法と技術
教科書	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』 大学教育出版：『探究する資質・能力を育む理科教育』
参考書	『教育方法学』／佐藤 学／岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』／田中耕治等編／有斐閣アルマ
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題（準備学習で示す）については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	理科教育法 【月4水4】 (FC02D210)
英文科目名	Teaching Method of Science I
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	理科を学ぶことの意義や有用性について考察し, 理科教育の目的についての考え方を解説する。 (ガイダンスを含む。) (全教員)
2回	国際的な学力調査や全国学力・学習状況調査, 教育課程実施状況調査などの結果を踏まえ, 理科教育の現状と課題及び学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を解説する。 (藤本 義博)
3回	学習指導要領における理科の目標の趣旨や解釈について解説するとともに, 各分野・各科目の内容を概説する。 (藤本 義博)
4回	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」について解説するとともに, それらに基づいて, 小・中・高等学校を通じた理科の学習内容の系統性について解説する。 (藤本 義博)
5回	「エネルギー」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「粒子」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「生命」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	「地球」に関する学習内容を解説するとともに, その教材例を紹介する。 (藤本 義博)
9回	第1回～第8回の授業内容の振り返りを行う。 (藤本 義博)
10回	探究的な学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
11回	日常生活や社会との関連を重視した学習の進め方について解説する。 (岡本 弥彦)
12回	観察・実験や野外観察における事故防止, 薬品類の管理方法などについて解説する。 (岡本 弥彦)
13回	理科の目標と評価の観点との関係や, 観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (岡本 弥彦)
14回	学習指導案作成の意義や, 学習指導案の様式, 内容, 作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
15回	理科教育の課題を踏まえながら, これからの理科教育の方向性について解説するとともに, それを実現するための指導事例を紹介する。 (岡本 弥彦)

16回	最終評価試験を実施する。 (全教員)
-----	-----------------------

回数	準備学習
1回	【復習】「理科をなぜ学ばなければならないのか」についての自分なりの考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編のp.1-6, 高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.1-6を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導要領における「理科の改善の基本方針」を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領における教科(理科)の目標(学習指導要領解説理科編のp.16-17), 高等学校学習指導要領における理科の目標(学習指導要領解説理科編理数編のp.12)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】中学校・高等学校の理科の目標が暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8-11を読み, 理科の内容構成の概要を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】4つの科学概念の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「エネルギー」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.8)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「粒子」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.9)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「生命」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.10)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「地球」に関して, 小・中・高等学校の学習内容の系統性(高等学校学習指導要領解説理科編理数編のp.11)を確認しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する学習内容の特徴を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】第1回～第8回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について, 対応できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】知識伝達型の授業と探究型の授業の相違点について考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】探究的な学習の進め方を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】理科の学習と日常生活や社会との間には, どのような関連があるかを考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】理科と日常生活や社会との関連について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】観察・実験や野外観察において起こりやすい事故を, できるだけ多く考えておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】事故防止や薬品類の管理方法などを説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中・高等学校の理科の目標を確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習評価の観点や方法について説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】分かりやすい授業の条件を考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学習指導案の作成方法を理解しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】本授業全体を振り返り, 理科教育の課題を再確認しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理科教育に関して, 各自の指導観を述べるできるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	理科教育の現状と課題や, 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容などを理解し, 中・高等学校の理科教員として必要な基礎的, 基本的な知識や技能を習得するとともに, その知識
------	--

	や技能を理科の学習指導に活用できる能力の基礎を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	理科教育の現状と課題について理解を深め、各自の指導観を明確にする。 中・高等学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解する。 理科の効果的な教材、観察・実験の指導方法、理科と実生活・実社会との関連性などについて、事例に基づきながら理解する。
キーワード	理科教育，学習指導要領，理科の目標，指導観
成績評価（合格基準60	提出課題40%，最終評価試験60%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法，理科教育法，理科教育法
教科書	中学校学習指導要領解説理科編／文部科学省／大日本図書／9784477019796：高等学校学習指導要領解説理科編理数編／文部科学省／実教出版／9784407319262：中学校学習指導要領解説理科編／文部科学省／学校図書／9784762506130
参考書	「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては，内容を確認した後に返却する。 小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	教職論【月5水5】（FC02E110）
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	小田満思＊（おだみつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 5時限 / 水曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	自身の教職履修の動機を基に，教職履修に向けての心構えや意欲化を図る。（オリエンテーションを含む。）
2回	学校史を知り「学校教育の意義」について考える。
3回	「教職の意義」「教員の使命と役割」について考える。
4回	「教員の身分と服務義務」について理解する。
5回	「教員の身分保障」について理解する。
6回	職務について知り，一人ひとりの教員が職務を果たすことで学校を支えていることを知る。
7回	理想の教師像を求め，「教員に必要な資質や能力」について考える。
8回	「学校が存在と学校教育の必要性」について考える。
9回	教育計画（教育課程の編成等）について知る。
10回	～教師とは～ 教師として備えたい力について考える。
11回	「生徒指導のねらい」と「指導の基本」について理解する。
12回	「いじめ問題の理解と対応」について考える。
13回	「特別支援教育の意義」について理解する。
14回	「学校の危機管理」について考える。
15回	学年経営・学級経営とは何か，また学年経営案・学級経営案の必要性について知る。先生の1年，先生の1日を知る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し，学習の過程を把握しておくこと。また，現在の学校教育の課題や問題点についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教職科目の履修動機についてワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
2回	【予習】「自身が出会った先生はどのような教員だったか」「出身中学校はどのような力をあなたにつけてくれたか」「教職の魅力とは」「教師の生きがいとは」について考え，ワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】校種別の教育の目的をワークシートにまとめること。「私のめざす教師像」「やる気のあふれる教師とは」についてノートにまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】「教職とはどのような職業か」また，「教員が責任をもって果たすべき役割」とは何かをワークシートにまとめ発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教職に対するあなたの使命は何か」「使命達成のために取り組むべきことは何か」をワークシートにまとめること。（標準学習時間120分）。
4回	【予習】憲法や学校教育法などから，教員の身分について，地方公務員法第30条～38条から服務規程について調べ発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】日本国憲法や教育基本法より服務義務について整理しワークシートにまとめること（標準学習時間60分）。
5回	【予習】地方公務員法第28条第1項，29条第1項を読み，内容を発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。 【復習】教員の服務義務や身分保障，処分についてどのような感想をもったかワークシートにまとめること。（標準学習時間60分）。
6回	【予習】小・中学校内の教職員の職種や職名についてまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教員の職務を尽くすには何が大切なのかをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】働く社会人として心掛けること，教員として心掛けることについて考えをまとめ，発表できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「教員に必要な資質と能力」についての考えをワークシートにまとめること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】中学校学習指導要領（平成29年3月）の前文をワークシートに写しておくこと（標準学習時間60分）。

	習時間120分)。 【復習】自身の出身中学校と地域との関わりについてワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
9 回	【予習】出身中学校の教育活動について発表できるようにまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのかワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
10 回	【予習】小・中学校、高等学校の教員との関わりで印象に残っているものについて発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自身のめざす教師像についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
11 回	【予習】「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(速報値)」の1調査の概要(p.1～5)を読んでおくこと。また、児童生徒に身に付けさせたい生活習慣についてワークシートにまとめ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】事例「問題行動の対応」について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
12 回	【予習】いじめの定義について調べておくこと。また、いじめについて報道されたもの(新聞記事など)をいくつか整理し、講義に持参すること(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の対応(事例)について担任の立場で考え、ワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。
13 回	【予習】特別支援教育に関わる学校種、学級種について調べ、発表できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別支援教育に関わる教職員としての資質についてワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
14 回	【予習】学校で起こる事故の種類をまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】「学校事故を起こさないために大切なこと」は何か、また「学校事故が起こった場合」はどのように対応すればよいかをワークシートにまとめること(標準学習時間120分)。
15 回	【予習】中学校生活の時程について思い出しておくこと。また、自身の中で確立した教師像を明確にし、まとめておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】最終評価試験を前に、15回の講義内容を振り返りよく整理すること(標準学習時間120分)。

講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのため、本講義の目的は、教師になろうとする意欲を高めること、教師を志す適性を判断し進路選択に役立てることである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与)
達成目標	教職の意義や教師に課せられた使命・役割について理解する。 教師に求められる資質や素養について理解する。 教員の職務内容や今日的教育課題を理解する。 これらにより自己の教師像を明確にする。
キーワード	「やる気のある教師」
成績評価(合格基準60%)	提出課題(40%)と最終評価試験(60%)で評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動、ロールプレーを適宜取り入れ、考える時間、表現する時間を確保する。
試験実施	実施する

科目名	教育課程論【月5水5】（FC02E120）
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至＊（こばやしたつし＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 5時限 / 水曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、講義の概要、目的、授業計画及び教育課程の概念について説明する。
2回	科学的な見方・考え方や問題解決する力を育成する教育課程を編成するための基本について説明する。
3回	法令としての学習指導要領とそれに関わる諸法規について説明する。
4回	戦後日本の教育課程の変遷、特に現代化運動の時代の教育課程について説明する。
5回	新学習指導要領改訂の時代的背景と育成を目指す資質・能力について教育改革の国際的な動向を踏まえて説明する。その後、新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
6回	新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
7回	中学校教育の基本と教育課程の役割について説明する。
8回	汎用的な問題解決の力を育成する教育課程編成の理論について説明する。
9回	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指す教育課程の編成と学習評価について説明する。
10回	「教育課程の実施と学習評価」について説明する。
11回	「道徳」の位置付けと意義、その指導について説明する。
12回	中学校の各教科内容の系統性を踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について説明する。
13回	学校経営目標とカリキュラム・マネジメントの実際について説明する。
14回	文部科学省が実施する教育課程の評価の目的と方法について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	『中学校学習指導要領解説編』の11～12頁「教育課程の意義」を読み、いずれかの教科を1つ取り上げて自分自身が中学生だった頃の学習指導要領の理念及び教科内容と学び方について800字程度でまとめておくこと（標準学習時間180分）。
2回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の3～14頁（第1章）及び15～25頁（第2章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
3回	『中学校学習指導要領解説編』の13～16頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
4回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の137～149頁（第12章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
5回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の150～162頁（第13章）及び中学校学習指導要領解説編の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6回	『中学校学習指導要領解説編』の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
7回	『中学校学習指導要領解説編』の17～40頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
8回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の163～176頁（第14章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9回	『中学校学習指導要領解説編』の47～72頁「教育課程の編成」及び中学校学習指導要領解説編の76～91頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10回	『中学校学習指導要領解説編』の76～91頁「教育課程の実施と学習評価」頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
11回	『中学校学習指導要領解説編』の128～144頁「道徳教育推進上の配慮事項」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
12回	資質・能力の育成の観点から、教科書をどのように活用して主体的・対話的で深い学びを実現するのかについてレポートを作成しておくこと（標準学習時間180分）。
13回	第12回授業で配付する資料を読み、カリキュラム・マネジメントの捉え方をまとめておくこと（標準学習時間180分）。

1 4 回	文部科学省HPで平成27年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を解いておくこと（標準学習時間180分）。
1 5 回	これまでの授業ノートを読み返しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 1にもっとも強く関与）
達成目標	1．教育課程の概念を理解する。 2．法令としての学習指導要領の意義と目的を理解する。 3．戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 4．新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解する。 5．新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び（カリキュラム・マネジメント）を実現する授業を構想するための理論を理解する。 6．「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解する。 7．教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解する。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
成績評価（合格基準60	最終評価試験による評価（60点），ならびにレポートによる評価（40点）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教育の方法と技術
教科書	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』 大学教育出版：『探究する資質・能力を育む理科教育』
参考書	『教育方法学』／佐藤 学／岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』／田中耕治等編／有斐閣アルマ
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題（準備学習で示す）については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	道徳教育の理論と方法【火1金1】(FC02F310)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子* (いちばよしこ*)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 1時限 / 金曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の教材についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の教材について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科のねらいについてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道德の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育と、その要となる道德科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 3にもっとも強く関与）
達成目標	【道德の理論】道德とは何かを説明できる。道德教育の歴史や現代社会における課題（いじめ、情報モラル等）を理解している。子どもの心の成長と道德性の発達について理解している。学習指導要領に示された道德科の目標や内容、道德教育について理解している。 【道德の指導法】授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道德科の学習指導案を作成することができる。模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
キーワード	特別の教科 道德。道德科の目標。道德科の内容。道德教育と道德科。道德性。
成績評価（合格基準60	レポート、学習指導案等の課題提出（40％）、グループ学習での発表、意欲、態度（10％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道德編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
参考書	・「心のノート」 / 文部科学省 ・「私たちの道德 中学校」 / 文部科学省
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	・課題については、次時の授業で発表や討論を通して深化させる。 ・第 8 回に実施する中間試験は、第 9 回の授業で正答例を示し、解説する。 ・グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施などのアクティブ・ラーニングを採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	情報科教育法 【火2金2】 (FC02G210)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy I
担当教員名	草野泰秀 * (くさのやすひで*)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	応用数学科,基礎理学科,電気電子システム学科,情報工学科,情報科学科,社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	実習用パソコン及びネットワークの利用方法と利用上の注意点について解説する。学習管理システムへのログインとパソコンによる出席登録,課題提出方法を説明する。パソコンの基本操作ができることの確認で簡単な表計算の小テストを実施する。情報教育の概要,学習指導要領について説明する。
2 回	表計算の小テストの正答例の解説をし,高等学校学習指導要領情報編を解説し,情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について解説する。
3 回	「情報」の科目がどのような理念により設置されたか学生に発表してもらう。高等学校学習指導要領解説情報編の普通教科情報「社会と情報」,「情報の科学」,「情報A」の目標と内容について解説する。
4 回	「高等学校学習指導要領解説情報編(文部科学省)」の普通教科情報「社会と情報」,「情報の科学」の科目は,改定前の科目「情報A」,「情報B」,「情報C」をどのように受け継いでいるか学生に発表してもらう。「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」の指導と指導上の留意点について解説する。
5 回	「情報科の影」についての事例と対策について学生に発表してもらう。「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点について解説する。
6 回	個人情報流出する事例と対策について,学生に発表してもらう。「情報とメディア」のCM分析を解説し,具体的に岡山理科大学のCMの作成について解説する。
7 回	作成した岡山理科大学のCMを学生に発表してもらい,学生に良い点や改善点について討論し,よりよいCMに改良してもらう。「情報機器とデジタル表現」の数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換について解説する。
8 回	課題プリントの進数計算演習問題の正答例を解説する。「表現と伝達」の表計算ソフトの利用について演習問題をとおして解説する。
9 回	プリントの演習問題の正答例の解説をする。「表現と伝達」の章の「Webページの利用」について,具体的に岡山理科大学のWebページ作成をとおして解説する。
10 回	作成した岡山理科大学CMのWebページを学生に発表してもらい,学生に良い点や改善点について討論し,よりよいWebページに改良してもらう。「社会と情報」の学習指導案の様式,年間指導計画,観点別評価について解説する。
11 回	作成した学習指導案に基づいて,代表学生に模擬授業をしてもらう。その授業について,学生に良い点,改善点について意見を言ってもらい。その後,その授業について指導講評をする。「表現と伝達」の章,第2節「表計算ソフトの利用」の指導と指導上の留意点について解説する。
12 回	第11回のEXCELの演習問題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律の指導と指導上の留意点について解説する。
13 回	第12回の課題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティの指導と指導上の留意点について解説する。
14 回	第13回の課題の正答例を解説する。プリントの「情報の科学」の章,プログラムの活用の例題等について解説する。
15 回	第14回の課題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラムが作成できることの必要性を解説し,難易度が高いプログラムを解説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	第1回に実施した小テストについては,第2回の授業で正答例などとともに解説する。【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正しておくこと(標準学習時間60分)。
2 回	【予習】パソコン(Windows)の基本操作ができるとともに,パソコンで文書作成や表計算,ホームページの閲覧ができるなど,パソコンの基本的な利用ができるようになっておくこと。学習指導要領情報編を読み,整理しておくこと。また,「情報」の科目がどのような理念により設置されたか次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について理解しておくこと(標準学習時間60分)。

3 回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」を読み，整理しておくこと。（標準学習時間120分）。 【復習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」の目標を理解し，暗唱しておくこと。また，改定後の「社会と情報」，「情報の科学」の科目は，改定前の科目「情報A」，「情報B」，「情報C」をどのように受け継いでいるか次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
4 回	【予習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」を読み，整理しておくこと。また，「情報科の影」についての事例と対策が，次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
5 回	【予習】「個人情報とその保護」を読み整理しておくこと。また，個人情報が流出する事例と対策が，次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点を理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】「情報とメディア」のCM分析を読み整理して，岡山理科大学のWordによるCM作成の原案を考え，CMに入れる写真を撮影して準備しておくこと。また，作成したCMを次時の授業で発表できる準備をしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「情報とメディア」のCM分析を理解し，岡山理科大学のCMを完成させておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第2章の第1節，第2節を読んで，内容を理解しておくこと。教科書に載っている数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換ができるようにしておくこと。課題プリントの進数計算演習問題もしておくこと。これは，第8回の授業で，正答例などとともに解説する。（標準学習時間120分）【復習】数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換を理解し，表計算の演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】「表現と伝達」の表計算ソフトの利用の内容を読んで，理解しておくこと。また，プリントの演習問題もしておくこと。第9回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間120分）【復習】プリントの演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】「表現と伝達」の章の「Webページの利用」を読んで，内容を理解しておくこと。教科書に載っているWeb制作の流れを理解して，岡山理科大学のCMのWeb作成の構想を考え，写真を準備しておくこと（標準学習時間120分）【復習】岡山理科大学のCMのWeb作成を完成させておくこと。第10回の授業で作成した岡山理科大学のCMのWebページが発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】プリントの指導案の様式，社会と情報の指導案例，年間指導計画を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い，どのように進めていけばよいか，どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案を作成しておくこと。学習指導案に基づいて，模擬授業ができるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第3章の第2節「表計算ソフトの利用」を読んで，内容を理解しておくこと。プリントのEXCELの練習問題をしておくこと（標準学習時間60分）【復習】プリントのEXCELの演習問題をしておくこと。第12回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プリントの演習問題をしておくこと。この問題は第13回の授業で，正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティを読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プリントの章末問題をしておくこと。この問題は第14回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】プリントの「情報の科学」の章，プログラムの活用を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プログラムの演習問題をしておくこと。この問題は第15回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】難易度が高いプログラムの演習問題を考えること（標準学習時間120分）【復習】難易度が高いプログラムの演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回の内容をよく理解し整理復習しておくこと。（標準学習時間320分）。

講義目的	高等学校の普通教科「情報」の目標と内容及びその指導法と指導上の留意点を理解させ，指導技術の習得を図って，情報科教員免許を取得できるようにする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与）
達成目標	情報教育と普通教科「情報」の目標，及び「情報」の各科目の特徴を理解すること。 実践的な文書処理，表計算処理，Webページ作成等コンピュータを活用した学習指導ができるようになること。 普通教科「社会と情報」の6つの領域とそれぞれの領域の具体的な内容を知ること。 各内容について，その指導法と指導上の留意点を理解すること。 学習指導案を作成し，それに基づいて学習指導をすることができるようになること。 校内における情報科教員の役割を知り，コンピュータ教室を運営するための知識を習得すること。
キーワード	高等学校，情報，学習指導，学習指導案コンピュータ，インターネット，マルチメディア，ネチゲ

	ット, セキュリティ, 情報モラル
成績評価 (合格基準60)	レポート・発表 (50%) と最終評価試験 (50%) により成績を評価し, 総計で60%以上を合格とする。
関連科目	引き続き「情報科教育法」を受講することが望ましい。
教科書	最新社会と情報 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407202274 : 高等学校 学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655
参考書	授業中に資料を配付 Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽に E X C E L でできる V B A プログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	kusano's Page ホームページの問合せフォームより連絡可能 URL http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
注意・備考	少なくとも文書作成ソフト (Word), 表計算ソフト (Excel), プレゼンテーションソフト (Power Point), インターネット閲覧ソフト (Internet Explorer) については基本的な操作ができること。これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 課題については, 次時の授業において正答例などとともに解説する。
試験実施	実施する

科目名	生徒・進路指導論【火2金2】（FC02G220）
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	石田正人＊（いしだまさと＊）
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生徒指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や生徒指導に関する資料を基に、生徒指導の目標について解説する。
2回	生徒の実態や生徒指導の実情に基づいて、生徒指導の課題や指導の在り方などについて解説する。
3回	生徒指導の実践上の形態について説明するとともに、それらの形態のメリット・デメリットについて考察する。
4回	「いじめ」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、グループ討論を通して、各自の考えを深める。
5回	「不登校」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、グループ討論を通して、各自の考えを深める。
6回	生徒理解の意義やその側面について解説するとともに、観察法や面接法などの各種生徒理解の方法を説明する。
7回	人間関係を促進させる基本的態度について解説するとともに、人間関係づくりの観点からとらえた「個を生かす生徒指導」について、事例を挙げながら説明する。
8回	特別活動における「望ましい集団活動」を取り上げ、その条件について考察するとともに、生徒指導の目標達成との関連について解説する。
9回	教育法令に基づいて、生徒の懲戒と体罰について説明するとともに、懲戒と体罰の捉え方について考察する。
10回	進路指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や進路指導に関する資料を基に、進路指導の目標や課題について解説する。
11回	進路指導の内容と機能について説明するとともに、中・高等学校における具体的な指導との関連について考察する。
12回	進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連について、具体的な指導事例を挙げながら解説する。
13回	KJ法を用いて進路指導のポイントを整理し、「大学生から高校生へのアドバイス」をテーマとした資料を作成する。
14回	前時で作成した資料に基づいて各自の考えを整理し、グループ又は全体で発表・協議し、各自の考えを更に深める。
15回	授業のまとめとして、各教科・特別活動・総合的な学習の時間・道徳における生徒指導及び進路指導の意義について説明するとともに、これからの生徒指導やキャリア教育について考察する。
16回	1回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】生徒指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】中・高等学校における生徒指導上の課題（生徒がどのような問題を抱えているか、どのようなことに悩んでいるかなど）を考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導の課題の内容と、それぞれの指導場面について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】本時で取り上げた生徒指導の課題の中から一つを取り上げ、その解決策を考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導の実践上の形態を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】「いじめ」についての各自の考えを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】「いじめ」の定義や対応のポイントを説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】「不登校」についての各自の考えを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】「不登校」の分類や対応のポイントを説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】自己紹介用資料（授業で配付）を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒理解の意義と方法を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】他者（友人、家族など）との人間関係をよくするために、各自が日頃から心掛けているこ

	とを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】人間関係を促進させる基本的態度について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】集団での活動（グループ実習，サークル活動，学生自治会・委員会活動など）をスムーズに行うために，各自が心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】望ましい集団活動の条件を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】図書館やインターネットにより，学校教育法（第11条），学校教育法施行規則（第26条）を検索し，読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】懲戒の種類や体罰の捉え方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】中・高等学校で受けてきた進路指導（各自が進路指導と考えるもので構わない）を，できるだけ多く挙げておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】前時の内容に基づいて，中・高等学校で各自が受けてきた進路指導を捉え直し，より詳しく整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の内容と機能及びその具体例を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】中・高等学校の学習指導要領における総合的な学習の時間と特別活動の目標を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】進路選択・決定に関する次の点について，各自の考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 高校生のとき，進路を選択・決定する上で大切にしたこと， 進路選択・決定の上での課題や反省点， 大学（岡山理科大学）を志望した理由， その他（上記以外で高校生に伝えたいことなど） 【復習】KJ法で整理したポイントを，より具体化して整理しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】前時のKJ法で整理したポイントを，より具体化して整理し，その結果を各自3分間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】グループ又は全体での協議結果に基づいて，各自の考えを更に深めておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】図書館やインターネット（文部科学省のホームページ等）により，「キャリア教育」について調べ，その概要を把握しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導及び進路指導に関して，各自の指導観を論じることができるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	少子化や核家族化の進展，家庭や地域社会の教育力の低下などと相まって，子どもたちの実態については，豊かな人間性や社会性の不足，自立の遅れ，自己肯定観の不足，進路についての自覚の不足など，多くの課題が指摘されている。そのため，生徒指導や進路指導も新たな取組が求められているのが現状である。本授業科目は，こうした現状を踏まえながら，中学校・高等学校の生徒指導や進路指導の具体的な課題を明確化し，その対応方策の在り方について考察することをねらいとする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D-1にもっとも強く関与）
達成目標	中・高等学校の生徒指導・進路指導の理念や目的について理解する。 生徒指導上の課題について理解を深めるとともに，「いじめ」「不登校」の対応のポイントを理解する。 生徒理解，人間関係づくり，集団づくりに関する基本的な知識や考え方を身に付ける。 進路指導上の課題及び進路指導の内容・機能について理解する。 生徒指導・進路指導についての教育観・指導観を身に付ける。
キーワード	生徒指導，進路指導，生徒理解，人間関係づくり，自己実現，キャリア
成績評価（合格基準60%）	提出課題40%，最終評価試験60%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	特別活動の理論と方法
教科書	使用しない。
参考書	適宜，資料を配付する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 試験形態は筆記試験（持ち込み不可）とする。
試験実施	実施する

科目名	道徳教育の理論と方法【火2金2】(FC02G310)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子* (いちばよしこ*)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の教材についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の教材について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科のねらいについてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道德の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育と、その要となる道德科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 3にもっとも強く関与）
達成目標	【道德の理論】道德とは何かを説明できる。道德教育の歴史や現代社会における課題（いじめ、情報モラル等）を理解している。子どもの心の成長と道德性の発達について理解している。学習指導要領に示された道德科の目標や内容、道德教育について理解している。 【道德の指導法】授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道德科の学習指導案を作成することができる。模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
キーワード	特別の教科 道德。道德科の目標。道德科の内容。道德教育と道德科。道德性。
成績評価（合格基準60	レポート、学習指導案等の課題提出（40％）、グループ学習での発表、意欲、態度（10％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道德編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
参考書	・「心のノート」 / 文部科学省 ・「私たちの道德 中学校」 / 文部科学省
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	・課題については、次時の授業で発表や討論を通して深化させる。 ・第 8 回に実施する中間試験は、第 9 回の授業で正答例を示し、解説する。 ・グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施などのアクティブ・ラーニングを採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	木材加工(再)【火3金3】(FC02H110)
英文科目名	Wood Working
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	バイオ・応用化学科(～16),機械システム工学科(～16),電気電子システム学科(～16),情報工学科(～16),知能機械工学科(～16),生体医工学科(～16),建築学科(～16),生命医療工学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方と、木材加工教育の歴史と意義を説明する。
2回	木材の種類と構造について解説する。
3回	木材の性質について解説する。
4回	木質材料・緊結材について解説する。
5回	塗装について解説する。
6回	かな、のこぎりの構造と使用法について解説する。
7回	のみ、きり、その他の木工具の構造と使用法について解説する。
8回	木工機械の構造と使用法について解説する。
9回	基本工作法として木取りについて解説する。
10回	基本工作法としてけがきについて解説する。
11回	基本工作法として切断について解説する。
12回	基本工作法としてかな削りについて解説する。
13回	基本工作法として組立てについて解説する。
14回	基本工作法として塗装について解説する。
15回	今までのまとめと評価をする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスに目を通し授業内容、講義目的、達成目標、成績評価等を確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2回	第1回で触れた講義の進め方を再確認し、木材加工教育の歴史と教育課程での意義を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第1章を読み、素材としての木材の知識を整理し課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3回	第2回の木材の種類と構造についての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第2章を読み、素材としての木材の特性を整理し課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4回	第3回の木材の性質についての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第3章を読み、木質材料の特性や緊結材の種類等について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5回	第4回の木質材料・緊結材について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第7章を読み、塗装の目的や塗料の種類等について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
6回	第5回の塗装について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第4章1節・2節を読み、かななどのこぎりに関する知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
7回	第6回のかんななどのこぎりについての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第4章3節～7節を読み、かななどのこぎり以外の基本的な木工具について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
8回	第7回のみ、きり、その他の木工具の課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第5章1節～3節を読み、木工機械の構造と使用法について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。

9 回	第 8 回の木工機械の構造と使用法について整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 1 節を読み、木取りについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 0 回	第 9 回の木取りについて整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 2 節 1 . を読み、けがきについての理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 1 回	第 1 0 回のけがきについて整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 2 節 2 . を読み、切断作業について理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 2 回	第 1 1 回の切断について整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 2 節 3 . を読み、かな削りについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 3 回	第 1 2 回のかな削りについて整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 2 節 6 . を読み、組み立てについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 4 回	第 1 3 回の組み立てについて整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 2 節 1 項を読み、塗装について理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 5 回	第 1 4 回の塗装について整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。今までの講義内容を振り返り、作品評価の観点について自分の考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。
1 6 回	第 1 回～第 1 5 回の内容をよく理解し、整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校学習指導要領における技術・家庭の目標や技術分野の目標を達成するために木材加工に必要な基礎的、基本的な知識・技能を習得するとともに、中学校技術科教員として学習指導に活かせる能力の基礎を身に付ける。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針 H - 1 にもっとも強く関与）
達成目標	（ 1 ）木材の基本的な特性が説明できる。 （ 2 ）木材の加工法および木工具・木工機械の使用法を説明できる。 （ 3 ）木材の基本的な加工ができる。
キーワード	木材、木材の種類、木材の性質、木材の塗装、木材加工、木工具、木工機械
成績評価（合格基準60	提出課題（10%）、作品（30%）、最終評価試験（60%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	木材加工実習、技術科教育法 、技術科教育法 、技術科教育法 、技術科教育法
教科書	技術教育選書 木材の性質と加工 / 井上裕之他著 / 開隆堂 / 9784304020056
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	研究室：工学実習棟 2 階
注意・備考	・ 中学校技術科教員免許状取得のための科目である。 ・ 電子教材を液晶プロジェクターで投影して授業を行う。 ・ 第 2 回・ 3 回・ 6 回・ 7 回の提出課題については、添削した後に返却する。
試験実施	実施する

科目名	情報科教育法 【火3金3】 (FC02H210)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy I
担当教員名	草野泰秀 * (くさのやすひで*)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	応用数学科,基礎理学科,電気電子システム学科,情報工学科,情報科学科,社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	実習用パソコン及びネットワークの利用方法と利用上の注意点について解説する。学習管理システムへのログインとパソコンによる出席登録,課題提出方法を説明する。パソコンの基本操作ができることの確認で簡単な表計算の小テストを実施する。情報教育の概要,学習指導要領について説明する。
2 回	表計算の小テストの正答例の解説をし,高等学校学習指導要領情報編を解説し,情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について解説する。
3 回	「情報」の科目がどのような理念により設置されたか学生に発表してもらう。高等学校学習指導要領解説情報編の普通教科情報「社会と情報」,「情報の科学」,「情報A」の目標と内容について解説する。
4 回	「高等学校学習指導要領解説情報編(文部科学省)」の普通教科情報「社会と情報」,「情報の科学」の科目は,改定前の科目「情報A」,「情報B」,「情報C」をどのように受け継いでいるか学生に発表してもらう。「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」,「情報化の光と影」の指導と指導上の留意点について解説する。
5 回	「情報科の影」についての事例と対策について学生に発表してもらう。「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点について解説する。
6 回	個人情報流出する事例と対策について,学生に発表してもらう。「情報とメディア」のCM分析を解説し,具体的に岡山理科大学のCMの作成について解説する。
7 回	作成した岡山理科大学のCMを学生に発表してもらい,学生に良い点や改善点について討論し,よりよいCMに改良してもらう。「情報機器とデジタル表現」の数値,文字の表現で2進数,10進数,16進数の変換について解説する。
8 回	課題プリントの進数計算演習問題の正答例を解説する。「表現と伝達」の表計算ソフトの利用について演習問題をとおして解説する。
9 回	プリントの演習問題の正答例の解説をする。「表現と伝達」の章の「Webページの利用」について,具体的に岡山理科大学のWebページ作成をとおして解説する。
10 回	作成した岡山理科大学CMのWebページを学生に発表してもらい,学生に良い点や改善点について討論し,よりよいWebページに改良してもらう。「社会と情報」の学習指導案の様式,年間指導計画,観点別評価について解説する。
11 回	作成した学習指導案に基づいて,代表学生に模擬授業をしてもらう。その授業について,学生に良い点,改善点について意見を言ってもらい。その後,その授業について指導講評をする。「表現と伝達」の章,第2節「表計算ソフトの利用」の指導と指導上の留意点について解説する。
12 回	第11回のEXCELの演習問題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律の指導と指導上の留意点について解説する。
13 回	第12回の課題の正答例を解説する。「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティの指導と指導上の留意点について解説する。
14 回	第13回の課題の正答例を解説する。プリントの「情報の科学」の章,プログラムの活用の例題等について解説する。
15 回	第14回の課題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラムが作成できることの必要性を解説し,難易度が高いプログラムを解説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	第1回に実施した小テストについては,第2回の授業で正答例などとともに解説する。【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正しておくこと(標準学習時間60分)。
2 回	【予習】パソコン(Windows)の基本操作ができるとともに,パソコンで文書作成や表計算,ホームページの閲覧ができるなど,パソコンの基本的な利用ができるようになっておくこと。学習指導要領情報編を読み,整理しておくこと。また,「情報」の科目がどのような理念により設置されたか次時の授業で発表できるようにしておくこと。(標準学習時間120分)【復習】情報教育と教科「情報」の関係および普通教科「情報」の科目と専門教科「情報」等の各科目の特徴について理解しておくこと(標準学習時間60分)。

3 回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」を読み，整理しておくこと。（標準学習時間120分）。 【復習】「高等学校学習指導要領解説情報編（文部科学省）」の普通教科情報「社会と情報」，「情報の科学」，「情報A」の目標を理解し，暗唱しておくこと。また，改定後の「社会と情報」，「情報の科学」の科目は，改定前の科目「情報A」，「情報B」，「情報C」をどのように受け継いでいるか次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
4 回	【予習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」を読み，整理しておくこと。また，「情報科の影」についての事例と対策が，次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「情報社会とわたしたち」の章の「情報社会と情報」，「情報化の光と影」について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
5 回	【予習】「個人情報とその保護」を読み整理しておくこと。また，個人情報が流出する事例と対策が，次時の授業で発表できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「個人情報とその保護」の指導と指導上の留意点を理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】「情報とメディア」のCM分析を読み整理して，岡山理科大学のWordによるCM作成の原案を考え，CMに入れる写真を撮影して準備しておくこと。また，作成したCMを次時の授業で発表できる準備をしておくこと。（標準学習時間120分）【復習】「情報とメディア」のCM分析を理解し，岡山理科大学のCMを完成させておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第2章の第1節，第2節を読んで，内容を理解しておくこと。教科書に載っている数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換ができるようにしておくこと。課題プリントの進数計算演習問題もしておくこと。これは，第8回の授業で，正答例などとともに解説する。（標準学習時間120分）【復習】数値，文字の表現で2進数，10進数，16進数の変換を理解し，表計算の演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】「表現と伝達」の表計算ソフトの利用の内容を読んで，理解しておくこと。また，プリントの演習問題もしておくこと。第9回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間120分）【復習】プリントの演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】「表現と伝達」の章の「Webページの利用」を読んで，内容を理解しておくこと。教科書に載っているWeb制作の流れを理解して，岡山理科大学のCMのWeb作成の構想を考え，写真を準備しておくこと（標準学習時間120分）【復習】岡山理科大学のCMのWeb作成を完成させておくこと。第10回の授業で作成した岡山理科大学のCMのWebページが発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】プリントの指導案の様式，社会と情報の指導案例，年間指導計画を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い，どのように進めていけばよいか，どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案を作成しておくこと。学習指導案に基づいて，模擬授業ができるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】教科書「最新社会と情報」の第3章の第2節「表計算ソフトの利用」を読んで，内容を理解しておくこと。プリントのEXCELの練習問題をしておくこと（標準学習時間60分）【復習】プリントのEXCELの演習問題をしておくこと。第12回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】「法規とセキュリティ」の章の1節情報の管理・保護に関する法律を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プリントの演習問題をしておくこと。この問題は第13回の授業で，正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】「法規とセキュリティ」の章2節の情報セキュリティを読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プリントの章末問題をしておくこと。この問題は第14回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】プリントの「情報の科学」の章，プログラムの活用を読み，整理しておくこと（標準学習時間120分）【復習】プログラムの演習問題をしておくこと。この問題は第15回の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】難易度が高いプログラムの演習問題を考えること（標準学習時間120分）【復習】難易度が高いプログラムの演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回の内容をよく理解し整理復習しておくこと。（標準学習時間320分）。

講義目的	高等学校の普通教科「情報」の目標と内容及びその指導法と指導上の留意点を理解させ，指導技術の習得を図って，情報科教員免許を取得できるようにする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与）
達成目標	情報教育と普通教科「情報」の目標，及び「情報」の各科目の特徴を理解すること。 実践的な文書処理，表計算処理，Webページ作成等コンピュータを活用した学習指導ができるようになること。 普通教科「社会と情報」の6つの領域とそれぞれの領域の具体的な内容を知ること。 各内容について，その指導法と指導上の留意点を理解すること。 学習指導案を作成し，それに基づいて学習指導をすることができるようになること。 校内における情報科教員の役割を知り，コンピュータ教室を運営するための知識を習得すること。
キーワード	高等学校，情報，学習指導，学習指導案コンピュータ，インターネット，マルチメディア，ネチゲ

	ット, セキュリティ, 情報モラル
成績評価 (合格基準60)	レポート・発表 (50%) と最終評価試験 (50%) により成績を評価し, 総計で60%以上を合格とする。
関連科目	引き続き「情報科教育法」を受講することが望ましい。
教科書	最新社会と情報 / 岡本敏雄 監修 山極 隆 / 実教出版 / 9784407202274 : 高等学校 学習指導要領解説情報編 / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 9784304041655
参考書	授業中に資料を配付 Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説 / 草野 泰秀 / Amazon.com / 9781523781942 だれにでも手軽に E X C E L でできる V B A プログラミング / 草野 泰秀 / Amazon Services International Inc (Kindleストア) / 9781494958350
連絡先	kusano's Page ホームページの問合せフォームより連絡可能 URL http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
注意・備考	少なくとも文書作成ソフト (Word), 表計算ソフト (Excel), プレゼンテーションソフト (Power Point), インターネット閲覧ソフト (Internet Explorer) については基本的な操作ができること。これらのソフトは基本的な使い方ができるものとして講義・演習を進める。 課題については, 次時の授業において正答例などとともに解説する。
試験実施	実施する

科目名	教育の方法と技術【火3金3】（FC02H220）
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	藤本義博（ふじもとよしひろ）
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業ガイダンス（教育の方法及び技術の目標）。 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第1章、第2章を、「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）のポイント」等の関係資料と関係付けながら読み解く。
2回	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第3章、第4章、第5章を、関係資料と関係付けながら読み解く。
3回	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第6章、第7章、第8章、第9章を、関係資料と関係付けながら読み解く。
4回	教科書 第1章「教育方法」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第4節 新しい学力観
5回	教科書 第3章（第2節、第3節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用
6回	教科書 第4章（第1節、第2節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書
7回	教科書 第4章（第3節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第3節 教科指導の展開
8回	平成10年以降に始まった教育の情報化施策について、関係資料と関係付けながら読み解く。
9回	「教育の情報化に関する手引き」を、関係資料と関係付けながら読み解く。
10回	教科書 第2編「情報機器および教材の活用」第1章「高度情報通信社会と情報教育」について、関係資料と関係付けながら読み解く。
11回	教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等を活用した指導法の長所と短所を比較しながら読み解く。
12回	第2章「パソコン活用による学校教育の改善」について解説する。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン 第4節 パソコン活用のモラルと著作権
13回	第3章「パソコン活用と教材開発」第3節プレゼンテーションの手法を読み解く。 第14回、第15回の実習および発表に向けた班分けを行う。
14回	教科書をもとに班毎に題材（教材）を1つ選び、1単位時間の授業の導入場面を想定したプレゼンテーション（模擬授業）を作成する。
15回	1単位時間の授業の導入部分を想定して作成したプレゼンテーション（模擬授業）を班毎に行い、相互評価するとともに作成したプレゼンテーションの検討・改善する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付した（中教審第197号）を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】授業で配付した（中教審第197号）の第3章、第4章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポ

	イント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容がどのように反映されているかをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
3回	【予習】授業で配付した（中教審第197号）の第6章、第7章、第8章、第9章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第3回の講義で扱った内容がどのように反映されているかをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
4回	【予習】テキスト第1章を熟読すること（標準学習時間60分）。 【復習】現行学習指導要領が目指した、新しい学力観についてレポートしておくこと（標準学習時間61分）。
5回	【予習】第3章（第2節、第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】主な学習指導の形態やその長所と短所についてレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
6回	【予習】教科書第4章（第1節、第2節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】望ましい授業とは何か。教科書と補助教材の位置づけについてレポートしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】教科書第4章（第3節）を熟読しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】授業で配付された数学科、理科の学習指導案を熟読し、授業での教師の発話と板書計画のレポートを作成すること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】インターネットで、教育の情報化にはどのようなものがあったか調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育の情報化施策に多額の予算が投じられたにもかかわらず、教育の情報化が進まなかった理由についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）をインターネットや図書で検索し、第2章～第7章までのポイントをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】講義を受け、予習でまとめた内容の加筆修正を行うこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】第2編第1章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】我が国の従来の指導方法とICTを積極的に教育に活用している国の教員の意識の違いをレポートしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等の長所と短所をレポートしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】講義を受け、予習で作成しておいたレポートを加筆修正しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】第2章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】ネット上の著作物を活用するときの根拠を、学習場面で活用する場合とそれ以外で活用する場合を比較しながらまとめること（標準学習時間120分）。
13回	【予習】第3章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】効果的なプレゼンテーションについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】班毎に配付されたiPad（Keynote）を使うことができるようにしておくこと（標準学習時間180分）。 【復習】自分たちが考えた教材での効果的なプレゼンテーションづくりを行うこと（標準学習時間180分）。
15回	【予習】班毎にプレゼンテーションを作成し発表の準備を行うこと（標準学習時間180分）。 【復習】講義での発表をもとにプレゼンテーションを検討・改善して完成版を提出する（標準学習時間60分）。

講義目的	本授業は、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法（具体的には、主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方、授業を構成する基礎的な要件、学習評価等）について、問題を見いだして理解するために、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）とテキスト「教職必修 教育の方法と技術」を、関連資料と関係付けながら読み解く。 また、教育の目的に適した教師の発話・板書などの基礎的な指導技術を理解して身に付けるために、テキストで理論を習得すると共に、授業映像を視聴しながら具体的に把握する。 さらに、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けるために、「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）を、関連資料と関係付けながら読み解くとともに、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の教育方法を体験しながら、タブレット型端末等の情報機器やデジタルコンテンツ等の教材を活用した効果的な授業を設計する。 （教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針C-5にもっとも強く関与）
達成目標	○これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法について、例をあげて説明できる。 ○教育の目的に適した教師の発話・板書などの基礎的な指導技術について、具体的に説明できる。

	○情報機器を活用した効果的な授業の事例を説明できる。 ○情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けている。 ○児童生徒が主体的・対話的で深い学びが実現できるための教材研究に意欲的に取り組もうとする。
キーワード	資質・能力の育成，教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用，教育評価、教育の情報化
成績評価（合格基準60	授業後レポート（30％）、教材づくりに対する評価（自己評価＋他者評価）（30％）、教材と発表（40％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	各教科の教育法
教科書	○教職必修 教育の方法と技術 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407303445
参考書	○「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号） ○「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」 ○「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）のポイント」 ○「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」 ○「中学校学習指導要領解説 総則編」 ○「中学校学習指導要領解説 数学編」 ○「中学校学習指導要領解説 理科編」 ○「eラーニングからブレンディッドラーニングへ」（共立出版）
連絡先	7号館4階 岡本研究室
注意・備考	提出されたレポートについては，添削した後に返却する。
試験実施	実施しない

科目名	特別活動の理論と方法【火3金3】（FC02H310）
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一＊（しらかみけんいち＊）
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標（その１）」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標（その２）」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間や進路指導との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実践」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-4にもっとも強く関与）
達成目標	上記講義目的に基づき、特別活動に係る実践的な指導力を身に付けることをもって到達目標とする。
キーワード	学級活動・ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事 ガイダンス機能の充実 家庭・地域との連携の推進
成績評価（合格基準60	最終評価試験（60％）、レポート（20％）、発表（模擬授業を含む）や討論の内容（20％）から成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生徒・進路指導論
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827815627 : 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / ISBN978-4-303-12630-8
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 第2,3,4回の授業では4～5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
試験実施	実施する

科目名	工業科教育法 【火4金4】 (FC02I210)
英文科目名	Teaching Method of Industrial Arts I
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	工業教育の意義・役割・目標・内容について解説する。
2回	教育関連法令について解説する。
3回	工業高校発展の歴史と現状について解説する。
4回	教科「工業」の共通科目について解説する。
5回	工業科の主な学科の実験・実習について解説する。
6回	「工業数理基礎」指導法1 (高さの測定) について解説する。
7回	「工業数理基礎」指導法2 (教材教具の製作) について実習する。
8回	「工業数理基礎」指導法3 (授業実践・測定と結果の考察) について実習する。
9回	実践的工業教育 (インターンシップ、資格取得) について解説する。
10回	教育課程の意義・目標・役割・構成要素について解説する。
11回	工業教育における教育課程の特徴とその編成について解説する。
12回	年次計画・年間計画 (シラバス) 及び単元計画と授業分析について解説する。
13回	授業設計と学習指導案について解説する。指導案を作成し、提出する。
14回	前回作成した指導案に基づいて模擬授業を実施する。
15回	学習評価について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】高等学校学習指導要領解説工業編第1章第1節、第2節を熟読しておくこと (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
2回	【予習】関連法令を調べ、熟読しておくこと (第1回終了時に資料を配付する) (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
3回	【予習】資料を熟読しておくこと (第2回終了時に資料を配付する) (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
4回	【予習】学習指導要領解説工業編第1章第3節を熟読しておくこと (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
5回	【予習】資料を熟読しておくこと (第4回終了時に資料を配付する) (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
6回	【予習】資料の該当箇所を熟読しておくこと (第5回終了時に資料を配付する) (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
7回	【予習】第5回終了時に配付する資料の該当箇所を熟読し、必要な材料を準備しておくこと (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
8回	【予習】第5回終了時に配付する資料の該当箇所を一読しておくこと (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
9回	【予習】資料を熟読しておくこと (第8回終了時に資料を配付する) (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
10回	【予習】資料を熟読しておくこと (第9回終了時に資料を配付する) (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
11回	【予習】資料を熟読しておくこと (第10回終了時に資料を配付する) (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
12回	【予習】資料を熟読しておくこと (第11回終了時に資料を配付する)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。
13回	【予習】資料を熟読しておくこと (第12回終了時に資料を配付する) (標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)。

	【復習】本時の内容を復習しておくこと（標準学習時間60分）。
1 4 回	【予習】発表の準備を整えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容を復習しておくこと（標準学習時間60分）。
1 5 回	【予習】資料を熟読しておくこと（第14回終了時に資料を配付する）（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容を復習しておくこと（標準学習時間60分）。
1 6 回	【予習】試験範囲をよく復習しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	将来、高等学校工業科の教員または工業教育に携わることを希望する学生が教科指導力を身につけることを主目的とするが、教育課程の作成を通して広く工業の知識も身につけられるようにする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 2にもっとも強く関与）
達成目標	1 教師が教育活動を行う際、学校関係教育法規とどのような関係があるか理解する。 2 教科「工業」の目標を理解する。 3 工業高校の教育課程を作成できる。 4 安全教育の必要性を理解する。 5 教科・科目の指導法を身につける。 6 評価の観点を理解する。 7 学習指導案を作成できる。
キーワード	
成績評価（合格基準60	最終評価試験(60%)と課題提出(40%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	本講座受講後に「工業科教育法」を受講すること。
教科書	平成21年高等学校学習指導要領解説 工業編 / 文部科学省 / 実教出版 / 9784407320015
参考書	適宜資料を配付する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	第7,8回では、教具の自作について実習するとともに、それを用いた授業を想定した活動を行う。第13回で提出する指導案については、添削した後に返却する。第14回の模擬授業は、全員が行う。
試験実施	実施する

科目名	技術科教育法 【月1水1】 (FC03A210)
英文科目名	Teaching Method of Technical Arts II
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	2 年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	技術科教育の現状と課題を概観する。
2 回	D V D を視聴し、よい授業の条件を検討する。
3 回	前回の内容を振り返り、よい授業の条件について議論する。
4 回	材料と加工について教科書の内容を確認し検討する。
5 回	エネルギー変換について教科書の内容を確認し検討する。
6 回	生物育成について教科書の内容を確認し検討する。
7 回	情報について教科書の内容を確認し検討する。
8 回	指導案を作成する。
9 回	各自の指導案を協議検討する。
1 0 回	主に板書指導に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
1 1 回	主に発問・指名に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
1 2 回	主にノート指導・机間指導に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
1 3 回	主に情報機器の使い方に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
1 4 回	主に教材・教具に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
1 5 回	主に教材・教具に焦点を当てて模擬授業を実施し、相互評価と研究協議をする。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	中学校学習指導要領第 1 章総則と第 2 章第 8 節を読んで中学校教育の目的、技術・家庭科の意義を確認して授業に臨むこと (標準学習時間180分)。
2 回	【予習】自分が受けた技術科の授業を振り返り、授業の構成や指導法を確認すること (標準学習時間120分)。
3 回	第 2 回の内容から、良い授業の条件を整理すること (標準学習時間60分)。本時のテーマに向けて自分の考えをまとめておくこと (標準学習時間120分)。
4 回	第 3 回の内容をまとめること (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
5 回	第 4 回の内容をまとめること (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所に目を通し課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
6 回	第 5 回本時の内容をまとめること (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所に目を通し課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
7 回	第 6 回の内容をまとめること (標準学習時間60分)。教科書の該当箇所を読み課題を持って授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
8 回	第 7 回の内容をまとめること (標準学習時間60分)。各自が実施したい指導内容を検討して授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
9 回	指導案の原案を作成すること (標準学習時間60分)。原案を完成して授業に臨むこと (標準学習時間120分)。
1 0 回	第 9 回で行った協議検討の内容を踏まえて指導案を完成させること (標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してくること (標準学習時間120分)。
1 1 回	第 1 0 回で得たことと残された課題をまとめること (標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してくること (標準学習時間60分)。
1 2 回	第 1 1 回で得たことと残された課題をまとめること (標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してくること (標準学習時間120分)。
1 3 回	第 1 2 回で得たことと残された課題をまとめること (標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してくること (標準学習時間60分)。
1 4 回	第 1 3 回で得たことと残された課題をまとめること (標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、それ以外は指導案に目を通し流れを把握してくること (標準学習時間120分)。
1 5 回	第 1 4 回で得たことと残された課題をまとめること (標準学習時間60分)。授業実施者は授業準備をすること、それ以外は指導案に目を通し流れを把握してくること (標準学習時間120分)。

	備をすること、授業者以外は指導案に目を通し流れを把握してくること（標準学習時間120分）。
16回	第15回で得たことと残された課題をまとめること（標準学習時間60分）。第1回～第15回までの内容を振り返って整理し、よく理解しておくこと（標準学習時間120分）。
講義目的	中学校の技術科教員免許状を取得するための必修科目であり、技術科教育法の演習に当たる講義である。技術分野の指導方法を模擬授業を通して具体的に実践することにより、技術科教師に必要とされる指導力の向上を目的とする。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与する）
達成目標	技術科教師に必要とされる指導力を模擬授業を通して身に付ける。
キーワード	技術科、技術科教育法
成績評価（合格基準60	提出課題の内容（20％）、模擬授業（20％）、最終評価試験（60％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	技術科教育法、技術科教育法、技術科教育法、
教科書	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 / 文部科学省 / 開隆堂 / 9784304121541 ：中学校技術・家庭 技術分野 / 文部科学省検定済教科書 / 開隆堂 / 9784304080500
参考書	1．文部科学省検定済教科書「新しい技術・家庭 技術分野」 / 東京書籍 2．文部科学省検定済教科書「技術・家庭 技術分野」 / 教育図書 3．中学校学習指導要領解説—技術・家庭編— / 文部科学省・教育図書 4．他必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	研究室：工学実習棟2階
注意・備考	・「技術科教育法」を修得していることが望ましい。 ・提出課題については提出時または次時の授業でのアドバイスを通して深化を図る。
試験実施	実施する

科目名	教育相談の理論と方法【月2水2】(FC03B110)
英文科目名	Theory and Method of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 講義の概要について説明する。
2回	教育相談の歴史と位置付けについて説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論(1)精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論(2)行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論(3)来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論(4)認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法(1)観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法(2)面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法(3)心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応(1)学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応(2)高機能自閉性障がい、アルペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと(標準学習時間30分)。 【復習】講義の概要について振り返っておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育相談の歴史と位置付けについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育相談の歴史と位置付けを復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】精神分析について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】精神分析療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】行動療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】来談者中心療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】認知行動療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】相談的コミュニケーションについて調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】相談的コミュニケーションについて復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】質問技法について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】質問技法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】観察法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】観察法を実際に試してみること(標準学習時間150分)。
11回	【予習】面接法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】模擬面接を行なってみること(標準学習時間150分)。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】心理テストについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】自閉症スペクトラム障がいについて調べておくこと(標準学習時間60分)。1回から1

	5回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学ぶことで、カウンセリングマインドの理解を目指す。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D - 2にもっとも強く関与）
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解できるようになる。 適切な相談・助言について理解できる。 カウンセリングマインドについて理解できる。
キーワード	教育、相談、発達障害、カウンセリング、カウンセリングマインド
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 /
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館 3 階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。 課題（講義内で指示）については、次時の授業において解説する。
試験実施	実施する

科目名	教育史【月2水2】(FC03B210)
英文科目名	History of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義概要と受講要領について理解を図る。
2回	教育の始まり。教育の原初形態及び古代・中世における西洋の教育の特質について理解を図る。
3回	リアリズムと教育。統一学校とコメニウスを中心に、近代黎明期における教育の特質について理解を図る。
4回	近代思想と子どもの発見(1)。18世紀の西洋における教育について、ルソーの教育思想を中心に理解を図る。
5回	近代以降における教育観の変遷。社会の動向との関連について、年表を通して考察する。
6回	近代思想と子どもの発見(2)。18世紀の西洋における教育について、ペスタロッチの教育思想・実践を中心に理解を図る。
7回	公教育と教育思想。19世紀の教育について、フレーベルの幼児教育思想とヘルバルトの段階教授説を中心に理解を図る。
8回	新教育の理念と展開。20世紀初頭の教育について、児童中心の教育観とデューイの民主主義教育論を中心に理解を図る。
9回	日本教育史の概観及び古代・中世日本の教育。古代・中世における日本の教育の特質について理解を図る。
10回	近世日本の教育。寺子屋、私塾、藩校を通して近世における教育の特質について理解を図る。
11回	近代日本の教育。西洋式の教育制度・教育内容の整備をめぐる葛藤の観点から教育の特質について理解を図る。
12回	西洋教育の受容と変容。西洋化と自立化の観点から近代日本における教育の特質について理解を図る。
13回	大正期と昭和戦前期の教育。大正期自由教育運動を中心に近現代日本における教育の特質について理解を図る。
14回	戦後教育の理念と制度。民主化をめざす教育改革の取り組みを中心に、戦後教育の理念とその特質について理解を図る。
15回	教育の現状と課題。現代における教育課題の特質を教育史の視点からとらえ直す。
16回	最終評価試験を実施する。筆答試験を基本とするが、受講状況によっては課題の作成とその提出または発表を加える場合がある。

回数	準備学習
1回	教育の歴史及び思想に関する知識について、教職との関連、必要とされる範囲や水準を概観するとともに、シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと(標準学習時間80分)。
2回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間100分)。
3回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、近代黎明期の西洋における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ルソー著『エミール』から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	中学校または高等学校の歴史分野の教材、教育学原論(または教育基礎論)及び本科目の教科書に目を通し、関心のある時代について社会情勢の特質と主な教育観との関連を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
6回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、ペスタロッチの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
7回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、フレーベル、ヘルバルト、スペンサーのいずれかの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、デューイの著作から具体的な指摘を取り上げ、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと(標準学習時間100分)。

9 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、古代・中世日本における教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
10 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、江戸時代における帰省先の学校・人物の教育思想・実践等から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
11 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治初期における教育の実践や思想から自由と統制にかかわる具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間120分）。
12 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、明治期におけるお雇い外国人または海外派遣留学生から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間120分）。
13 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、大正から昭和戦前期にかけての教育の実践や思想から具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
14 回	教科書の該当箇所と配付資料に目を通すとともに、終戦後間もない時期における教育改革の取り組みから具体的事例を選び、これと関連づけて自らの教育実践のあり方を検討しておくこと（標準学習時間100分）。
15 回	教科書と配付資料全体を読み直すとともに、自らの教育実践の指針として参考にすべき理念を複数の異なる観点から整理しておくこと（標準学習時間180分）。
16 回	これまでの学習全体を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること（標準学習時間100分）。

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条に基づき、教育の実践、制度及び思想を中心とした教育の歴史及びそれらの特質を、それぞれの時代情勢及びそれらの変化に即して理解できるようにすることを目標とする。 現代の教育は多様な問題への対応を求められている。本授業科目はそれらの教育事象を歴史的視点から捉え直し、人間と社会の未来を創造する教育のあり方を考察するための手がかりの一つを提供しようとするものである。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1に最も強く関与）
達成目標	○教育実践にとって教育史や教育思想史を学ぶことがなぜ必要であるかを説明することができる。 ○西洋における各時代の教育の主な特質について、現実の教育事象と関連づけて説明することができる。 ○日本における各時代の教育の主な特質について、現実の教育事象と関連づけて説明することができる。
キーワード	教職課程、教育理念、教育観、教育思想、教育制度、学校、教師
成績評価（合格基準60	平素の学習の取り組み（提出物）（30～40％）、最終評価試験の評定点（60～70％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。なお、この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。
関連科目	1 年次開講の教職関連科目をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。
教科書	刊行物の形態のものは使用しない。配付資料を適宜用いる。
参考書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9 近現代教育史（新版） / 斉藤利彦・佐藤学（編著） / 学文社 / ISBN978-4762025976 教師教育テキストシリーズ教育史 / 古田常雄・米田俊彦（編） / 学文社 / ISBN978-4762016530 教師教育講座第2巻 教育の歴史・理念・思想 / 鈴木理恵・三時眞貴子（編著） / 協同出版 / ISBN978-4319106714 新教職教育講座第1巻 教育の思想と歴史 / 新井保幸・上野耕三郎（編） / 協同出版 / ISBN978-4319106608 中学校社会科（歴史的分野）の学習で使用した教科書、図説、資料集等。 そのほか適宜指示する。
連絡先	B 2 号館（旧13号館）3 階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	○教職をめざす者として、高い目的意識をもち、謙虚にかつ不断に学業に取り組むことが望ましい。 ○授業で課された提出物には、個別に添削することを原則とする。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。 ○連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 ○授業形態は講義を基本とするが、アクティブラーニングの形態を加味する場合もある。 ○C 1 号館（旧25号館）7 階掲示板を授業日には必ず確認すること。 ○専攻分野の学業と、人々がそれらを継承発展させてきた歴史に関する読書も励行することが望ましい。

	しい。
試験実施	実施する

科目名	数学教育法 【月2水2】 (FC03B220)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics II
担当教員名	福田博人 (ふくだひと)
対象学年	2 年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを実施する。
2 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における内容確認とアクティブラーニングや数学的活動についての整理をする。
3 回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業とその検討をする。
4 回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業とその検討をする。
5 回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業とその検討をする。
6 回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業とその検討をする。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
8 回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
9 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
10 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
11 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
12 回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
13 回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
14 回	高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
15 回	授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、数学的活動について課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
3 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
4 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
5 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
6 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
7 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
8 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
9 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
10 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
11 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
12 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
13 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
14 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
15 回	アクティブラーニングや数学的活動について復習してくること (標準学習時間180分)。

講義目的	中学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、アクティブラーニングを観点にしながら「数学教育法」で学んだ理論を実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわ
------	---

	しい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	アクティブラーニングを観点にしながら数学科授業を構成するとともに、「数学教育法」で学んだ理論を実践することを通して、実践的スキルを習得する。
キーワード	中学校数学科，高等学校数学科，アクティブラーニング，数学的活動，模擬授業
成績評価（合格基準60	レポート（60%），授業中の課題（40%）により評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法，数学教育法，数学教育法
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編（現行カリキュラム）／文部科学省／教育出版：中学校学習指導要領解説 数学編（新カリキュラム）／文部科学省／日本文教出版：高等学校学習指導要領解説 数学編／文部科学省新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編／ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際＜中学校・高等学校（必修）＞／聖文新社：高等学校 数学教育の展開／聖文新社
連絡先	福田研究室 A2号館8階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・「数学教育法」を修得していることが望ましい。レポート作成は準備学習と講義内で行うが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動，模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施しない

科目名	技術科教育法 【月2水2】 (FC03B310)
英文科目名	Teaching Method of Technical Arts IV
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	3 年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	技術科における実習教材と教材開発について解説する。
2 回	教科書の材料と加工の実習教材を調査する。
3 回	材料と加工の教材開発に向けて検討する。
4 回	材料と加工の教材の設計・製作をする。
5 回	教科書のエネルギー変換実習教材を調査する。
6 回	エネルギー変換の教材開発に向けて検討する。
7 回	エネルギー変換の教材の設計・製作をする。
8 回	教科書の生物育成の実習教材を調査する。
9 回	生物育成の教材開発に向けて検討する。
10 回	生物育成教材の育成計画・栽培または飼育をする。
11 回	教科書の情報実習教材を調査する。
12 回	情報の教材開発に向けて検討する。
13 回	情報の教材の設計・製作をする。
14 回	レポートを作成する。
15 回	レポートの発表・検討会をする。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】中学校学習指導要領第1章総則と第2章第8節技術・家庭を読んで、中学校教育の目的、技術・家庭の意義を確認して授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
2 回	【予習】【復習】本時の学習を振り返り内容を整理しておくこと(標準額数時間60分)。教科書の該当箇所を読み、扱われている実習教材をまとめて把握しておくこと(標準学習時間180分)。
3 回	前回の授業内容を振り返り、生徒に学習内容を理解させるための教材を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
4 回	設計・製作に必要な材料・工具・段取り等を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
5 回	教科書の該当箇所を読み、扱われている実習教材をまとめて把握しておくこと(標準学習時間180分)。
6 回	前回の授業内容を振り返り、生徒に学習内容を理解させるための教材を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
7 回	設計・製作に必要な材料・工具・段取り等を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
8 回	教科書の該当箇所を読み、扱われている実習教材を整理し把握しておくこと(標準学習時間180分)。
9 回	前回の授業内容を振り返り、生徒に学習内容を理解させるための教材を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
10 回	計画・栽培または飼育に必要な材料・用具・段取り等を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
11 回	教科書の該当箇所を読み、扱われている実習教材を整理し把握しておくこと(標準学習時間180分)。
12 回	前回の授業内容を振り返り、生徒に学習内容を理解させるための教材を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
13 回	設計・製作に必要な資料・段取り等を検討しておくこと(標準学習時間180分)。
14 回	今までの授業を振り返り、自分の考えをまとめておくこと(標準学習時間180分)。
15 回	各自発表の準備をしてくること(標準学習時間120分)。【予習】本時の学習内容を振り返り、内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。
16 回	第1回から第15回までの内容を整理し、よく理解しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	中学校の技術科教師になることを強く希望する者のための選択科目である。本講義では技術の内容ごとに実習教材の研究を行い、生徒が興味を持って取り組める実習教材を開発し、技術科教師としての実習教材作りの実践力を養うことを目的とする。(教職・学芸員センター教育課程編成・実
------	---

	施の方針 C - 2 にもっとも強く関与する)
達成目標	生徒が学習内容に興味を持って取り組める実習教材の研究・開発ができる。
キーワード	技術科、技術科教育法
成績評価（合格基準60	課題提出物の内容（40％），最終評価試験（60％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	技術科教育法 、技術科教育法 、技術科教育法
教科書	中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 / 文部科学省 / 開隆堂 / 9784304121541 : 技術・家庭 技術分野 / 文部科学省検定済教科書 / 教育図書 / 9784877302719
参考書	1 . 文部科学省検定済教科書「新編 新しい技術・家庭 技術分野」 / 東京書籍 2 . 文部科学省検定済教科書「技術・家庭 技術分野 / 」開隆堂 3 . 中学校学習指導要領解説—技術・家庭編— / 文部科学省・教育図書 4 . 他必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	研究室：工学実習棟 2 階
注意・備考	・「技術科教育法 」を修得していることが望ましい。 ・提出されたレポートについては、添削した後に返却する。
試験実施	実施する

科目名	理科教育法 【月2水2】 (FC03B320)
英文科目名	Teaching Method of Science IV
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 藤本義博 (ふじもとよしひろ)
対象学年	3 年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業概要を理解するとともに, 2 回以降に実施する模擬授業の準備や方法等を整理する。 (全教員)
2 回	「エネルギー」に関する学習内容 (基礎) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
3 回	「粒子」に関する学習内容 (基礎) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
4 回	「生命」に関する学習内容 (基礎) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
5 回	「地球」に関する学習内容 (基礎) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
6 回	「エネルギー」に関する学習内容 (標準) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
7 回	「粒子」に関する学習内容 (標準) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
8 回	「生命」に関する学習内容 (標準) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
9 回	「地球」に関する学習内容 (標準) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
10 回	「エネルギー」に関する学習内容 (発展) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
11 回	「粒子」に関する学習内容 (発展) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
12 回	「生命」に関する学習内容 (発展) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
13 回	「地球」に関する学習内容 (発展) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。

	(全教員)
14回	「エネルギー」「粒子」領域に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。
	(全教員)
15回	「生命」「地球」領域に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】模擬授業の全般的なポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。

講義目的	中・高等学校の理科教員として必要とされる知識や技能の習得を高めるとともに、その知識や技能を授業づくりや授業改善に活用することを通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に関する自然の事物・現象についての理解を深める。 授業実践や授業の工夫・改善のポイントなどについての考えを深める。 板書計画の作成、模擬授業を通して、授業を実践する力を身に付ける。

キーワード	理科教育，教材研究，指導方法，授業実践
成績評価（合格基準60	提出課題70%，模擬授業30%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法 ，理科教育法 ，理科教育法
教科書	使用しない。
参考書	オープンセサミシリーズ教員採用試験ステップアップ問題集 中学理科／東京アカデミー／七賢出版
連絡先	D 2 号館 4 F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	理科教育法 ・理科教育法 ・理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては，内容を確認した後に返却する。 模擬授業などのアクティブ・ラーニングをほぼ毎回，採り入れる。
試験実施	実施しない

科目名	教育相談の理論と方法【月3水3】(FC03C110)
英文科目名	Theory and Method of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳(なかじまひろのり)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 講義の概要について説明する。
2回	教育相談の歴史と位置付けについて説明する。
3回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4回	カウンセリング理論(1)精神分析について説明する。
5回	カウンセリング理論(2)行動療法について説明する。
6回	カウンセリングの理論(3)来談者中心療法について説明する。
7回	カウンセリングの理論(4)認知行動療法について説明する。
8回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10回	生徒理解の理論と技法(1)観察法について説明する。
11回	生徒理解の理論と技法(2)面接法について説明する。
12回	生徒理解の理論と技法(3)心理テスト法について説明する。
13回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14回	発達障がい理解と対応(1)学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15回	発達障がい理解と対応(2)高機能自閉性障がい、アルペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと(標準学習時間30分)。 【復習】講義の概要について振り返っておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教育相談の歴史と位置付けについて予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育相談の歴史と位置付けを復習しておくこと(標準学習時間120分)。
3回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】精神分析について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】精神分析療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
5回	【予習】行動療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
6回	【予習】来談者中心療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。
7回	【予習】認知行動療法について予習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
8回	【予習】相談的コミュニケーションについて調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】相談的コミュニケーションについて復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】質問技法について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】質問技法について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】観察法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】観察法を実際に試してみること(標準学習時間150分)。
11回	【予習】面接法について調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】模擬面接を行なってみること(標準学習時間150分)。
12回	【予習】心理テストについて調べておくこと(標準学習時間30分)。 【復習】心理テストについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】自閉症スペクトラム障がいについて調べておくこと(標準学習時間60分)。1回から1

	5回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学ぶことで、カウンセリングマインドの理解を目指す。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D - 2にもっとも強く関与）
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解できるようになる。 適切な相談・助言について理解できる。 カウンセリングマインドについて理解できる。
キーワード	教育、相談、発達障害、カウンセリング、カウンセリングマインド
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 /
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。 課題（講義内で指示）については、次時の授業において解説する。
試験実施	実施する

科目名	教育の方法と技術【月3水3】（FC03C210）
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	津田秀哲＊（つだひでのり＊）
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業ガイダンス。幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）の第1章を解説する。
2回	第1回資料をもとに、第3章、第5章を解説する。
3回	教科書 第1章「教育方法」について解説する。 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第3節 新しい学力観
4回	教科書 第3章（第2節、第3節）について解説する。 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用
5回	教科書 第4章（第1節、第2節）について解説する。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書
6回	教科書 第4章（第3節）について解説する。 第3節 教科指導の展開
7回	PISA2015の結果、TIMSS2015の結果資料をもとに説明し、世界で通用する学力とは何か考える。
8回	平成10年以降に始まった教育の情報化施策について解説する。
9回	「教育の情報化に関する手引き」を解説し、どのような場面での活用が期待されているか解説する。
10回	教科書 第2編「情報機器および教材の活用」第1章「高度情報通信社会と情報教育」について解説する。
11回	従来から教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、急速に導入され始めたタブレットをはじめとした情報機器や教材を活用した指導法の長所と短所を比較しながら解説をする。
12回	第2章「パソコン活用による学校教育の改善」について解説する。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン 第4節 パソコン活用のモラルと著作権
13回	第3章「パソコン活用と教材開発」第3節プレゼンテーションの手法を解説する。 第14回、第15回の実習および発表に向けた班分けを行う。
14回	与えられたテーマを生徒に分かりやすく説明するためのプレゼンテーションを作成する。
15回	作成したプレゼンテーションを班毎で発表し互いに評価する。発表後、出された意見を参考に、プレゼンテーションを再構築する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付・説明する（中教審第197号）を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】上記資料の第3章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容をどのように反映しようとしているかまとめること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】テキスト第1章を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】現行学習指導要領が目指した、新しい学力観についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】第3章（第2節、第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】主な学習指導の形態やその長所と短所についてまとめること（標準学習時間120分）。
5回	【予習】教科書第4章（第1節、第2節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。

	【復習】望ましい授業とは何か。教科書と補助教材の位置づけについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】教科書第4章（第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】授業で配付された数学科の年間指導計画、学習指導案をよく読み、授業のイメージづくりし、自分なりの板書イメージを作成すること（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】インターネットによりTIMSS2015の結果、PISA2015の結果を考察し、子供たちに求められる力とは何か考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】自分がイメージする学力の定義と国際的な学力の定義を比較し、自分の考えをまとめること（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】インターネットで、教育の情報化にはどのようなものがあったか調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育の情報化施策に多額な予算が投じられたにもかかわらず、教育の情報化が進まなかった理由についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）をインターネットや図書で検索し、第2章～第7章までのポイントをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】講義を受け、予習でまとめた内容の加筆修正を行うこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】第2編第1章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】我が国の従来の指導方法とICTを積極的に教育に活用している国の教員の意識の違いをまとめておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】従来の学習形態と、タブレット端末を活用した場合、パソコンを活用した場合の長所と短所を考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】講義を受け、3者の長所と短所を表にまとめること（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】第2章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】ネット上の著作物を活用するときの根拠を、学習場面で活用する場合とそれ以外で活用する場合を比較しながらまとめること（標準学習時間120分）。
13 回	【予習】第3章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】効果的なプレゼンテーションについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】生徒の心に訴えかけるプレゼンテーションを作成するためのポイントをまとめておく。（標準学習時間60分）。 【復習】自分たちが考えた教材での効果的なプレゼンテーションづくりを行うこと（標準学習時間180分）。
15 回	【予習】班毎でプレゼンテーションを作成し発表の準備を行うこと（標準学習時間180分）。 【復習】講義での発表をもとにプレゼンテーションを改善・完成し提出すること（標準学習時間60分）。

講義目的	本授業では、理論と実践の両面からアプローチすることにより、実践的指導力の基礎を培うことを目的としている。従来から教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、急速に導入され始めたタブレットをはじめとした情報機器や教材を活用した指導法の在り方について解説をする。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、小集団毎でタブレット端末を使った教材づくり、効果的なプレゼンテーションづくり、発表を通して実践的指導力を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針C-5にもっとも強く関与）
達成目標	メディアには光と影などで表現されるプラスとマイナスの両面を持っている。教育実践の中で、従来の教科書やノート、黒板を用いた授業に加え情報機器やデジタル教材を用いることの意義を理解し、児童生徒一人一人が主体的に学習に参加できる教材研究に意欲的に取り組もうとすることが出来る。
キーワード	指導方法、情報機器活用、教育の情報化
成績評価（合格基準60）	授業後レポート（30%）、教材づくりに対する評価（自己評価＋他者評価）（30%）、教材と発表（40%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	各教科の教育法
教科書	教職必修 教育の方法と技術 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407303445
参考書	適宜指示する。
連絡先	A2号館8階 津田
注意・備考	提出されたレポートについては、添削した後に返却する。
試験実施	実施しない

科目名	理科教育法 【月3水3】 (FC03C220)
英文科目名	Teaching Method of Science II
担当教員名	岡本弥彦(おかもとやすひこ), 藤本義博(ふじもとよしひろ)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	中学校学習指導要領における理科の目標の変遷について解説するとともに, 観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (藤本 義博)
2回	第1分野・第2分野の特徴について考察するとともに, 各分野の内容に関する授業展開の方法について解説する。 (藤本 義博)
3回	「エネルギー」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
4回	「粒子」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
5回	「生命」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
6回	「地球」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
7回	「科学技術と人間」及び「自然と人間」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
8回	第1回～第7回の授業内容について, 中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)中学校学習指導要領解説理科編(平成29年6月)の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (藤本 義博)
9回	学習指導案の作成方法や作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
10回	「エネルギー」に関する学習内容について, 学習指導案(本時案)の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
11回	「粒子」に関する学習内容について, 学習指導案(本時案)の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
12回	「生命」に関する学習内容について, 学習指導案(本時案)の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
13回	「地球」に関する学習内容について, 学習指導案(本時案)の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。

	(岡本 弥彦)
14回	各自が作成した本時案について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。
	(岡本 弥彦)
15回	中学校理科の課題や授業づくりの課題などについて考察を深めるとともに、そうした課題に対応するための指導方法の例を紹介する。
	(岡本 弥彦)
16回	最終評価試験を実施する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】中学校の理科の目標、評価の観点から暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)のp.18-22, p.58-62を読み、第1分野・第2分野の目標を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】各分野の特徴や指導展開の方法を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「力の働きについて」(p.26～)、「電流・電圧と抵抗について」(p.35～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「エネルギー」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「気体の発生と性質について」(p.30～)、「中和と塩について」(p.52～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「粒子」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「刺激と反応について」(p.75～)、「細胞分裂と生物の成長について」(p.84～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「生命」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「霧や雲の発生について」(p.80～)、「日周運動と自転について」(p.87～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「地球」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「エネルギー資源について」(p.54～)、「自然環境の調査と環境保全について」(p.92～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「科学技術と人間」「自然と人間」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】第1回～第7回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】理科教育法 における学習指導案作成に関する授業内容を復習しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案(特に本時案)の作成方法や作成上の留意事項を理解しておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)ア 光と音」(p.23～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(4)ア 物質の成り立ち」(p.39～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)イ 植物の体のつくりと働き」(p.63～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(2)ア(㍑) 火山活動と火成岩について」(p.68～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
14回	【予習】第10回～第13回の授業で作成した本時案を完成させておくこと(標準学習時間120分)

	分)。 【復習】第9回～第14回の授業全般を通して、授業づくりのポイントを理解しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】本授業全体を振り返り、中学校理科の目標や内容、学習指導案作成のポイントなどを理解しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】中学校における理科教育に関して、各自の指導観を述べるができるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)。

講義目的	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容を十分に理解し、中学校の理科教員として必要な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の授業づくりに活用できる能力を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解を深める。 理科の効果的な指導方法や評価方法、授業づくりのポイントなどについての考えを深める。 観察・実験の進め方や学習指導案の作成方法などを実例に基づいて理解する。
キーワード	理科教育、学習指導要領、中学校、授業づくり
成績評価(合格基準60%)	ワークシート40%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。
教科書	中学校学習指導要領解説理科編平成20年7月/文部科学省/大日本図書/9784477019796:中学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/学校図書/9784762506130
参考書	「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては、内容を確認した後に返却する。 小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	数学教育法 【月3水3】 (FC03C310)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics IV
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	3 年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを実施する。
2 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における内容確認とESDや文脈についての整理をする。
3 回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業とその検討をする。
4 回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業とその検討をする。
5 回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業とその検討をする。
6 回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業とその検討をする。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
8 回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
9 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
10 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
11 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
12 回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
13 回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
14 回	高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
15 回	授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、授業で扱うべきトピックについて課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
3 回	ESDや文脈を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
4 回	ESDや文脈を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
5 回	ESDや文脈を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
6 回	ESDや文脈を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
7 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
8 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
9 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
10 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
11 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
12 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
13 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
14 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
15 回	ESDや文脈について復習してくること (標準学習時間180分)。

講義目的	ESDならびに文脈を観点にしながら「数学教育法」で学んだ理論を実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。
------	---

	(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	ESDならびに文脈を観点にしながら数学科授業を構成するとともに、「数学教育法」で学んだ理論を実践することを通して、実践的スキルを習得する。
キーワード	中学校数学科，高等学校数学科，ESD，文脈，模擬授業
成績評価（合格基準60	レポート（60%），授業中の課題（40%）により評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法，数学教育法，数学教育法
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編（現行カリキュラム）／文部科学省／教育出版：中学校学習指導要領解説 数学編（新カリキュラム）／文部科学省／日本文教出版：高等学校学習指導要領解説 数学編／文部科学省新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編／ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際＜中学校・高等学校（必修）＞／聖文新社：高等学校 数学教育の展開／聖文新社
連絡先	福田研究室 A2号館8階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・「数学教育法」を修得していることが望ましい。レポート作成は準備学習と講義内で行うが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動，模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施しない

科目名	生徒・進路指導論【火2金2】（FC03G210）
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	石田正人＊（いしだまさと＊）
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生徒指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や生徒指導に関する資料を基に、生徒指導の目標について解説する。
2回	生徒の実態や生徒指導の実情に基づいて、生徒指導の課題や指導の在り方などについて解説する。
3回	生徒指導の実践上の形態について説明するとともに、それらの形態のメリット・デメリットについて考察する。
4回	「いじめ」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、グループ討論を通して、各自の考えを深める。
5回	「不登校」に関する事例を取り上げ、事例の分析・課題や対応のポイントなどについて各自考察するとともに、グループ討論を通して、各自の考えを深める。
6回	生徒理解の意義やその側面について解説するとともに、観察法や面接法などの各種生徒理解の方法を説明する。
7回	人間関係を促進させる基本的態度について解説するとともに、人間関係づくりの観点からとらえた「個を生かす生徒指導」について、事例を挙げながら説明する。
8回	特別活動における「望ましい集団活動」を取り上げ、その条件について考察するとともに、生徒指導の目標達成との関連について解説する。
9回	教育法令に基づいて、生徒の懲戒と体罰について説明するとともに、懲戒と体罰の捉え方について考察する。
10回	進路指導の捉え方について考察するとともに、学習指導要領や進路指導に関する資料を基に、進路指導の目標や課題について解説する。
11回	進路指導の内容と機能について説明するとともに、中・高等学校における具体的な指導との関連について考察する。
12回	進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連について、具体的な指導事例を挙げながら解説する。
13回	KJ法を用いて進路指導のポイントを整理し、「大学生から高校生へのアドバイス」をテーマとした資料を作成する。
14回	前時で作成した資料に基づいて各自の考えを整理し、グループ又は全体で発表・協議し、各自の考えを更に深める。
15回	授業のまとめとして、各教科・特別活動・総合的な学習の時間・道徳における生徒指導及び進路指導の意義について説明するとともに、これからの生徒指導やキャリア教育について考察する。
16回	1回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】生徒指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】中・高等学校における生徒指導上の課題（生徒がどのような問題を抱えているか、どのようなことに悩んでいるかなど）を考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導の課題の内容と、それぞれの指導場面について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】本時で取り上げた生徒指導の課題の中から一つを取り上げ、その解決策を考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導の実践上の形態を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】「いじめ」についての各自の考えを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】「いじめ」の定義や対応のポイントを説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】「不登校」についての各自の考えを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】「不登校」の分類や対応のポイントを説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
6回	【予習】自己紹介用資料（授業で配付）を作成しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒理解の意義と方法を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】他者（友人、家族など）との人間関係をよくするために、各自が日頃から心掛けているこ

	とを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】人間関係を促進させる基本的態度について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】集団での活動（グループ実習，サークル活動，学生自治会・委員会活動など）をスムーズに行うために，各自が心掛けていることを整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】望ましい集団活動の条件を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】図書館やインターネットにより，学校教育法（第11条），学校教育法施行規則（第26条）を検索し，読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】懲戒の種類や体罰の捉え方を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】中・高等学校で受けてきた進路指導（各自が進路指導と考えるもので構わない）を，できるだけ多く挙げておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の目標を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】前時の内容に基づいて，中・高等学校で各自が受けてきた進路指導を捉え直し，より詳しく整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導の内容と機能及びその具体例を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】中・高等学校の学習指導要領における総合的な学習の時間と特別活動の目標を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】進路指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連を説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】進路選択・決定に関する次の点について，各自の考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 高校生のとき，進路を選択・決定する上で大切にしたこと， 進路選択・決定の上での課題や反省点， 大学（岡山理科大学）を志望した理由， その他（上記以外で高校生に伝えたいことなど） 【復習】KJ法で整理したポイントを，より具体化して整理しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】前時のKJ法で整理したポイントを，より具体化して整理し，その結果を各自3分間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】グループ又は全体での協議結果に基づいて，各自の考えを更に深めておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】図書館やインターネット（文部科学省のホームページ等）により，「キャリア教育」について調べ，その概要を把握しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】生徒指導及び進路指導に関して，各自の指導観を論じることができるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	少子化や核家族化の進展，家庭や地域社会の教育力の低下などと相まって，子どもたちの実態については，豊かな人間性や社会性の不足，自立の遅れ，自己肯定観の不足，進路についての自覚の不足など，多くの課題が指摘されている。そのため，生徒指導や進路指導も新たな取組が求められているのが現状である。本授業科目は，こうした現状を踏まえながら，中学校・高等学校の生徒指導や進路指導の具体的な課題を明確化し，その対応方策の在り方について考察することをねらいとする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D-1にもっとも強く関与）
達成目標	中・高等学校の生徒指導・進路指導の理念や目的について理解する。 生徒指導上の課題について理解を深めるとともに，「いじめ」「不登校」の対応のポイントを理解する。 生徒理解，人間関係づくり，集団づくりに関する基本的な知識や考え方を身に付ける。 進路指導上の課題及び進路指導の内容・機能について理解する。 生徒指導・進路指導についての教育観・指導観を身に付ける。
キーワード	生徒指導，進路指導，生徒理解，人間関係づくり，自己実現，キャリア
成績評価（合格基準60%）	提出課題40%，最終評価試験60%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	特別活動の理論と方法
教科書	使用しない。
参考書	適宜，資料を配付する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 試験形態は筆記試験（持ち込み不可）とする。
試験実施	実施する

科目名	理科教育法 【火2金2】 (FC03G220)
英文科目名	Teaching Method of Science II
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 藤本義博 (ふじもとよしひろ)
対象学年	2 年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	中学校学習指導要領における理科の目標の変遷について解説するとともに, 観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (藤本 義博)
2 回	第1分野・第2分野の特徴について考察するとともに, 各分野の内容に関する授業展開の方法について解説する。 (藤本 義博)
3 回	「エネルギー」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
4 回	「粒子」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
5 回	「生命」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
6 回	「地球」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
7 回	「科学技術と人間」及び「自然と人間」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
8 回	第1回～第7回の授業内容について, 中学校学習指導要領解説理科編 (平成20年7月) 中学校学習指導要領解説理科編 (平成29年6月) の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (藤本 義博)
9 回	学習指導案の作成方法や作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
10 回	「エネルギー」に関する学習内容について, 学習指導案 (本時案) の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
11 回	「粒子」に関する学習内容について, 学習指導案 (本時案) の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
12 回	「生命」に関する学習内容について, 学習指導案 (本時案) の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
13 回	「地球」に関する学習内容について, 学習指導案 (本時案) の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。

	(岡本 弥彦)
14回	各自が作成した本時案について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。
	(岡本 弥彦)
15回	中学校理科の課題や授業づくりの課題などについて考察を深めるとともに、そうした課題に対応するための指導方法の例を紹介する。
	(岡本 弥彦)
16回	最終評価試験を実施する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】中学校の理科の目標、評価の観点から暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)のp.18-22, p.58-62を読み、第1分野・第2分野の目標を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】各分野の特徴や指導展開の方法を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「力の働きについて」(p.26～)、「電流・電圧と抵抗について」(p.35～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「エネルギー」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「気体の発生と性質について」(p.30～)、「中和と塩について」(p.52～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「粒子」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「刺激と反応について」(p.75～)、「細胞分裂と生物の成長について」(p.84～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「生命」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「霧や雲の発生について」(p.80～)、「日周運動と自転について」(p.87～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「地球」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「エネルギー資源について」(p.54～)、「自然環境の調査と環境保全について」(p.92～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「科学技術と人間」「自然と人間」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】第1回～第7回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】理科教育法 における学習指導案作成に関する授業内容を復習しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案(特に本時案)の作成方法や作成上の留意事項を理解しておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)ア 光と音」(p.23～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(4)ア 物質の成り立ち」(p.39～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)イ 植物の体のつくりと働き」(p.63～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(2)ア(㍑) 火山活動と火成岩について」(p.68～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
14回	【予習】第10回～第13回の授業で作成した本時案を完成させておくこと(標準学習時間120分)

	分)。 【復習】第9回～第14回の授業全般を通して、授業づくりのポイントを理解しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】本授業全体を振り返り、中学校理科の目標や内容、学習指導案作成のポイントなどを理解しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】中学校における理科教育に関して、各自の指導観を述べるができるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)。

講義目的	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容を十分に理解し、中学校の理科教員として必要な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の授業づくりに活用できる能力を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解を深める。 理科の効果的な指導方法や評価方法、授業づくりのポイントなどについての考えを深める。 観察・実験の進め方や学習指導案の作成方法などを実例に基づいて理解する。
キーワード	理科教育、学習指導要領、中学校、授業づくり
成績評価(合格基準60%)	ワークシート40%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。
教科書	中学校学習指導要領解説理科編平成20年7月/文部科学省/大日本図書/9784477019796:中学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/学校図書/9784762506130
参考書	「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては、内容を確認した後に返却する。 小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	道徳教育の理論と方法【火2金2】(FC03G310)
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	市坂よし子* (いちばよしこ*)
対象学年	3年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。 道徳の本質、道徳とは何かについて考える。
2回	道徳教育の歴史について考える。
3回	現代社会における道徳教育の課題(いじめ)について考える。
4回	現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)について考える。
5回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)について考える。
6回	現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)について考える。
7回	子どもの心の成長と道徳性の発達について考える。
8回	中間試験。 小学校における道徳教育について知る。
9回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える。
10回	道徳科の評価について考える。
11回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
12回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
13回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
14回	教材研究、学習指導案作成、模擬授業
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】中学校学習指導要領の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、道徳の意義について自分の考えを述べるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
2回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、改訂の経緯についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の改訂の経緯について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめ)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(いじめに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題であるいじめに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】「中学校学習指導要領」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラル)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、現代社会における道徳教育の課題(情報モラルに関する指導)についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育の課題である情報モラルに関する指導について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳性についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳性を養うことの意義について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】「小学校学習指導要領」の「第1章 総則」と「第3章 特別の教科 道徳」を読み、小学校の道徳についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】小学校の道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
9回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳教育と道徳科についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳教育について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、道徳科の評価についてまとめておくこと(標準学習時間90分)。【復習】道徳科の評価について説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。

1 1 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の教材についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の教材について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科のねらいについてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科のねらいについて説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 3 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の指導過程についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の指導過程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 4 回	【予習】「中学校学習指導要領解説」を読み、教材 の内容項目と道德科の指導方法についてまとめておくこと（標準学習時間90分）。【復習】道德科の指導方法について説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	道德の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育と、その要となる道德科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-3にもっとも強く関与）
達成目標	【道德の理論】道德とは何かを説明できる。道德教育の歴史や現代社会における課題（いじめ、情報モラル等）を理解している。子どもの心の成長と道德性の発達について理解している。学習指導要領に示された道德科の目標や内容、道德教育について理解している。 【道德の指導法】授業のねらいや指導過程、指導方法を理解して、道德科の学習指導案を作成することができる。模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
キーワード	特別の教科 道德。道德科の目標。道德科の内容。道德教育と道德科。道德性。
成績評価（合格基準60	レポート、学習指導案等の課題提出（40％）、グループ学習での発表、意欲、態度（10％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道德編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
参考書	・「心のノート」 / 文部科学省 ・「私たちの道德 中学校」 / 文部科学省
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	・課題については、次時の授業で発表や討論を通して深化させる。 ・第8回に実施する中間試験は、第9回の授業で正答例を示し、解説する。 ・グループ協議、学習指導案の作成、模擬授業の実施などのアクティブ・ラーニングを採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	工業科教育法 【火3金3】 (FC03H210)
英文科目名	Teaching Method of Industrial Arts II
担当教員名	白神憲一* (しらかみけんいち*)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	科目「工業数理基礎」の目標・内容について解説する。
2回	科目「工業数理基礎」の年間指導計画1(4単位の年間指導計画)を作成する。
3回	科目「工業数理基礎」の年間指導計画2(2単位の年間指導計画)を作成する。
4回	科目「工業数理基礎」の学習指導案作成1(単位と数値処理について)を行う。
5回	模擬授業1(単位と数値処理について)を行う。
6回	科目「工業数理基礎」の学習指導案作成2(直線運動について)を行う。
7回	模擬授業2(直線運動について)を行う。
8回	科目「工業数理基礎」の学習指導案作成3(円運動について)を行う。
9回	模擬授業3(円運動について)を行う。
10回	科目「工業数理基礎」学習指導案作成4(大気と水の環境について)を行う。
11回	模擬授業4(大気と水の環境について)を行う。
12回	科目「工業数理基礎」学習指導案作成5(数値処理とグラフについて)を行う。
13回	模擬授業5(数値処理とグラフについて)を行う。
14回	科目「工業数理基礎」の学習指導案作成6(時間とともに変化する事象について)を行う。
15回	模擬授業6(時間とともに変化する事象について)を行う。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】シラバスをよく確認し、学習の過程を把握しておくこと。学習指導要領解説工業編「工業数理基礎」を熟読しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】「工業数理基礎」教科書を熟読し、内容の構成を理解しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】教科書は6単位で編集されているが、2単位の年間指導計画を作成するために重点的に指導すべき単元を考え、時間の割り振りを考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】予告している「単位と数値処理」の指導案作成について予習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】予告している「速さと速度」の指導案作成について予習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】予告している「円運動」の指導案作成について予習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】予告している「大気と水の環境」の指導案作成について予習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと

	と（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
1 2 回	【予習】予告している「数値処理とグラフ」の指導案作成について予習しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
1 3 回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
1 4 回	【予習】予告している「時間とともに変化する事象」の指導案作成について予習しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
1 5 回	【予習】模擬授業実施者は必要な教材やプレゼンテーション、板書準備等必要な準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
1 6 回	【予習】テスト範囲を良く復習しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	工業科の小学科共通科目である「工業数理基礎」を題材として、学習指導案の作成、模擬授業の実施、事後の反省等を行い、工業科科目の指導法を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	1 学習指導要領に示されている「工業数理基礎」の目標・指導内容を理解する。 2 教科書を一読し、年間指導計画を立案する。 3 工業における数理的思考及び処理に関する指導法について理解できる。 4 指導案と評価の関係を理解できる。 5 板書法、視聴覚教材の活用法を身に付ける。
キーワード	
成績評価（合格基準60	最終評価試験(40%)と課題提出(30%)及び模擬授業(30%)により評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	「工業科教育法」の履修後に本講座を履修すること。
教科書	平成21年高等学校学習指導要領解説 工業編 / 文部科学省 / 実教出版 / 9784407320015 : 「工業数理基礎」教科書 / 実教出版
参考書	適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	第2,3回授業で提出する年間指導計画については、添削後返却する。また、本授業は実際の工業高校において行われている50分の授業を想定して模擬授業を行うことを基本としており、模擬授業実施者は模擬授業実施に当たって全員に指導案を配付するとともに、教師に提出する。提出された指導案は添削後返却する。
試験実施	実施する

科目名	教育の方法と技術【火3金3】（FC03H220）
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	藤本義博（ふじもとよしひろ）
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業ガイダンス（教育の方法及び技術の目標）。 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第1章、第2章を、「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）のポイント」等の関係資料と関係付けながら読み解く。
2回	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第3章、第4章、第5章を、関係資料と関係付けながら読み解く。
3回	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）の第6章、第7章、第8章、第9章を、関係資料と関係付けながら読み解く。
4回	教科書 第1章「教育方法」について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第4節 新しい学力観
5回	教科書 第3章（第2節、第3節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用
6回	教科書 第4章（第1節、第2節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書
7回	教科書 第4章（第3節）について、関係資料と関係付けながら読み解く。 第3節 教科指導の展開
8回	平成10年以降に始まった教育の情報化施策について、関係資料と関係付けながら読み解く。
9回	「教育の情報化に関する手引き」を、関係資料と関係付けながら読み解く。
10回	教科書 第2編「情報機器および教材の活用」第1章「高度情報通信社会と情報教育」について、関係資料と関係付けながら読み解く。
11回	教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等を活用した指導法の長所と短所を比較しながら読み解く。
12回	第2章「パソコン活用による学校教育の改善」について解説する。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン 第4節 パソコン活用のモラルと著作権
13回	第3章「パソコン活用と教材開発」第3節プレゼンテーションの手法を読み解く。 第14回、第15回の実習および発表に向けた班分けを行う。
14回	教科書をもとに班毎に題材（教材）を1つ選び、1単位時間の授業の導入場面を想定したプレゼンテーション（模擬授業）を作成する。
15回	1単位時間の授業の導入部分を想定して作成したプレゼンテーション（模擬授業）を班毎に行い、相互評価するとともに作成したプレゼンテーションの検討・改善する。

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付した（中教審第197号）を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと（標準学習時間120分）。
2回	【予習】授業で配付した（中教審第197号）の第3章、第4章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポ

	イント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容がどのように反映されているかをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
3回	【予習】授業で配付した（中教審第197号）の第6章、第7章、第8章、第9章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第3回の講義で扱った内容がどのように反映されているかをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
4回	【予習】テキスト第1章を熟読すること（標準学習時間60分）。 【復習】現行学習指導要領が目指した、新しい学力観についてレポートしておくこと（標準学習時間61分）。
5回	【予習】第3章（第2節、第3節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】主な学習指導の形態やその長所と短所についてレポートしておくこと（標準学習時間120分）。
6回	【予習】教科書第4章（第1節、第2節）を読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】望ましい授業とは何か。教科書と補助教材の位置づけについてレポートしておくこと（標準学習時間60分）。
7回	【予習】教科書第4章（第3節）を熟読しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】授業で配付された数学科、理科の学習指導案を熟読し、授業での教師の発話と板書計画のレポートを作成すること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】インターネットで、教育の情報化にはどのようなものがあったか調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育の情報化施策に多額の予算が投じられたにもかかわらず、教育の情報化が進まなかった理由についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
9回	【予習】「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）をインターネットや図書で検索し、第2章～第7章までのポイントをレポートしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】講義を受け、予習でまとめた内容の加筆修正を行うこと（標準学習時間60分）。
10回	【予習】第2編第1章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】我が国の従来の指導方法とICTを積極的に教育に活用している国の教員の意識の違いをレポートしておくこと（標準学習時間60分）。
11回	【予習】教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、実物投影機やタブレット型端末等の情報機器とデジタル教材等の長所と短所をレポートしておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】講義を受け、予習で作成しておいたレポートを加筆修正しておくこと（標準学習時間60分）。
12回	【予習】第2章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】ネット上の著作物を活用するときの根拠を、学習場面で活用する場合とそれ以外で活用する場合を比較しながらまとめること（標準学習時間120分）。
13回	【予習】第3章を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】効果的なプレゼンテーションについてまとめておくこと（標準学習時間60分）。
14回	【予習】班毎に配付されたiPad（Keynote）を使うことができるようにしておくこと（標準学習時間180分）。 【復習】自分たちが考えた教材での効果的なプレゼンテーションづくりを行うこと（標準学習時間180分）。
15回	【予習】班毎にプレゼンテーションを作成し発表の準備を行うこと（標準学習時間180分）。 【復習】講義での発表をもとにプレゼンテーションを検討・改善して完成版を提出する（標準学習時間60分）。

講義目的	本授業は、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法（具体的には、主体的・対話的で深い学びの実現などの教育方法の在り方、授業を構成する基礎的な要件、学習評価等）について、問題を見いだして理解するために、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）とテキスト「教職必修 教育の方法と技術」を、関連資料と関係付けながら読み解く。 また、教育の目的に適した教師の発話・板書などの基礎的な指導技術を理解して身に付けるために、テキストで理論を習得すると共に、授業映像を視聴しながら具体的に把握する。 さらに、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けるために、「教育の情報化に関する手引き」（平成22年文部科学省）を、関連資料と関係付けながら読み解くとともに、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の教育方法を体験しながら、タブレット型端末等の情報機器やデジタルコンテンツ等の教材を活用した効果的な授業を設計する。 （教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針C-5にもっとも強く関与）
達成目標	○これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法について、例をあげて説明できる。 ○教育の目的に適した教師の発話・板書などの基礎的な指導技術について、具体的に説明できる。

	○情報機器を活用した効果的な授業の事例を説明できる。 ○情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けている。 ○児童生徒が主体的・対話的で深い学びが実現できるための教材研究に意欲的に取り組もうとする。
キーワード	資質・能力の育成，教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用，教育評価、教育の情報化
成績評価（合格基準60	授業後レポート（30％）、教材づくりに対する評価（自己評価＋他者評価）（30％）、教材と発表（40％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	各教科の教育法
教科書	○教職必修 教育の方法と技術 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407303445
参考書	○「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号） ○「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」 ○「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2015）のポイント」 ○「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」 ○「中学校学習指導要領解説 総則編」 ○「中学校学習指導要領解説 数学編」 ○「中学校学習指導要領解説 理科編」 ○「eラーニングからブレンディッドラーニングへ」（共立出版）
連絡先	7号館4階 岡本研究室
注意・備考	提出されたレポートについては，添削した後に返却する。
試験実施	実施しない

科目名	数学教育法 【火3金3】 (FC03H230)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics II
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2 年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを実施する。
2 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における内容確認とアクティブラーニングや数学的活動についての整理をする。
3 回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業とその検討をする。
4 回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業とその検討をする。
5 回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業とその検討をする。
6 回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業とその検討をする。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
8 回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
9 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
10 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
11 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
12 回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
13 回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
14 回	高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
15 回	授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、数学的活動について課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
3 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
4 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
5 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
6 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
7 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
8 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
9 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
10 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
11 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
12 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
13 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
14 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
15 回	アクティブラーニングや数学的活動について復習してくること (標準学習時間180分)。

講義目的	中学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、アクティブラーニングを観点にしながら「数学教育法」で学んだ理論を実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわ
------	---

	しい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	アクティブラーニングを観点にしながら数学科授業を構成するとともに、「数学教育法」で学んだ理論を実践することを通して、実践的スキルを習得する。
キーワード	中学校数学科，高等学校数学科，アクティブラーニング，数学的活動，模擬授業
成績評価（合格基準60	レポート（60%），授業中の課題（40%）により評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法，数学教育法，数学教育法
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編（現行カリキュラム）／文部科学省／教育出版：中学校学習指導要領解説 数学編（新カリキュラム）／文部科学省／日本文教出版：高等学校学習指導要領解説 数学編／文部科学省新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編／ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際＜中学校・高等学校（必修）＞／聖文新社：高等学校 数学教育の展開／聖文新社
連絡先	福田研究室 A2号館8階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・「数学教育法」を修得していることが望ましい。レポート作成は準備学習と講義内で行うが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動，模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施しない

科目名	情報科教育法 【火4金4】 (FC03I210)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy II
担当教員名	草野泰秀 * (くさのやすひで*)
対象学年	2 年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	応用数学科,基礎理学科,電気電子システム学科,情報工学科,情報科学科,社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義の目的と教科の目標授業実施方法について解説する。パソコンの基本操作ができることを小テストで確認する。
2 回	表計算の小テストの正答例の解説をし, 高等学校学習指導要領総説を解説する。教科「情報」の改善の基本方針, 改善の具体的事項, 改訂の要点, 情報教育の目標について解説する。
3 回	新教育課程についてインターネット上にある中教審の答申では情報科についてどのようなところが改訂されたかを学生に発表してもらい。体系的な情報教育と共通教科情報科の情報教育のありかたについて解説する。
4 回	新教育課程で導入されるプログラミングは何を目標にしているか学生に発表してもらい討論する。共通教科情報の科目編成, 「社会と情報」「情報の科学」の目標について解説する。
5 回	共通教科情報の科目編成, 「社会と情報」「情報の科学」の目標について学生に発表してもらい。学習指導案の詳細化と教材作成と教材の構造化(実習を含む)について解説する。
6 回	作成した学習指導案と授業に必要な補助プリントを用いて, 代表学生が模擬授業を行い, 全員の学生に模擬授業の良い点や改善点等を言ってもらい, その後指導講評する。情報科教育実習についての指導方法, 指導反省レポートについて解説する。
7 回	各自で作成した指導案の改善したところを学生に発表してもらい, 討論等をして, よりよい内容にしていく。プレゼンテーションの制作の流れ, スライドの作成方法等を実例を示し解説する。
8 回	前回で作成したプレゼンテーションを学生全員が発表する。そのプレゼンテーションについて学生に良い点, 改善点を言ってもらい。その後指導講評する。
9 回	第 8 回の課題について, 正答例などとともに解説する。ネットワークのコミュニケーションについて解説する。
1 0 回	第 9 回の課題について, 正答例を解説する。インターネットのしくみ, I P アドレス, ネットワークアドレスの計算について解説する。
1 1 回	第 1 0 回の課題について, 正答例を解説する。知的財産権, 産業財産権について解説する。
1 2 回	第 1 1 回の課題について, 学生に解き方を発表してもらい。この発表に対して, より簡単にできる別解はないか討論し, その後簡単な正答例を解説する。情報セキュリティ(コンピュータウィルス対策, 情報の暗号化等)について解説する。
1 3 回	第 1 2 回の課題について正答例を解説する。表計算ソフト E X C E L の実践的な活用法について解説する。
1 4 回	第 1 3 回の問題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラム作成ができることの必要性を解説し, 具体的な言語Scratchプログラムの作成方法について解説する。
1 5 回	第 1 4 回の演習問題の正答例を解説する。VBAプログラムの作成方法について解説する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】高等学校学習指導要領総説, 教科「情報」の改善の基本方針, 改善の具体的事項, 改訂の要点, 情報教育の目標を読み, 整理しておくこと。第 1 回に実施した小テストについては, 第 2 回の授業で正答例などとともに解説する。(標準学習時間120分)。
2 回	【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正し,情報科教育法 で学習した関数を理解し, 整理しておくこと(標準学習時間60分)【復習】高等学校学習指導要領総説, 教科「情報」の改善の基本方針, 改善の具体的事項, 改訂の要点, 情報教育の目標を理解し, 暗唱しておくこと。新教育課程についてインターネット上にある中教審の答申を読み, 情報科についてどのようなところが改訂されたかまとめて発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
3 回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編(文部科学省)」の「体系的な情報教育と共通教科情報科」(p.8~13)を読み, 整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】体系的な情報教育と共通教科情報科の情報教育のありかたを理解しておくこと。新教育課程で導入されるプログラミングは何を目標にしているか発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
4 回	【予習】共通教科情報の科目編成, 「社会と情報」「情報の科学」の目標を読み, 整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】共通教科情報の科目編成, 「社会と情報」「情報の科学」の目標を理解し, 暗唱しておくこと(標準学習時間60分)。
5 回	【予習】プリントの指導案の様式, 社会と情報の指導案例, 年間指導計画を読み, 整理しておくこと。

	と（標準学習時間120分）【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い、授業をどのように進めていけばよいか、どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案と授業に必要な補助プリント等を作成しておくこと。次時の授業で模擬授業ができるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】情報科教育実習についてどのように指導するべきか考えておくこと。（標準学習時間120分）【復習】模擬授業の良い点、改善点、指導方法、指導反省レポートを整理しておくこと。模擬授業を聞いて、各自で作成した指導案を訂正し、改善したところが発表できるようにすること。（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】プレゼンテーション作成で必要な写真を事前に撮影してUSBメモリに入れて持参すること。また、作成するプレゼンテーションの内容を考えておくこと（標準学習時間120分）【復習】プレゼンテーションのスライド作成を完成させておくこと。プレゼンテーションのリハーサルをして、発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】ネットワークの特性、プリントの演習問題をする。この課題は次時の授業で正答例などとともに解説する。（標準学習時間120分）【復習】発表されたプレゼンテーションの話し方、スライドの内容、スライドの設計等の評価を整理しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】情報セキュリティ、情報セキュリティポリシーをよんで章末問題をする。この課題は、次時の授業で正答例を解説する。（標準学習時間120分）【復習】ネットワークのコミュニケーションの重要語句等を理解し、プリントやノートに書いて整理しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】教科書4章コミュニケーションとネットワーク、第2節ネットワーク（p.100～109）を読み、ネットワークアドレスの計算方法を調べておくこと（標準学習時間120分）【復習】IPアドレス、ネットワークアドレスの演習問題をしておくこと。次時の授業で演習問題の正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】2進数と情報量、数値・文字の表現を読み、プリントの進数計算の課題をする。この課題は次時の授業で発表できるようにすること。（標準学習時間120分）【復習】教科書5章の章末問題をして、他の具体的な権利侵害の例を調べて整理しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】プリントの情報処理検定2級実技問題を解答するために使用する関数の条件付合計（SUMIF）、条件付きカウント関数（COUNTIF）等を調べておくこと。表計算ソフトEXCELの実践的な課題プリントをする。この課題は次時の授業で解説する。（標準学習時間120分）【復習】情報セキュリティ（コンピュータウィルス対策、情報の暗号化等）について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】2020年度の新学習指導要領から、すべての生徒にたいしてプログラミングが必修になることとScratch言語を調べておくこと（標準学習時間120分）【復習】プリントの情報処理検定2級実技問題の条件付合計（SUMIF）、条件付きカウント関数（COUNTIF）等について理解しておくこと。この問題をする。この問題は次時の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】プリントのVBAプログラミングを読み、演習問題をする。この演習問題は次時の授業で正答例を解説する。（標準学習時間120分）【復習】Scratchプログラムを理解し、演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間120分）【復習】VBAプログラムを理解し、発展問題の別解を考えておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間120分）。

講義目的	この講義（実習を含む）では、情報科教育法とともに高等学校教科「情報」の教員免許を取得させるために必要な教師としての基礎的な知識、教養、指導力、実務能力を涵養する。情報科教育法で学んだ教科の設立目的、教科の構造、指導目的、指導方法、教育の構成、教師としての知識、教育に関する教養的知識、学校教育における常識と教師の役割、教育の社会的目的と構造など情報科教師として弁えるべき基本的な学習事項について再度確認し復習することから始め、教育の実践方法について深く考えるとともに教材作成や模擬授業の実施を通じて学生自身に積極的な授業への参加を求め、教育や教師としての技量の向上を目指して行動することを求める。単に情報に関する専門的技術の養成ではなく、高度な知的行動力としての情報教養を身につけ、将来の行動規範として情報を高度に利用する教養的情報資質を向上させうる高等学校教師を養成することを目指し、教育者として教育実習等で指導する際にも役立つよう実務面でも教養も身につけるよう実践的な指導を行う。また、教養を身につけ教科情報の教員免許取得者にふさわしい知識と実践力をもちうるように指導する。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与）
達成目標	達成すべき目標は以下のようにまとめられる。（1）プレゼンテーションソフトで教材を作成できる。（2）文字と画像をうまく組み合わせた教材を作成できる。（3）パワーポイント教材に自分の目標とする指導内容にバランスよく組み込める。（4）情報倫理について正しく指導できる。（5）教材と口述をバランスよく配合して指導ができる。（6）クラスにあう生徒の知的水準を活かした授業を達成するための教育構成方法について身につける。（7）情報科の評価を教材の中に埋め込んで合理的に指導できる教材を作成できる。（8）教育実習で指導教員に高い到達度を持つ実習生であると評価してもらえるよう努力できる。（9）オブジェクト指向型プログラム（VBAプログラム）が理解できる。（10）情報処理検定2級レベルの学習指導ができるようになること。

キーワード	社会と情報，プレゼンテーション，高等学校学習指導要領情報編
成績評価（合格基準60	課題レポート（30％）と最終評価試験（70％）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	情報科教育法 も併せて履修することが望ましい。
教科書	高等学校学習指導要領解説情報編／文部科学省／開隆堂出版：高等学校情報科用教科書「最新社会と情報」（社情302）／編集執筆 岡本敏雄 監修 山極 隆／実教出版
参考書	授業中に配付するプリント， Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説／草野 泰秀／Amazon.com／9781523781942 だれにでも手軽にE X C E LでできるV B Aプログラミング／草野 泰秀／Amazon Services International Inc（Kindleストア）／9781494958350
連絡先	ホームページKusano's pageの「問合せフォーム」から連絡可能 URL：http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
注意・備考	課題については，次時の授業において正答例などとともに解説する。 最終評価試験の内容は授業中に指示する。
試験実施	実施する

科目名	特別活動の理論と方法【火4金4】（FC03I310）
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一＊（しらかみけんいち＊）
対象学年	3年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標（その１）」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標（その２）」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間や進路指導との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実践」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-4にもっとも強く関与）
達成目標	上記講義目的に基づき、特別活動に係る実践的な指導力を身に付けることをもって到達目標とする。
キーワード	学級活動・ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事 ガイダンス機能の充実 家庭・地域との連携の推進
成績評価（合格基準60	最終評価試験（60％）、レポート（20％）、発表（模擬授業を含む）や討論の内容（20％）から成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生徒・進路指導論
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827815627 : 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / ISBN978-4-303-12630-8
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 第2,3,4回の授業では4～5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
試験実施	実施する

科目名	教育課程論【火5金5】（FC03J110）
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至＊（こばやし たつし＊）
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 5時限 / 金曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、講義の概要、目的、授業計画及び教育課程の概念について説明する。
2回	科学的な見方・考え方や問題解決する力を育成する教育課程を編成するための基本について説明する。
3回	法令としての学習指導要領とそれに関わる諸法規について説明する。
4回	戦後日本の教育課程の変遷、特に現代化運動の時代の教育課程について説明する。
5回	新学習指導要領改訂の時代的背景と育成を目指す資質・能力について教育改革の国際的な動向を踏まえて説明する。その後、新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
6回	新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
7回	中学校教育の基本と教育課程の役割について説明する。
8回	汎用的な問題解決の力を育成する教育課程編成の理論について説明する。
9回	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指す教育課程の編成と学習評価について説明する。
10回	「教育課程の実施と学習評価」について説明する。
11回	「道徳」の位置付けと意義、その指導について説明する。
12回	中学校の各教科内容の系統性を踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について説明する。
13回	学校経営目標とカリキュラム・マネジメントの実際について説明する。
14回	文部科学省が実施する教育課程の評価の目的と方法について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	『中学校学習指導要領解説編』の11～12頁「教育課程の意義」を読み、いずれかの教科を1つ取り上げて自分自身が中学生だった頃の学習指導要領の理念及び教科内容と学び方について800字程度でまとめておくこと（標準学習時間180分）。
2回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の3～14頁（第1章）及び15～25頁（第2章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
3回	『中学校学習指導要領解説編』の13～16頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
4回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の137～149頁（第12章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
5回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の150～162頁（第13章）及び中学校学習指導要領解説編の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6回	『中学校学習指導要領解説編』の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
7回	『中学校学習指導要領解説編』の17～40頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
8回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の163～176頁（第14章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9回	『中学校学習指導要領解説編』の47～72頁「教育課程の編成」及び中学校学習指導要領解説編の76～91頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10回	『中学校学習指導要領解説編』の76～91頁「教育課程の実施と学習評価」頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
11回	『中学校学習指導要領解説編』の128～144頁「道徳教育推進上の配慮事項」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
12回	資質・能力の育成の観点から、教科書をどのように活用して主体的・対話的で深い学びを実現するのかについてレポートを作成しておくこと（標準学習時間180分）。
13回	第12回授業で配付する資料を読み、カリキュラム・マネジメントの捉え方をまとめておくこと（標準学習時間180分）。

1 4 回	文部科学省HPで平成27年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を解いておくこと（標準学習時間180分）。
1 5 回	これまでの授業ノートを読み返しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 1にもっとも強く関与）
達成目標	1．教育課程の概念を理解する。 2．法令としての学習指導要領の意義と目的を理解する。 3．戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 4．新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解する。 5．新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び（カリキュラム・マネジメント）を実現する授業を構想するための理論を理解する。 6．「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解する。 7．教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解する。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
成績評価（合格基準60	最終評価試験による評価（60点），ならびにレポートによる評価（40点）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教育の方法と技術
教科書	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』 大学教育出版：『探究する資質・能力を育む理科教育』
参考書	『教育方法学』／佐藤 学／岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』／田中耕治等編／有斐閣アルマ
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題（準備学習で示す）については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	教育学原論【月2水2】(FC04B110)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的、指導方針・計画について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史的変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る(クリーク、デュルケム、パウルゼンなど)。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る(ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど)。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る(デューイ、シュプランガーなど)。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間60分)
2回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
3回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
4回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
5回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
6回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
7回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
8回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
9回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教

	育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
10回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
11回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
12回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
13回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
14回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
15回	到達目標を再確認し、教育実践に自らかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。（標準学習時間120分）
16回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間80分）

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育（生涯学習に関するものを含む。）の理念並びに教育に関する歴史及び思想を（受講者が）修得することを目的とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1に最も強く関与）
達成目標	- 人間にとってなぜ教育が必要であることを説明することができる。 - 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる。 - 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる。 - 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる。 - 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がりについて説明することができる。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
成績評価（合格基準60	平素の学習の取り組み（課題の作成と提出）（60～40%）、最終評価試験の評定点（40～60%）を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は受講者の学習状況により調整する。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者にのみ認める。
関連科目	- 基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 - 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが（教育学部を除く）、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 - 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 - 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9
参考書	授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	B2号館3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	- 履修できる学部・学科をよく確かめること。 - 取得をめざす資格（と関連職務）の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。 - 平素から新聞に目を通するとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。 - 指導計画は受講状況により変更することがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 - 連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 - 授業で課された提出物はすべて点検し、必要に応じて添削する。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
試験実施	実施する

科目名	木材加工【月2水2】(FC04B120)
英文科目名	Wood Working
担当教員名	塗木利明(ぬるきとしあき)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	バイオ・応用化学科(～16),機械システム工学科(～16),電気電子システム学科(～16),情報工学科(～16),知能機械工学科(～16),生体医工学科(～16),建築学科(～16),生命医療工学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方と、木材加工教育の歴史と意義を説明する。
2回	木材の種類と構造について解説する。
3回	木材の性質について解説する。
4回	木質材料・緊結材について解説する。
5回	塗装について解説する。
6回	かな、のこぎりの構造と使用法について解説する。
7回	のみ、きり、その他の木工具の構造と使用法について解説する。
8回	木工機械の構造と使用法について解説する。
9回	基本工作法として木取りについて解説する。
10回	基本工作法としてけがきについて解説する。
11回	基本工作法として切断について解説する。
12回	基本工作法としてかな削りについて解説する。
13回	基本工作法として組立てについて解説する。
14回	基本工作法として塗装について解説する。
15回	今までのまとめと評価をする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスに目を通し授業内容、講義目的、達成目標、成績評価等を確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2回	第1回で触れた講義の進め方を再確認し、木材加工教育の歴史と教育課程での意義を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第1章を読み、素材としての木材の知識を整理し課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3回	第2回の木材の種類と構造についての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第2章を読み、素材としての木材の特性を整理し課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4回	第3回の木材の性質についての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第3章を読み、木質材料の特性や緊結材の種類等について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5回	第4回の木質材料・緊結材について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第7章を読み、塗装の目的や塗料の種類等について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
6回	第5回の塗装について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第4章1節・2節を読み、かななどのこぎりに関する知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
7回	第6回のかななどのこぎりについての課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第4章3節～7節を読み、かななどのこぎり以外の基本的な木工具について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
8回	第7回のみ、きり、その他の木工具の課題プリントの解答を作成すること(標準学習時間60分)。教科書第5章1節～3節を読み、木工機械の構造と使用法について知識を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
9回	第8回の木工機械の構造と使用法について整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章1節を読み、木取りについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
10回	第9回の木取りについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節1.を読み、けがきについての理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
11回	第10回のけがきについて整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。教科書第6章2節2.を読み、切断作業について理解を深め課題をもって授業に臨むこと(標準学習時間120分)。

1 2 回	第 1 1 回の切断について整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 2 節 3 . を読み、かな削りについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 3 回	第 1 2 回のかな削りについて整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 2 節 6 . を読み、組み立てについて理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 4 回	第 1 3 回の組み立てについて整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。教科書第 6 章 2 節 1 項を読み、塗装について理解を深め課題をもって授業に臨むこと（標準学習時間120分）。
1 5 回	第 1 4 回の塗装について整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。今までの講義内容を振り返り、作品評価の観点について自分の考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。
1 6 回	第 1 回～第 1 5 回の内容をよく理解し、整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校学習指導要領における技術・家庭の目標や技術分野の目標を達成するために木材加工に必要な基礎的、基本的な知識・技能を習得するとともに、中学校技術科教員として学習指導に活かせる能力の基礎を身に付ける。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針 H - 1 にもっとも強く関与）
達成目標	（ 1 ）木材の基本的な特性が説明できる。 （ 2 ）木材の加工法および木工具・木工機械の使用法を説明できる。 （ 3 ）木材の基本的な加工ができる。
キーワード	木材、木材の種類、木材の性質、木材の塗装、木材加工、木工具、木工機械
成績評価（合格基準60	提出課題（10%）、作品（30%）、最終評価試験（60%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	木材加工実習、技術科教育法 、技術科教育法 、技術科教育法 、技術科教育法
教科書	技術教育選書 木材の性質と加工 / 井上裕之他著 / 開隆堂 / 9784304020056
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	研究室：工学実習棟 2 階
注意・備考	・中学校技術科教員免許状取得のための科目である。 ・電子教材を液晶プロジェクターで投影して授業を行う。 ・第 2 回・ 3 回・ 6 回・ 7 回の提出課題については、添削した後に返却する。
試験実施	実施する

科目名	数学教育法 【月2水2】 (FC04B210)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics II
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	2 年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを実施する。
2 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における内容確認とアクティブラーニングや数学的活動についての整理をする。
3 回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業とその検討をする。
4 回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業とその検討をする。
5 回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業とその検討をする。
6 回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業とその検討をする。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
8 回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
9 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
10 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
11 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
12 回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
13 回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
14 回	高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
15 回	授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、数学的活動について課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
3 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
4 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
5 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
6 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
7 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
8 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
9 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
10 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
11 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
12 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
13 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
14 回	アクティブラーニングや数学的活動を観点として、高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
15 回	アクティブラーニングや数学的活動について復習してくること (標準学習時間180分)。

講義目的	中学校の数学教員免許状を取得するための必修科目であり、アクティブラーニングを観点にしながら「数学教育法」で学んだ理論を実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわ
------	---

	しい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	アクティブラーニングを観点にしながら数学科授業を構成するとともに、「数学教育法」で学んだ理論を実践することを通して、実践的スキルを習得する。
キーワード	中学校数学科，高等学校数学科，アクティブラーニング，数学的活動，模擬授業
成績評価（合格基準60	レポート（60%），授業中の課題（40%）により評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法，数学教育法，数学教育法
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編（現行カリキュラム）／文部科学省／教育出版：中学校学習指導要領解説 数学編（新カリキュラム）／文部科学省／日本文教出版：高等学校学習指導要領解説 数学編／文部科学省新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編／ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際＜中学校・高等学校（必修）＞／聖文新社：高等学校 数学教育の展開／聖文新社
連絡先	福田研究室 A2号館8階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・「数学教育法」を修得していることが望ましい。レポート作成は準備学習と講義内で行うが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動，模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施しない

科目名	理科教育法 【月2水2】 (FC04B220)
英文科目名	Teaching Method of Science II
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 藤本義博 (ふじもとよしひろ)
対象学年	2 年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	中学校学習指導要領における理科の目標の変遷について解説するとともに, 観点別学習状況の評価についての考え方を解説する。 (藤本 義博)
2 回	第1分野・第2分野の特徴について考察するとともに, 各分野の内容に関する授業展開の方法について解説する。 (藤本 義博)
3 回	「エネルギー」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
4 回	「粒子」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
5 回	「生命」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
6 回	「地球」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
7 回	「科学技術と人間」及び「自然と人間」に関する学習内容について, 学習指導要領におけるねらいを解説するとともに, 観察・実験例を紹介する。 (藤本 義博)
8 回	第1回～第7回の授業内容について, 中学校学習指導要領解説理科編 (平成20年7月) 中学校学習指導要領解説理科編 (平成29年6月) の新旧を対応させながら振り返りを行う。 (藤本 義博)
9 回	学習指導案の作成方法や作成上の留意事項などについて解説する。 (岡本 弥彦)
10 回	「エネルギー」に関する学習内容について, 学習指導案 (本時案) の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
11 回	「粒子」に関する学習内容について, 学習指導案 (本時案) の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
12 回	「生命」に関する学習内容について, 学習指導案 (本時案) の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。 (岡本 弥彦)
13 回	「地球」に関する学習内容について, 学習指導案 (本時案) の作成を通して, 授業の工夫・改善のポイントを考察する。

	(岡本 弥彦)
14回	各自が作成した本時案について、自己評価・相互評価を通して、授業づくりのポイントを考察する。
	(岡本 弥彦)
15回	中学校理科の課題や授業づくりの課題などについて考察を深めるとともに、そうした課題に対応するための指導方法の例を紹介する。
	(岡本 弥彦)
16回	最終評価試験を実施する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】中学校の理科の目標、評価の観点から暗唱できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)のp.18-22, p.58-62を読み、第1分野・第2分野の目標を理解しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】各分野の特徴や指導展開の方法を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
3回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「力の働きについて」(p.26～)、「電流・電圧と抵抗について」(p.35～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「エネルギー」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
4回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「気体の発生と性質について」(p.30～)、「中和と塩について」(p.52～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「粒子」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
5回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「刺激と反応について」(p.75～)、「細胞分裂と生物の成長について」(p.84～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「生命」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
6回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「霧や雲の発生について」(p.80～)、「日周運動と自転について」(p.87～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「地球」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
7回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)の「エネルギー資源について」(p.54～)、「自然環境の調査と環境保全について」(p.92～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】評価の観点からの目標設定を確認するとともに、授業で取り上げた「科学技術と人間」「自然と人間」に関する基本用語を説明できるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
8回	【予習】第1回～第7回の授業内容を復習しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】理解度や定着度の低かった内容について、対応できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】理科教育法 における学習指導案作成に関する授業内容を復習しておくこと(標準学習時間90分)。 【復習】学習指導案(特に本時案)の作成方法や作成上の留意事項を理解しておくこと(標準学習時間90分)。
10回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)ア 光と音」(p.23～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「エネルギー」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
11回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(4)ア 物質の成り立ち」(p.39～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「粒子」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
12回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(1)イ 植物の体のつくりと働き」(p.63～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「生命」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
13回	【予習】中学校学習指導要領解説理科編の「(2)ア(㍑) 火山活動と火成岩について」(p.68～)を読んでおくこと(標準学習時間90分)。 【復習】「地球」に関する授業のポイントを理解しておくこと(標準学習時間90分)。
14回	【予習】第10回～第13回の授業で作成した本時案を完成させておくこと(標準学習時間120分)

	分)。 【復習】第9回～第14回の授業全般を通して、授業づくりのポイントを理解しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】本授業全体を振り返り、中学校理科の目標や内容、学習指導案作成のポイントなどを理解しておくこと(標準学習時間180分)。 【復習】中学校における理科教育に関して、各自の指導観を述べるができるようにしておくこと(標準学習時間90分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)。

講義目的	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容を十分に理解し、中学校の理科教員として必要な知識や技能を習得するとともに、その知識や技能を理科の授業づくりに活用できる能力を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	中学校の学習指導要領における理科の目標と内容について理解を深める。 理科の効果的な指導方法や評価方法、授業づくりのポイントなどについての考えを深める。 観察・実験の進め方や学習指導案の作成方法などを実例に基づいて理解する。
キーワード	理科教育、学習指導要領、中学校、授業づくり
成績評価(合格基準60%)	ワークシート40%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。
教科書	中学校学習指導要領解説理科編平成20年7月/文部科学省/大日本図書/9784477019796:中学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/学校図書/9784762506130
参考書	「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の調査結果」 「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校理科」 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」 「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」 その他は授業中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては、内容を確認した後に返却する。 小集団でのグループ協議などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	道德教育の理論と方法【月2水2】（FC04B310）
英文科目名	Theory and Method of Moral Education
担当教員名	野島淑子*（のじまよしこ*）
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、学校における道德教育、「道德の時間」の意義について確認し、31年度からの「道德の時間」の教科化についての経緯にも触れたい。そして、学校教育活動における道德教育実践の紹介、教員としての心構えや願い、講義内容の紹介を行う。また、今まで体得している自身の道德性について再考する機会とする。講義における約束事や認定評価について説明する。
2回	人間の道德性の発達を調査実証して理論的に確立したコールバーグの「道德性認知発達理論」について学習する。コールバーグのジレンマ資料で実践を試み、自らの道德性に向き合う。さらにグループセッションを通して他者の思考判断に触れることで、自らの価値体系を鑑みる機会とする。一般に他律から自律へと発達する人間の道德性発達過程における環境（学校及び家庭や地域等）による影響力の大きさ、自らの体験に照らした価値把握について考え、学校における道德教育の意義を理解する。
3回	現在、日本の文化や日本人の思考に共通する源を理解するためには、日本古来の人々の精神的拠り所は何であったかを知り、学問的思考を確立した近代の教育体系や社会状況と道德教育の歴史を紐解くことによって理解することができる。近代道德の歴史と課題 「近代から太平洋戦争まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
4回	挙国一致の戦時体制の中で、多くの若者を死に追いやった反省を踏まえて戦後、基本的人権の尊重を柱に社会情勢はめまぐるしい変化をとげ、人々の生活や価値観は大きく代わり、今や世界の先進国日本として大きく飛躍発展した。戦後70年、学校教育、特に道德教育がいかなってきたか、そして「修身科」のトラウマを越えて設定された「道德の時間」が「道德科」として教科化されるに至った経緯を知ることによって、道德教育について理解を深める。道德教育の歴史と課題 「戦後から現在まで」について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
5回	学校における道德教育の要となる「道德の時間」が設置されてから約60年、紆余曲折を経てこの度、領域から教科として「道德科」が新設された。現在の学校現場における道德教育及び「道德の時間」の現状と課題について理解し、道德教育の歴史を振り返りながら、教師として子どもたちになすべきことは何か、自分はどうかありたいか、どうあるべきかを考える。「中学校学習指導要領解説 道德編」を基に、改訂版も踏まえて、学校における道德教育と「道德の時間」の目標について解説する。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。
6回	日々の人間の行動の判断基準となる道德的価値は何か、生育歴の中で培った価値観は人それぞれである。人間が社会集団の中で生きて行かなければならない存在であるならば、それらの価値は何らかの形で社会規律に影響を受ける。よりよく生きるために備えておきたい道德性の窓口となる「内容項目」について理解を深め、自己の構築してきた道德的価値を再確認する。「内容項目と指導の観点」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Aの視点、Bの視点」について学習し、自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ割り当てられた価値項目について自分の考えを発表し、他者の考えを知ることによって道德的価値についての理解を深める。
7回	「内容項目と指導の観点」では、4つの視点に分類された22項目のうち、内容項目Cの視点、Dの視点について学習する。自分の価値観と照らし合わせ、また他者の価値観を知ることによって理解を深める。それぞれ割り当てられた価値項目について自分の考えを発表し、他者の考えを知ることによって道德的価値についての理解を深める。
8回	学校における道德教育の組織体制や道德学習計画等についてその実際を学ぶ。学校における教育活動全体を通して行われる道德教育とその要となる「道德の時間」との関連を表した組織図である「全体指導計画」及び「道德の時間」の各学年毎の「道德年間指導計画」の実際を解説する。そして、「道德の時間」を運営指導するための「道德学習指導案」について解説する。他教科とは異なる指導形態となる道德の時間は、毎時間の学習指導案は不可欠であり、指導者の価値観や生徒理解、また指導工夫や準備が大切になることを理解する。現在の道德教育の課題について知り、「道德の時間」の教科化に向けていかにあるべきかを主体的に考える。課題に対する意見感想をレポートとして提出する。課題については、次時の授業において発表し意見交換をして深化させる。

9 回	学校におけるすべての教育活動との関連において、道徳教育の目標、「道徳の時間」の目標及び授業の観点について解説する。道徳の時間は、「ねらい」とする道徳的価値を如何に自覚させるかにある。そのため資料の選択の工夫、さらに授業を展開するための「道徳学習指導案」作成の仕方を解説する。指導者の発問と生徒の反応を主体に展開する道徳授業は他教科の形式とはやや異なる。具体例を基にして、「学習指導案の作り方とその工夫（「ねらい」を達成するための工夫と観点）について学習する。
10 回	「道徳学習指導案の作り方の工夫（資料分析と学習指導案）」について学習する。道徳的価値の把握には心に響く資料が不可欠である。しかし、資料はあくまで手段として使うものであり、資料の解釈に終わってはならない。資料中の価値が何であり、どのように価値を把握させていくか事前に考えておかなければならない。そのために資料分析、「ねらい」する価値に迫るための発問構成は授業の善し悪しを左右する。共通の題材資料でグループ討議をしながら資料分析を行い、資料中の登場人物の心情や行動について理解を深め学習指導案作成の演習をする。ねらいとする価値、発問構成を考えグループの授業展開をまとめる。グループ毎にまとめた発問構成の発表を行い、それぞれの有効性を共有し、道徳学習指導案の作成技能を高める。
11 回	前時の共通の資料で検討した発問構成を参考に、道徳学習指導案を完成させる。有効な発問の仕方、予想される生徒の反応、指導者の観点等、実際に授業を想定した独自の道徳学習指導案を作成する。学習指導案は指導者の価値観や願い表れたものでないと「ねらい」に迫ることは出来ない。実際に授業が出来る学習指導案を作成するには、まず自分がその資料についてよく理解し、いかに生徒の反応を引き出すかにある。他者との意見交換は、より思考を深めることが出来る。同時に学習指導案を基にした板書計画についても学習し作成する。道徳学習指導案作成演習（グループ学習）をする。
12 回	自分にとっての資料の善し悪しは、価値観に拠るところが多いが、それぞれが選択した資料を持ち寄りグループ内で検討する。他者が心を動かされた資料を知ることも参考になる。グループ内で協議して選択した資料を基に、学習指導案を作成する。展開における発問構成、発問の内容など基本的な部分をグループで意見交換をしながら集約していく。その過程で自己の考えや展開方法を深めていく。予想される生徒の反応や指導上の留意点等は、各自の考えや価値感を鑑みながらそれぞれ自身が授業できると考える学習指導案を完成する。同時に板書計画も作成する。
13 回	学習指導案があれば「ねらい」を達成する授業展開が出来るわけではない。自分で作成することに意義がある。その上で「道徳授業の工夫と観点」を学習する。道徳の授業は、生徒の発言が授業の成り立ちに影響する。資料中の人物が価値を把握する過程、行動、心情を自分と重ねて考えられるように、補助発問や切り返しの応答など臨機応変の反応が求められる。教師の願いを出しながら生徒受容の姿勢も大切なことである。また、資料内容の理解を深めるための場面絵など板書計画の工夫や授業態形も大きな要素である。教師の模擬授業で実際に示したい。同時に視聴覚教材を使った授業展開も紹介する。
14 回	グループ代表1名をによる模擬授業を行う。自身の作成した道徳学習指導案をもとに、模擬授業を体験する。頭で考えた授業展開と実際の授業との違いや気づきを体験することの意義は大きい。一方仲間による模擬授業の体験を通して、生徒の立場と教師の視点で授業に参加することも貴重な体験となる。授業後互いに授業評価を発表し合い、それぞれ参考にしたいことや課題を共有することで道徳授業への理解と意欲を高める。
15 回	まとめをする。道徳の時間は、学校の道徳教育の要としての位置づけがある。よって道徳の時間だけでなく事前・事後の指導、他の教育活動との関連も図る必要がある。また、よりよい人間関係を構築する学級経営を軸に家庭・地域との連携協力の工夫や手段も大きな要素である。そして、道徳の時間は、生徒と教師が互いによりよい生き方を求めて同じ土俵で学び合う時間であることを再確認する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	将来、教職に就く決意や願いを確認しておくこと。子どもの発達段階において、自分は何時どのようにして社会性（道徳性）を体得してきたのか振り返ってみること。そして、学齢期の子どもたちの道徳性育成と将来の社会的自立に向けて、教師としてどのような支援が大切であるか考えておくこと（標準学習時間120分）。
2 回	「よりよく生きる」とはどういうことか、日々自らが行動の判断としている道徳的価値基準はどうか、大人になった自分がどのような価値体系（自分が大切にしている価値観）を持っているかについて自己と対話しておくこと（標準学習時間120分）。
3 回	日本の古代の歴史や綿々と受け継がれてきた文化習慣や精神構造に目を向けておくこと。近代以前の歴史の一般化に比べ、明治以後の歴史については浅い知識に留まっている傾向がある。さらに教育の観点から歴史を紐解くことも少ない。今も尚、深い反省の上にある道徳教育について理解するために、明治から世界大戦前の人々の生活や考え方について資料があれば触れておくこと（標準学習時間120分）。
4 回	家族や地域の人々との関係の中で、自分が記憶にある教えやしつけ、または自分が受けてきた学校における道徳教育、「道徳の時間」を振り返り、学んだことで最も心に残っていることは何か再確認をしておくこと。さらにより理解を深めるために、戦後日本の高度成長期における社会情勢や人

	々の価値観の変異を歴史的、経済的、国際的な視点から理解しておくこと（標準学習時間120分）。
5 回	教科書「中学校学習指導要領 道徳編」p. 1～39を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.40～50を読み、まとめておくこと。自身の担当項目については、解説やそれに対する自分の価値把握を下に考えをまとめ、自分の意見や感想が十分発表ができるよう準備をしておくこと。また、他者の考えや感想を聞くことを通して、自身の価値観について再確認する。授業後の指定期日までに、Aの視点からBの視点までの9項目の内容項目について、自身の中にある道徳的価値を見つめ、「道徳の時間」の指導に当たって何を大切にしたいか自身の言葉でまとめ、所定の用紙でレポートを作成し提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
7 回	教科書「中学校学習指導要領解説道徳編」p.51～63を読み、まとめておくこと。自身の担当項目については、解説やそれに対する自分の価値把握を下に考えをまとめ、自分の意見や感想が十分発表ができるよう準備をしておくこと。また、他者の考えや感想を聞くことを通して、自身の価値観について再確認する。授業後の指定期日までに、Cの視点からDの視点までの13項目の内容項目について、自身の中にある道徳的価値を見つめ、「道徳の時間」の指導に当たって何を大切にしたいか自身の言葉でまとめ、所定の用紙でレポートを作成し提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
8 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.64～p81を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.82～p103を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.82～103を読んでおくこと。また、道徳価値を自覚するために、その手段となる資料は、自分が持っている価値との関連で、心に響くものであればジャンルを問わない。資料への関心を深め、資料を読み取り、登場人物の心情・行動について理解する力を養うこと（標準学習時間180分）。
11 回	「内容項目」について再度確認するとともに、グループ討議した発問構成、更に各グループの発表内容を参考にしながら、「ねらい」とした価値を自分はどうのように展開して独自の学習指導案を考えておく。（標準学習時間180分）
12 回	参考書などを通して様々な資料や学習指導案に触れておくこと。グループ討議を基に、自身が「ねらい」とする価値を生徒に自覚させることができる「道徳学習指導案」を完成させて提出すること。作成した学習指導案、板書計画は添削した後返却する。また、次時までに今までに自分が最も心に響いた資料をそれぞれ発掘し、選択してくること。（標準学習時間150分）
13 回	道徳の授業において大切なことは、資料の読み取りに終わることなく、自己の問題としてとらえ、「ねらい」とした価値を今後どのようにこれからの自分に生かしていけるかである。展開はその中心であるが、導入や終末の工夫及び教師の観点、留意点も同時に大切な要素である。グループ毎に自分たちで選択した資料で作成した道徳学習指導案を完成させ、「板書計画」とともに提出すること。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。（標準学習時間180分）。
14 回	各自作成した道徳学習指導案で、模擬授業から得られた情報をもとに自分はどうのように授業展開するかシュミレーションをしてみる（標準学習時間180分）。
15 回	教科書「中学校学習指導要領解説 道徳編」p.104～128を読んでおくこと。1～15講座の内容を復習し、要点をまとめること。道徳教育及び「道徳の時間」についての意義を確認しておくこと。教師の心構えや夢や目標への意欲を高めておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	学校教育の中で、教師の役割と責任は大きい。学校教育法の改定では、人格の形成の重要性と共に学校教育活動において、「知・徳・体」を備えた生徒の育成が求められている。近年の急激な社会情勢の変化の中で価値の多様化が進み、それは子どもたちにも影響し社会問題化している。深刻ないじめ問題と共に子どもたちの心の教育が問われている。特に、自我に目覚め、自らの生き方を模索している生育期における道徳教育の意義は大きい。学校教育の現状と課題を概観し、学校における道徳教育の基本的立場とその要となる「道徳の時間」との関連について理解を深め、「道徳の時間」の充実を図るための方法と工夫を学ぶ。よりよく生きていくために、日々の行動の判断基準となる道徳性を育てるためにはどうすればよいか。「道徳の時間」を展開するための「道徳学習指導案」作り方の演習を通して、「ねらい」とする道徳的価値について考え、自覚させる観点と方法を身につける。「道徳の時間」の教科化実施に向けて、作成した道徳学習指導案による模擬授業などの体験を通して実践への意欲を高める。また、誰しも願うよりよく生きるための道徳性は、子どもたちに限らず教師にとっても生涯の課題である。「道徳の時間」は、共に学び求めていくという姿勢で、教師を目指す自身の道徳性についても問い直す機会とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-3にもっとも強く関与）
達成目標	学校は、人の学齢期における人格形成の重要な位置を占める。学校における道徳教育についての理解を深め、その現状と課題を知り、さらに日本が歩んできた道徳教育の歴史を学ぶことを通して主体的に考え、次世代を育てるための自覚と責任を養う。全学校教育活動における道徳教育の位置づけと目標、その要となる「道徳の時間」の目標を達成するための方策を示した「全体計画」を理解した上で、「道徳の時間」の指導の方法や工夫を学ぶ。よりよく生きていくための道徳性を子供に

	自覚させるのは簡単ではない。手段として用いる資料は、あくまで価値を自覚させるためのツールであることを理解し、資料を読み取る力や感性を高め、また道徳的価値の内容（内容項目）についても自己の道徳性を鑑み理解を深める。そして、自らが心に響く資料を用いて授業展開するための「道徳学習指導案」を作成することができるようにする。そして、作成した学習指導案で実践した模擬授業を通してスキル養い、道徳授業の実践意欲を持てるようにする。また、「道徳の時間」を有効にするためには、学級経営が基本であること、学校組織や家庭・地域の協力が必要であることを踏まえて、人間関係構築の大切さを知る。次代を担う子どもたちを育てる教師としての使命感と責任感をもつ。
キーワード	「手間ひまかけることを厭わない」
成績評価（合格基準60）	授業での課題レポート、内容項目まとめレポート、道徳学習指導案等の評価（40％）、グループ学習での発表、意欲態度（10％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	「教育学原論」「教育心理学」
教科書	中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 / 文部科学省 / 教育出版 / 9784316300849
参考書	・「学校道徳教育入門」 / 渡邊弘編 / 東洋館出版 ・「道徳教育論」 / エミール・デュルケム（麻生誠・山村健訳） / 講談社学術文庫 ・「中学校道徳教育の基本的課題」 / 金井 肇 / 明治図書出版 ・「心のノート」を生かす道徳授業 / 金井 肇編 / 明治図書出版 ・「私たちの道徳 中学生版」 / 文部科学省
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	・履修者数が50名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 ・原則として、毎時間課題レポートを提出すること。 ・宿題レポート及び学習指導案は自作で手書きを原則とする。 ・レポート等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・介護等体験や教育実習を含めて欠席は4回までを原則とする（やむを得ない場合は申し出ること）。
試験実施	実施する

科目名	教育学原論【月3水3】(FC04C110)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	皿田琢司(さらたたくじ)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的、指導方針・計画について理解を図る。教育という仕事の魅力と責任について理解を図る。
2回	教育とは何か(1)。教育の意義・必要性・可能性について理解を図る。
3回	教育とは何か(2)。発達段階と発達課題のかかわりから教育観の変遷について理解を図る。
4回	教育の思想(1)。教育観の歴史的変遷が2つの流れに大別されることについて理解を図る。
5回	教育の思想(2)。文化遺産の伝達を重視する教育観の変遷について理解を図る(クリーク、デュルケム、パウルゼンなど)。
6回	教育の思想(3)。子どもの自己発展を重視する教育観の変遷について理解を図る(ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど)。
7回	教育の思想(4)。主な統合的教育観について理解を図る(デューイ、シュプランガーなど)。
8回	教育の目的(1)。社会の動向と教育観・教育目的の関連について、略年表を通して考察する。
9回	教育の目的(2)。古代から近世にかけての西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
10回	教育の目的(3)。近代以降の西洋における教育の歴史的変遷について理解を図る。
11回	教育の目的(4)。古代から近世にかけての日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
12回	教育の目的(5)。近現代の日本における教育の歴史的変遷について理解を図る。
13回	生涯学習とその支援・評価。生涯にわたる学びの支援の意義と理念、評価のあり方について理解を図る。
14回	公教育の理念としくみ。公教育の歴史と思想をもとに、公教育機関を支える理念と管理運営の基本的枠組みについて理解を図る。
15回	教育公務員の職責。教育職に求められてきた責任と役割について、歴史的観点から理解を図る。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスと教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。教育に係る公職の特徴について、手近な書籍や新聞等をもとに、一般的な見解を整理しておくこと。指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間60分)
2回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
3回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
4回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
5回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
6回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
7回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
8回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。必要な準備物を確認しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。(標準学習時間80分)
9回	教科書の該当箇所(巻末資料を含む)と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教

	育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
10回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
11回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
12回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
13回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
14回	教科書の該当箇所（巻末資料を含む）と配付資料に目を通しておくこと。学習主題に焦点づけて教育実践に自らかかわることを想定しながら、指示された課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
15回	到達目標を再確認し、教育実践に自らかかわることを想定しながら、学習過程全体を振り返ること。（標準学習時間120分）
16回	教育に係る公職に求められる職責と役割に鑑み、自らの今後の課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間80分）

講義目的	教育職員免許法施行規則第6条及び博物館法施行規則第1条に基づき、学校の教員または社会教育の指導系職員に求められる教育の基礎理論のうち教育（生涯学習に関するものを含む。）の理念並びに教育に関する歴史及び思想を（受講者が）修得することを目的とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1に最も強く関与）
達成目標	- 人間にとってなぜ教育が必要であることを説明することができる。 - 教育思想や教育観を中心とした教育史の概要を整理することができる。 - 教育の目的・目標、内容、方法が歴史的にどのような要素から形成されてきたのかを説明することができる。 - 公教育を成り立たせてきた基本的な考え方について説明することができる。 - 望ましい教育のあり方を考えるための基本的な手がかりについて説明することができる。
キーワード	教育観、教育理念、教育史、教育思想、教育職員免許法、教職課程、公教育、学校教育、社会教育、生涯学習、博物館、博物館学芸員
成績評価（合格基準60	平素の学習の取り組み（課題の作成と提出）（60～40％）、最終評価試験の評定点（40～60％）を合算し、100点満点中60点以上を合格とする。これらの比率は受講者の学習状況により調整する。なお、最終評価試験の受験は、指示されたすべての課題を所定の要領により提出した者にのみ認める。
関連科目	- 基礎理学科生は教育基礎論を履修すること。 - 教員免許状または博物館学芸員資格の希望者を対象とする。本科目担当教員は2名であるが（教育学部を除く）、教員免許状の取得を希望せず学芸員資格の取得のみを希望する者は、皿田担当の教育学原論を受講すること。 - 教員免許状の取得を希望する者は、教職課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。 - 博物館学芸員資格取得を希望する者は、博物館学芸員課程の履修に関する指示をよく確認しておくこと。
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比兒・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 / ISBN978-4-86429-370-9
参考書	授業の中で適宜解説、紹介、または指示する。
連絡先	B2号館3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714
注意・備考	- 履修できる学部・学科をよく確かめること。 - 取得をめざす資格（と関連職務）の特性に応じ、謙虚にかつ不断に学び続けることが望ましい。 - 平素から新聞に目を通するとともに、専攻分野を中心に幅広く読書を励行することが望ましい。 - 指導計画は受講状況により変更することがある。講義形態を基本とするが、学習状況によってはアクティブラーニングを加味することがある。 - 連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。 - 授業で課された提出物はすべて点検し、必要に応じて添削する。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。
試験実施	実施する

科目名	教育の方法と技術【月3水3】(FC04C210)
英文科目名	Educational Method and Technique
担当教員名	津田秀哲*(つだひでのり*), 森敏昭(もりとしあき)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業ガイダンス。幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)の第1章を解説する。 (全教員)
2回	第1回資料をもとに、第3章、第5章を解説する。 (全教員)
3回	教科書 第1章「教育方法」について解説する。 第1節 学校教育 第2節 学校教育の課題 第3節 新しい学力観 (全教員)
4回	教科書 第3章(第2節、第3節)について解説する。 第2節 学習指導の形態 第3節 教育機器の活用 (全教員)
5回	教科書 第4章(第1節、第2節)について解説する。 第1節 教科指導 第2節 教材と教科書 (全教員)
6回	教科書 第4章(第3節)について解説する。 第3節 教科指導の展開 (全教員)
7回	PISA2015の結果、TIMSS2015の結果資料をもとに説明し、世界で通用する学力とは何か考える。 (全教員)
8回	平成10年以降に始まった教育の情報化施策について解説する。 (全教員)
9回	「教育の情報化に関する手引き」を解説し、どのような場面での活用が期待されているか解説する。 (全教員)
10回	教科書 第2編「情報機器および教材の活用」第1章「高度情報通信社会と情報教育」について解説する。 (全教員)
11回	従来から教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、急速に導入され始めたタブレットをはじめとした情報機器や教材を活用した指導法の長所と短所を比較しながら解説をする。 (全教員)
12回	第2章「パソコン活用による学校教育の改善」について解説する。 第1節 パソコンによる学習指導の改善 第2節 学校運営とパソコン

	第4節 パソコン活用のモラルと著作権 (全教員)
13回	第3章「パソコン活用と教材開発」第3節プレゼンテーションの手法を解説する。 第14回、第15回の実習および発表に向けた班分けを行う。 (全教員)
14回	与えられたテーマを生徒に分かりやすく説明するためのプレゼンテーションを作成する。 (全教員)
15回	作成したプレゼンテーションを班毎で発表し互いに評価する。発表後、出された意見を参考に、プレゼンテーションを再構築する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】授業で配付・説明する(中教審第197号)を読み、第1部第1章の内容及び第2章が説明できるようにしておくこと(標準学習時間120分)。
2回	【予習】上記資料の第3章、第5章を読み、どのような力を身に付けさせる必要があるか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】文部科学省のホームページより次期学習指導要領「小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」を読み、第1回第2回の講義で扱った内容をどのように反映しようとしているかまとめること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】テキスト第1章を読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】現行学習指導要領が目指した、新しい学力観についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】第3章(第2節、第3節)を読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】主な学習指導の形態やその長所と短所についてまとめること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】教科書第4章(第1節、第2節)を読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】望ましい授業とは何か。教科書と補助教材の位置づけについてまとめておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】教科書第4章(第3節)を読んでおくこと(標準学習時間60分)。 【復習】授業で配付された数学科の年間指導計画、学習指導案をよく読み、授業のイメージづくりし、自分なりの板書イメージを作成すること(標準学習時間120分)。
7回	【予習】インターネットによりTIMSS2015の結果、PISA2015の結果を考察し、子供たちに求められる力とは何かを考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】自分がイメージする学力の定義と国際的な学力の定義を比較し、自分の考えをまとめること(標準学習時間60分)。
8回	【予習】インターネットで、教育の情報化にはどのようなものがあつたか調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教育の情報化施策に多額な予算が投じられたにもかかわらず、教育の情報化が進まなかった理由についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】「教育の情報化に関する手引き」(平成22年文部科学省)をインターネットや図書で検索し、第2章～第7章までのポイントをまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】講義を受け、予習でまとめた内容の加筆修正を行うこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】第2編第1章を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】我が国の従来の指導方法とICTを積極的に教育に活用している国の教員の意識の違いをまとめておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】従来の学習形態と、タブレット端末を活用した場合、パソコンを活用した場合の長所と短所を考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】講義を受け、3者の長所と短所を表にまとめること(標準学習時間60分)。
12回	【予習】第2章を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】ネット上の著作物を活用するときの根拠を、学習場面で活用する場合とそれ以外で活用する場合を比較しながらまとめること(標準学習時間120分)。
13回	【予習】第3章を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】効果的なプレゼンテーションについてまとめておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】生徒の心に訴えかけるプレゼンテーションを作成するためのポイントをまとめておく。(標準学習時間60分)。 【復習】自分たちが考えた教材での効果的なプレゼンテーションづくりを行うこと(標準学習時間180分)。
15回	【予習】班毎でプレゼンテーションを作成し発表の準備を行うこと(標準学習時間180分)。 【復習】講義での発表をもとにプレゼンテーションを改善・完成し提出すること(標準学習時間60分)。

	0分)。
講義目的	本授業では、理論と実践の両面からアプローチすることにより、実践的指導力の基礎を培うことを目的としている。従来から教科書やノート、黒板を用いた学習形態の意義とあわせて、急速に導入され始めたタブレットをはじめとした情報機器や教材を活用した指導法の在り方について解説をする。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、小集団毎でタブレット端末を使った教材づくり、効果的なプレゼンテーションづくり、発表を通して実践的指導力を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針C - 5にもっとも強く関与)
達成目標	メディアには光と影などで表現されるプラスとマイナスの両面を持っている。教育実践の中で、従来の教科書やノート、黒板を用いた授業に加え情報機器やデジタル教材を用いることの意義を理解し、児童生徒一人一人が主体的に学習に参加できる教材研究に意欲的に取り組もうとすることが出来る。
キーワード	指導方法、情報機器活用、教育の情報化
成績評価(合格基準60)	授業後レポート(30%)、教材づくりに対する評価(自己評価+他者評価)(30%)、教材と発表(40%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	各教科の教育法
教科書	教職必修 教育の方法と技術 / 教職課程研究会 / 実教出版 / 9784407303445
参考書	適宜指示する。
連絡先	A2号館8階 津田
注意・備考	提出されたレポートについては、添削した後に返却する。
試験実施	実施しない

科目名	数学教育法 【月3水3】 (FC04C310)
英文科目名	Teaching Method of Mathematics IV
担当教員名	福田博人 (ふくだひろと)
対象学年	3 年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	応用数学科, 基礎理学科, 情報科学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを実施する。
2 回	中学校数学科ならびに高等学校数学科における内容確認とESDや文脈についての整理をする。
3 回	中学校数学科における「数と式」領域の模擬授業とその検討をする。
4 回	中学校数学科における「図形」領域の模擬授業とその検討をする。
5 回	中学校数学科における「関数」領域の模擬授業とその検討をする。
6 回	中学校数学科における「データの活用」領域の模擬授業とその検討をする。
7 回	高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
8 回	高等学校数学科における「整数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
9 回	高等学校数学科における「図形」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
10 回	高等学校数学科における「関数」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
11 回	高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
12 回	高等学校数学科における「確率」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
13 回	高等学校数学科における「統計」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
14 回	高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の模擬授業とその検討をする。
15 回	授業全体の総括をする。

回数	準備学習
1 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」を読んで、授業で扱うべきトピックについて課題を考えておくこと (標準学習時間180分)。
3 回	ESDや文脈を観点として、中学校数学科における「数と式」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
4 回	ESDや文脈を観点として、中学校数学科における「図形」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
5 回	ESDや文脈を観点として、中学校数学科における「関数」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
6 回	ESDや文脈を観点として、中学校数学科における「データの活用」領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
7 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「数と式」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
8 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「整数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
9 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「図形」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
10 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「関数」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
11 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「微分法・積分法」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
12 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「確率」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
13 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「統計」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
14 回	ESDや文脈を観点として、高等学校数学科における「数学活用」に関わる領域の指導法を考えてくること (標準学習時間180分)。
15 回	ESDや文脈について復習してくること (標準学習時間180分)。

講義目的	ESDならびに文脈を観点にしなが「数学教育法」で学んだ理論を実践する講義である。数学教員の免許状を所有する者にふさわしい力量を高めるため、数学の各分野における具体的な課題に取り組み、その模擬授業を通して、数学科授業における課題と展望を考察する。
------	--

	(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	ESDならびに文脈を観点にしながら数学科授業を構成するとともに、「数学教育法」で学んだ理論を実践することを通して、実践的スキルを習得する。
キーワード	中学校数学科，高等学校数学科，ESD，文脈，模擬授業
成績評価（合格基準60	レポート（60%），授業中の課題（40%）により評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	数学教育法，数学教育法，数学教育法
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	中学校学習指導要領解説 数学編（現行カリキュラム）／文部科学省／教育出版：中学校学習指導要領解説 数学編（新カリキュラム）／文部科学省／日本文教出版：高等学校学習指導要領解説 数学編／文部科学省新しい学びを拓く 数学科 授業の理論と実践 中学・高等学校編／ミネルヴァ書房：新訂 数学教育の理論と実際＜中学校・高等学校（必修）＞／聖文新社：高等学校 数学教育の展開／聖文新社
連絡先	福田研究室 A2号館8階 hfukuda@xmath.ous.ac.jp
注意・備考	・「数学教育法」を修得していることが望ましい。レポート作成は準備学習と講義内で行うが，詳細については講義内で指示する。 ・課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 ・小集団でのグループ活動，模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜，採り入れる。 ・撮影は構わないが，事前に申し出ること。 ・録音は禁止する。やむを得ない理由がある場合は，事前に申し出ること。
試験実施	実施しない

科目名	教育心理学【月4水4】（FC04D110）
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	中島弘徳（なかじまひろのり）
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の概要について説明する。
2回	教育心理学の教育における位置づけと歴史について説明する。
3回	学習の過程（1）：外界からの情報を取り入れるまでの過程について説明する。
4回	学習の過程（2）S-R連合理論について説明する。
5回	学習の過程（3）認知学習について説明する。
6回	動機・情緒・フラストレーションについて説明する。
7回	記憶のメカニズムと特徴について説明する。
8回	忘却のメカニズムについて説明する。
9回	心身の発達（1）発達の規定要因について説明する。
10回	心身の発達（2）発達の原理について説明する。
11回	発達段階について説明する。
12回	発達課題について説明する。
13回	発達がい概念や基礎について説明する。
14回	発達障がいのある生徒の援助について説明する。
15回	教育評価と学校におけるルールについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】学校教育の目的について、教育基本法、学校教育法を読んで考えておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学校教育の目的について復習すること（標準学習時間120分）。
2回	【予習】教育心理学の位置付けについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育心理学の位置付けについて復習すること（標準学習時間120分）。
3回	【予習】感覚・知覚・認知について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】感覚・知覚・認知について復習すること（標準学習時間120分）。
4回	【予習】S-R連合理論について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】S-R連合理論について復習すること（標準学習時間120分）。
5回	【予習】認知学習について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習の理論や特徴について復習すること（標準学習時間120分）。
6回	【予習】動機・情緒・フラストレーションについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学習の動機付けについて復習すること（標準学習時間120分）。
7回	【予習】記憶について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】記憶の理論と勉強の仕方について復習すること（標準学習時間120分）。
8回	【予習】忘却のメカニズムについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】忘却のメカニズムについて復習すること（標準学習時間120分）。
9回	【予習】発達の規定要因について予習すること（標準学習時間60分）。 【復習】発達の規定要因について復習すること（標準学習時間120分）。
10回	【予習】発達の原理について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】発達の原理について復習すること（標準学習時間120分）。
11回	【予習】発達段階について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】発達段階について復習すること（標準学習時間120分）。
12回	【予習】発達課題について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育における発達課題を整理しておくこと（標準学習時間120分）。
13回	【予習】発達障がいについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】発達障がいの種類や特徴について復習すること（標準学習時間120分）。
14回	【予習】発達障がいの困難感について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】発達障がいがある生徒の支援について復習すること（標準学習時間120分）。
15回	【予習】教育評価について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育評価と学校におけるルールについて復習すること（標準学習時間120分）。

16回	【予習】1回から15回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	本講義では、教育心理学の主な柱である、学習、発達、適応、評価のうち、学習と学習に関連する理論、発達障がいを含めた発達の諸特徴、そして、教育評価の理論を理解しながら、教育を効果的に行うための知識を習得することを目的とする。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-2にもっとも強く関与）
達成目標	学習や発達（発達障がいを含む）とはどのような概念かが理解できるようになる。 教育活動の効果的実践のための知識が理解できるようになる。 教育評価のやり方について理解ができるようになる。
キーワード	学習、発達、教育、評価、心理学
成績評価（合格基準60	講義後の小テスト（40％）、最終評価試験（60％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教育相談の理論と方法
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比呂・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 /
参考書	必要に応じて講義の場で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。講義後の小テストは、次の回に解説する。
試験実施	実施する

科目名	理科教育法 【火2金2】 (FC04G310)
英文科目名	Teaching Method of Science IV
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 藤本義博 (ふじもとよしひろ)
対象学年	3 年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業概要を理解するとともに, 2 回以降に実施する模擬授業の準備や方法等を整理する。 (全教員)
2 回	「エネルギー」に関する学習内容 (基礎) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
3 回	「粒子」に関する学習内容 (基礎) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
4 回	「生命」に関する学習内容 (基礎) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
5 回	「地球」に関する学習内容 (基礎) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
6 回	「エネルギー」に関する学習内容 (標準) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
7 回	「粒子」に関する学習内容 (標準) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
8 回	「生命」に関する学習内容 (標準) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
9 回	「地球」に関する学習内容 (標準) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
10 回	「エネルギー」に関する学習内容 (発展) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
11 回	「粒子」に関する学習内容 (発展) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
12 回	「生命」に関する学習内容 (発展) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。 (全教員)
13 回	「地球」に関する学習内容 (発展) を分かりやすく説明する模擬授業を通して, 授業実践のポイントについて考察する。

	(全教員)
14回	「エネルギー」「粒子」領域に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。
	(全教員)
15回	「生命」「地球」領域に関する学習内容(発展)を分かりやすく説明する模擬授業を通して、授業実践のポイントについて考察する。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	【復習】模擬授業の全般的なポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
7回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
8回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
9回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
10回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
11回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
12回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
13回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
14回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。
15回	【予習】提示された課題について、ワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】課題で取り上げた内容を理解するとともに、板書計画の工夫や教壇における留意事項など、授業実践のポイントを整理しておくこと(標準学習時間60分)。

講義目的	中・高等学校の理科教員として必要とされる知識や技能の習得を高めるとともに、その知識や技能を授業づくりや授業改善に活用することを通して、実践的な指導力を身に付ける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与)
達成目標	科学概念「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に関する自然の事物・現象についての理解を深める。 授業実践や授業の工夫・改善のポイントなどについての考えを深める。 板書計画の作成、模擬授業を通して、授業を実践する力を身に付ける。

キーワード	理科教育，教材研究，指導方法，授業実践
成績評価（合格基準60	提出課題70%，模擬授業30%により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。
関連科目	理科教育法 ，理科教育法 ，理科教育法
教科書	使用しない。
参考書	オープンセサミシリーズ教員採用試験ステップアップ問題集 中学理科／東京アカデミー／七賢出版
連絡先	D 2 号館 4 F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	理科教育法 ・理科教育法 ・理科教育法 を履修した後に受講することが望ましい。 課題については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 提出されたワークシートについては，内容を確認した後に返却する。 模擬授業などのアクティブ・ラーニングをほぼ毎回，採り入れる。
試験実施	実施しない

科目名	教職論【火3金3】(FC04H110)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	津田秀哲＊(つだひでのり＊)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	大学における教員養成の位置づけや免許状の種類などについて解説するとともに、教員免許取得に向けた心構えなどについて説明する。
2回	児童生徒数の推移と教員の採用状況の変化について解説する。また、学校教育法で定められている学校種別とあわせ高等学校の多様な教育課程の種類や現在の学校教育が抱える学力低下、不登校、高等学校中途退学者など今日的な課題について説明する。
3回	教育関係法規の体系について解説する。また、学校教育法などで定められている学校の設置者及び教育委員会制度について説明する。
4回	教職員の種類とそれぞれの職務について説明するとともに、諸外国の学校教育について解説する。また、我が国の教職員の勤務実態について資料をもとに考察をする。
5回	教員に求められる不易な資質能力と変化に適切に対応する資質能力について説明する。また、教員の長時間勤務の問題点や働き方改革の目指す方向について資料をもとに考える。
6回	教育基本法に示された各発達段階での教育目標を解説し、「生きる力」とは何かを考える。また、それを具現化するための学校教育目標の具体例をあげその学校がどのような児童生徒像の育成を目指しているか考察する。
7回	学校教育の目的や学習指導要領と教育課程について解説する。また、教育課程の編成について小中高等学校の具体例をあげながら説明する。特に、高等学校における特色ある教育課程から学校の特色を考える。
8回	岡山県学校管理運営規則を示しながら、効果的な学校運営をするための規則にはどのようなものがあるか解説をする。
9回	校務分掌を元に学校組織を解説し、主任の種類とその業務について説明する。また、校務分掌表の学校運営組織と各分掌の業務内容についても解説をする。
10回	学級担任、教科担任の果たすべき業務について説明する。また、学習指導要領を元に学級担任としての学級経営、学級活動、特別活動、学級事務等について解説する。
11回	教師の専門性について教科指導と生徒指導の面から説明し、次期学習指導要領が目指す学習形態や育成すべき三つの柱について解説する。
12回	教員免許状の種類と免許更新制度とその方法について解説する。また、教員採用試験の実際について紹介する。
13回	民間人と公務員の違いや一般公務員と教育公務員との違いを日本国憲法や地方公務員法などを元にして説明する。また、教育公務員の不祥事の例などをあげ、教育現場、児童生徒、家族などの影響を考える。
14回	公立学校教員の服務義務、職務上の義務、身分上の義務を説明する。また、教育公務員特例法による研修、服務について解説する。
15回	学校現場で問題となっている特別な支援が必要な児童生徒について説明する。また、国連の障害者権利条約、我が国の障害者差別解消法の持つ意味について説明する。また、ビデオ視聴によって、障害のある児童生徒から見た教育の在り方考える。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】インターネット(文部科学省のホームページ等)により、中央教育審議会答申(平成28年12月21日)を検索し、自分たちが学んだ中学校・高等学校の教育課程が次期学習指導要領でどのように変わるか調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】大学における教員養成の位置づけや免許状の種類を説明できるようにすること、教員免許状取得に向けた具体的な自己の取り組みについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】図書館やインターネットなどで学校教育法第1条で定められている学校の種類(特に高等学校)やその特色などについて調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】学校教育が抱える課題について整理するとともに、背景などについて説明できるようにしておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】教科書で扱う日本国憲法、教育基本法、制令及び規則について図書館やインターネットで

	検索し、読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】教育関係法規についてまとめ、その種類や教育委員会制度について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
4 回	【予習】第3回で配付する文部科学省教員勤務実態調査とOECD国際教員指導環境調査（TALIS）について考察をし、問題点を考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】学校における職についてまとめ、それぞれの職務について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
5 回	【予習】教員に求められる資質能力にはどのようなものがあるか各自考えておくこと。また、自己分析を行い教員を目指す上での強みと弱みの分析をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】文部科学省「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）（平成27年12月21日）」をインターネットで検索し読んでおくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】インターネットや図書館で学校教育法第1条、第2条、第5条、第21条、第45条、第46条、第50条、第51条を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】学校教育の目的、目標を小中高等学校と比較しながら説明することができるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】インターネットなどで学校教育法施行規則第72条、第74条、第83条、第84条を読んでおくこと。また、現行学習指導要領が目指す基本的な考え方とは何かを調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】学習指導要領や教育課程について説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】インターネットなどで学校教育法施行規則にはどのような項目があるか読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】学校管理運営規則の目的や、どのような事が規定されているかまとめること（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】学校管理運営規則を読み、学校における主任の種類やその業務について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】校内の業務分担を校務分掌をもとに説明することができるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】インターネットで学習指導要領特別活動編の学級活動の目標や特別活動の意義を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】授業の中で解説する学級担任、教科担任の業務を参考に、教員を目指した理由、どのような教員になりたいかを説明できるようにしておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】インターネットで次期学習指導要領の中学校総則編を読み、これからどのような力が求められているのか、どのような学習形態が求められているか読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】次期学習指導要領が目指す、育成すべき三つの柱について自分の言葉で説明できるようにすること（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】自分が目指す自治体の教員採用試験（1次試験、2次試験）の試験内容を調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】配付された資料をもとに、自分が目指す教員免許状に必要な事項と教員免許更新制度を理解することができること（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】事前に配付する新聞記事をもとに、学校、児童生徒、家族、地域などに与える影響について考えておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】民間人と公務員の違い、一般公務員と教育公務員との違いや教育公務員の責任の重大さなどを説明することができること（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】インターネットや図書館で地方公務員法第30条～第38条、教育基本法第9条を調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】教育公務員特例法による研修の種類と概要、意義について説明できるようになること。また、いろいろな服務規程についてまとめること（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】インターネットや図書館でLD、ADHD、高機能自閉症について調べておくこと。また、ディスレクシアについてその障害特性についても調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】特別な支援が必要な児童生徒について理解し、障害による学習の困難さを解消する手立てについて考えること（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】これまでの授業を振り返り、整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	本講義は教員免許状を取得するための必修科目である。そのために、教職の意義、教員に課せられた使命・役割等について考察するとともに、これからの教師に求められる資質や素養について基礎的な知識や内容を学び、教師になろうという意欲を高めることにある。 （教職・学芸員センター教育課程編成表・実施の方針Aにもっとも強く関与）
達成目標	教師としての自らの在り方を探りながら、教職についての理解を深め、将来学校教育に取り組むための教師像を明らかにするとともに、自分の強みと弱みを明らかにし進んで自己研鑽に励もうとすることができる。
キーワード	教職の意義、教師像、学校教育

成績評価（合格基準60	課題提出（50％）、試験（50％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	A2号館8階 津田
注意・備考	提出されたレポートについては、添削した後に返却する。
試験実施	実施する

科目名	特別活動の理論と方法【火3金3】（FC04H310）
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一＊（しらかみけんいち＊）
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標（その１）」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標（その２）」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間や進路指導との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実践」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-4にもっとも強く関与）
達成目標	上記講義目的に基づき、特別活動に係る実践的な指導力を身に付けることをもって到達目標とする。
キーワード	学級活動・ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事 ガイダンス機能の充実 家庭・地域との連携の推進
成績評価（合格基準60	最終評価試験（60％）、レポート（20％）、発表（模擬授業を含む）や討論の内容（20％）から成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生徒・進路指導論
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827815627 : 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / ISBN978-4-303-12630-8
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 第2,3,4回の授業では4～5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
試験実施	実施する

科目名	情報科教育法 【火4金4】 (FC04I210)
英文科目名	Teaching Method of Information Literacy II
担当教員名	草野泰秀 * (くさのやすひで*)
対象学年	2 年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	応用数学科,基礎理学科,電気電子システム学科,情報工学科,情報科学科,社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義の目的と教科の目標授業実施方法について解説する。パソコンの基本操作ができることを小テストで確認する。
2 回	表計算の小テストの正答例の解説をし, 高等学校学習指導要領総説を解説する。教科「情報」の改善の基本方針, 改善の具体的事項, 改訂の要点, 情報教育の目標について解説する。
3 回	新教育課程についてインターネット上にある中教審の答申では情報科についてどのようなところが改訂されたかを学生に発表してもらい。体系的な情報教育と共通教科情報科の情報教育のありかたについて解説する。
4 回	新教育課程で導入されるプログラミングは何を目標にしているか学生に発表してもらい討論する。共通教科情報の科目編成, 「社会と情報」「情報の科学」の目標について解説する。
5 回	共通教科情報の科目編成, 「社会と情報」「情報の科学」の目標について学生に発表してもらい。学習指導案の詳細化と教材作成と教材の構造化(実習を含む)について解説する。
6 回	作成した学習指導案と授業に必要な補助プリントを用いて, 代表学生が模擬授業を行い, 全員の学生に模擬授業の良い点や改善点等を言ってもらい, その後指導講評する。情報科教育実習についての指導方法, 指導反省レポートについて解説する。
7 回	各自で作成した指導案の改善したところを学生に発表してもらい, 討論等をして, よりよい内容にしていく。プレゼンテーションの制作の流れ, スライドの作成方法等を実例を示し解説する。
8 回	前回で作成したプレゼンテーションを学生全員が発表する。そのプレゼンテーションについて学生に良い点, 改善点を言ってもらい。その後指導講評する。
9 回	第 8 回の課題について, 正答例などとともに解説する。ネットワークのコミュニケーションについて解説する。
1 0 回	第 9 回の課題について, 正答例を解説する。インターネットのしくみ, I P アドレス, ネットワークアドレスの計算について解説する。
1 1 回	第 1 0 回の課題について, 正答例を解説する。知的財産権, 産業財産権について解説する。
1 2 回	第 1 1 回の課題について, 学生に解き方を発表してもらい。この発表に対して, より簡単にできる別解はないか討論し, その後簡単な正答例を解説する。情報セキュリティ(コンピュータウィルス対策, 情報の暗号化等)について解説する。
1 3 回	第 1 2 回の課題について正答例を解説する。表計算ソフト E X C E L の実践的な活用法について解説する。
1 4 回	第 1 3 回の問題の正答例を解説する。情報教育においてオブジェクト指向型プログラム作成ができることの必要性を解説し, 具体的な言語Scratchプログラムの作成方法について解説する。
1 5 回	第 1 4 回の演習問題の正答例を解説する。VBAプログラムの作成方法について解説する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】高等学校学習指導要領総説, 教科「情報」の改善の基本方針, 改善の具体的事項, 改訂の要点, 情報教育の目標を読み, 整理しておくこと。第 1 回に実施した小テストについては, 第 2 回の授業で正答例などとともに解説する。(標準学習時間120分)。
2 回	【復習】小テスト問題を再度行い違ったところを訂正し, 情報科教育法 で学習した関数を理解し, 整理しておくこと(標準学習時間60分)【復習】高等学校学習指導要領総説, 教科「情報」の改善の基本方針, 改善の具体的事項, 改訂の要点, 情報教育の目標を理解し, 暗唱しておくこと。新教育課程についてインターネット上にある中教審の答申を読み, 情報科についてどのようなところが改訂されたかまとめて発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
3 回	【予習】「高等学校学習指導要領解説情報編(文部科学省)」の「体系的な情報教育と共通教科情報科」(p.8~13)を読み, 整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】体系的な情報教育と共通教科情報科の情報教育のありかたを理解しておくこと。新教育課程で導入されるプログラミングは何を目標にしているか発表できるようにすること。(標準学習時間60分)。
4 回	【予習】共通教科情報の科目編成, 「社会と情報」「情報の科学」の目標を読み, 整理しておくこと。(標準学習時間120分)【復習】共通教科情報の科目編成, 「社会と情報」「情報の科学」の目標を理解し, 暗唱しておくこと(標準学習時間60分)。
5 回	【予習】プリントの指導案の様式, 社会と情報の指導案例, 年間指導計画を読み, 整理しておくこと。

	と（標準学習時間120分）【復習】授業を行うにはどのような教材・教具を使い、授業をどのように進めていけばよいか、どのような点に留意したらよいかなどを具体的に考えて社会と情報の学習指導案と授業に必要な補助プリント等を作成しておくこと。次時の授業で模擬授業ができるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】情報科教育実習についてどのように指導するべきか考えておくこと。（標準学習時間120分）【復習】模擬授業の良い点、改善点、指導方法、指導反省レポートを整理しておくこと。模擬授業を聞いて、各自で作成した指導案を訂正し、改善したところが発表できるようにすること。（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】プレゼンテーション作成で必要な写真を事前に撮影してUSBメモリに入れて持参すること。また、作成するプレゼンテーションの内容を考えておくこと（標準学習時間120分）【復習】プレゼンテーションのスライド作成を完成させておくこと。プレゼンテーションのリハーサルをして、発表できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】ネットワークの特性、プリントの演習問題をする。この課題は次時の授業で正答例などとともに解説する。（標準学習時間120分）【復習】発表されたプレゼンテーションの話し方、スライドの内容、スライドの設計等の評価を整理しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】情報セキュリティ、情報セキュリティポリシーをよんで章末問題をする。この課題は、次時の授業で正答例を解説する。（標準学習時間120分）【復習】ネットワークのコミュニケーションの重要語句等を理解し、プリントやノートに書いて整理しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】教科書4章コミュニケーションとネットワーク、第2節ネットワーク（p.100～109）を読み、ネットワークアドレスの計算方法を調べておくこと（標準学習時間120分）【復習】IPアドレス、ネットワークアドレスの演習問題をしておくこと。次時の授業で演習問題の正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】2進数と情報量、数値・文字の表現を読み、プリントの進数計算の課題をする。この課題は次時の授業で発表できるようにすること。（標準学習時間120分）【復習】教科書5章の章末問題をして、他の具体的な権利侵害の例を調べて整理しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】プリントの情報処理検定2級実技問題を解答するために使用する関数の条件付合計（SUMIF）、条件付きカウント関数（COUNTIF）等を調べておくこと。表計算ソフトEXCELの実践的な課題プリントをする。この課題は次時の授業で解説する。（標準学習時間120分）【復習】情報セキュリティ（コンピュータウィルス対策、情報の暗号化等）について理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】2020年度の新学習指導要領から、すべての生徒にたいしてプログラミングが必修になることとScratch言語を調べておくこと（標準学習時間120分）【復習】プリントの情報処理検定2級実技問題の条件付合計（SUMIF）、条件付きカウント関数（COUNTIF）等について理解しておくこと。この問題をする。この問題は次時の授業で正答例を解説する。（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】プリントのVBAプログラミングを読み、演習問題をする。この演習問題は次時の授業で正答例を解説する。（標準学習時間120分）【復習】Scratchプログラムを理解し、演習問題をしておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間120分）【復習】VBAプログラムを理解し、発展問題の別解を考えておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間120分）。

講義目的	この講義（実習を含む）では、情報科教育法とともに高等学校教科「情報」の教員免許を取得させるために必要な教師としての基礎的な知識、教養、指導力、実務能力を涵養する。情報科教育法で学んだ教科の設立目的、教科の構造、指導目的、指導方法、教育の構成、教師としての知識、教育に関する教養的知識、学校教育における常識と教師の役割、教育の社会的目的と構造など情報科教師として弁えるべき基本的な学習事項について再度確認し復習することから始め、教育の実践方法について深く考えるとともに教材作成や模擬授業の実施を通じて学生自身に積極的な授業への参加を求め、教育や教師としての技量の向上を目指して行動することを求める。単に情報に関する専門的技術の養成ではなく、高度な知的行動力としての情報教養を身につけ、将来の行動規範として情報を高度に利用する教養的情報資質を向上させうる高等学校教師を養成することを目指し、教育者として教育実習等で指導する際にも役立つよう実務面でも教養も身につけるよう実践的な指導を行う。また、教養を身につけ教科情報の教員免許取得者にふさわしい知識と実践力をもちうるように指導する。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与）
達成目標	達成すべき目標は以下のようにまとめられる。（1）プレゼンテーションソフトで教材を作成できる。（2）文字と画像をうまく組み合わせた教材を作成できる。（3）パワーポイント教材に自分の目標とする指導内容にバランスよく組み込める。（4）情報倫理について正しく指導できる。（5）教材と口述をバランスよく配合して指導ができる。（6）クラスにあう生徒の知的水準を活かした授業を達成するための教育構成方法について身につける。（7）情報科の評価を教材の中に埋め込んで合理的に指導できる教材を作成できる。（8）教育実習で指導教員に高い到達度を持つ実習生であると評価してもらえるよう努力できる。（9）オブジェクト指向型プログラム（VBAプログラム）が理解できる。（10）情報処理検定2級レベルの学習指導ができるようになること。

キーワード	社会と情報，プレゼンテーション，高等学校学習指導要領情報編
成績評価（合格基準60	課題レポート（30％）と最終評価試験（70％）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	情報科教育法 も併せて履修することが望ましい。
教科書	高等学校学習指導要領解説情報編／文部科学省／開隆堂出版：高等学校情報科用教科書「最新社会と情報」（社情302）／編集執筆 岡本敏雄 監修 山極 隆／実教出版
参考書	授業中に配付するプリント， Scratch入門 親子で楽しんで作るプログラミング教本の例題と解説／草野 泰秀／Amazon.com／9781523781942 だれにでも手軽にE X C E LでできるV B Aプログラミング／草野 泰秀／Amazon Services International Inc（Kindleストア）／9781494958350
連絡先	ホームページKusano's pageの「問合せフォーム」から連絡可能 URL：http://www2s.biglobe.ne.jp/~y-kusano/
注意・備考	課題については，次時の授業において正答例などとともに解説する。 最終評価試験の内容は授業中に指示する。
試験実施	実施する

科目名	特別活動の理論と方法【火4金4】（FC04I310）
英文科目名	Theory and Method of Pupil Activities
担当教員名	白神憲一＊（しらかみけんいち＊）
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「教育課程と特別活動」：教育課程編成の一般方針や学習指導要領の構成・内容を復習した上で、教育課程における特別活動の位置づけや中・高等学校における特別活動の概要について説明する。
2回	「特別活動の目標（その１）」：学習指導要領に定められた中・高等学校の特別活動の目標を分析的に考察しながら、特別活動の目標の特徴について説明する。
3回	「特別活動の目標（その２）」：特別活動の目標に掲げられている「望ましい集団活動」「集団や社会の一員」「在り方生き方」を取り上げ、特別活動との関連について説明する。
4回	「学級活動・ホームルーム活動」：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容について説明するとともに、具体的な題材例・活動例を紹介する。
5回	「ガイダンス機能の充実」：ガイダンスの機能の定義や意義について説明するとともに、その充実のための題材例・活動例を紹介し、それらを踏まえた学級経営・ホームルーム経営の方針・目標について考察する。
6回	「生徒会活動」：生徒会活動の目標・内容や生徒会の組織について説明するとともに、生徒会活動の課題を紹介し、その具体的な方策について考察する。
7回	「学校行事」：学校行事の目標や、儀式的行事・学芸的行事などの五つの行事ごとの具体例・意義・留意事項について説明するとともに特色ある学校行事の例を紹介する。
8回	「特別活動の授業時数と授業計画」：学習指導要領における授業時数の規程や、それを踏まえた授業計画の立案について説明し、授業設計のポイントを整理する。
9回	「特別活動の授業計画の立案」：特別活動の授業設計のポイントを理解した上で、授業計画案を各自作成しレポートとして提出する。
10回	「文化的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
11回	「健康安全・体育的行事に係る授業計画」：当該グループの学生が作成した授業計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
12回	「旅行・集団宿泊的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
13回	「勤労生産・奉仕的行事に係る実施計画」：当該グループの学生が作成した実施計画について発表するとともに、協議を通して内容を深める。
14回	「特別活動と他の教育活動」：特別活動の目標・内容を再確認するとともに、総合的な学習の時間や進路指導との関連について考察する。
15回	「高等学校における特別活動の実践」：高等学校において実際に実施されている特別活動の年間指導計画や、個別の行事の指導案等を題材として、特別活動の現状と課題や、教育実習における特別活動の留意事項等について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第2章特別活動の目標を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節学級活動・ホームルーム活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第2節生徒会活動を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第3章第3節学校行事を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】中学校・高等学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節指導計画の作成に当たっての配慮事項を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事のいずれかのテーマに関してレポートを作成することになるので、各テーマについて理解を深めておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】発表するグループは、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】発表者は、該当するテーマについてプレゼンテーション資料等の準備及び発表の準備をしておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】事前に配付する資料（高等学校学習指導要領第4章、第5章）を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】事前に配付する資料を熟読しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	中学校・高等学校の特別活動は、集団や社会の一員としての自覚と責任感の涵養、社会性の育成の一層の充実に重要な役割を果たしている。この科目は、こうした特別活動の役割や性格、指導の重点などについての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身に付けることをねらいとしている。 。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-4にもっとも強く関与）
達成目標	上記講義目的に基づき、特別活動に係る実践的な指導力を身に付けることをもって到達目標とする。
キーワード	学級活動・ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事 ガイダンス機能の充実 家庭・地域との連携の推進
成績評価（合格基準60	最終評価試験（60％）、レポート（20％）、発表（模擬授業を含む）や討論の内容（20％）から成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	生徒・進路指導論
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827815627 : 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / ISBN978-4-303-12630-8
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	履修者数が60名を超える場合には、人数調整をする場合がある。 第2,3,4回の授業では4～5名のグループを作り、そのグループ内でKJ法を用いたグループ討議を行った結果をグループごとに板書し代表者が発表を行う。 第9回で提出するレポートについては、添削した後返却する。
試験実施	実施する

科目名	教育課程論【火5金5】（FC04J110）
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	小林辰至＊（こばやし たつし＊）
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 5時限 / 金曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、講義の概要、目的、授業計画及び教育課程の概念について説明する。
2回	科学的な見方・考え方や問題解決する力を育成する教育課程を編成するための基本について説明する。
3回	法令としての学習指導要領とそれに関わる諸法規について説明する。
4回	戦後日本の教育課程の変遷、特に現代化運動の時代の教育課程について説明する。
5回	新学習指導要領改訂の時代的背景と育成を目指す資質・能力について教育改革の国際的な動向を踏まえて説明する。その後、新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
6回	新学習指導要領改訂の経緯・基本方針等について説明する。
7回	中学校教育の基本と教育課程の役割について説明する。
8回	汎用的な問題解決の力を育成する教育課程編成の理論について説明する。
9回	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指す教育課程の編成と学習評価について説明する。
10回	「教育課程の実施と学習評価」について説明する。
11回	「道徳」の位置付けと意義、その指導について説明する。
12回	中学校の各教科内容の系統性を踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について説明する。
13回	学校経営目標とカリキュラム・マネジメントの実践について説明する。
14回	文部科学省が実施する教育課程の評価の目的と方法について説明する。
15回	まとめをする。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	『中学校学習指導要領解説編』の11～12頁「教育課程の意義」を読み、いずれかの教科を1つ取り上げて自分自身が中学生だった頃の学習指導要領の理念及び教科内容と学び方について800字程度でまとめておくこと（標準学習時間180分）。
2回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の3～14頁（第1章）及び15～25頁（第2章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
3回	『中学校学習指導要領解説編』の13～16頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
4回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の137～149頁（第12章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
5回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の150～162頁（第13章）及び中学校学習指導要領解説編の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
6回	『中学校学習指導要領解説編』の1～9頁「総説」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
7回	『中学校学習指導要領解説編』の17～40頁「教育課程に関する法令」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
8回	『探究する資質・能力を育む理科教育』の163～176頁（第14章）を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
9回	『中学校学習指導要領解説編』の47～72頁「教育課程の編成」及び中学校学習指導要領解説編の76～91頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
10回	『中学校学習指導要領解説編』の76～91頁「教育課程の実施と学習評価」頁を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
11回	『中学校学習指導要領解説編』の128～144頁「道徳教育推進上の配慮事項」を読んでおくこと（標準学習時間180分）。
12回	資質・能力の育成の観点から、教科書をどのように活用して主体的・対話的で深い学びを実現するのかについてレポートを作成しておくこと（標準学習時間180分）。
13回	第12回授業で配付する資料を読み、カリキュラム・マネジメントの捉え方をまとめておくこと（標準学習時間180分）。

1 4 回	文部科学省HPで平成27年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を解いておくこと（標準学習時間180分）。
1 5 回	これまでの授業ノートを読み返しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 1にもっとも強く関与）
達成目標	1．教育課程の概念を理解する。 2．法令としての学習指導要領の意義と目的を理解する。 3．戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 4．新学習指導要領の理念と改訂の趣旨を理解する。 5．新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び（カリキュラム・マネジメント）を実現する授業を構想するための理論を理解する。 6．「資質・能力」を育成する指導と評価の理論を理解する。 7．教科学習と総合的な学習の関係をカリキュラム・マネジメントの観点から理解する。
キーワード	教育課程 中央教育審議会答申 学校教育法 学校教育法施行規則 学習指導要領 義務教育学校 教科の「見方・考え方」 資質・能力 カリキュラム・マネジメント 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
成績評価（合格基準60	最終評価試験による評価（60点），ならびにレポートによる評価（40点）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教育の方法と技術
教科書	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』 大学教育出版：『探究する資質・能力を育む理科教育』
参考書	『教育方法学』／佐藤 学／岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』／田中耕治等編／有斐閣アルマ
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題（準備学習で示す）については，次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	教育行政学 (FC05D210)
英文科目名	Educational Administration
担当教員名	曾我雅比兒 (そがまさひこ)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	化学科, 応用物理学, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育行政とは何かを説明する。
2 回	2 つの公教育思想－国家主義型と自由主義型－を紹介する。
3 回	西欧諸国における義務教育制度の成立過程を概説する。
4 回	日本教育行政小史 1－戦前の教育行政を概説する。
5 回	日本教育行政小史 2－戦後改革と教育行政を概説する。
6 回	教育行政と教育法規の関連を概説する。
7 回	日本国憲法の教育条項と教育基本法を概説する。
8 回	これまでのまとめと中間テストをする。
9 回	現代教育行政の基本原則を概説する。
10 回	中央教育行政の組織と機能を概説する。
11 回	地方教育行政の組織と機能を概説する。
12 回	学校の管理と運営 1 学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。
13 回	学校の管理と運営 2 教育課程の法制及び学校の安全と保健について概説する。
14 回	教職員の種類と職務及び教員免許について概説する。
15 回	教員の任免、服務及び研修について概説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
6 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
7 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
8 回	【予習】試験の準備をすること (標準学習時間180分)。
9 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
10 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
11 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
12 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
13 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
14 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
15 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
16 回	【予習】これまで学んできたことを復習しておくこと (標準学習時間180分)。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-3にもっとも強く関与)
達成目標	近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解する。 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握する。 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解する。 憲法や教育基本法のエデュケーション条項を理解する。 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握する。 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員のサービス・研修についての基本的な事柄を把握する。
キーワード	公教育、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営
成績評価(合格基準60)	提出課題20%、中間テスト20%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育学原論、教育史
教科書	公教育と教育行政・改訂版 / 曾我雅比兎 / 大学教育出版 / 9784864293006
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曾我研究室
注意・備考	第8回で実施する中間テストについて、第9回の授業で正答例を示しながら解説する。 教師に必要な意欲的かつ研究的態度を受講者にも求める。
試験実施	実施する

科目名	教育行政学 (FC05E210)
英文科目名	Educational Administration
担当教員名	曾我雅比兒 (そがまさひこ)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育行政とは何かを説明する。
2 回	2 つの公教育思想－国家主義型と自由主義型－を紹介する。
3 回	西欧諸国における義務教育制度の成立過程を概説する。
4 回	日本教育行政小史 1－戦前の教育行政を概説する。
5 回	日本教育行政小史 2－戦後改革と教育行政を概説する。
6 回	教育行政と教育法規の関連を概説する。
7 回	日本国憲法の教育条項と教育基本法を概説する。
8 回	これまでのまとめと中間テストをする。
9 回	現代教育行政の基本原則を概説する。
1 0 回	中央教育行政の組織と機能を概説する。
1 1 回	地方教育行政の組織と機能を概説する。
1 2 回	学校の管理と運営 1 学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。
1 3 回	学校の管理と運営 2 教育課程の法制及び学校の安全と保健について概説する。
1 4 回	教職員の種類と職務及び教員免許について概説する。
1 5 回	教員の任免、服務及び研修について概説する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
6 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
7 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
8 回	【予習】試験の準備をすること (標準学習時間180分)。
9 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
1 0 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
1 1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
1 2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
1 4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
1 6 回	【予習】これまで学んできたことを復習しておくこと (標準学習時間180分)。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B - 3にもっとも強く関与)
達成目標	近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解する。 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握する。 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解する。 憲法や教育基本法のエデュケーション条項を理解する。 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握する。 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員のサービス・研修についての基本的な事柄を把握する。
キーワード	公教育、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営
成績評価(合格基準60)	提出課題20%、中間テスト20%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育学原論、教育史
教科書	公教育と教育行政・改訂版 / 曾我雅比兎 / 大学教育出版 / 9784864293006
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曾我研究室
注意・備考	第8回で実施する中間テストについて、第9回の授業で正答例を示しながら解説する。 教師に必要な意欲的かつ研究的態度を受講者にも求める。
試験実施	実施する

科目名	教育心理学 (FC05F110)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	秋山弥* (あきやまわたる*)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の目的・意味等について考察する。
2回	発達における遺伝の影響について複数の学説を提示し、遺伝について考察する。
3回	発達における学習の意味について複数の学説を提示し、学習について考察する。
4回	性格形成の要因について複数の理論を提示し、性格の成り立ちについて考察する。
5回	知能と創造性の内容・関連性について説明し、賢さについて考察する。
6回	認知の発達とメカニズムについて詳細に説明する。
7回	児童期・青年期の社会性について解説し、対人スキルの重要性について考察する。
8回	過去の教師の指導性研究について説明し、研究の問題点について考察する。
9回	現在の指導性研究について説明し、理想の教師像について考察する。
10回	教師の指導性の実践的研究について説明し、実践的行動について考察する。
11回	生徒理解に必要な視点・カウンセリングの基本について説明し、生徒対応について考察する。
12回	生徒理解のための事例研究について説明し、教師の実践的対応の仕方について考察する。
13回	多様な教育評価があることを知らせ、評価の困難性について考察する。
14回	妥当性・信頼性のある教育評価及び生徒を伸張させる評価について考察する。
15回	学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について評価する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】教科書を読み教育心理学の概観を把握すること(標準学習時間180分)。
2回	【予習】遺伝について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
3回	【予習】人間の学習能力について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】自己の性格はどのようにして形成されたのかについて考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】賢さについて日常生活の中から考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
6回	【予習】認知能力とはどのような事柄なのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
7回	【予習】社会性とは具体的にどのようなことなのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】理想の教師像について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
9回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
10回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
11回	【予習】人の理解について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
12回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
13回	【予習】教育評価について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
14回	【予習】前回の授業について復習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
15回	【復習】学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について復習しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	学習・性格・社会性・発達等心理学の基礎的知識を学習し、生徒理解の方法・教師の指導性の在り方・教育評価の困難性等について考察することにより、教師としての資質について考える機会を設けることを講義目的とする。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-2にもっとも強く関与)
達成目標	・学習のメカニズムが説明できること ・性格形成のプロセスが説明できること ・社会性及び対人スキルについて説明できること ・理想的な教師の指導性について説明できること ・生徒理解について具体例をあげ説明できること ・教育評価の問題点について説明できること
キーワード	学習・発達・性格・対人スキル・教師の指導性・生徒理解・教育評価
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教職関連科目
教科書	教師の仕事とは何か / 秋山 弥・作田 良三 / 北大路書房 / 9784762826634
参考書	講義の際に適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題(【予習】で示したもの)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	教育心理学 (FC05G110)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	秋山弥* (あきやまわたる*)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の目的・意味等について考察する。
2回	発達における遺伝の影響について複数の学説を提示し、遺伝について考察する。
3回	発達における学習の意味について複数の学説を提示し、学習について考察する。
4回	性格形成の要因について複数の理論を提示し、性格の成り立ちについて考察する。
5回	知能と創造性の内容・関連性について説明し、賢さについて考察する。
6回	認知の発達とメカニズムについて詳細に説明する。
7回	児童期・青年期の社会性について解説し、対人スキルの重要性について考察する。
8回	過去の教師の指導性研究について説明し、研究の問題点について考察する。
9回	現在の指導性研究について説明し、理想の教師像について考察する。
10回	教師の指導性の実践的研究について説明し、実践的行動について考察する。
11回	生徒理解に必要な視点・カウンセリングの基本について説明し、生徒対応について考察する。
12回	生徒理解のための事例研究について説明し、教師の実践的対応の仕方について考察する。
13回	多様な教育評価があることを知らせ、評価の困難性について考察する。
14回	妥当性・信頼性のある教育評価及び生徒を伸張させる評価について考察する。
15回	学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について評価する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】教科書を読み教育心理学の概観を把握すること(標準学習時間180分)。
2回	【予習】遺伝について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
3回	【予習】人間の学習能力について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】自己の性格はどのようにして形成されたのかについて考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】賢さについて日常生活の中から考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
6回	【予習】認知能力とはどのような事柄なのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
7回	【予習】社会性とは具体的にどのようなことなのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】理想の教師像について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
9回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
10回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
11回	【予習】人の理解について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
12回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
13回	【予習】教育評価について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
14回	【予習】前回の授業について復習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
15回	【復習】学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について復習しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	学習・性格・社会性・発達等心理学の基礎的知識を学習し、生徒理解の方法・教師の指導性の在り方・教育評価の困難性等について考察することにより、教師としての資質について考える機会を設けることを講義目的とする。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-2にもっとも強く関与)
達成目標	・学習のメカニズムが説明できること ・性格形成のプロセスが説明できること ・社会性及び対人スキルについて説明できること ・理想的な教師の指導性について説明できること ・生徒理解について具体例をあげ説明できること ・教育評価の問題点について説明できること
キーワード	学習・発達・性格・対人スキル・教師の指導性・生徒理解・教育評価
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教職関連科目
教科書	教師の仕事とは何か / 秋山 弥・作田 良三 / 北大路書房 / 9784762826634
参考書	講義の際に適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題(【予習】で示したもの)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	生徒・進路指導論 (FC05N210)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	加藤研治 * (かとうけんじ*)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目的、概要、および計画についてのガイダンスをする。
2 回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について説明する。
3 回	生徒指導の意義と課題について説明する。
4 回	生徒指導の原理と人格の発達課題について説明する。
5 回	生徒理解の方法について説明する。
6 回	生徒指導と進路指導について説明する。
7 回	不登校生徒への支援の在り方について説明する。
8 回	事例研究 懲戒・体罰等について説明する。
9 回	事例研究 暴力行為等について説明する。
10 回	事例研究 いじめ等について説明する。
11 回	事例研究 インターネット・携帯等について説明する。
12 回	生徒指導と法律について説明する。
13 回	生徒指導の機能を生かした教材開発について説明する。
14 回	生徒指導の機能を生かした教科外活動について説明する。
15 回	生徒指導の機能を生かした学校組織と運営について説明する。 全体の授業のまとめをする。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【復習】授業の目的等をしっかり確認すること。学校教育における生徒指導の位置づけについて、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	【予習】配付課題について、提出できるように準備しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導上の課題について認識し、身近な例でその解決方法等について考察すること(標準学習時間120分)。
3 回	【予習】生徒指導の意義について、「生徒指導提要」(文科省、H22)等で各自確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】集団指導・個別指導の方法原理について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	【予習】小学校、中学校、高等学校と成長するにつれて、人格がどのように発達するか考察しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導の前提となる発達観と指導観について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	【予習】身近な例として、教師はどのように生徒であった当時の自分たちを理解してくれていたか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒理解の具体的な方法とその重要性について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	【予習】自分が受けた進路指導について、振り返って、箇条書きにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】進路指導の意義やその方法や進路指導部との連携等について、再度身近な例をもとに理解しておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	【予習】身近な例で、不登校の生徒の存在とその対応(教師・学校)について、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】不登校の定義とその変遷、学校での指導・支援の在り方について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
8 回	【予習】部活動指導等における体罰について、身近な例としてあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】懲戒および体罰の禁止について、正確な知識をもつこと(標準学習時間120分)。
9 回	【予習】身近な例として、暴力行為が発生した場合の対応について、あれば思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】暴力行為の予防、発生した場合の的確な対応、関係機関等の連携について正確に理解して

	おくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】身近な例として、いじめ等のトラブルがあれば、その原因や状況等を思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の理解、いじめ問題への的確な対(教師、学校等)応について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
11回	【予習】身近な例として、学校掲示板等でのトラブルがあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】インターネット等の知識、違法・有害情報対策、被害発生時の的確な対応等について正確に把握しておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】少年法等について、インターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】青少年の保護育成に関する法令や犯罪少年、触法少年の処遇について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】わかる授業とは、どんな授業なのか、経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科指導の充実における生徒指導の意義について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】HR活動、生徒会活動等について、印象に残っていることを思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別活動の目標や具体的な指導方法について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】身近な例として、生徒指導部の存在は君たちの目にどのように映っていたのだろうか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校における生徒指導体制の在り方について、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
16回	【予習】今までの学習を振り返って、講義を受ける前と後で生徒指導に関してどのような認識に違いが生じたか確認しておくこと。また、1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)。

講義目的	教師として生徒の個性を生かし、開花するよう援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け、教師としての実践的な指導力を養うことを目的とする。また、ひいては、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D-1, 3にもっとも強く関与)
達成目標	生徒指導の基本的な理論や意義について理解する。 生徒指導の実践的な対応知識・スキルを身につける。 実際の生徒指導のケースについて考察し、その的確な対応について理解する。 キャリアガイダンスについて、理解する。 これからの社会で通用する生徒指導・進路指導についての教育観や指導観を身につける。
キーワード	生徒指導、進路指導、問題行動(いじめ、インターネット)、個別指導と集団指導、生徒理解、人間関係
成績評価(合格基準60)	課題(レポート等)提出とその内容(50%)、最終評価試験(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、課題レポートの提出がない場合は、単位は認められないので注意すること。
関連科目	特別活動の理論と方法
教科書	教科書は使用しない。適宜、教材プリントを配付する。
参考書	生徒指導提要(文科省)
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義です。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。 課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	生徒・進路指導論 (FC050210)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	加藤研治 * (かとうけんじ*)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目的、概要、および計画についてのガイダンスをする。
2 回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について説明する。
3 回	生徒指導の意義と課題について説明する。
4 回	生徒指導の原理と人格の発達課題について説明する。
5 回	生徒理解の方法について説明する。
6 回	生徒指導と進路指導について説明する。
7 回	不登校生徒への支援の在り方について説明する。
8 回	事例研究 懲戒・体罰等について説明する。
9 回	事例研究 暴力行為等について説明する。
10 回	事例研究 いじめ等について説明する。
11 回	事例研究 インターネット・携帯等について説明する。
12 回	生徒指導と法律について説明する。
13 回	生徒指導の機能を生かした教材開発について説明する。
14 回	生徒指導の機能を生かした教科外活動について説明する。
15 回	生徒指導の機能を生かした学校組織と運営について説明する。 全体の授業のまとめをする。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【復習】授業の目的等をしっかり確認すること。学校教育における生徒指導の位置づけについて、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	【予習】配付課題について、提出できるように準備しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導上の課題について認識し、身近な例でその解決方法等について考察すること(標準学習時間120分)。
3 回	【予習】生徒指導の意義について、「生徒指導提要」(文科省、H22)等で各自確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】集団指導・個別指導の方法原理について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	【予習】小学校、中学校、高等学校と成長するにつれて、人格がどのように発達するか考察しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導の前提となる発達観と指導観について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	【予習】身近な例として、教師はどのように生徒であった当時の自分たちを理解してくれていたか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒理解の具体的な方法とその重要性について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	【予習】自分が受けた進路指導について、振り返って、箇条書きにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】進路指導の意義やその方法や進路指導部との連携等について、再度身近な例をもとに理解しておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	【予習】身近な例で、不登校の生徒の存在とその対応(教師・学校)について、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】不登校の定義とその変遷、学校での指導・支援の在り方について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
8 回	【予習】部活動指導等における体罰について、身近な例としてあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】懲戒および体罰の禁止について、正確な知識をもつこと(標準学習時間120分)。
9 回	【予習】身近な例として、暴力行為が発生した場合の対応について、あれば思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】暴力行為の予防、発生した場合の的確な対応、関係機関等の連携について正確に理解して

	おくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】身近な例として、いじめ等のトラブルがあれば、その原因や状況等を思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の理解、いじめ問題への的確な対(教師、学校等)応について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
11回	【予習】身近な例として、学校掲示板等でのトラブルがあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】インターネット等の知識、違法・有害情報対策、被害発生時の的確な対応等について正確に把握しておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】少年法等について、インターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】青少年の保護育成に関する法令や犯罪少年、触法少年の処遇について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】わかる授業とは、どんな授業なのか、経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科指導の充実における生徒指導の意義について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】HR活動、生徒会活動等について、印象に残っていることを思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別活動の目標や具体的な指導方法について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】身近な例として、生徒指導部の存在は君たちの目にどのように映っていたのだろうか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校における生徒指導体制の在り方について、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
16回	【予習】今までの学習を振り返って、講義を受ける前と後で生徒指導に関してどのような認識に違いが生じたか確認しておくこと。また、1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)。

講義目的	教師として生徒の個性を生かし、開花するよう援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け、教師としての実践的な指導力を養うことを目的とする。また、ひいては、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D-1, 3にもっとも強く関与)
達成目標	生徒指導の基本的な理論や意義について理解する。 生徒指導の実践的な対応知識・スキルを身につける。 実際の生徒指導のケースについて考察し、その的確な対応について理解する。 キャリアガイダンスについて、理解する。 これからの社会で通用する生徒指導・進路指導についての教育観や指導観を身につける。
キーワード	生徒指導、進路指導、問題行動(いじめ、インターネット)、個別指導と集団指導、生徒理解、人間関係
成績評価(合格基準60)	課題(レポート等)提出とその内容(50%)、最終評価試験(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、課題レポートの提出がない場合は、単位は認められないので注意すること。
関連科目	特別活動の理論と方法
教科書	教科書は使用しない。適宜、教材プリントを配付する。
参考書	生徒指導提要(文科省)
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義です。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。 課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	木材加工実習 (FC05P210)
英文科目名	Practice in Woodworking
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限 / 木曜日 2時限
対象クラス	バイオ・応用化学科(～16), 機械システム工学科(～16), 電気電子システム学科(～16), 情報工学科(～16), 知能機械工学科(～16), 生体医工学科(～16), 建築学科(～16), 生命医療工学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	実習の概要と安全教育について説明する。
2 回	投影図、製図規則など製図の基礎を説明する。
3 回	製図規則に従いレターラックの組立図を作製する。
4 回	製図規則に従いレターラックの部品図を作製する。
5 回	工具箱の組立図を作製する。
6 回	工具箱の組立図を仕上げた後部品図を作製する。
7 回	工具箱の部品図を完成する。
8 回	工具箱の木取りをする。
9 回	工具箱のけがき作業をする。
1 0 回	けがき線を基に部品を切断する。
1 1 回	けがきに従って部品を加工する。
1 2 回	工具箱の組立作業をする。
1 3 回	工具箱の塗装をする。
1 4 回	工具箱の金具付けをする。
1 5 回	作品鑑賞会での意見交換をふまえて工具箱製作のレポートを作成する。
1 6 回	角いすの組立図を作製する。
1 7 回	角いすの組立図を完成する。
1 8 回	角いすの部品図を作製する。
1 9 回	角いすの部品図を完成する。
2 0 回	角いすの木取りをする。
2 1 回	角いすのけがきをする。
2 2 回	角いすの部品のほぞ加工をする。
2 3 回	角いすのほぞ穴加工をする。
2 4 回	角いすの面取り加工をする。
2 5 回	角いすの脚の組立てをする。
2 6 回	角いすの座板を加工したあと組立てをする。
2 7 回	角いすの仕上げ加工と研磨をする。
2 8 回	角いすの着色をする。
2 9 回	角いすの塗装をする。
3 0 回	作品鑑賞会での意見交換をふまえて角いすのレポートを作成する。

回数	準備学習
1 回	本実習の目的等をシラバスで確認しておくこと、また作業の安全のための注意点について考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	前回配付された資料に再度目を通して実習の目的、評価法、安全作業の注意点等内容をよく理解しておくこと (標準学習時間90分)。産業界における製図の役割・機能について考えておくこと (標準学習時間90分)。
3 回	前回配付された資料に再度目を通して製図の役割や規則等の内容をよく理解しておくこと (標準学習時間90分)。前回の内容を復習し、第三角法で正面図が正確に描けるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
4 回	第 2 回の内容を復習し、正確に第三角法で側面図・平面図が描けるようにしておくこと (標準学習時間180分)。
5 回	第 2 回の内容と第 3・4 回の作図作業を振り返って、製図を早く描くにはどのような点に注意すればよいかを考えておくこと (標準学習時間180分)。
6 回	製図を早く描くための注意点を前回の経験も踏まえて再度考えておくこと (標準学習時間180分)。
7 回	第 2 回の資料に目を通して、完成した図面のチェック項目を書き出しておくこと (標準学習時間180分)。

8 回	前回までの製図作業を終わって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間90分）。参考書等の資料によって木取りの方法について調べておくこと（標準学習時間90分）。
9 回	前回の木取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってけがきの方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
10 回	前回のけがき作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって切断の方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
11 回	前回の切断作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって木材の加工法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
12 回	前回の部品加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって組み立ての方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
13 回	前回の組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって塗装の方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
14 回	前回の塗装作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって金具とその取り付けについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
15 回	前回の金具の取り付け作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製作を振り返り、工程とわかったこと、疑問点などを書き出しておくこと（標準学習時間120分）。
16 回	第2回・第3回で学習した内容を復習しておくこと（標準学習時間180分）。
17 回	前回の組立図を描く際に難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。第2回・第3回で学習した内容を重ねて復習し理解しておくこと（標準学習時間120分）。
18 回	前回の組立図を完成させるにあたって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製図を振り返り、得た教訓を確認しておくこと（標準学習時間120分）。
19 回	前回の部品図を描く際に難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製図を経験して得た教訓を再度確認しておくこと（標準学習時間120分）。
20 回	前回の部品図を完成させるにあたって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。】参考書等の資料によって木取りについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
21 回	前回の木取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってけがきについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
22 回	前回のけがき作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってほぞ加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
23 回	前回のほぞ加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってほぞ穴加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
24 回	前回のほぞ穴加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって面取り加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
25 回	前回の面取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって組立てについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
26 回	前回の脚の組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって座板加工・組立てについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
27 回	前回の座板加工とその組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって仕上げ加工・研磨について調べておくこと（標準学習時間120分）。
28 回	前回の仕上げ加工と研磨作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって着色について調べておくこと（標準学習時間120分）。
29 回	前回の着色作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことな

	どを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって塗装について調べておくこと（標準学習時間120分）。
30回	前回の塗装作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。角いすの製作を振り返り、工程とわかったこと、疑問点などを書き出しておくこと（標準学習時間120分）。

講義目的	中学校指導要領に基づき、実践的・体験的な活動を通して行われる技術・家庭科の教員として教育・学習指導において必要とされる木材加工の実践力を養うことを目的として、図面に基づく製作中心の実習を行う。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針H-2にもっとも強く関与する）
達成目標	中学校の「技術・家庭科」において必要とされる以下の木材加工の実践力を身に付けること。（1）木材加工に必要な製図法を修得すること。（2）木工具・機械の使用法を修得すること。（3）木工具・機械を使用した基礎的な技能を修得すること。（4）木工具・機械の安全な使用法について理解すること。
キーワード	木材、木材加工、木工具、木工機械、設計、製図
成績評価（合格基準60	レポート（10%）、製作図（30%）、作品（60%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	木材加工
教科書	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	井上裕之他著 / 「技術教育選書 木材の性質と加工」 / 開隆堂（1年次開講の「木材加工」教科書）
連絡先	研究室：工学実習棟2階
注意・備考	・木材加工の基礎的・基本的な知識が必要となるので、1年次開講の「木材加工」修得後に履修することが望ましい。「木材加工」を未修得の場合は、実習に最低限必要な知識を得るため中学校技術・家庭科用文部科学省検定済教科書該当部分の学習と理解が必要である。・製作した作品については、第15回と第30回の授業において発表や鑑賞等を通して知識・技能を深化させる。
試験実施	実施しない

科目名	職業指導（FC05R210）
英文科目名	Vocational Guidance
担当教員名	白神憲一＊（しらかみけんいち＊）
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限 / 木曜日 4時限
対象クラス	バイオ・応用化学科（～16）、機械システム工学科（～16）、電気電子システム学科（～16）、情報工学科（～16）、知能機械工学科（～16）、生体医工学科（～16）、建築学科（～16）、生命医療工学科（～16）
単位数	4.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	職業指導の意義と内容、授業の進め方について説明する。
2回	職業指導の基本的性格について解説する。
3回	学習指導要領総則と職業指導1（教育課程編成の原則）について解説する。
4回	学習指導要領総則と職業指導2（職業教育に関して配慮すべき事項）について解説する。
5回	学習指導要領総則と職業指導3（教育課程の実施に当たって配慮すべき事項）について解説する。
6回	学習指導要領総則と職業指導4（特別活動との関連）について解説する。
7回	我が国の産業構造や就業構造の変化について解説する。
8回	学校制度や学校教育における職業に関する教育の現状について解説する。
9回	社会全体を通じた職業に関する教育に対する認識について解説する。
10回	キャリア教育・職業教育の内容と課題について解説する。
11回	キャリア教育・職業教育の基本的方向性について解説する。
12回	キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点について解説する。
13回	キャリア教育の充実に関する基本的な考え方について解説する。
14回	キャリア教育の充実方策について解説する。
15回	重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善について解説する。
16回	中間試験を実施する。
17回	キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施について解説する。
18回	各学校段階における推進のポイント（幼児期・義務教育）について解説する。
19回	各学校段階における推進のポイント（後期中等教育・特別支援学校）について解説する。
20回	後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の課題について解説する。
21回	後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の基本的な考え方について解説する。
22回	高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実について解説する。
23回	高等学校（特に普通科）における課題について解説する。
24回	専門学科における職業教育について解説する。
25回	専門学科における職業教育の推進方策について解説する。
26回	総合学科及び特別支援学校高等部における職業教育の推進と課題について解説する。
27回	専門的な知識・技能の高度化への対応と高等学校専門学科の改善の方向性について解説する。
28回	生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の必要性について解説する。
29回	中途退学者や無業者等のキャリア形成のための支援方策について解説する。
30回	職業に関する生涯にわたる学習を支える基盤の形成について解説する。
31回	地域社会や企業・学校間の連携について解説する。
32回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編を参考にして、職業指導、進路指導、キャリア教育の概念を調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】職業指導、進路指導、キャリア教育の概念について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（以下テキスト）の序章及び第1章のサマリーを参考に職業指導の目指す教育活動について調べておくこと。発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】職業指導の目指す教育活動について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p1,2,27,28,29を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】教育課程編成の原則について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p65～70を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】職業教育に関して配慮すべき事項について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
5 回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p70～76を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】言語活動、ガイダンスの機能、生徒指導、進路指導について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p76～87、特別活動編p12～13を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】様々な配慮事項と特別活動との関連性について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】テキストのp3～8を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】テキストのp8～p11を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】テキストのp12～p15を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】テキストのp17～p19を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】テキストのp19～p20を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】テキストのp21～p27を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】テキストのp29～p31を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】テキストのp31～p32を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】テキストのp33～p35を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】第1回から第15回までの範囲の内容をよく復習しておくこと（標準学習時間180分）。
17 回	【予習】テキストのp35～p37を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
18 回	【予習】テキストのp38～p40を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
19 回	【予習】テキストのp40～p41を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
20 回	【予習】テキストのp43～p45を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
21 回	【予習】テキストのp45～p46を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
22 回	【予習】テキストのp47～p49を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
23 回	【予習】テキストのp49～p54を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
24 回	【予習】テキストのp54～p56を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。

2 5 回	【予習】テキストのp56～p58を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2 6 回	【予習】テキストのp58～p60を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2 7 回	【予習】テキストのp61～p65を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2 8 回	【予習】テキストのp90～p91を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2 9 回	【予習】テキストのp92～p93を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3 0 回	【予習】テキストのp93～p94を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3 1 回	【予習】テキストのp96～p100を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3 2 回	【予習】第17回から第31回までの範囲の内容をよく復習しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	工業を学ぶ生徒たちが生涯学習の観点に立って自らの進路を適切に選択し、自己実現を図るために、教師がなすべき指導・援助のあり方やその指導法を身につける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針J-2にもっとも強く関与)
達成目標	1 高等学校学習指導要領に記載されている進路指導、職業指導、キャリア教育に関わる内容を理解し、実践できる力を身につける。 2 教育現場が抱える課題は数多くあるが、中でも子供たちの自己教育力の育成が強く求められている。自己教育力の概念を理解し、指導法を身につける。 3 キャリア教育の基本方向を理解し、有効な推進方策を策定できる。
キーワード	職業教育、キャリア教育、生涯学習
成績評価（合格基準60	中間試験(30%)、最終評価試験(30%)、発表及びプレゼンテーション(40%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	平成21年高等学校学習指導要領解説 総則編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827814804 : 平成21年高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / 9784303126308 : 中央教育審議会答申 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について / 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm から各自ダウンロードしておくこと。授業にノートPC等持込可。
参考書	適宜資料を配付する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	毎授業、与えられた課題について一名ないし二名の学生がプレゼンテーションや資料を準備して発表を行い、それについて全員でディスカッションを行う。最後に教師が捕捉、重要事項のまとめ、ポイントの解説を行う。 第16回で実施する中間試験については、第17回で正答例などとともに解説する。
試験実施	実施する

科目名	教育相談の理論と方法（FC05U110）
英文科目名	Theory and Method of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳（なかじまひろのり）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。 講義の概要について説明する。
2 回	教育相談の歴史と位置付けについて説明する。
3 回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4 回	カウンセリング理論（１）精神分析について説明する。
5 回	カウンセリング理論（２）行動療法について説明する。
6 回	カウンセリングの理論（３）来談者中心療法について説明する。
7 回	カウンセリングの理論（４）認知行動療法について説明する。
8 回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9 回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
10 回	生徒理解の理論と技法（１）観察法について説明する。
11 回	生徒理解の理論と技法（２）面接法について説明する。
12 回	生徒理解の理論と技法（３）心理テスト法について説明する。
13 回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
14 回	発達障がい理解と対応（１）学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
15 回	発達障がい理解と対応（２）高機能自閉性障がい、アルペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと（標準学習時間30分）。 【復習】講義の概要について振り返っておくこと（標準学習時間120分）。
2 回	【予習】教育相談の歴史と位置付けについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育相談の歴史と位置付けを復習しておくこと（標準学習時間120分）。
3 回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと（標準学習時間60分）。【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
4 回	【予習】精神分析について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】精神分析療法について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
5 回	【予習】行動療法について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと（標準学習時間120分）。
6 回	【予習】来談者中心療法について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】認知行動療法について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
8 回	【予習】相談的コミュニケーションについて調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】相談的コミュニケーションについて復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】質問技法について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】質問技法について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
10 回	【予習】観察法について調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】観察法を実際に試してみる（標準学習時間150分）。
11 回	【予習】面接法について調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】模擬面接を行なってみる（標準学習時間150分）。
12 回	【予習】心理テストについて調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】心理テストについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
13 回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと（標準学習時間60分）。【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
14 回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
15 回	【予習】自閉症スペクトラム障がいについて調べておくこと（標準学習時間60分）。1 回から1

	5回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学ぶことで、カウンセリングマインドの理解を目指す。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D - 2にもっとも強く関与）
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解できるようになる。 適切な相談・助言について理解できる。 カウンセリングマインドについて理解できる。
キーワード	教育、相談、発達障害、カウンセリング、カウンセリングマインド
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 /
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。 課題（講義内で指示）については、次時の授業において解説する。
試験実施	実施する

科目名	教育相談の理論と方法（FC05V110）
英文科目名	Theory and Method of Educational Counseling
担当教員名	中島弘徳（なかじまひろのり）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。 講義の概要について説明する。
2 回	教育相談の歴史と位置付けについて説明する。
3 回	教育相談を行う上での留意点について説明する。
4 回	カウンセリング理論（１）精神分析について説明する。
5 回	カウンセリング理論（２）行動療法について説明する。
6 回	カウンセリングの理論（３）来談者中心療法について説明する。
7 回	カウンセリングの理論（４）認知行動療法について説明する。
8 回	カウンセリングで用いるコミュニケーション技法について説明する。
9 回	カウンセリングで用いる質問技法について説明する。
1 0 回	生徒理解の理論と技法（１）観察法について説明する。
1 1 回	生徒理解の理論と技法（２）面接法について説明する。
1 2 回	生徒理解の理論と技法（３）心理テスト法について説明する。
1 3 回	適応・不適応、正常・異常の概念について説明する。
1 4 回	発達障がい理解と対応（１）学習障がい、注意欠陥多動性障がいについて説明する。
1 5 回	発達障がい理解と対応（２）高機能自閉性障がい、アルペルガー障がい、自閉症スペクトラム障がいについて説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】教科書の教育相談の章を読んでおくこと（標準学習時間30分）。 【復習】講義の概要について振り返っておくこと（標準学習時間120分）。
2 回	【予習】教育相談の歴史と位置付けについて予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教育相談の歴史と位置付けを復習しておくこと（標準学習時間120分）。
3 回	【予習】相談を行う上での留意点について調べておくこと（標準学習時間60分）。【復習】相談を行う上での留意点について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
4 回	【予習】精神分析について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】精神分析療法について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
5 回	【予習】行動療法について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】行動療法の特徴についてまとめておくこと（標準学習時間120分）。
6 回	【予習】来談者中心療法について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】来談者中心療法についてまとめておくこと（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】認知行動療法について予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】認知行動療法について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
8 回	【予習】相談的コミュニケーションについて調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】相談的コミュニケーションについて復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】質問技法について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】質問技法について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
1 0 回	【予習】観察法について調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】観察法を実際に試してみる（標準学習時間150分）。
1 1 回	【予習】面接法について調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】模擬面接を行なってみる（標準学習時間150分）。
1 2 回	【予習】心理テストについて調べておくこと（標準学習時間30分）。 【復習】心理テストについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】適応・不適応、正常・異常について調べておくこと（標準学習時間60分）。【復習】適応・不適応、正常・異常について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】LD、ADHDについて調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】LD、ADHDについて復習しておくこと（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】自閉症スペクトラム障がいについて調べておくこと（標準学習時間60分）。1 回から1

	5回までの授業内容を振り返り、確認・整理しておくこと（標準学習時間180分）。
講義目的	生徒一人一人が自己理解を深め、自己解決能力等の可能性を開花するための、相談・助言の理論や技法を学ぶことで、カウンセリングマインドの理解を目指す。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D - 2にもっとも強く関与）
達成目標	相談（カウンセリング）の諸理論や技法が理解できるようになる。 適切な相談・助言について理解できる。 カウンセリングマインドについて理解できる。
キーワード	教育、相談、発達障害、カウンセリング、カウンセリングマインド
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	教育心理学(学習・発達論：基礎理学科のみ)
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我 雅比児・皿田 琢司（編著） / 大学教育出版 /
参考書	必要に応じて講義の中で指示する。
連絡先	B8号館3階 中島研究室
注意・備考	準備学習については講義計画に示しているが、詳細については講義内で指示する。 課題（講義内で指示）については、次時の授業において解説する。
試験実施	実施する

科目名	社会科・公民科教育法（FC05Z210）
英文科目名	Teaching Method of Civic Education I
担当教員名	桑原敏典*（くわばらとしのり*）
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	公民科の特質について解説する。
2回	公民科授業の原理について解説する。
3回	公民科授業の課題と背景について解説する。
4回	公民科授業の学習指導案の特質について解説する。
5回	公民科授業の学習指導案作成の方法について解説する。
6回	公民科授業の指導法について解説する。
7回	公民科授業の指導法の原理について解説する。
8回	公民科の内容編成について解説する。
9回	公民科の内容編成原理について解説する。
10回	公民科授業における発問の意味と役割について解説する。模擬授業を含む。
11回	公民科授業における資料の提示とその方法について解説する。模擬授業を含む。
12回	公民科授業の目標設定の原理と方法について解説する。
13回	公民科授業の内容選択の原理と方法について解説する。
14回	公民科授業づくりの原理と方法について解説する。
15回	公民科授業づくりの課題について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。
2回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
3回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
4回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
5回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
6回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
7回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
8回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
9回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
10回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	公民科の教員として必要な知識・技能を習得する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与）
------	---

達成目標	公民科の教員として必要な知識・技能を習得する。
キーワード	社会科，公民科
成績評価（合格基準60	毎時間の課題（20％）と最終評価試験（80％）で評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	社会科・公民科教育法
教科書	・『高等学校学習指導要領解説（公民編）』 ・社会認識教育学会編『公民科教育』学術図書出版、2010年。
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書。
連絡先	kuwabara@okayama-u.ac.jp
注意・備考	課題については，次時の授業での解説等を通して深化させる。 教師になる強い意欲を持っている方の受講を求めます。
試験実施	実施する

科目名	教育行政学 (FC06D210)
英文科目名	Educational Administration
担当教員名	曾我雅比兒 (そがまさひこ)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育行政とは何かを説明する。
2 回	2 つの公教育思想－国家主義型と自由主義型－を紹介する。
3 回	西欧諸国における義務教育制度の成立過程を概説する。
4 回	日本教育行政小史 1－戦前の教育行政を概説する。
5 回	日本教育行政小史 2－戦後改革と教育行政を概説する。
6 回	教育行政と教育法規の関連を概説する。
7 回	日本国憲法の教育条項と教育基本法を概説する。
8 回	これまでのまとめと中間テストをする。
9 回	現代教育行政の基本原則を概説する。
10 回	中央教育行政の組織と機能を概説する。
11 回	地方教育行政の組織と機能を概説する。
12 回	学校の管理と運営 1 学校の設置や運営組織及び地域との連携について概説する。
13 回	学校の管理と運営 2 教育課程の法制及び学校の安全と保健について概説する。
14 回	教職員の種類と職務及び教員免許について概説する。
15 回	教員の任免、服務及び研修について概説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
6 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
7 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
8 回	【予習】試験の準備をすること (標準学習時間180分)。
9 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
10 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
11 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
12 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
13 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
14 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
15 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
16 回	【予習】これまで学んできたことを復習しておくこと (標準学習時間180分)。

講義目的	教育行政についての基礎・基本的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察することになる。さらに、学校組織の構成及び運営についても、地域との連携のあり方や学校安全に関する事項を含めて論じたい。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-3にもっとも強く関与)
達成目標	近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解する。 欧米主要国家における近代公教育制度の成立に関する歴史的流れと主要人物について把握する。 明治から今日に至る我が国の公教育の歴史的流れと教育行政の役割を理解する。 憲法や教育基本法のエデュケーション条項を理解する。 文部科学省や教育委員会の組織と機能を把握する。 学校の管理運営(地域との連携を含む)や教員のサービス・研修についての基本的な事柄を把握する。
キーワード	公教育、教育基本法、文部科学省、教育委員会、学校運営
成績評価(合格基準60)	提出課題20%、中間テスト20%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育学原論、教育史
教科書	公教育と教育行政・改訂版 / 曾我雅比兎 / 大学教育出版 / 9784864293006
参考書	必要に応じ適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曾我研究室
注意・備考	第8回で実施する中間テストについて、第9回の授業で正答例を示しながら解説する。 教師に必要な意欲的かつ研究的態度を受講者にも求める。
試験実施	実施する

科目名	教育心理学 (FC06F110)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	秋山弥* (あきやまわたる*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の目的・意味等について考察する。
2回	発達における遺伝の影響について複数の学説を提示し、遺伝について考察する。
3回	発達における学習の意味について複数の学説を提示し、学習について考察する。
4回	性格形成の要因について複数の理論を提示し、性格の成り立ちについて考察する。
5回	知能と創造性の内容・関連性について説明し、賢さについて考察する。
6回	認知の発達とメカニズムについて詳細に説明する。
7回	児童期・青年期の社会性について解説し、対人スキルの重要性について考察する。
8回	過去の教師の指導性研究について説明し、研究の問題点について考察する。
9回	現在の指導性研究について説明し、理想の教師像について考察する。
10回	教師の指導性の実践的研究について説明し、実践的行動について考察する。
11回	生徒理解に必要な視点・カウンセリングの基本について説明し、生徒対応について考察する。
12回	生徒理解のための事例研究について説明し、教師の実践的対応の仕方について考察する。
13回	多様な教育評価があることを知らせ、評価の困難性について考察する。
14回	妥当性・信頼性のある教育評価及び生徒を伸張させる評価について考察する。
15回	学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について評価する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】教科書を読み教育心理学の概観を把握すること(標準学習時間180分)。
2回	【予習】遺伝について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
3回	【予習】人間の学習能力について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】自己の性格はどのようにして形成されたのかについて考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】賢さについて日常生活の中から考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
6回	【予習】認知能力とはどのような事柄なのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
7回	【予習】社会性とは具体的にどのようなことなのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】理想の教師像について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
9回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
10回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
11回	【予習】人の理解について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
12回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
13回	【予習】教育評価について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
14回	【予習】前回の授業について復習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
15回	【復習】学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について復習しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	学習・性格・社会性・発達等心理学の基礎的知識を学習し、生徒理解の方法・教師の指導性の在り方・教育評価の困難性等について考察することにより、教師としての資質について考える機会を設けることを講義目的とする。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-2にもっとも強く関与)
達成目標	・学習のメカニズムが説明できること ・性格形成のプロセスが説明できること ・社会性及び対人スキルについて説明できること ・理想的な教師の指導性について説明できること ・生徒理解について具体例をあげ説明できること ・教育評価の問題点について説明できること
キーワード	学習・発達・性格・対人スキル・教師の指導性・生徒理解・教育評価
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教職関連科目
教科書	教師の仕事とは何か / 秋山 弥・作田 良三 / 北大路書房 / 9784762826634
参考書	講義の際に適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題(【予習】で示したもの)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	教育心理学 (FC06G110)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	秋山弥* (あきやまわたる*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	教育心理学の目的・意味等について考察する。
2回	発達における遺伝の影響について複数の学説を提示し、遺伝について考察する。
3回	発達における学習の意味について複数の学説を提示し、学習について考察する。
4回	性格形成の要因について複数の理論を提示し、性格の成り立ちについて考察する。
5回	知能と創造性の内容・関連性について説明し、賢さについて考察する。
6回	認知の発達とメカニズムについて詳細に説明する。
7回	児童期・青年期の社会性について解説し、対人スキルの重要性について考察する。
8回	過去の教師の指導性研究について説明し、研究の問題点について考察する。
9回	現在の指導性研究について説明し、理想の教師像について考察する。
10回	教師の指導性の実践的研究について説明し、実践的行動について考察する。
11回	生徒理解に必要な視点・カウンセリングの基本について説明し、生徒対応について考察する。
12回	生徒理解のための事例研究について説明し、教師の実践的対応の仕方について考察する。
13回	多様な教育評価があることを知らせ、評価の困難性について考察する。
14回	妥当性・信頼性のある教育評価及び生徒を伸張させる評価について考察する。
15回	学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について評価する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【復習】教科書を読み教育心理学の概観を把握すること(標準学習時間180分)。
2回	【予習】遺伝について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
3回	【予習】人間の学習能力について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】自己の性格はどのようにして形成されたのかについて考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
5回	【予習】賢さについて日常生活の中から考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
6回	【予習】認知能力とはどのような事柄なのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
7回	【予習】社会性とは具体的にどのようなことなのか考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
8回	【予習】理想の教師像について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
9回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
10回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
11回	【予習】人の理解について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
12回	【予習】前回の授業の復習をしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
13回	【予習】教育評価について考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
14回	【予習】前回の授業について復習しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時の内容を振り返り、整理しておくこと(標準学習時間120分)
15回	【復習】学習理論・社会性・指導性・生徒理解・教育評価等について復習しておくこと(標準学習時間180分)。
16回	【予習】1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)。

講義目的	学習・性格・社会性・発達等心理学の基礎的知識を学習し、生徒理解の方法・教師の指導性の在り方・教育評価の困難性等について考察することにより、教師としての資質について考える機会を設けることを講義目的とする。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-2にもっとも強く関与)
達成目標	・学習のメカニズムが説明できること ・性格形成のプロセスが説明できること ・社会性及び対人スキルについて説明できること ・理想的な教師の指導性について説明できること ・生徒理解について具体例をあげ説明できること ・教育評価の問題点について説明できること
キーワード	学習・発達・性格・対人スキル・教師の指導性・生徒理解・教育評価
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教職関連科目
教科書	教師の仕事とは何か / 秋山 弥・作田 良三 / 北大路書房 / 9784762826634
参考書	講義の際に適宜指示する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	課題(【予習】で示したもの)については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	教育課程論 (FC06H110)
英文科目名	Studies of Curriculum Studies
担当教員名	宮本浩治* (みやもとこうじ*), 尾島卓* (おじまたく*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション・・・講義の概要、目的、授業計画について説明する。 (尾島 卓*)
2回	戦後日本のカリキュラム(教育課程)について説明する。 (尾島 卓*)
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。 (尾島 卓*)
4回	学習指導要領の「領域」について説明する。 (尾島 卓*)
5回	教科の指導と教科外活動の指導 について説明する。 (尾島 卓*)
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。 (尾島 卓*)
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義, その指導について説明する。 (尾島 卓*)
8回	「教えること」と「学ぶこと」の統一について説明する。 (尾島 卓*)
9回	教育内容・教材と教科書(1) —教材配列から見えてくる教科構成としてのカリキュラム—について説明する。 (宮本 浩治*)
10回	教育内容・教材と教科書(2) —学びの履歴としてのカリキュラム開発—について説明する。 (宮本 浩治*)
11回	特色あるカリキュラムの開発について説明する。 (宮本 浩治*)
12回	カリキュラムマネジメントの実際について説明する。 (宮本 浩治*)
13回	学校経営目標とカリキュラム, カリキュラムを具現化する授業について説明する。 (宮本 浩治*)
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。 (尾島 卓*)
15回	まとめをする。 (尾島 卓*)
16回	最終評価試験を実施する。 (尾島 卓*)

--

回数	準備学習
1 回	中学校学習指導要領の15～19頁、中学校学習指導要領解説編の10～11頁を読んでおくこと。
2 回	中学校学習指導要領解説編の97～100頁を読んでおくこと。
3 回	中学校学習指導要領解説編の100～106頁を読んでおくこと。
4 回	中学校学習指導要領解説編の44～55頁を読んでおくこと。
5 回	中学校学習指導要領解説編の60～66頁を読んでおくこと。
6 回	中学校学習指導要領の116～117頁および中学校学習指導要領解説編の80～88頁を読んでおくこと。
7 回	中学校学習指導要領の112～115頁および中学校学習指導要領解説編の23～28頁を読んでおくこと。
8 回	7 回配布の補助資料を読んでおくこと。
9 回	第8回授業で配布する資料を読み、教科内容の系統性がいかに考えられているのかを考察しておくこと。
1 0 回	習得と活用を意識するために、教科書の単元構成についてレポートを作成すること。
1 1 回	第10回授業で配布する教育課程表をもとに、学校の特色を決定する要因を探ってくること。
1 2 回	第11回授業で配布する資料を読み、カリキュラムマネジメントの視座をまとめておくこと。
1 3 回	第12回授業で配布する資料を読み、学校教育目標の設定とカリキュラム開発の関係をまとめておくこと。
1 4 回	文部科学省HPで今年度実施の「学力・学習状況調査」の中学校問題を見ておくこと。
1 5 回	これまでの授業ノートを読み返すこと。

講義目的	1. 戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 2. 教育における指導と評価の基本原則を理解する。 3. カリキュラム（教育課程）と授業実践の双方向性を理解する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 1にもっとも強く関与）
達成目標	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。
キーワード	「生きる力」 学習指導要領 義務教育学校
成績評価（合格基準）	ポートフォリオ50%、小レポート20%、最終評価試験30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が30点満点中、10点以下の場合は不合格とする。
関連科目	特別活動の理論と方法、教育の方法と技術
教科書	『中学校学習指導要領』/ 文部科学省：『中学校学習指導要領解説 総則編』/ 文部科学省
参考書	『教育方法学』/ 佐藤 学 / 岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』/ 田中耕治等編 / 有斐閣アルマ
連絡先	2012princess2@okayama-u.ac.jp（尾島卓）
注意・備考	課題（準備学習で示す）については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。
試験実施	実施する

科目名	学校経営（FC061210）
英文科目名	School Administration
担当教員名	高瀬淳＊（たかせあつし＊）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化（オリエンテーション）】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として少子高齢社会を取り上げ、生涯学習の観点から、児童生徒のライフコースを踏まえた学校教育の在り方について検討する。
3回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として知識基盤社会を取り上げ、国民の幸福追求権の観点から、児童生徒に求められる資質能力を踏まえた学校教育の在り方について検討する。
4回	【学校の種類と目的】学校教育法に定められた学校の種類・目標を明らかにし、国民の教育を受ける権利を保障する学校としての法的な位置づけについて理解する。
5回	【学校の機能と役割】近代の学校が、社会の富や地位の再分配という機能を有していることを明らかにした上で、それが法の下での平等の実現に寄与していることを検討する。
6回	【学校の機能と役割】学校が日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」を保障することを意図したものであることについて、個人の幸福追求権と生存権との関わりから理解する。
7回	【学校の機能と役割】学校が有する「公の性質」の一部として、専門職である教員に求められる資質・能力について検討する。
8回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、保護者の就学義務や行政による就学指導にかかる制度的な枠組みについて理解する。
9回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、校長及び教員による児童生徒への懲戒の意味について理解する。
10回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、学校の危機管理と安全計画の意味について理解する。
11回	【学校の組織と経営】学校における様々な事務（校務）の内容や校長の校務掌理権等について理解する。
12回	【学校の組織と経営】校経営に必要な校務分掌体制や職員会議等の位置づけについて検討する。
13回	【学校の組織と経営】学校教育法の改正によって新しく設置された職の役割等を明らかにした上で、個々の教職員が学校経営に参画することの意義について検討する。
14回	【学校の組織と経営】学校の組織マネジメントの基本的な考え方・進め方等について、岡山県を事例としつつ検討する。
15回	【予習】第1～14回の内容を踏まえ、学校経営に参画する教員のあり方について自分なりの見解を整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】既習の教職に関する科目で学んだ内容を確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】教育基本法第6条及び学校教育法第1条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】第4回の内容を教育の機会均等という観点から確認しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】学歴社会の問題点だけでなく意義について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】教職の意義等について既習の教職に関する科目の内容を確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】第1～7回の学修を踏まえ、日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」について整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】学校教育法第11条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】第8・9回の内容を教員の役割・責務との関係から整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】日本における教育委員会制度の特色について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】第11回の内容について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】学校の組織的な運営が求められる背景について、地域社会からの信頼と学力観の転換をキーワードに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】PDCAサイクルの概要について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教員に必要な資質・能力を育むため、現代日本における学校教育制度がどのような理念と内容で構成されているかについて教育の社会的機能の側面から概説するとともに、学校経営・制度をめぐる課題について取り上げ、これからの教育の在り方に関する方向について論じていく。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-3にもっとも強く関与）
達成目標	社会における学校教育の役割と教育制度の関する仕組みの理解と、それを踏まえた学校経営の課題等についての基本的な認識を持てるようにする。
キーワード	公教育、教育法制、学校教育、マネジメント
成績評価（合格基準60）	最終評価試験（70％）と授業中に課す小レポート（30％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教職に関する科目
教科書	使用しない。
参考書	授業中に指示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
注意・備考	・授業中に課す小レポートについては、次時の授業において発表・討論を通して深化させる。 ・ペア学修や小集団でのグループ活動などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	学校経営（FC06J210）
英文科目名	School Administration
担当教員名	高瀬淳＊（たかせあつし＊）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化（オリエンテーション）】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として少子高齢社会を取り上げ、生涯学習の観点から、児童生徒のライフコースを踏まえた学校教育の在り方について検討する。
3回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として知識基盤社会を取り上げ、国民の幸福追求権の観点から、児童生徒に求められる資質能力を踏まえた学校教育の在り方について検討する。
4回	【学校の種類と目的】学校教育法に定められた学校の種類・目標を明らかにし、国民の教育を受ける権利を保障する学校としての法的な位置づけについて理解する。
5回	【学校の機能と役割】近代の学校が、社会の富や地位の再分配という機能を有していることを明らかにした上で、それが法の下での平等の実現に寄与していることを検討する。
6回	【学校の機能と役割】学校が日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」を保障することを意図したものであることについて、個人の幸福追求権と生存権との関わりから理解する。
7回	【学校の機能と役割】学校が有する「公の性質」の一部として、専門職である教員に求められる資質・能力について検討する。
8回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、保護者の就学義務や行政による就学指導にかかる制度的な枠組みについて理解する。
9回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、校長及び教員による児童生徒への懲戒の意味について理解する。
10回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、学校の危機管理と安全計画の意味について理解する。
11回	【学校の組織と経営】学校における様々な事務（校務）の内容や校長の校務掌理権等について理解する。
12回	【学校の組織と経営】校経営に必要な校務分掌体制や職員会議等の位置づけについて検討する。
13回	【学校の組織と経営】学校教育法の改正によって新しく設置された職の役割等を明らかにした上で、個々の教職員が学校経営に参画することの意義について検討する。
14回	【学校の組織と経営】学校の組織マネジメントの基本的な考え方・進め方等について、岡山県を事例としつつ検討する。
15回	【予習】第1～14回の内容を踏まえ、学校経営に参画する教員のあり方について自分なりの見解を整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】既習の教職に関する科目で学んだ内容を確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】教育基本法第6条及び学校教育法第1条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】第4回の内容を教育の機会均等という観点から確認しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】学歴社会の問題点だけでなく意義について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】教職の意義等について既習の教職に関する科目の内容を確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】第1～7回の学修を踏まえ、日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」について整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】学校教育法第11条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】第8・9回の内容を教員の役割・責務との関係から整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】日本における教育委員会制度の特色について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】第11回の内容について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】学校の組織的な運営が求められる背景について、地域社会からの信頼と学力観の転換をキーワードに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】PDCAサイクルの概要について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教員に必要な資質・能力を育むため、現代日本における学校教育制度がどのような理念と内容で構成されているかについて教育の社会的機能の側面から概説するとともに、学校経営・制度をめぐる課題について取り上げ、これからの教育の在り方に関する方向について論じていく。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-3にもっとも強く関与）
達成目標	社会における学校教育の役割と教育制度の関する仕組みの理解と、それを踏まえた学校経営の課題等についての基本的な認識を持てるようにする。
キーワード	公教育、教育法制、学校教育、マネジメント
成績評価（合格基準60）	最終評価試験（70%）と授業中に課す小レポート（30%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教職に関する科目
教科書	使用しない。
参考書	授業中に指示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
注意・備考	・授業中に課す小レポートについては、次時の授業において発表・討論を通して深化させる。 ・ペア学修や小集団でのグループ活動などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	生徒・進路指導論 (FC06N210)
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	加藤研治 * (かとうけんじ*)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目的、概要、および計画についてのガイダンスをする。
2 回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について説明する。
3 回	生徒指導の意義と課題について説明する。
4 回	生徒指導の原理と人格の発達課題について説明する。
5 回	生徒理解の方法について説明する。
6 回	生徒指導と進路指導について説明する。
7 回	不登校生徒への支援の在り方について説明する。
8 回	事例研究 懲戒・体罰等について説明する。
9 回	事例研究 暴力行為等について説明する。
10 回	事例研究 いじめ等について説明する。
11 回	事例研究 インターネット・携帯等について説明する。
12 回	生徒指導と法律について説明する。
13 回	生徒指導の機能を生かした教材開発について説明する。
14 回	生徒指導の機能を生かした教科外活動について説明する。
15 回	生徒指導の機能を生かした学校組織と運営について説明する。 全体の授業のまとめをする。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【復習】授業の目的等をしっかり確認すること。学校教育における生徒指導の位置づけについて、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	【予習】配付課題について、提出できるように準備しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導上の課題について認識し、身近な例でその解決方法等について考察すること(標準学習時間120分)。
3 回	【予習】生徒指導の意義について、「生徒指導提要」(文科省、H22)等で各自確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】集団指導・個別指導の方法原理について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	【予習】小学校、中学校、高等学校と成長するにつれて、人格がどのように発達するか考察しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導の前提となる発達観と指導観について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	【予習】身近な例として、教師はどのように生徒であった当時の自分たちを理解してくれていたか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒理解の具体的な方法とその重要性について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	【予習】自分が受けた進路指導について、振り返って、箇条書きにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】進路指導の意義やその方法や進路指導部との連携等について、再度身近な例をもとに理解しておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	【予習】身近な例で、不登校の生徒の存在とその対応(教師・学校)について、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】不登校の定義とその変遷、学校での指導・支援の在り方について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
8 回	【予習】部活動指導等における体罰について、身近な例としてあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】懲戒および体罰の禁止について、正確な知識をもつこと(標準学習時間120分)。
9 回	【予習】身近な例として、暴力行為が発生した場合の対応について、あれば思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】暴力行為の予防、発生した場合の的確な対応、関係機関等の連携について正確に理解して

	おくこと(標準学習時間120分)。
10回	【予習】身近な例として、いじめ等のトラブルがあれば、その原因や状況等を思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の理解、いじめ問題への的確な対(教師、学校等)応について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
11回	【予習】身近な例として、学校掲示板等でのトラブルがあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】インターネット等の知識、違法・有害情報対策、被害発生時の的確な対応等について正確に把握しておくこと(標準学習時間120分)。
12回	【予習】少年法等について、インターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】青少年の保護育成に関する法令や犯罪少年、触法少年の処遇について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
13回	【予習】わかる授業とは、どんな授業なのか、経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科指導の充実における生徒指導の意義について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
14回	【予習】HR活動、生徒会活動等について、印象に残っていることを思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別活動の目標や具体的な指導方法について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
15回	【予習】身近な例として、生徒指導部の存在は君たちの目にどのように映っていたのだろうか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校における生徒指導体制の在り方について、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
16回	【予習】今までの学習を振り返って、講義を受ける前と後で生徒指導に関してどのような認識に違いが生じたか確認しておくこと。また、1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)。

講義目的	教師として生徒の個性を生かし、開花するよう援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け、教師としての実践的な指導力を養うことを目的とする。また、ひいては、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D-1, 3にもっとも強く関与)
達成目標	生徒指導の基本的な理論や意義について理解する。 生徒指導の実践的な対応知識・スキルを身につける。 実際の生徒指導のケースについて考察し、その的確な対応について理解する。 キャリアガイダンスについて、理解する。 これからの社会で通用する生徒指導・進路指導についての教育観や指導観を身につける。
キーワード	生徒指導、進路指導、問題行動(いじめ、インターネット)、個別指導と集団指導、生徒理解、人間関係
成績評価(合格基準60)	課題(レポート等)提出とその内容(50%)、最終評価試験(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、課題レポートの提出がない場合は、単位は認められないので注意すること。
関連科目	特別活動の理論と方法
教科書	教科書は使用しない。適宜、教材プリントを配付する。
参考書	生徒指導提要(文科省)
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義です。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。 課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	生徒・進路指導論（FC060210）
英文科目名	Studies of Career Guidance for Students
担当教員名	加藤研治＊（かとうけんじ＊）, 松岡律（まつおかただし）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の目的、概要、および計画についてのガイダンスをする。 (全教員)
2 回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について説明する。 (全教員)
3 回	生徒指導の意義と課題について説明する。 (全教員)
4 回	生徒指導の原理と人格の発達課題について説明する。 (全教員)
5 回	生徒理解の方法について説明する。 (全教員)
6 回	生徒指導と進路指導について説明する。 (全教員)
7 回	不登校生徒への支援の在り方について説明する。 (全教員)
8 回	事例研究 懲戒・体罰等について説明する。 (全教員)
9 回	事例研究 暴力行為等について説明する。 (全教員)
10 回	事例研究 いじめ等について説明する。 (全教員)
11 回	事例研究 インターネット・携帯等について説明する。 (全教員)
12 回	生徒指導と法律について説明する。 (全教員)
13 回	生徒指導の機能を生かした教材開発について説明する。 (全教員)
14 回	生徒指導の機能を生かした教科外活動について説明する。 (全教員)
15 回	生徒指導の機能を生かした学校組織と運営について説明する。 全体の授業のまとめをする。 (全教員)
16 回	最終評価試験を実施する。 (全教員)

--

回数	準備学習
1 回	【復習】授業の目的等をしっかり確認すること。学校教育における生徒指導の位置づけについて、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
2 回	【予習】配付課題について、提出できるように準備しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導上の課題について認識し、身近な例でその解決方法等について考察すること(標準学習時間120分)。
3 回	【予習】生徒指導の意義について、「生徒指導提要」(文科省、H22)等で各自確認しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】集団指導・個別指導の方法原理について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	【予習】小学校、中学校、高等学校と成長するにつれて、人格がどのように発達するか考察しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒指導の前提となる発達観と指導観について、身近な例をもとに再度確認、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	【予習】身近な例として、教師はどのように生徒であった当時の自分たちを理解してくれていたか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】生徒理解の具体的な方法とその重要性について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	【予習】自分が受けた進路指導について、振り返って、箇条書きにしておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】進路指導の意義やその方法や進路指導部との連携等について、再度身近な例をもとに理解しておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	【予習】身近な例で、不登校の生徒の存在とその対応(教師・学校)について、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】不登校の定義とその変遷、学校での指導・支援の在り方について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
8 回	【予習】部活動指導等における体罰について、身近な例としてあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】懲戒および体罰の禁止について、正確な知識をもつこと(標準学習時間120分)。
9 回	【予習】身近な例として、暴力行為が発生した場合の対応について、あれば思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】暴力行為の予防、発生した場合の的確な対応、関係機関等の連携について正確に理解しておくこと(標準学習時間120分)。
10 回	【予習】身近な例として、いじめ等のトラブルがあれば、その原因や状況等を思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】いじめ問題の理解、いじめ問題への的確な対応(教師、学校等)について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
11 回	【予習】身近な例として、学校掲示板等でのトラブルがあれば、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】インターネット等の知識、違法・有害情報対策、被害発生時の的確な対応等について正確に把握しておくこと(標準学習時間120分)。
12 回	【予習】少年法等について、インターネット等で調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】青少年の保護育成に関する法令や犯罪少年、触法少年の処遇について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
13 回	【予習】わかる授業とは、どんな授業なのか、経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教科指導の充実における生徒指導の意義について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
14 回	【予習】HR活動、生徒会活動等について、印象に残っていることを思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】特別活動の目標や具体的な指導方法について理解しておくこと(標準学習時間120分)。
15 回	【予習】身近な例として、生徒指導部の存在は君たちの目にどのように映っていたのだろうか、思い出しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】学校における生徒指導体制の在り方について、理解しておくこと(標準学習時間120分)。
16 回	【予習】今までの学習を振り返って、講義を受ける前と後で生徒指導に関してどのような認識に違いが生じたか確認しておくこと。また、1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)。

講義目的	教師として生徒の個性を生かし、開花するよう援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々
------	--

	の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け、教師としての実践的な指導力を養うことを目的とする。また、ひいては、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針D - 1, 3にもっとも強く関与)
達成目標	生徒指導の基本的な理論や意義について理解する。 生徒指導の実践的な対応知識・スキルを身につける。 実際の生徒指導のケースについて考察し、その的確な対応について理解する。 キャリアガイダンスについて、理解する。 これからの社会で通用する生徒指導・進路指導についての教育観や指導観を身につける。
キーワード	生徒指導、進路指導、問題行動(いじめ、インターネット)、個別指導と集団指導、生徒理解、人間関係
成績評価(合格基準60)	課題(レポート等)提出とその内容(50%)、最終評価試験(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。なお、課題レポートの提出がない場合は、単位は認められないので注意すること。
関連科目	特別活動の理論と方法
教科書	教科書は使用しない。適宜、教材プリントを配付する。
参考書	生徒指導提要(文科省)
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講義です。自らが、教師の立場になった姿勢で授業に参加してください。居眠りや私語が目立つなど、マナーや態度に問題がある学生はその場で退出してもらいます。出欠席の記録は、講義終了前にレポートの提出で行います。なお、不十分な内容のレポートは出席と見なさない場合もあるので注意してください。 課題等については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。 小集団でのグループ活動、ロールプレイング、模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	木材加工実習 (FC06P210)
英文科目名	Practice in Woodworking
担当教員名	塗木利明 (ぬるきとしあき)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 1時限 / 木曜日 2時限
対象クラス	バイオ・応用化学科(～16), 機械システム工学科(～16), 電気電子システム学科(～16), 情報工学科(～16), 知能機械工学科(～16), 生体医工学科(～16), 建築学科(～16), 生命医療工学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	実習の概要と安全教育について説明する。
2 回	投影図、製図規則など製図の基礎を説明する。
3 回	製図規則に従いレターラックの組立図を作製する。
4 回	製図規則に従いレターラックの部品図を作製する。
5 回	工具箱の組立図を作製する。
6 回	工具箱の組立図を仕上げた後部品図を作製する。
7 回	工具箱の部品図を完成する。
8 回	工具箱の木取りをする。
9 回	工具箱のけがき作業をする。
1 0 回	けがき線を基に部品を切断する。
1 1 回	けがきに従って部品を加工する。
1 2 回	工具箱の組立作業をする。
1 3 回	工具箱の塗装をする。
1 4 回	工具箱の金具付けをする。
1 5 回	作品鑑賞会での意見交換をふまえて工具箱製作のレポートを作成する。
1 6 回	角いすの組立図を作製する。
1 7 回	角いすの組立図を完成する。
1 8 回	角いすの部品図を作製する。
1 9 回	角いすの部品図を完成する。
2 0 回	角いすの木取りをする。
2 1 回	角いすのけがきをする。
2 2 回	角いすの部品のほぞ加工をする。
2 3 回	角いすのほぞ穴加工をする。
2 4 回	角いすの面取り加工をする。
2 5 回	角いすの脚の組立てをする。
2 6 回	角いすの座板を加工したあと組立てをする。
2 7 回	角いすの仕上げ加工と研磨をする。
2 8 回	角いすの着色をする。
2 9 回	角いすの塗装をする。
3 0 回	作品鑑賞会での意見交換をふまえて角いすのレポートを作成する。

回数	準備学習
1 回	本実習の目的等をシラバスで確認しておくこと、また作業の安全のための注意点について考えておくこと (標準学習時間180分)。
2 回	前回配付された資料に再度目を通して実習の目的、評価法、安全作業の注意点等内容をよく理解しておくこと (標準学習時間90分)。産業界における製図の役割・機能について考えておくこと (標準学習時間90分)。
3 回	前回配付された資料に再度目を通して製図の役割や規則等の内容をよく理解しておくこと (標準学習時間90分)。前回の内容を復習し、第三角法で正面図が正確に描けるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
4 回	第 2 回の内容を復習し、正確に第三角法で側面図・平面図が描けるようにしておくこと (標準学習時間180分)。
5 回	第 2 回の内容と第 3・4 回の作図作業を振り返って、製図を早く描くにはどのような点に注意すればよいかを考えておくこと (標準学習時間180分)。
6 回	製図を早く描くための注意点を前回の経験も踏まえて再度考えておくこと (標準学習時間180分)。
7 回	第 2 回の資料に目を通して、完成した図面のチェック項目を書き出しておくこと (標準学習時間180分)。

8 回	前回までの製図作業を終わって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間90分）。参考書等の資料によって木取りの方法について調べておくこと（標準学習時間90分）。
9 回	前回の木取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってけがきの方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
10 回	前回のけがき作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって切断の方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
11 回	前回の切断作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって木材の加工法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
12 回	前回の部品加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって組み立ての方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
13 回	前回の組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって塗装の方法について調べておくこと（標準学習時間120分）。
14 回	前回の塗装作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって金具とその取り付けについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
15 回	前回の金具の取り付け作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製作を振り返り、工程とわかったこと、疑問点などを書き出しておくこと（標準学習時間120分）。
16 回	第2回・第3回で学習した内容を復習しておくこと（標準学習時間180分）。
17 回	前回の組立図を描く際に難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。第2回・第3回で学習した内容を重ねて復習し理解しておくこと（標準学習時間120分）。
18 回	前回の組立図を完成させるにあたって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製図を振り返り、得た教訓を確認しておくこと（標準学習時間120分）。
19 回	前回の部品図を描く際に難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。工具箱の製図を経験して得た教訓を再度確認しておくこと（標準学習時間120分）。
20 回	前回の部品図を完成させるにあたって難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。】参考書等の資料によって木取りについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
21 回	前回の木取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってけがきについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
22 回	前回のけがき作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってほぞ加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
23 回	前回のほぞ加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によってほぞ穴加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
24 回	前回のほぞ穴加工を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって面取り加工について調べておくこと（標準学習時間120分）。
25 回	前回の面取り作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって組立てについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
26 回	前回の脚の組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって座板加工・組立てについて調べておくこと（標準学習時間120分）。
27 回	前回の座板加工とその組み立て作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって仕上げ加工・研磨について調べておくこと（標準学習時間120分）。
28 回	前回の仕上げ加工と研磨作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって着色について調べておくこと（標準学習時間120分）。
29 回	前回の着色作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことな

	どを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。参考書等の資料によって塗装について調べておくこと（標準学習時間120分）。
30回	前回の塗装作業を行って難しかったところ、意外と簡単だったところ、考えたこと、感じたことなどを授業中に配付されたプリントに記入しておくこと（標準学習時間60分）。角いすの製作を振り返り、工程とわかったこと、疑問点などを書き出しておくこと（標準学習時間120分）。

講義目的	中学校指導要領に基づき、実践的・体験的な活動を通して行われる技術・家庭科の教員として教育・学習指導において必要とされる木材加工の実践力を養うことを目的として、図面に基づく製作中心の実習を行う。（教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針H-2にもっとも強く関連する）
達成目標	中学校の「技術・家庭科」において必要とされる以下の木材加工の実践力を身に付けること。（1）木材加工に必要な製図法を修得すること。（2）木工具・機械の使用法を修得すること。（3）木工具・機械を使用した基礎的な技能を修得すること。（4）木工具・機械の安全な使用法について理解すること。
キーワード	木材、木材加工、木工具、木工機械、設計、製図
成績評価（合格基準60	レポート（10%）、製作図（30%）、作品（60%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	木材加工
教科書	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	井上裕之他著／「技術教育選書 木材の性質と加工」／開隆堂（1年次開講の「木材加工」教科書）
連絡先	研究室：工学実習棟2階
注意・備考	・木材加工の基礎的・基本的な知識が必要となるので、1年次開講の「木材加工」修得後に履修することが望ましい。「木材加工」を未修得の場合は、実習に最低限必要な知識を得るため中学校技術・家庭科用文部科学省検定済教科書該当部分の学習と理解が必要である。・製作した作品については、第15回と第30回の授業において発表や鑑賞等を通して知識・技能を深化させる。
試験実施	実施しない

科目名	職業指導（FC06R210）
英文科目名	Vocational Guidance
担当教員名	白神憲一＊（しらかみけんいち＊）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 3時限 / 木曜日 4時限
対象クラス	バイオ・応用化学科（～16）、機械システム工学科（～16）、電気電子システム学科（～16）、情報工学科（～16）、知能機械工学科（～16）、生体医工学科（～16）、建築学科（～16）、生命医療工学科（～16）
単位数	4.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	職業指導の意義と内容、授業の進め方について説明する。
2回	職業指導の基本的性格について解説する。
3回	学習指導要領総則と職業指導1（教育課程編成の原則）について解説する。
4回	学習指導要領総則と職業指導2（職業教育に関して配慮すべき事項）について解説する。
5回	学習指導要領総則と職業指導3（教育課程の実施に当たって配慮すべき事項）について解説する。
6回	学習指導要領総則と職業指導4（特別活動との関連）について解説する。
7回	我が国の産業構造や就業構造の変化について解説する。
8回	学校制度や学校教育における職業に関する教育の現状について解説する。
9回	社会全体を通じた職業に関する教育に対する認識について解説する。
10回	キャリア教育・職業教育の内容と課題について解説する。
11回	キャリア教育・職業教育の基本的方向性について解説する。
12回	キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点について解説する。
13回	キャリア教育の充実に関する基本的な考え方について解説する。
14回	キャリア教育の充実方策について解説する。
15回	重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善について解説する。
16回	中間試験を実施する。
17回	キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施について解説する。
18回	各学校段階における推進のポイント（幼児期・義務教育）について解説する。
19回	各学校段階における推進のポイント（後期中等教育・特別支援学校）について解説する。
20回	後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の課題について解説する。
21回	後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の基本的な考え方について解説する。
22回	高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実について解説する。
23回	高等学校（特に普通科）における課題について解説する。
24回	専門学科における職業教育について解説する。
25回	専門学科における職業教育の推進方策について解説する。
26回	総合学科及び特別支援学校高等部における職業教育の推進と課題について解説する。
27回	専門的な知識・技能の高度化への対応と高等学校専門学科の改善の方向性について解説する。
28回	生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の必要性について解説する。
29回	中途退学者や無業者等のキャリア形成のための支援方策について解説する。
30回	職業に関する生涯にわたる学習を支える基盤の形成について解説する。
31回	地域社会や企業・学校間の連携について解説する。
32回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編を参考にして、職業指導、進路指導、キャリア教育の概念を調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】職業指導、進路指導、キャリア教育の概念について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（以下テキスト）の序章及び第1章のサマリーを参考に職業指導の目指す教育活動について調べておくこと。発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】職業指導の目指す教育活動について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p1,2,27,28,29を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】教育課程編成の原則について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p65～70を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】職業教育に関して配慮すべき事項について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
5 回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p70～76を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】言語活動、ガイダンスの機能、生徒指導、進路指導について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】高等学校学習指導要領解説総則編p76～87、特別活動編p12～13を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】様々な配慮事項と特別活動との関連性について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】テキストのp3～8を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】テキストのp8～p11を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】テキストのp12～p15を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】テキストのp17～p19を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】テキストのp19～p20を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】テキストのp21～p27を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】テキストのp29～p31を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】テキストのp31～p32を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】テキストのp33～p35を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】第1回から第15回までの範囲の内容をよく復習しておくこと（標準学習時間180分）。
17 回	【予習】テキストのp35～p37を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
18 回	【予習】テキストのp38～p40を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
19 回	【予習】テキストのp40～p41を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
20 回	【予習】テキストのp43～p45を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
21 回	【予習】テキストのp45～p46を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
22 回	【予習】テキストのp47～p49を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
23 回	【予習】テキストのp49～p54を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
24 回	【予習】テキストのp54～p56を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。

2 5 回	【予習】テキストのp56～p58を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2 6 回	【予習】テキストのp58～p60を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2 7 回	【予習】テキストのp61～p65を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2 8 回	【予習】テキストのp90～p91を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
2 9 回	【予習】テキストのp92～p93を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3 0 回	【予習】テキストのp93～p94を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3 1 回	【予習】テキストのp96～p100を熟読し、要点をまとめておくこと。また、発表者は発表用プレゼンテーションを準備しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の内容について復習しておくこと（標準学習時間60分）。
3 2 回	【予習】第17回から第31回までの範囲の内容をよく復習しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	工業を学ぶ生徒たちが生涯学習の観点に立って自らの進路を適切に選択し、自己実現を図るために、教師がなすべき指導・援助のあり方やその指導法を身につける。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針J-2にもっとも強く関与)
達成目標	1 高等学校学習指導要領に記載されている進路指導、職業指導、キャリア教育に関わる内容を理解し、実践できる力を身につける。 2 教育現場が抱える課題は数多くあるが、中でも子供たちの自己教育力の育成が強く求められている。自己教育力の概念を理解し、指導法を身につける。 3 キャリア教育の基本方向を理解し、有効な推進方策を策定できる。
キーワード	職業教育、キャリア教育、生涯学習
成績評価（合格基準60	中間試験(30%)、最終評価試験(30%)、発表及びプレゼンテーション(40%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	平成21年高等学校学習指導要領解説 総則編 / 文部科学省 / 東山書房 / 9784827814804 ; 平成21年高等学校学習指導要領解説 特別活動編 / 文部科学省 / 海文堂出版 / 9784303126308 ; 中央教育審議会答申 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について / 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm から各自ダウンロードしておくこと。授業にノートPC等持込可。
参考書	適宜資料を配付する。
連絡先	D 2 号館 4 階 岡本研究室
注意・備考	毎授業、与えられた課題について一名ないし二名の学生がプレゼンテーションや資料を準備して発表を行い、それについて全員でディスカッションを行う。最後に教師が捕捉、重要事項のまとめ、ポイントの解説を行う。 第16回で実施する中間試験については、第17回で正答例などとともに解説する。
試験実施	実施する

科目名	介護等体験の基礎と方法（FC06T210）
英文科目名	Introduction to Caregiving Experience
担当教員名	曾我雅比兒（そがまさひこ）、中島弘徳（なかじまひろのり）、皿田琢司（さらたたくじ）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「介護等体験の講義」の実施方法について説明する。 (中島 弘徳)
2 回	「介護等体験の意義」について説明する。 (曾我 雅比兒)
3 回	「児童福祉施設」の概要と体験について説明する。(外部講師) (皿田 琢司)
4 回	「障害者福祉施設(知的障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
5 回	「障害者福祉施設(身体障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比兒)
6 回	「障害者福祉施設(精神障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (皿田 琢司)
7 回	「高齢者福祉施設(特別養護老人ホーム)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
8 回	「高齢者福祉施設(介護老人保健施設)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比兒)
9 回	「特別支援学校(盲学校)」の概要と体験について講義する。(外部講師) (皿田 琢司)
10 回	「特別支援学校(聾学校)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
11 回	「特別支援学校(支援学校)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比兒)
12 回	「介護等体験」の実施について説明する。(1)(外部講師) (皿田 琢司)
13 回	「介護等体験」の実施について説明する。(2)(外部講師) (中島 弘徳)
14 回	介護等体験の講義の全体像をまとめる。 (中島 弘徳, 皿田 琢司)
15 回	これまで行った講義内容から課題を出す。その課題についてレポートを作成し時間内に提出する。 (曾我 雅比兒, 中島 弘徳)

回数	準備学習
1 回	【予習】テキスト「介護等体験の基礎と方法」以下「テキスト」と称する の第1回の領域を予習しておくこと(標準学習時間180分)。

	【復習】介護等体験の施設について調べておくこと（標準学習時間120分）。
2 回	【予習】テキストの第2回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「介護等体験の意義」について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
3 回	【予習】テキストの第3回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「児童福祉施設」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
4 回	【予習】テキストの第4回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「障害者福祉施設（知的障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
5 回	【予習】テキストの第5回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「障害者福祉施設（身体障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
6 回	【予習】テキストの第6回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「障害者福祉施設（精神障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】テキストの第7回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「高齢者福祉施設（特別養護老人ホーム）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
8 回	【予習】テキストの第8回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「高齢者福祉施設（介護老人保健施設）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
9 回	【予習】テキストの第9回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「特別支援学校（盲学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
10 回	【予習】テキストの第10回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「特別支援学校（聾学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
11 回	【予習】テキストの第11回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「特別支援学校（支援学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
12 回	【予習】テキストの第12回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】社会福祉施設での介護等体験全般について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
13 回	【予習】テキストの第13回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】特別支援学校での体験全般について復習しておくこと（標準学習時間90分）。
14 回	【予習】第3回から第12回までの内容をまとめておくこと（標準学習時間90分）。
15 回	【予習】これまで行った講義内容で学んだことをまとめておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	介護等体験の内容を幅広く理解し、いかなる実践活動においても効果的に活動することができる能力の基礎と態度を養う。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与）
達成目標	義務教育担当の教員が介護の現場を体験する必要性を理解する。 社会福祉施設の概要を理解し、施設の実習にあたっては効果的に活動できるようになる。 特別支援学校の概要を理解し、学校の実習にあたっては効果的に活動できるようになる。
キーワード	共生社会、ノーマライゼーション、バリアフリー、社会福祉施設、特別支援学校
成績評価（合格基準60	毎回の講義内容についてのレポート(75%)と15回目の総括レポート(25%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、15回目の課題レポート未提出者は、講義内容のレポートで60%に達していても単位を出さない。
関連科目	なし。
教科書	「介護等体験の基礎と方法」（テキスト、大学作成）を配付する。各講座では、講師が準備した資料も併用して講義を行う。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曽我研究室
注意・備考	学科ごとに履修クラスを指定します。時間割や掲示、オリエンテーションで確認すること。 この講義の単位取得者のみが、3年次で介護等体験に参加できる。 高等学校教員免許状だけの取得希望者においては、本講義は「教科又は教職に関する科目」となる。 課題（予習内容）については、次時の授業での講義等を通して深化させる。
試験実施	実施しない

科目名	教育実習事前・事後指導（理数技社工）（FC06T310）
英文科目名	Guidance for Teaching Practice
担当教員名	塗木利明（ぬるきとしあき）、安藤豊*（あんどうゆたか*）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、石井一郎*（いしいいちろう*）、荒尾真一*（あらおしんいち*）、津田秀哲*（つだひでのり*）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の概要を説明する。 （塗木 利明、岡本 弥彦、藤本 義博、福田 博人、津田 秀哲*）
2回	教育実習にあたって生徒指導に触れながら全体の概要を説明する。 （塗木 利明）
3回	教育実習にあたって教科指導法を中心に説明する。 （塗木 利明）
4回	特別活動について人権・同和教育を中心に説明する。 （安藤 豊*）
5回	学習指導案の作成法を説明する。 （全教員）
6回	学習指導案の事例を解説し検討する。 （全教員）
7回	学習指導案を作成する。 （全教員）
8回	学習指導案の板書計画を作成する。 （全教員）
9回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（1回目） （全教員）
10回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（2回目） （全教員）
11回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（3回目）

	(全教員)
1 2 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(4回目)
	(全教員)
1 3 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。(5回目)
	(全教員)
1 4 回	教員採用試験合格体験を聴講し、成果と課題をまとめる。
	(塗木 利明,岡本 弥彦,藤本 義博,福田 博人,津田 秀哲*)
1 5 回	教育実習後に体験発表会に参加し、報告書を作成する。
	(塗木 利明,岡本 弥彦,藤本 義博,福田 博人,津田 秀哲*)

回数	準備学習
1 回	本講義の授業内容、目的、達成目標等をシラバスで確認しておくこと。併せて「教職・博物館学芸員課程履修の手引き」を読み、本講義の位置づけを確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「生徒・進路指導論」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。自分の教科の「教科教育法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「特別活動の理論と方法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
6 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
7 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
8 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
9 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 0 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 1 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 2 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 3 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 4 回	前回までの内容から得られた結果と課題を整理すること(標準学習時間180分)。
1 5 回	教育実習終了後すぐに気づいた点を書き出して発表会に備えること(標準学習時間180分)。

講義目的	この講義は「教育実習」の事前・事後の指導に関するものである。事前指導は「教育実習の現場実習」に向けた心のリハーサル(あるいはプレ現場実習)の意味を込めて行い、事後指導は現場実習
------	--

	を終えた後に教育実習の総まとめを行うものであり、有意義な教育実習を目指し教職への意欲を高めることを目的とする。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針 E - 1, 2 にもっとも強く関与している)
達成目標	(1) 事前指導では学習指導案や板書計画が作成でき、学校現場を想定した模擬授業ができること。 (2) 事後指導では現場実習の反省が活かせること。
キーワード	プレ現場実習、教育実習
成績評価(合格基準60)	事前指導では課題のレポートや学習指導案(80%)、事後指導では授業観察等のレポート(20%)により成績を評価し、事前指導と事後指導を併せて総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育実習、教育実習
教科書	使用しない。(各教科担当者の指示に従うこと)
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	各教科担当者の研究室または非常勤講師室
注意・備考	・事前指導の終了時に、R(保留)かE(不認定)のいずれかの評価が付き、E判定は教育実習が認められない。 ・提出課題・レポートについては各担当者により次時の授業で発表や討論して深化させたり、添削した後に返却したりするなどの方法でフィードバックする。
試験実施	実施しない

科目名	教育学原論 (FC06U110)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	応用数学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション - 教職の社会的意義や課題を考察し、あわせてその魅力についてへ招待する。
2 回	教育とは何か 1) - 教育の語源的考察から「教育」という語の意味と概念を概説する。
3 回	教育とは何か 2) - 人間の発達特性の観点から人間にとってなぜ教育は必要かを概説する。
4 回	教育の思想 1) - 「教」重視 (= 知識伝達) の教育思想家 (クリーク、デュルケム etc.) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。
5 回	教育の思想 2) - 「育」重視 (= 児童体験) の教育思想家 (ルソー、ペスタロッチ etc.) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。
6 回	西欧における教育の歴史 1) - 古代ギリシャからルネサンス期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
7 回	これまでのまとめと中間テストをする。
8 回	西欧における教育の歴史 2) - 近代の著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
9 回	西欧における教育の歴史 3) - 新教育運動期の著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
10 回	日本の教育の歴史 1) - 古代律令国家から明治維新时期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
11 回	日本の教育の歴史 2) - 明治維新から昭和の戦前期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
12 回	日本の教育の歴史 3) - 戦後改革から今日まで、社会が教育に要請する課題の変遷を加味しながら、新旧の教育基本法の内容を吟味していく。
13 回	教育の内容 1) - 教育課程に関する理論と法制を概説する。
14 回	教育の内容 2) - 学習指導要領の変遷を概説する。
15 回	学習と授業の理論と方法について概説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】自分にとって教育とは何であったかを考えておくこと (標準学習時間60分)。
2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】自分にとって教育とは何であったか小論文にまとめること (標準学習時間120分)。
3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
6 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
7 回	【予習】試験の準備をすること (標準学習時間180分)。
8 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
9 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
10 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
11 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
12 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。

	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 6 回	【予習】これまで学んできたことを復習しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教職専門科目群の中の中心的科目である本科目においては、今日の学校教育を成り立たしめている事柄についての基礎的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、人間にとっての教育の必要性や教育の本質についての思想や理論を概観した上で、義務教育制度の成立と発展という観点から、学校教育の理念や目標、教育内容と方法に関する諸理論、学校の管理や運営、教員の本務等を考察する。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1にもっとも強く関与)
達成目標	人間にとってなぜ教育が必要であるかについて、家庭や社会とのかかわりを含めて理解する。 教育思想には、文化遺産の伝達(=「教」)を重視する考えと、子どもの自己発展(=「育」)を重視する立場の2つの流れがあることを理解する。 西洋と日本における教育の歴史の大まかな流れを、教育目的観の変遷に沿って把握する。 近代公教育を支える理念とその制度化の過程及び今日の学校教育の基本的な事柄について、学校と教員の服務を中心に把握する。カリキュラムの法制と主たる学習理論を把握する。 カリキュラムの法制と主たる学習理論を把握する。
キーワード	理想的人間像、教育目的、教育内容、教育方法、教育評価、近代公教育
成績評価（合格基準60	課題提出等の評価20%と中間テストの得点20%と最終評価試験の得点60%をあわせて評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	すべての教職専門科目
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我雅比児・皿田琢司編 / 大学教育出版 / 9784864293709
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曾我研究室
注意・備考	第7回で実施する中間テストについて、第8回の授業で正答例を示しながら解説する。 教師に必要な意欲的かつ研究的態度を受講者にも求める。
試験実施	実施する

科目名	学校経営（FC06U210）
英文科目名	School Administration
担当教員名	高瀬淳＊（たかせあつし＊）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化（オリエンテーション）】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として少子高齢社会を取り上げ、生涯学習の観点から、児童生徒のライフコースを踏まえた学校教育の在り方について検討する。
3回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として知識基盤社会を取り上げ、国民の幸福追求権の観点から、児童生徒に求められる資質能力を踏まえた学校教育の在り方について検討する。
4回	【学校の種類と目的】学校教育法に定められた学校の種類・目標を明らかにし、国民の教育を受ける権利を保障する学校としての法的な位置づけについて理解する。
5回	【学校の機能と役割】近代の学校が、社会の富や地位の再分配という機能を有していることを明らかにした上で、それが法の下での平等の実現に寄与していることを検討する。
6回	【学校の機能と役割】学校が日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」を保障することを意図したものであることについて、個人の幸福追求権と生存権との関わりから理解する。
7回	【学校の機能と役割】学校が有する「公の性質」の一部として、専門職である教員に求められる資質・能力について検討する。
8回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、保護者の就学義務や行政による就学指導にかかる制度的な枠組みについて理解する。
9回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、校長及び教員による児童生徒への懲戒の意味について理解する。
10回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、学校の危機管理と安全計画の意味について理解する。
11回	【学校の組織と経営】学校における様々な事務（校務）の内容や校長の校務掌理権等について理解する。
12回	【学校の組織と経営】校経営に必要な校務分掌体制や職員会議等の位置づけについて検討する。
13回	【学校の組織と経営】学校教育法の改正によって新しく設置された職の役割等を明らかにした上で、個々の教職員が学校経営に参画することの意義について検討する。
14回	【学校の組織と経営】学校の組織マネジメントの基本的な考え方・進め方等について、岡山県を事例としつつ検討する。
15回	【予習】第1～14回の内容を踏まえ、学校経営に参画する教員のあり方について自分なりの見解を整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】既習の教職に関する科目で学んだ内容を確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】教育基本法第6条及び学校教育法第1条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】第4回の内容を教育の機会均等という観点から確認しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】学歴社会の問題点だけでなく意義について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】教職の意義等について既習の教職に関する科目の内容を確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】第1～7回の学修を踏まえ、日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」について整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】学校教育法第11条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】第8・9回の内容を教員の役割・責務との関係から整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】日本における教育委員会制度の特色について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】第11回の内容について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】学校の組織的な運営が求められる背景について、地域社会からの信頼と学力観の転換をキーワードに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】PDCAサイクルの概要について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教員に必要な資質・能力を育むため、現代日本における学校教育制度がどのような理念と内容で構成されているかについて教育の社会的機能の側面から概説するとともに、学校経営・制度をめぐる課題について取り上げ、これからの教育の在り方に関する方向について論じていく。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-3にもっとも強く関与）
達成目標	社会における学校教育の役割と教育制度の関する仕組みの理解と、それを踏まえた学校経営の課題等についての基本的な認識を持てるようにする。
キーワード	公教育、教育法制、学校教育、マネジメント
成績評価（合格基準60）	最終評価試験（70％）と授業中に課す小レポート（30％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教職に関する科目
教科書	使用しない。
参考書	授業中に指示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
注意・備考	・授業中に課す小レポートについては、次時の授業において発表・討論を通して深化させる。 ・ペア学修や小集団でのグループ活動などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	教育学原論 (FC06V110)
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	曾我雅比児 (そがまさひこ)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	化学科, 応用物理学科, 基礎理学科, 生物化学科, 臨床生命科学科, 動物学科, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション - 教職の社会的意義や課題を考察し、あわせてその魅力についてへ招待する。
2 回	教育とは何か 1) - 教育の語源的考察から「教育」という語の意味と概念を概説する。
3 回	教育とは何か 2) - 人間の発達特性の観点から人間にとってなぜ教育は必要かを概説する。
4 回	教育の思想 1) - 「教」重視 (= 知識伝達) の教育思想家 (クリーク、デュルケム etc.) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。
5 回	教育の思想 2) - 「育」重視 (= 児童体験) の教育思想家 (ルソー、ペスタロッチ etc.) を取り上げ、その教育論を整理し概説する。
6 回	西欧における教育の歴史 1) - 古代ギリシャからルネサンス期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
7 回	これまでのまとめと中間テストをする。
8 回	西欧における教育の歴史 2) - 近代の著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
9 回	西欧における教育の歴史 3) - 新教育運動期の著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
10 回	日本の教育の歴史 1) - 古代律令国家から明治維新时期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
11 回	日本の教育の歴史 2) - 明治維新から昭和の戦前期までの著名な教育思想家を取り上げ、その教育思想と当時の社会的、政治的情勢を加味して、時代の理想的人間像の変遷を概説する。
12 回	日本の教育の歴史 3) - 戦後改革から今日まで、社会が教育に要請する課題の変遷を加味しながら、新旧の教育基本法の内容を吟味していく。
13 回	教育の内容 1) - 教育課程に関する理論と法制を概説する。
14 回	教育の内容 2) - 学習指導要領の変遷を概説する。
15 回	学習と授業の理論と方法について概説する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】自分にとって教育とは何であったかを考えておくこと (標準学習時間60分)。
2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】自分にとって教育とは何であったか小論文にまとめること (標準学習時間120分)。
3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
6 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
7 回	【予習】試験の準備をすること (標準学習時間180分)。
8 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
9 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
10 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること (標準学習時間120分)。
11 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと (標準学習時間60分)。

	【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 2 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 3 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 4 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 5 回	【予習】教科書の該当部分を予め読んでおくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教科書の該当分を読み返し、書き込みノートに整理すること（標準学習時間120分）。
1 6 回	【予習】これまで学んできたことを復習しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教職専門科目群の中の中心的科目である本科目においては、今日の学校教育を成り立たしめている事柄についての基礎的認識の獲得を目標にする。講義のプロセスは、人間にとっての教育の必要性や教育の本質についての思想や理論を概観した上で、義務教育制度の成立と発展という観点から、学校教育の理念や目標、教育内容と方法に関する諸理論、学校の管理や運営、教員の本務等を考察する。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-1にもっとも強く関与)
達成目標	人間にとってなぜ教育が必要であるかについて、家庭や社会とのかかわりを含めて理解する。 教育思想には、文化遺産の伝達(=「教」)を重視する考えと、子どもの自己発展(=「育」)を重視する立場の2つの流れがあることを理解する。 西洋と日本における教育の歴史の大まかな流れを、教育目的観の変遷に沿って把握する。 近代公教育を支える理念とその制度化の過程及び今日の学校教育の基本的な事柄について、学校と教員の服務を中心に把握する。カリキュラムの法制と主たる学習理論を把握する。 カリキュラムの法制と主たる学習理論を把握する。
キーワード	理想的人間像、教育目的、教育内容、教育方法、教育評価、近代公教育
成績評価（合格基準60	課題提出等の評価20%と中間テストの得点20%と最終評価試験の得点60%をあわせて評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	すべての教職専門科目
教科書	現代教育の理論と実践 / 曾我雅比児・皿田琢司編 / 大学教育出版 / 9784864293709
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曾我研究室
注意・備考	第7回で実施する中間テストについて、第8回の授業で正答例を示しながら解説する。 教師に必要な意欲的かつ研究的態度を受講者にも求める。
試験実施	実施する

科目名	学校経営（FC06V210）
英文科目名	School Administration
担当教員名	高瀬淳＊（たかせあつし＊）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化（オリエンテーション）】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として少子高齢社会を取り上げ、生涯学習の観点から、児童生徒のライフコースを踏まえた学校教育の在り方について検討する。
3回	【現代社会と学校教育の役割・機能】現代社会の特色として知識基盤社会を取り上げ、国民の幸福追求権の観点から、児童生徒に求められる資質能力を踏まえた学校教育の在り方について検討する。
4回	【学校の種類と目的】学校教育法に定められた学校の種類・目標を明らかにし、国民の教育を受ける権利を保障する学校としての法的な位置づけについて理解する。
5回	【学校の機能と役割】近代の学校が、社会の富や地位の再分配という機能を有していることを明らかにした上で、それが法の下での平等の実現に寄与していることを検討する。
6回	【学校の機能と役割】学校が日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」を保障することを意図したものであることについて、個人の幸福追求権と生存権との関わりから理解する。
7回	【学校の機能と役割】学校が有する「公の性質」の一部として、専門職である教員に求められる資質・能力について検討する。
8回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、保護者の就学義務や行政による就学指導にかかる制度的な枠組みについて理解する。
9回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、校長及び教員による児童生徒への懲戒の意味について理解する。
10回	【児童生徒の管理】児童生徒の「教育を受ける権利」を保障する観点から、学校の危機管理と安全計画の意味について理解する。
11回	【学校の組織と経営】学校における様々な事務（校務）の内容や校長の校務掌理権等について理解する。
12回	【学校の組織と経営】校経営に必要な校務分掌体制や職員会議等の位置づけについて検討する。
13回	【学校の組織と経営】学校教育法の改正によって新しく設置された職の役割等を明らかにした上で、個々の教職員が学校経営に参画することの意義について検討する。
14回	【学校の組織と経営】学校の組織マネジメントの基本的な考え方・進め方等について、岡山県を事例としつつ検討する。
15回	【予習】第1～14回の内容を踏まえ、学校経営に参画する教員のあり方について自分なりの見解を整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】既習の教職に関する科目で学んだ内容を確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
2回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
4回	【予習】教育基本法第6条及び学校教育法第1条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
5回	【予習】第4回の内容を教育の機会均等という観点から確認しておくこと（標準学習時間120分）。

	【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
6 回	【予習】学歴社会の問題点だけでなく意義について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
7 回	【予習】教職の意義等について既習の教職に関する科目の内容を確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】第1～7回の学修を踏まえ、日本国憲法に定められた「教育を受ける権利」について整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】学校教育法第11条の条文を読んでおくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】第8・9回の内容を教員の役割・責務との関係から整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】日本における教育委員会制度の特色について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】第11回の内容について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】学校の組織的な運営が求められる背景について、地域社会からの信頼と学力観の転換をキーワードに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】PDCAサイクルの概要について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	教員に必要な資質・能力を育むため、現代日本における学校教育制度がどのような理念と内容で構成されているかについて教育の社会的機能の側面から概説するとともに、学校経営・制度をめぐる課題について取り上げ、これからの教育の在り方に関する方向について論じていく。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針B-3にもっとも強く関与）
達成目標	社会における学校教育の役割と教育制度の関する仕組みの理解と、それを踏まえた学校経営の課題等についての基本的な認識を持てるようにする。
キーワード	公教育、教育法制、学校教育、マネジメント
成績評価（合格基準60）	最終評価試験（70％）と授業中に課す小レポート（30％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	教職に関する科目
教科書	使用しない。
参考書	授業中に指示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
注意・備考	・授業中に課す小レポートについては、次時の授業において発表・討論を通して深化させる。 ・ペア学修や小集団でのグループ活動などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	介護等体験の基礎と方法（FC06Y210）
英文科目名	Introduction to Caregiving Experience
担当教員名	曾我雅比兒（そがまさひこ）、中島弘徳（なかじまひろのり）、皿田琢司（さらたたくじ）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「介護等体験の講義」の実施方法について説明する。 (中島 弘徳)
2 回	「介護等体験の意義」について説明する。 (曾我 雅比兒)
3 回	「児童福祉施設」の概要と体験について説明する。(外部講師) (皿田 琢司)
4 回	「障害者福祉施設(知的障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
5 回	「障害者福祉施設(身体障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比兒)
6 回	「障害者福祉施設(精神障害者)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (皿田 琢司)
7 回	「高齢者福祉施設(特別養護老人ホーム)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
8 回	「高齢者福祉施設(介護老人保健施設)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比兒)
9 回	「特別支援学校(盲学校)」の概要と体験について講義する。(外部講師) (皿田 琢司)
10 回	「特別支援学校(聾学校)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (中島 弘徳)
11 回	「特別支援学校(支援学校)」の概要と体験について説明する。(外部講師) (曾我 雅比兒)
12 回	「介護等体験」の実施について説明する。(1)(外部講師) (皿田 琢司)
13 回	「介護等体験」の実施について説明する。(2)(外部講師) (中島 弘徳)
14 回	介護等体験の講義の全体像をまとめる。 (中島 弘徳, 皿田 琢司)
15 回	これまで行った講義内容から課題を出す。その課題についてレポートを作成し時間内に提出する。 (曾我 雅比兒, 中島 弘徳)

回数	準備学習
1 回	【予習】テキスト「介護等体験の基礎と方法」以下「テキスト」と称する の第1回の領域を予習しておくこと(標準学習時間180分)。

	【復習】介護等体験の施設について調べておくこと（標準学習時間120分）。
2 回	【予習】テキストの第2回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「介護等体験の意義」について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
3 回	【予習】テキストの第3回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「児童福祉施設」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
4 回	【予習】テキストの第4回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「障害者福祉施設（知的障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
5 回	【予習】テキストの第5回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「障害者福祉施設（身体障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
6 回	【予習】テキストの第6回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「障害者福祉施設（精神障害者）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
7 回	【予習】テキストの第7回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「高齢者福祉施設（特別養護老人ホーム）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
8 回	【予習】テキストの第8回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「高齢者福祉施設（介護老人保健施設）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
9 回	【予習】テキストの第9回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「特別支援学校（盲学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
10 回	【予習】テキストの第10回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「特別支援学校（聾学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
11 回	【予習】テキストの第11回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】「特別支援学校（支援学校）」の概要と体験について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
12 回	【予習】テキストの第12回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】社会福祉施設での介護等体験全般について復習しておくこと（標準学習時間120分）。
13 回	【予習】テキストの第13回の領域を予習しておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】特別支援学校での体験全般について復習しておくこと（標準学習時間90分）。
14 回	【予習】第3回から第12回までの内容をまとめておくこと（標準学習時間90分）。
15 回	【予習】これまで行った講義内容で学んだことをまとめておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	介護等体験の内容を幅広く理解し、いかなる実践活動においても効果的に活動することができる能力の基礎と態度を養う。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Gにもっとも強く関与）
達成目標	義務教育担当の教員が介護の現場を体験する必要性を理解する。 社会福祉施設の概要を理解し、施設の実習にあたっては効果的に活動できるようになる。 特別支援学校の概要を理解し、学校の実習にあたっては効果的に活動できるようになる。
キーワード	共生社会、ノーマライゼーション、バリアフリー、社会福祉施設、特別支援学校
成績評価（合格基準60）	毎回の講義内容についてのレポート(75%)と15回目の総括レポート(25%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、15回目の課題レポート未提出者は、講義内容のレポートで60%に達していても単位を出さない。
関連科目	なし。
教科書	「介護等体験の基礎と方法」（テキスト、大学作成）を配付する。各講座では、講師が準備した資料も併用して講義を行う。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	B8号館4階 曽我研究室
注意・備考	学科ごとに履修クラスを指定します。時間割や掲示、オリエンテーションで確認すること。 この講義の単位取得者のみが、3年次で介護等体験に参加できる。 高等学校教員免許状だけの取得希望者においては、本講義は「教科又は教職に関する科目」となる。 課題（予習内容）については、次時の授業での講義等を通して深化させる。
試験実施	実施しない

科目名	教育実習事前・事後指導（理数情）（FC06Y310）
英文科目名	Guidance for Teaching Practice
担当教員名	塗木利明（ぬるきとしあき）、安藤豊*（あんどうゆたか*）、草野泰秀*（くさのやすひで*）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、石井一郎*（いしいいちろう*）、荒尾真一*（あらおしんいち*）、津田秀哲*（つだひでのり*）、福田博人（ふくだひと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）
対象学年	3 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の概要を説明する。 （塗木 利明、岡本 弥彦、藤本 義博、福田 博人、津田 秀哲*）
2 回	教育実習にあたって生徒指導に触れながら全体の概要を説明する。 （塗木 利明）
3 回	教育実習にあたって教科指導法を中心に説明する。 （塗木 利明）
4 回	特別活動について人権・同和教育を中心に説明する。 （安藤 豊*）
5 回	学習指導案の作成法を説明する。Chr10Chr10 （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
6 回	学習指導案の事例を解説し検討する。 （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
7 回	学習指導案を作成する。 （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
8 回	学習指導案の板書計画を作成する。 （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
9 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（1 回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
10 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（2 回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
11 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（3 回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
12 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（4 回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
13 回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（5 回目）

	(岡本 弥彦, 藤本 義博, 荒尾 真一*, 福田 博人, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 草野 泰秀*)
1 4 回	教員採用試験合格体験を聴講し、成果と課題をまとめる。Chr10Chr10
	(塗木 利明, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 福田 博人, 津田 秀哲*)
1 5 回	教育実習後に体験発表会に参加し、報告書を作成する。Chr10Chr10
	(塗木 利明, 岡本 弥彦, 藤本 義博, 福田 博人, 津田 秀哲*)

回数	準備学習
1 回	本講義の授業内容、目的、達成目標等をシラバスで確認しておくこと。併せて「教職・博物館学芸員課程履修の手引き」を読み、本講義の位置づけを確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「生徒・進路指導論」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。自分の教科の「教科教育法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「特別活動の理論と方法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
6 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
7 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
8 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
9 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 0 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 1 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 2 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 3 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 4 回	前回までの内容から得られた結果と課題を整理すること(標準学習時間180分)。Chr10
1 5 回	教育実習終了後すぐに気づいた点を書き出して発表会に備えること(標準学習時間180分)。Chr10

講義目的	この講義は「教育実習」の事前・事後の指導に関するものである。事前指導は「教育実習の現場実習」に向けた心のリハーサル(あるいはプレ現場実習)の意味を込めて行い、事後指導は現場実習を終えた後に教育実習の総まとめを行うものであり、有意義な教育実習を目指し教職への意欲を高めることを目的とする。Chr10(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針E-1, 2にもっとも強く関与している)
達成目標	(1)事前指導では学習指導案や板書計画が作成でき、学校現場を想定した模擬授業ができること。Chr10(2)事後指導では現場実習の反省が活かせること。
キーワード	プレ現場実習、教育実習
成績評価(合格基準60)	事前指導では課題のレポートや学習指導案(80%)、事後指導では授業観察等のレポート(20%)により成績を評価し、事前指導と事後指導を併せて総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育実習、教育実習
教科書	使用しない。(各教科担当者の指示に従うこと)
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	各教科担当者の研究室または非常勤講師室
注意・備考	・事前指導の終了時に、R(保留)かE(不認定)のいずれかの評価が付き、E判定は教育実習が認められない。 ・提出課題・レポートについては各担当者により次時の授業で発表や討論して深化させたり、添削した後に返却したりするなどの方法でフィードバックする。
試験実施	実施しない

科目名	教職論 (FC06Z110)
英文科目名	Studies of Teaching Profession
担当教員名	熊谷愼之輔* (くまがいしんのすけ*)
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：教職やその意義について概説する。
2回	教員の種類と役割について概説する。
3回	教員を目指す：免許制度や採用試験について概説する。
4回	教員の一日：教職の特徴を彼らの一日を追いながら概説する。
5回	教員の職務：学習指導・生徒指導・進路指導について概説する。
6回	教員の専門職性・服務・身分保障について概説する。
7回	教師像を探る：ワークを取り入れて良い教師像について考えるとともに、教師像について概説する。
8回	教員と学校組織 について概説する。
9回	変わりゆく社会の中での学校と教員について概説する。
10回	教員の研修と職能発達 について概説する。
11回	教職の現代的課題：学力問題、とくに学力格差の問題について事例等をもとに概説する。
12回	教職の現代的課題：いじめ・不登校問題について、ワーク等を用いて概説する。
13回	教職の現代的課題：子どもの居場所について事例等をもとに概説する。
14回	教員と家庭・地域との関係：地域とともにある学校について、国や都道府県等の動向や実践事例等をもとに概説する。
15回	学び続ける教員、生涯学習社会における教員、自己の考察と自分の目指す教師像について概説するとともに、これまでの授業をまとめ、ふりかえりをする。

回数	準備学習
1回	【予習】教職とは何かについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教職の意義について自分の考えをまとめること(標準学習時間120分)。
2回	【予習】教員の種類と役割について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教職の役割について自分なりに理解し、考えをまとめること(標準学習時間120分)。
3回	【予習】免許制度や採用試験について調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】自分が希望する都道府県等の採用試験について情報収集を行うこと(標準学習時間120分)。
4回	【予習】教師の仕事について、自分が児童・生徒だったときの経験をもとに考えておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教職ならではの特徴を理解し、自分なりの考えをまとめること(標準学習時間120分)。
5回	【予習】学習指導・生徒指導・進路指導とは何かについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教師の職務について自分なりの考えをまとめること(標準学習時間120分)。
6回	【予習】教師の専門職性とは何かについて調べておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】教師の専門職性や服務・身分保障について自分なりの考えをまとめること(標準学習時間120分)。

7 回	【予習】これまでの学校教育の中で出会った良い教師像をふりかえっておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】良い教師像について自分なりの考えをまとめること（標準学習時間120分）。
8 回	【予習】学校、とりわけその組織について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学校組織のあり方について考えを深め、自分なりにまとめること（標準学習時間120分）。
9 回	【予習】現在の学校や教員をめぐる状況や課題等について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】これからの学校や教員のあり方について考えを深め、自分なりにまとめること（標準学習時間120分）。
10 回	【予習】教員の研修について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】教師の職能発達について自分自身についてあてはめて、教師としての職能発達を自分なりにデザインしてみる（標準学習時間120分）。
11 回	【予習】学力問題について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】学力格差の是正に向けての取り組みについて自分なりの考えをまとめること（標準学習時間120分）。
12 回	【予習】いじめ・不登校問題について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】いじめ・不登校問題の解決策について自分なりの考えをまとめること（標準学習時間120分）。
13 回	【予習】子どもの居場所について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】子どもの居場所の重要性について理解し、自分なりの考えをまとめること（標準学習時間120分）。
14 回	【予習】学校・家庭・地域の連携について調べておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】地域とともにある学校づくりや学校を核とした地域づくりについて考えを深め、自分なりのまとめること（標準学習時間120分）。
15 回	【予習】これまで授業をふまえて、生涯学習社会における学び続ける教員像を自分なりに整理し、考えをまとめること（標準学習時間60分）。 【復習】自分の目指す教員像を考え、それに向けて今からできることをまとめること（標準学習時間120分）。

講義目的	教職の制度的・実態的な側面について基礎知識を習得するとともに、教職の意義及び教員の役割や職務内容等について理解を深め、教職への意欲を高める。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Aにもっとも強く関与）
達成目標	教職の制度的・実態的な側面について基礎知識を習得する。教職の意義及び教員の役割や職務内容等について理解を深めるとともに、自らの進路に教職を選択することの可否を考えることができる。
キーワード	教員、学校、教育問題
成績評価（合格基準60点）	授業中の課題（30%）、レポートの成績（70%）により評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	適時、授業の中で紹介していく。
連絡先	D2号館4階 岡本研究室
注意・備考	授業内での課題については、次時の授業において発表や討論等を通して深化させる。小集団でのグループ活動、ワークショップなどのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施しない

科目名	社会科教育法 (FC06Z210)
英文科目名	Teaching Method of Social Studies I
担当教員名	山田秀和* (やまだひでかず*)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い, 中学校社会科の目的や課題について考察する。
2回	中学校社会科の歴史について考察する。
3回	中学校社会科の目標について考察する。
4回	中学校社会科の内容と全体構造について考察する。
5回	地理的分野の内容と指導上の留意点について考察する。
6回	歴史的分野の内容と指導上の留意点について考察する。
7回	公民的分野の内容と指導上の留意点について考察する。
8回	事実を教える社会科授業について考察する。
9回	解釈を教える社会科授業について考察する。
10回	理論を教える社会科授業について考察する。
11回	価値を教える社会科授業について考察する。
12回	四つの授業について比較考察する。
13回	中学校社会科の評価論について事例を分析し, 考察する。
14回	中学校社会科の評価事例を開発する。
15回	中学校社会科の発展的な学習内容とその指導について考察する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】なぜ中学校社会科が存在するのか, その目的は何か, 課題は何かについて考えておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと (標準学習時間90分)。
2回	【予習】現在までの中学校社会科の学習指導要領における目標部分に目を通しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと (標準学習時間90分)。
3回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における目標部分に目を通しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと (標準学習時間90分)。
4回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における各分野の目標及び内容部分に目を通しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと (標準学習時間90分)。
5回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における地理的分野の目標及び内容部分に目を通しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと (標準学習時間90分)。
6回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における歴史的分野の目標及び内容部分に目を通しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと (標準学習時間90分)。
7回	【予習】現行及び次期の中学校社会科の学習指導要領における公民的分野の目標及び内容部分に目を通しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと (標準学習時間90分)。
8回	【予習】事実を教える社会科授業に相当する授業事例に目を通しておくこと (前回の授業にて指示する) (標準学習時間90分)。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと (標準学習時間90分)。

9 回	【予習】解釈を教える社会科授業に相当する授業事例に目を通しておくこと（前回の授業にて指示する）（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。
10 回	【予習】理論を教える社会科授業に相当する授業事例に目を通しておくこと（前回の授業にて指示する）（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。
11 回	【予習】価値を教える社会科授業に相当する授業事例に目を通しておくこと（前回の授業にて指示する）（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。
12 回	【予習】これまでに学習した四つの授業についてあらかじめ比較考察しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。
13 回	【予習】中学校社会科の評価に関する課題を考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。
14 回	【予習】中学校社会科の評価事例をあらかじめ考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。
15 回	【予習】今後の社会科のあり方について考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回学習した内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	本授業は、学習指導要領に示された中学校社会科の理解を促すとともに、授業を開発し、実践するための力を養うものである。そのために、社会科授業構成の理論と方法を提示し、社会科授業の分析及び指導案作成の基礎的技能を育成する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C - 2にもっとも強く関与）
達成目標	中学校社会科の目標、内容、方法について理解するとともに、社会科授業を構成するための理論と方法を習得する。
キーワード	中学校、社会科
成績評価（合格基準60	最終評価試験80%，授業中の課題20%で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	社会科・公民科教育法，社会科・公民科教育法，社会科教育法
教科書	・中学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説（社会編）
参考書	・全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書出版，2011年 ・社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書出版，2012年
連絡先	山田秀和（岡山大学大学院教育学研究科）
注意・備考	・最終評価試験ならびに授業中の課題については、授業の前後で適宜、解説を行う。 ・小集団でのグループ活動，ロールプレイング，模擬授業の実施とその相互評価などのアクティブ・ラーニングを適宜、採り入れる。
試験実施	実施する

科目名	社会科・公民科教育法（FC06Z220）
英文科目名	Teaching Method of Civic Education II
担当教員名	桑原敏典*（くわばらとしのり*）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	公民科の目標原理について解説する。
2回	公民科の教科構造について解説する。
3回	公民科の内容編成原理について解説する。
4回	公民科の授業構成論について解説する。
5回	公民科指導の課題について解説する。
6回	公民科「現代社会」（「公共」）の目標原理について解説する。
7回	公民科「現代社会」（「公共」）の内容編成原理について解説する。学習指導案の作成を含む。
8回	公民科「現代社会」（「公共」）の方法原理について解説する。模擬授業を含む。
9回	公民科「倫理」の目標原理について解説する。
10回	公民科「倫理」の内容編成原理について解説する。学習指導案の作成を含む。
11回	公民科「倫理」の方法原理について解説する。模擬授業を含む。
12回	公民科「政治・経済」の目標原理について解説する。
13回	公民科「政治・経済」の内容編成原理について解説する。学習指導案の作成を含む。
14回	公民科「政治・経済」の方法原理について解説する。模擬授業を含む。
15回	公民科の学力と評価について解説する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。
2回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
3回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
4回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
5回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
6回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
7回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
8回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
9回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
10回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
11回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
12回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
13回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
14回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。
15回	【予習】テキスト及び『解説』の該当ページを読んでおくこと（標準学習時間90分）。 【復習】今回のノート振り返り、学習内容を確認しておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	公民科の教員として必要な知識・技能を習得する。 （教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針C-2にもっとも強く関与）
------	---

達成目標	公民科の教員として必要な知識・技能を習得する。
キーワード	社会科，公民科
成績評価（合格基準60	毎時間の課題（20％）と最終評価試験（80％）で評価し，100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	社会科・公民科教育法
教科書	・『高等学校学習指導要領解説（公民編）』 ・社会認識教育学会編『公民科教育』学術図書出版、2010年。
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書。
連絡先	kuwabara@okayama-u.ac.jp
注意・備考	課題については，次時の授業での解説等を通して深化させる。 教師になる強い意欲を持っている方の受講を求めます。
試験実施	実施する